

2023年度 公開科目 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A0011】ジェンダーと法Ⅰ [谷田川 知恵] 春学期授業/Spring	1
【A0012】ジェンダーと法Ⅱ [谷田川 知恵] 秋学期授業/Fall	3
【A0046】親族法 [和田 幹彦] 春学期授業/Spring	5
【A0047】相続法 [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall	7
【A0048】消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	9
【A0049】消費者法Ⅱ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	11
【A0065】経済法Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring	13
【A0066】経済法Ⅱ [青柳 由香] 秋学期授業/Fall	15
【A0090】労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	17
【A0091】労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	19
【A0092】労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	21
【A0093】労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	23
【A0100】教育法Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	25
【A0101】教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	26
【A0114】法哲学Ⅰ [大野 達司] 春学期授業/Spring	27
【A0115】法哲学Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	28
【A0132】法と遺伝学Ⅰ [和田 幹彦] 春学期授業/Spring	29
【A0133】法と遺伝学Ⅱ [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall	31
【A0136】法律学特講 (日本レコード協会寄付講座) エンタメ産業と法 [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	33
【A0235】政治体制論Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	34
【A0236】政治体制論Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	35
【A0249】ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	36
【A0250】ジェンダー論Ⅱ [梅垣 千尋] 秋学期授業/Fall	38
【A0275】福祉政策Ⅰ [淵元 初姫] 春学期授業/Spring	39
【A0276】福祉政策Ⅱ [荒木 千晴] 春学期授業/Spring	40
【A0354】外国書講読 (独語)Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	41
【A0355】外国書講読 (独語)Ⅱ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	42
【A0434】ロシア政治史Ⅰ [油本 真理] 春学期授業/Spring	43
【A0435】ロシア政治史Ⅱ [油本 真理] 秋学期授業/Fall	44
【A0447】アメリカ政治外交史 [石川 敬史] 春学期授業/Spring	45
【A0520】都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	46
【A0521】まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	47
【A0625】Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	49
【A0644】外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	50
【A0717】国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	52
【A0718】国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	54
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	56
【A0736】オセアニアの政治と社会Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	57
【A0737】オセアニアの政治と社会Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	59
【A0750】国際機構論Ⅱ [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	61
【A0771】朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	62
【A0772】朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	63
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	64
【A0786】現代政策学特講Ⅰ (千代田区) [杉崎 和久] オータムセッション/Autumn Session	65
【A0787】現代政策学特講Ⅱ (沖縄) [明田川 融] スプリングセッション/Spring Session	66

【A0838】	外国書講読（仏語）Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	68
【A0839】	外国書講読（仏語）Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	69
【A0898】	アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	70
【A0899】	アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	71
【A0900】	協同組合論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	72
【A0919】	政治学特殊講義Ⅰ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）[金子 元] 春学期授業/Spring	74
【A0920】	政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）[金子 元] 秋学期授業/Fall	76
【A2241】	科学哲学1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring	77
【A2242】	科学哲学2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	78
【A2245】	現代思想2（フランスの思想）1 [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	79
【A2246】	現代思想2（フランスの思想）2 [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	80
【A2251】	宗教学1（伝統宗教）1 [松本 力] 春学期授業/Spring	81
【A2252】	宗教学1（伝統宗教）2 [松本 力] 秋学期授業/Fall	82
【A2260】	日本思想史1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	83
【A2261】	日本思想史2 [西塚 俊太] 秋学期授業/Fall	84
【A2268】	ラテン語1 [金子 佳司] 春学期授業/Spring	85
【A2269】	ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期授業/Fall	86
【A2270】	ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	87
【A2271】	ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	88
【A2553】	日本文芸批評史A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	89
【A2555】	日本文芸批評史B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	90
【A2561】	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	91
【A2563】	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	92
【A2665】	日本文芸研究特講（3）中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	93
【A2666】	日本文芸研究特講（3）中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	94
【A2669】	日本文芸研究特講（4）近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	95
【A2670】	日本文芸研究特講（4）近世B [齊藤 千恵] 秋学期授業/Fall	96
【A2703】	日本文芸研究特講（15）国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	97
【A2704】	日本文芸研究特講（15）国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	98
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	99
【A2805】	英語学概論B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	100
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	101
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	102
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	104
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	105
【A2810】	社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	106
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	107
【A2824】	比較文学A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	108
【A2825】	比較文学B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	109
【A2905】	米文学史A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	110
【A2906】	米文学史B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	111
【A2907】	英米文学講義ⅠA [宮川 雅] 春学期授業/Spring	112
【A2908】	英米文学講義ⅠB [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	113
【A2909】	英米文学講義ⅡA [小澤 央] 春学期授業/Spring	114
【A2910】	英米文学講義ⅡB [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	115
【A2911】	英語学講義A [福元 広二] 春学期授業/Spring	116
【A2912】	英語学講義B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	117
【A2913, A2326】	言語学講義ⅠA／言語と論理1（言語学講義Ⅰ）A [石川 潔] 春学期授業/Spring	118
【A2914, A2327】	言語学講義ⅠB／言語と論理1（言語学講義Ⅰ）B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	119
【A2915】	言語学講義ⅡA [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	120
【A2916】	言語学講義ⅡB [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	121
【A2923】	英語・言語学特殊講義A [岸山 健] 春学期授業/Spring	122
【A2924】	英語・言語学特殊講義B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	123
【A2965】	英米文学特殊講義Ⅰ [宮川 雅] 春学期授業/Spring	124
【A2966】	英米文学特殊講義Ⅱ [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	125
【A2967】	英米文学特殊講義Ⅲ [吉田 裕] 春学期授業/Spring	126
【A2968】	英米文学特殊講義Ⅳ [吉田 裕] 秋学期授業/Fall	128

【A2981】比較文化論（1）[小島 尚人] 秋学期授業/Fall.....	130
【A2982】英米文化概論 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring.....	131
【A2983】英米文化概論 B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall.....	132
【A3113, A3856】日本考古学/日本考古学（資格）[古庄 浩明] 秋学期授業/Fall.....	133
【A3116】日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall.....	134
【A3152, A3855】考古学概論/考古学概論（資格）[古庄 浩明] 春学期授業/Spring.....	135
【A3157】日本史特講Ⅳ [中山 学] 秋学期授業/Fall.....	136
【A3164】東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall.....	137
【A3171】西洋史特講Ⅳ [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring.....	138
【A3172】西洋史特講Ⅴ [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall.....	139
【A3208】東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期授業/Spring.....	140
【A3214】東洋史序説 [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring.....	141
【A3215】西洋史序説 [志内 一興] 春学期授業/Spring.....	142
【A3216】日本史特講 XI [遠藤 慶太] 秋学期授業/Fall.....	143
【A3217】東洋史特講Ⅶ [徳留 大輔] 春学期授業/Spring.....	144
【A3218】東洋史特講Ⅷ [松本 隆志] 春学期授業/Spring.....	146
【A3219】西洋史特講Ⅸ [大澤 広晃] 春学期授業/Spring.....	147
【A3226】日本史序説 [齋藤 智志] 春学期授業/Spring.....	148
【A3227】歴史特講 [大澤 広晃、内藤 一成、宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall.....	149
【A3417】自然環境論 [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring.....	150
【A3426】社会経済地理学（1）[小原 丈明] 秋学期授業/Fall.....	151
【A3427】社会経済地理学（2）[伊藤 達也] 春学期授業/Spring.....	152
【A3428】社会経済地理学（3）[佐々木 達] 秋学期授業/Fall.....	153
【A3482】文化地理学（1）[村田 陽平] 春学期授業/Spring.....	154
【A3483】文化地理学（2）[村田 陽平] 秋学期授業/Fall.....	155
【A3809】民俗学Ⅰ [室井 康成] 春学期授業/Spring.....	156
【A3810】民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall.....	157
【A3811】イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring.....	158
【A3812】イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall.....	159
【A3819】歴史地理学（1）[米家 志乃布] 春学期授業/Spring.....	160
【A3820】歴史地理学（2）[米家 志乃布] 秋学期授業/Fall.....	161
経営学科専門科目 300 番台 【A4393】組織経済学 [奥西 好夫] 春学期授業/Spring.....	162
【A4394】組織経済学Ⅰ（2018 年度以前入学者）[奥西 好夫] 春学期授業/Spring.....	163
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4465】日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring.....	164
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4466】日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall.....	165
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4496】広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall.....	166
特殊講義 【A5410】寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [原 宏敏] 秋学期授業/Fall.....	167
【A6309】Advanced Topics in Contemporary Art [Utako Shindo] 秋学期授業/Fall.....	169
【A9010】スポーツ方法論 [阿部 成雄] 秋学期授業/Fall.....	170
【A9021】スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring.....	171
【A9022】スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall.....	172
【A9026】スポーツメディア論 [小池 隆俊] 秋学期授業/Fall.....	173
【A9037】アスリートキャリア論 [荒井 弘和] 春学期授業/Spring.....	175
【A9207】スポーツ方法論 [佐藤 祐輔] 春学期授業/Spring.....	176
【A9214】リーダーシップ論Ⅰ [浅井 玲子] 春学期授業/Spring.....	178
【A9215】リーダーシップ論Ⅱ [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall.....	180
【A9220】アスリートキャリア論 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring.....	182
【A9221】スポーツメディア論 [小池 隆俊] 秋学期授業/Fall.....	184
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall.....	186
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall.....	188
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall.....	190
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall.....	192
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall.....	194
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall.....	196
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】現代企業論（2019年度以降入学生）[境 新一] 春学期授業/Spring.....	198

建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B2008] 現代企業論 (2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	200
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B2008] 現代企業論 (2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	202
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 [B2051] 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half)	204
建築学科_専門科目_基礎科目 [B2051] 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half)	205
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 [B2051] 都市デザイン [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half)	206
建築学科_専門科目_展開科目 [B3011] 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	207
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B3848] 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹] 秋学期授業/Fall	209
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B3848] 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹] 秋学期授業/Fall	210
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B3848] 公共経営戦略 (2023年度以降入学生) [平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹] 秋学期授業/Fall	211
[C0222] 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	212
[C0231] 言語文化概論 [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	215
[C0242] 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	216
[C0243] 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	217
[C0244] 宗教と社会 [田中 浩喜] 春学期授業/Spring	218
[C0432] メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	219
[C0439] メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	221
[C0531] 英語アプリケーションⅡ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	223
[C0532] 英語アプリケーションⅢ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	224
[C0533] 英語アプリケーションⅣ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	226
[C0534] 英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	228
[C0536] 英語アプリケーションⅦ [ANDREW JONES] 秋学期授業/Fall	230
[C0537] 英語アプリケーションⅧ [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	231
[C0539] 英語アプリケーションⅩ [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	232
[C0595] ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	233
[C0596] ドイツ語アプリケーション [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	235
[C0597] ドイツ語アプリケーション [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	236
[C0625] フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	237
[C0626] フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	238
[C0627] フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	239
[C0628] フランス語アプリケーション [ル・ルー清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	240
[C0655] ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	241
[C0656] ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	242
[C0657] ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	243
[C0685] 中国語アプリケーションⅠ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	244
[C0686] 中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	245
[C0687] 中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	246
[C0688] 中国語アプリケーションⅡ [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	247
[C0754] 朝鮮語アプリケーション [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	248
[C0755] 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	249
[C0756] 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	250
[C0757] 朝鮮語アプリケーション [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	251
[C0770] 文化情報のデザインワークショップ [甲 洋介] 春学期授業/Spring	252
[C0771] 文化情報のためのネットワーク技法 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	253
[C0774] 情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	255
[C0802] ころとからだの現象学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	256
[C0821] コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	258
[C0832] 文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	260
[C0852] サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	261
[C0854] 現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	262
[C0862] クリエイティブ・ライティング [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	264
[C0872] 映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	265

【C0901】	世界の中の日本語 [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	267
【C0910】	中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [曾 士才] 春学期授業/Spring	268
【C0912】	中国の文化Ⅲ (日中文化交流史) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	269
【C0913】	中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	271
【C0915】	中国の文化Ⅵ (古典思想・文学) [野村 英登] 秋学期授業/Fall	272
【C0916】	中国の文化Ⅶ (近代文学) [桑島 道夫] 春学期授業/Spring	273
【C0918】	中国の文化Ⅸ (中国俗文学) [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	274
【C0919】	中国の文化Ⅹ (歴史) [張 玉萍] 秋学期授業/Fall	275
【C0920】	朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	276
【C0921】	朝鮮語圏の文化Ⅱ (朝鮮語の構造) [内山 政春] 秋学期授業/Fall	277
【C0931】	ロシア・中央アジアの文化 [古庄 浩明] 春学期授業/Spring	278
【C0932】	ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	279
【C0941】	ドイツ語圏の文化Ⅱ [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	281
【C0942】	フランス語圏の文化Ⅰ (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	282
【C0943】	フランス語圏の文化Ⅱ (芸術) [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	284
【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	285
【C0947】	北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	286
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ (言語 A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	287
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ (言語 B) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 秋学期授業/Fall	289
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会 A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	291
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会 B) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 秋学期授業/Fall	293
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ (文学と社会 A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	295
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ (文学と社会 C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	296
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ (英語の構造) [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	297
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	299
【C1020】	間文化性研究翻訳論 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	300
【C1021】	日英翻訳論 [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	301
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [田中 浩喜] 秋学期授業/Fall	302
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	303
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	304
【C1043】	人の移動と国際関係Ⅰ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	305
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	306
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	308
【C1052】	実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	309
【C1056】	国際関係研究Ⅳ [石森 大知] 秋学期授業/Fall	310
【C1701】	海外フィールドスクール [稲垣 立男] オータムセッション/Autumn Session	311
【C2004】	国際法Ⅰ [鈴木 孟] 春学期授業/Spring	312
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	313
【C2014】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	314
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	315
【C2112】	環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	316
【C2113】	環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	318
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	320
【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	321
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	322
【C2217】	環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	323
【C2218】	環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	324
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	326
【C2241】	科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	329
【C2242】	科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	331
【C2301】	仏教思想 [宮部 峻] オータムセッション/Autumn Session	332
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	333
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	334
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	335
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期授業/Fall	337
【C2416】	環境科学Ⅰ [浦野 真弥] 春学期授業/Spring	339
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	341

【C2418】環境科学Ⅲ [石渡 幹夫] サマーセッション/Summer Session	342
【C2433】自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	343
【C2500】環境管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	344
【C2501】環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	346
【C2503】環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	348
【C2559】現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	349
【C2560】現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	351
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7195】学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	352
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7196】学習の社会史B [原 葉子] 春学期授業/Spring	353
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7258】産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	354
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7259】キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	355
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7270】アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚] 春学期授業/Spring	356
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7271】アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚] 秋学期授業/Fall ..	358
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7274】シティズンシップ論 [榎並 利博] 春学期授業/Spring	360
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	362
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	363
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7315】アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期授業/Spring	364
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [佐藤 厚、武石 恵美子] 秋学期授業/Fall ..	365
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	367
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	369
学部共通科目【H7042】食品科学 [三浦 豊] 春学期授業/Spring	371
生命機能学科_学科専門科目【H7572】医用生体工学 [金子 智行] 秋学期授業/Fall	372
専門教育科目_専門科目【J0551】プログラミング(MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	373
専門教育科目_専門科目【J0553】フーリエ級数と変換 [秋野 喜彦] 春学期授業/Spring	375
【K5359】化学A [細川 さとみ] 春学期授業/Spring	376
【K5360】化学B [細川 さとみ] 秋学期授業/Fall	377
【K6004】日本国憲法 [村元 宏行] 年間授業/Yearly	378
【K6005】民法一部 [上杉 めぐみ] 年間授業/Yearly	379
【K6007】商法一部 [笹久保 徹] 年間授業/Yearly	380
【K6046】社会経済学応用A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	381
【K6047】社会経済学応用A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	382
【K6048】社会経済学応用B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	383
【K6049】社会経済学応用B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	384
【K6054】日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	385
【K6055】日本経済論A [小崎 敏男] 春学期授業/Spring	386
【K6056】日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	387
【K6057】日本経済論B [小崎 敏男] 秋学期授業/Fall	388
【K6058】国際経済論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	389
【K6059】国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	390
【K6060】国際経済論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	391
【K6061】国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	392
【K6062】財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	393
【K6063】財政学A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	394
【K6064】財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	395
【K6065】財政学B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	396
【K6066】金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	397
【K6067】金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	398
【K6068】金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	399
【K6069】金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	400
【K6094】計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	401
【K6095】計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	402
【K6102】企業と経済・応用A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	403
【K6103】企業と経済・応用B [河村 真] 秋学期授業/Fall	404
【K6108】現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	405
【K6109】現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	406
【K6122】経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	407
【K6123】経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	408

【K6124】	経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	409
【K6125】	産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	410
【K6128】	コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	411
【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	412
【K6140】	企業実務研究A [井上 祐樹] 春学期授業/Spring	413
【K6141】	企業実務研究B [井上 祐樹] 秋学期授業/Fall	414
【K6150】	国際関係論A [藤田 吾郎] 春学期授業/Spring	416
【K6151】	国際関係論B [藤田 吾郎] 秋学期授業/Fall	417
【K6152】	経済人類学A [河野 正治] 春学期授業/Spring	418
【K6153】	経済人類学B [河野 正治] 秋学期授業/Fall	419
【K6154】	環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	420
【K6155】	環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	421
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	422
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	423
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	424
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	425
【K6162】	アメリカ経済論A [増田 正人] 春学期授業/Spring	426
【K6163】	アメリカ経済論B [増田 正人] 秋学期授業/Fall	427
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	428
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	429
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	430
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	431
【K6168】	中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	432
【K6169】	中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	434
【K6180】	ドイツ語セミナーA [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	436
【K6181】	ドイツ語セミナーB [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	437
【K6182】	フランス語セミナーB [橋本 到] 秋学期授業/Fall	438
【K6183】	フランス語セミナーA [橋本 到] 春学期授業/Spring	439
【K6184】	ロシア語セミナーA [小俣 智史] 春学期授業/Spring	440
【K6185】	ロシア語セミナーB [小俣 智史] 秋学期授業/Fall	441
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩] 春学期授業/Spring	442
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩] 秋学期授業/Fall	443
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	444
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	445
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	446
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	447
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	448
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	449
【K6227】	社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	450
【K6228】	社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	451
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	452
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	453
【K6233】	社会政策論A [和久津 尚彦] 春学期授業/Spring	454
【K6234】	社会政策論B [和久津 尚彦] 秋学期授業/Fall	455
【K6235】	労働経済論A [酒井 正] 春学期授業/Spring	456
【K6236】	労働経済論B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	457
【K6243】	社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	458
【K6244】	社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	459
【K6314】	地球環境論A [吉田 圭一郎] 春学期授業/Spring	460
【K6315】	地球環境論B [吉田 圭一郎] 秋学期授業/Fall	461
【K6320】	会計学入門Ⅱ (原価計算) A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	462
【K6321】	会計学入門Ⅱ (原価計算) B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	463
【K6334】	会計学入門Ⅰ (財務会計) A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	464
【K6335】	会計学入門Ⅰ (財務会計) B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	465
【K6337】	マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	466
【K6338】	マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	467
【K6339】	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	468

【K6340】	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	469
【K6343】	マクロ経済学A [松尾 朋紀] 春学期授業/Spring	470
【K6344】	マクロ経済学B [松尾 朋紀] 秋学期授業/Fall	471
【K6345】	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	472
【K6346】	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	473
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	474
【K6575】	特別講義 (ビジネス日本語 A) [大石 有香] 春学期授業/Spring	475
【K6576】	特別講義 (ビジネス日本語 B) [大石 有香] 秋学期授業/Fall	476
【K6705】	日本国憲法 A [村元 宏行] 春学期授業/Spring	477
【K6706】	日本国憲法 B [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	478
【K6707】	民法一部 A [上杉 めぐみ] 春学期授業/Spring	479
【K6708】	民法一部 B [上杉 めぐみ] 秋学期授業/Fall	480
【K6711】	商法一部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	481
【K6712】	商法一部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	482
【K6729】	簿記Ⅱ A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	483
【K6730】	簿記Ⅱ B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	484
【K6733】	Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	485
【K6734】	Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	486
【K6735】	Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	487
【K6736】	Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	488
【K6749】	原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	489
【K6750】	原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	490
【K6751】	会計学入門A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	491
【K6752】	会計学入門B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	492
【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	493
【LA107】	産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	494
【LA108】	産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	495
【LA112】	金融システム論 [山村 延郎] 春学期授業/Spring	496
【LA202】	環境経済学Ⅰ [島本 美保子] 春学期授業/Spring	497
【LA203】	環境経済学Ⅱ [島本 美保子] 秋学期授業/Fall	498
【LA210】	社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	499
【LA211】	社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	500
【LA308】	国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	501
【LA309】	イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	502
【LB200】	コミュニティ・デザイン論Ⅰ [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	503
【LB201】	コミュニティ・デザイン論Ⅱ [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	504
【LB410】	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	505
【LD303】	社会ネットワーク論Ⅰ [境 新一] 春学期授業/Spring	506
【LD304】	社会ネットワーク論Ⅱ [境 新一] 秋学期授業/Fall	507
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】	スポーツトレーニング論Ⅰ [平野 裕一] 春学期授業/Spring	509
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)【M1750】	スポーツビジネス論Ⅰ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	510
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】	スポーツメディア論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall	511
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】	スポーツビジネス論Ⅱ [望月 拓実] 春学期授業/Spring	513
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】	マーケティングリサーチ実習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	514
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】	マーケティングリサーチ演習 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	515
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】	スポーツ戦術論 (サッカー) [小井土 正亮] 秋学期授業/Fall	516
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】	青少年指導実習 (サッカー) [小井土 正亮] 秋学期授業/Fall	517
【N0057】	ホスピタリティ論 [野口 洋平] 春学期授業/Spring	518
【N0058・N5058】	教育学 [藤本 典裕] 春学期授業/Spring	519
【N0107・N5107】	経営学 [首藤 聡一朗] オータムセッション/Autumn Session	520
【N0112】	社会学特講 [左古 輝人] 春学期授業/Spring	521
【N0117・N5117】	老年学 [新名 正弥] 春学期授業/Spring	522
【N1050】	福祉国家論 [布川 日佐史] 秋学期授業/Fall	523
【N1054】	コミュニティビジネス論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	524

[N1055]	ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	525
[N1106]	雇用政策論 [布川 日佐史] 春学期授業/Spring	526
[N1107]	都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	527
[N1108]	地域文化政策論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	528
[N1109]	環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	529
[N1111]	政策評価論 [倉根 明德] サマーセッション/Summer Session	530
[N1115]	福祉の思想と歴史 [白川 耕一] 春学期授業/Spring	531
[N1116]	国際協力論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	532
[N1151・N6151]	地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	533
[N1152]	ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	534
[N1153]	ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	535
[N1154]	ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	536
[N1155・N6155]	NPO論 [渡真利 絃一] 春学期授業/Spring	537
[N1158]	居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	538
[N1159]	災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄] 春学期授業/Spring	539
[N1162・N6162]	コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	540
[N1164]	地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	541
[N1165・N6165]	地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	542
[N1223]	異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	543
[N6155]	NPO論 [渡真利 絃一] 春学期授業/Spring	544
[N8004]	文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】	大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、金子 匡良] 春学期授業/Spring	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】	リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ: 渡辺昭太、講師 (ゲストスピーカー): イオンフィナンシャルサービスグループ] 春学期授業/Spring	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2321】	経済学L A [中平 千彦] 春学期授業/Spring	549
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2322】	経済学L B [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	551
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2323】	経済学L A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	552
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2324】	経済学L B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	554
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2325】	経済学L A [陳 文挙] 春学期授業/Spring	556
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2326】	経済学L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	558
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2327】	経済学L A [水野 和夫] 春学期授業/Spring	559
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2328】	経済学L B [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6001】	第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	563
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6002】	第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	564
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6003】	第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6005】	第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6006】	第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6051】	日本語コミュニケーションA [副島 健作] 春学期授業/Spring	568
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6052】	日本語コミュニケーションB [副島 健作] 秋学期授業/Fall	570

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6102】漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6103】教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6104】教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6105】文芸創作講座A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6106】文芸創作講座B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6107】日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6108】日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	579
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	581
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6111】美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6112】美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	587
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6119】教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6120】教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6125】古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6126】古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズB [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史A [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史B [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	612
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	614
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ [矢澤 美佐紀] 春学期授業/Spring	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6143】イギリスと帝国A [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6144】イギリスと帝国B [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6145】教養ゼミⅠ [副島 健作] 春学期授業/Spring	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6146】教養ゼミⅡ [副島 健作] 秋学期授業/Fall	622

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6201】 法哲学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6202】 法哲学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6203】 教養ゼミⅠ [坂根 徹] 春学期授業/Spring	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6211】 文化人類学方法論A [石森 大知] 春学期授業/Spring	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論B [石森 大知] 秋学期授業/Fall	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6213】 教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6214】 教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学A [久木田 敦志] 春学期授業/Spring	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学B [久木田 敦志] 秋学期授業/Fall	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6219】 沖縄を考えるA [明田川 融、大里 知子] 春学期授業/Spring	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6220】 沖縄を考えるB [明田川 融、大里 知子] 秋学期授業/Fall	637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	638
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6227】 法の間人学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	641
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6228】 法の間人学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6303】 数理論理学A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6304】 数理論理学B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	650
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	652
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	659
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミⅡ [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session	663

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	668
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6341】 バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6342】 バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	676
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	677
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	678
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	680
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	681
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	682
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	683
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミ I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	684
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミ II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	686
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	688
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	689
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	690
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	692
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	694
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	695
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術A [辻 英史] 春学期授業/Spring	696
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	697
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6435】 留学ドイツ語A [林 志津江] 春学期授業/Spring	698
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6436】 留学ドイツ語B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	700
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	702

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	703
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学 A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	705
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学 B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	707
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学 A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	709
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学 B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	711
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	713
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	715
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学 A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	717
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学 B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	719
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	721
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	722
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	723
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	725
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	727
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	728
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [藤岡 成美] 春学期授業/Spring	729
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall	731
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	733
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	735
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring	737
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall	739
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6533】 教養ゼミ I [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	741
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	743
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	744
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	745
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	747
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	749
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級) A [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級) B [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	753
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	754
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	755
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	756

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級B〔エレナ 三神〕秋学期授業/Fall	757
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語A〔エレナ 三神〕春学期授業/Spring	758
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語B〔エレナ 三神〕秋学期授業/Fall	759
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読A〔木部 敬〕春学期授業/Spring	760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読B〔木部 敬〕秋学期授業/Fall	761
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語A〔油本 真理〕春学期授業/Spring	762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B〔油本 真理〕秋学期授業/Fall	763
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A〔岩田 和子〕春学期授業/Spring	764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B〔岩田 和子〕秋学期授業/Fall	765
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A〔周 重雷〕春学期授業/Spring	766
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B〔周 重雷〕秋学期授業/Fall	767
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳・通訳A〔高田 裕子〕春学期授業/Spring	768
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳・通訳B〔高田 裕子〕秋学期授業/Fall	769
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C〔王 安〕春学期授業/Spring	770
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D〔王 安〕秋学期授業/Fall	771
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読A〔岩田 和子〕春学期授業/Spring	772
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6816】中国語講読B〔岩田 和子〕秋学期授業/Fall	773
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A〔渡辺 昭太〕春学期授業/Spring	774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B〔渡辺 昭太〕秋学期授業/Fall	776
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A〔康 鴻音〕春学期授業/Spring	778
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B〔康 鴻音〕秋学期授業/Fall	779
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ〔岩田 和子〕春学期授業/Spring	780
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ〔岩田 和子〕秋学期授業/Fall	781
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A〔杉下 由紀子〕春学期授業/Spring	782
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B〔杉下 由紀子〕秋学期授業/Fall	783
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A〔大西 亮〕春学期授業/Spring	784
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B〔大西 亮〕秋学期授業/Fall	785
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A〔瓜谷 アウロラ〕春学期授業/Spring	786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B〔瓜谷 アウロラ〕秋学期授業/Fall	787
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ〔久木 正雄〕春学期授業/Spring	788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ〔久木 正雄〕秋学期授業/Fall	789
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A〔若林 大我〕春学期授業/Spring	790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B〔若林 大我〕秋学期授業/Fall	791

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コミュニケーションⅠ [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	792
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コミュニケーションⅡ [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	793
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現法Ⅰ [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	794
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現法Ⅱ [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	795
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視聴覚Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	796
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視聴覚Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	797
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4287】 SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	798
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4288】 SDGsで学ぶドイツ語Ⅱ [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	800
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界ⅠA [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	802
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界ⅠB [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	803
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会ⅠA [上田 知夫] 春学期授業/Spring	805
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会ⅠB [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	806
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界ⅠA [廣松 勲] 春学期授業/Spring	807
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界ⅠB [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	809
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	811
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	812
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	813
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	815
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会ⅠA [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	818
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会ⅠB [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	820
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5293】 フランス生活文化論ⅠA [河村 英和] サマーセッション/Summer Session	822
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5294】 フランス生活文化論ⅠB [河村 英和] 秋学期授業/Fall	824
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5295】 フランス生活文化論ⅡA [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	826
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5296】 フランス生活文化論ⅡB [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	827
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6211】 ロシア語ⅣⅠ [木部 敬] 春学期授業/Spring	828
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6212】 ロシア語ⅣⅡ [木部 敬] 秋学期授業/Fall	829
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6213】 ロシア語ⅣⅠ [上野 理恵] 春学期授業/Spring	830
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6214】 ロシア語ⅣⅡ [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	831

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6215】 ロシア語5 I [エレナ 三神] 春学期授業/Spring.....	832
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6216】 ロシア語5 II [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall.....	833
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R6241】 ロシア語の世界L A [木部 敬] 春学期授業/Spring.....	834
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R6242】 ロシア語の世界L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall.....	835
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R6243】 ロシアの文化と社会L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring.....	836
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R6244】 ロシアの文化と社会L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall.....	838
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R7413】 中国語コミュニケーション初級I [周 重雷] 春学期授業/Spring.....	840
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R7414】 中国語コミュニケーション初級II [周 重雷] 秋学期授業/Fall.....	841
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R7437】 資格中国語初級I [青木 正子] 春学期授業/Spring.....	842
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R7438】 資格中国語初級II [青木 正子] 秋学期授業/Fall.....	843
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R7447】 中国の文化と社会L A [山本 律] 春学期授業/Spring.....	844
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R7448】 中国の文化と社会L B [山本 律] 秋学期授業/Fall.....	845
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R8301】 スペイン語コミュニケーションI [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring.....	846
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R8302】 スペイン語コミュニケーションII [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall.....	847
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8303】 現代のスペイン語I [大西 亮] 春学期授業/Spring.....	849
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8304】 現代のスペイン語II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall.....	850
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R8305】 スペイン語の世界L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring.....	851
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R8306】 スペイン語の世界L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall.....	852
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9283】 朝鮮語4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring.....	853
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9284】 朝鮮語4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall.....	854
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会L A [李 英美] 春学期授業/Spring.....	855
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会L B [李 英美] 秋学期授業/Fall.....	856

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲示する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。

3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。

4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界

2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法で何を学ぶのか、全体像の把握
3	ジェンダーをめぐる法の歴史 1	欧米を中心にした女性の権利の歴史
4	ジェンダーをめぐる法の歴史 2	日本における女性の権利の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	ポジティブ・アクション（PA）、アファーマティブ・アクション（AA）	事実上の平等を進めるための装置 AA/PA の歴史と種類、効果
7	S O G I（性的指向と性自認）1	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の現状
8	S O G I（性的指向と性自認）2	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の権利保障
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条例
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法
11	家族とジェンダーと法 1	多様な家族と現行法
12	家族とジェンダーと法 2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法 3	少子化と家族制度のこれから
14	まとめ	これまでの学びから、性差別が続くのはなぜか、どのような変化が必要かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること、そして掲示板での問題提起・議論を可能な範囲で行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れたため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとキャラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：※定員制（受講者多数のため 4/20（木）13 時時点の仮登録者のみ履修可とする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第 2 波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。
2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけでなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一様ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。
2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。
3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。
1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の 7 割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。
2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。
3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。
4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。
5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて
3	労働とジェンダーと法	均等法ができる前：結婚解雇、近年差別
4	労働とジェンダーと法	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法	間接差別、アンパイドワーク
6	暴力とジェンダーと法	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法	デート DV
9	暴力とジェンダーと法	性暴力をめぐる神話
10	暴力とジェンダーと法	世界的な性暴力法改革
11	暴力とジェンダーと法	セクシュアル・ハラスメント、ストーカー、
12	暴力とジェンダーと法	買売春、ポルノグラフィー
13	生殖とジェンダーと法	リプロダクティブライツ
14	まとめ	女性に対する暴力と男性被害

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html> 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW300AB

親族法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあります。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答は一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が、まさに行われました。

それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。

こうした「民法大改正」のうねりの中で、第4編「親族法」も民法改正と無縁ではありえません。

そこで、どのような親族法改正が必須か、例えば旧くて新しい問題としては「(選択的)夫婦別氏」、新しい課題では「同性婚の立法」、さらに憲法との関連では以上の他にも、「離婚後の未成年の子と、嫡出でない未成年の子の、片方の親のみによる『単独親権制度』は憲法違反で改正すべきか？」などを含めて、「民法、その中でも『親族編』の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●講義形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説を書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程(1)	現行民法改正過程の前半(主に1946年)に関する講義&質疑応答
第2回	民法立法過程(2)・家族法概論	現行民法改正過程の前半(主に1947年)に関する講義&質疑応答
第3回	婚姻法(1) 成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する講義&質疑応答
第4回	婚姻法(2) 夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する講義&質疑応答
第5回	離婚法(1) 成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する講義&質疑応答
第6回	離婚法(2) 財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する講義&質疑応答
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる(法律婚ではない)関係の保護に関する講義&質疑応答
第8回	実親子関係の発生(1) : 嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第9回	実親子関係の発生(2) : 認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第10回	実親子関係の発生(3) : 人工生殖	不妊治療や、そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第11回	養親子関係: 子の親権; 扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する講義&質疑応答
第12回	授業内試験【とその振り返り: 第13, 14回】	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第13回	本授業の総括; および授業内試験の振り返り(1)	本授業「親族法」の内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括&質疑応答
第14回	授業内試験の講評; 授業内試験の振り返り(2)	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備(予習)・復習時間は、1回の授業につき各々2時間(合計4時間)である。

【テキスト(教科書)】

教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：

高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第6版 有斐閣アルマ ¥2,400+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】

[1] 平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ [グループ 1, 2, 3, 4, 5] に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第 1 回、第 13 回 グループ 1：第 2 回、第 7 回 グループ 2：第 3 回、第 8 回

グループ 3：第 4 回、第 9 回 グループ 4：第 5 回、第 10 回
グループ 5：第 6 回、第 11 回

[2] 期末の「授業内試験」【配点 50 点】。

[3] 試験採点後の第 14 回「授業内試験の講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】

●期末の「授業内試験」では、到達目標である：

1) 親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力

2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力

以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。

●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。

●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。

●全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】： To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.

【Learning Objectives】： To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】： Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】： Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

相続法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあります。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第 5 編 相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で 1 度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答は一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また 21 世紀に入って、同じ民法の第 3 編「債権法」の大改正が、ままた行われました。

それに伴い、第 1 編の「総則」も 部分的に改正されています。

こうした「民法大改正」の一環として、第 5 編「相続法」にも改正が行われたことを学びます。

そこで、どのような相続法改正が必須としてすでに行われたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●講義形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく 21 世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第 2 回	相続法総論	相続法総論 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権。加えて相続法改正の要点と今後の改正の展望&質疑応答
第 3 回	相続人 (1)	1. 胎児と相続 2. 相続人の範囲 & 質疑応答
第 4 回	相続人 (2)	3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除 4. 同時死亡の推定 & 質疑応答
第 5 回	相続の効力 (1)	1. 相続財産の範囲 2. 法定相続分 & 質疑応答
第 6 回	相続の効力 (2)	3. 指定相続分 4. 具体的相続分・特別受益、寄与分 & 質疑応答
第 7 回	遺産分割	1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止 & 質疑応答
第 8 回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在 & 質疑応答
第 9 回	遺言	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止 4. 普通方式遺言と特別方式遺言 & 質疑応答
第 10 回	遺言の効力	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回 & 質疑応答
第 11 回	遺留分	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄 & 質疑応答
第 12 回	授業内試験【とその振り返り：第 13, 第 14 回】	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 13 回	本授業の総括；および授業内試験の振り返り (1)	本授業「相続法」の内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括 & 質疑応答
第 14 回	授業内試験の講評；授業内試験の振り返り (2)	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書】：高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第6版有斐閣アルマ ¥2,400+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】

[1] 平常点【配点40点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約5グループ[グループ1, 2, 3, 4, 5]に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらおう。1回10点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも4回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第1回、第13回 グループ1：第2回、第7回 グループ2：第3回、第8回

グループ3：第4回、第9回 グループ4：第5回、第10回

グループ5：第6回、第11回

[2] 期末の「授業内試験」【配点50点】。

[3] 試験採点後の第14回「授業内試験の講評」1回出席で【講評の平常点10点】

●期末の「授業内試験」では、到達目標である：

1) 相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力

2) 相続法の改正と今後の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力

以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。

●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。

●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。

●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.

【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】：Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】：Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪徳商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者法とは何か	消費者・事業者概念、消費者基本法
第 2 回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失
第 3 回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺
第 4 回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法 4 条など
第 5 回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法 4 条など

第 6 回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗規定と消費者取引	公序良俗規定と消費者取引
第 7 回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その 1	民法による不当条項規制、約款論
第 8 回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その 2	消費者契約法 8 条～10 条
第 9 回	消費者契約の内容の適正化④履行段階	信義則の役割、契約の解釈
第 10 回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要
第 11 回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、過量販売規制など
第 12 回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続
第 13 回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	名義貸し、預金トラブル
第 14 回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）

河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）

大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるといふ姿勢である。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者取引の対象①物	民法の規定との関係の品質
第 2 回	消費者取引の対象②物	製造物責任①の安全性（1）
第 3 回	消費者取引の対象③物	製造物責任の安全性（2）
第 4 回	消費者取引の対象④品	食品衛生法など
	品質・安全性に関する行政規制	
第 5 回	消費者取引の対象⑤	民法の規定・特定商取引法
	サービス契約論	
第 6 回	消費者取引・各論①悪徳商法	悪徳商法の各類型についての説明
第 7 回	消費者取引・各論②金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法
第 8 回	消費者取引・各論③建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例
第 9 回	消費者取引・各論④電子商取引	電子商取引をめぐる民事判例および特別法
第 10 回	消費者保護制度論①行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割

第 11 回 消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その

1

第 12 回 消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その

2

第 13 回 消費者取引と市場の公正

独禁法と消費者法の関係、景品表示法について

第 14 回 消費者・事業者の活動

消費者団体の役割、公益通報者保護法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）

河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）

大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるといふ姿勢である。

・消費者法Ⅰを受講済みであるのが望ましい。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達は「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487 号（2021 年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn consumer law, especially, the safety and the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB

経済法 I

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。

事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。

事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法 I および経済法 II では、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法 I では、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールを概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。

数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。

また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 (1)	独占禁止法の目的および体系
第 2 回	独占禁止法の沿革 (1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第 3 回	独占禁止法の沿革 (2)	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第 4 回	独占禁止法のエンフォースメント (1)	組織・行政手続き
第 5 回	独占禁止法のエンフォースメント (2)	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエンシー制度）
第 6 回	独占禁止法のエンフォースメント (3)	民事・刑事上の効果、独禁法の実務

第 7 回	不当な取引制限 (1)	概観、事業者概念
第 8 回	不当な取引制限 (2)	行為要件、競争の実質的制限
第 9 回	不当な取引制限 (3)	事例 (1) 価格カルテルの事例を扱う。
第 10 回	不当な取引制限 (4)	事例 (2) 入札談合等の事例を扱う。
第 11 回	私的独占 (1)	概観、行為要件
第 12 回	私的独占 (2)	事例 (1) 支配型私的独占の事例を扱う。
第 13 回	私的独占 (3)	事例 (2) 排除型私的独占の事例を扱う。
第 14 回	教場試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。

①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第 9 版補訂、2022 年）2970 円

または

②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第 10 版、2023 年 2 月刊行予定）2530 円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第 2 版）』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 %。

期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。

小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで実施した授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。次年度は教場での対面授業の形になるが、活かせるところは継続したい。ゲストスピーカーは受講生に好評であるので、継続することとした。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を「授業支援システム」において共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PC やタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法 I（春学期）及び経済法 II（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。

経済法 III では、独禁法の先端分野を扱うので、発展的な内容に関心をもつ学生は、さらに継続して履修されたい。また、企業規制の法律学 I では経済法のうち事業法にあたる分野を中心に扱っている。これも合わせて履修すると経済法全体に対する理解が広がるだろう。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2) Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market due to restrictive competition actions by business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

70% for the final exam and 30% for others.

In the final exam, students are not allowed to bring in references.

Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW200AB

経済法Ⅱ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。

事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。

事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。

数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不正な取引方法（1）	不正な取引方法の概要
第2回	不正な取引方法（2）	不正な取引方法の位置づけ
第3回	不正な取引方法（3）	公正競争阻害性
第4回	不正な取引方法（4）	取引拒絶の概要

第5回	不正な取引方法（5）	取引拒絶の事例
第6回	不正な取引方法（6）	抱合せの概要
第7回	不正な取引方法（7）	抱合せ行為の事例
第8回	不正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不正な取引方法（9）	再販売価格維持行為の事例
第10回	不正な取引方法（10）	再販売価格維持行為の事例
第11回	不正な取引方法（11）	優越的地位の濫用
第12回	不正な取引方法（12）	優越的地位の濫用
第13回	不正な取引方法（13）	日本における実務の状況
第14回	教場試験	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円
または
②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第10版、2023年2月刊行予定）2530円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%。

期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。

小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だったのではないかと継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。ゲストスピーカーは受講生に好評だったので継続することとしている。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムを通じて共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2) Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market by restrictive competition actions of business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4) Grading Criteria /Policy

70% for the final exam and 30% for others.

In the final exam, students are not allowed to bring in references.

Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようとするさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、連続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回はオンライン授業です（法学部共通）
- ・第 2 回以降対面での講義を実施します。感染状況によりオンラインとする場合には授業内で連絡します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第 2 回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合／過半数代表者／労働法の法源
第 3 回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第 4 回	レポート課題にむけて	法的三段論法の記述方法
第 5 回	労働契約規制 (1)	本体的権利義務／人格権論
第 6 回	労働契約規制 (2)	付随義務論
第 7 回	労働契約規制 (3)	労働契約の解釈・現代的課題
第 8 回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間

- | | | |
|--------|-------------|--------------------------------|
| 第 9 回 | 労働契約の終了 (1) | 合意解約と辞職／定年／解雇制限 |
| 第 10 回 | 労働契約の終了 (2) | 解雇権濫用法理 |
| 第 11 回 | 労働契約の終了 (3) | 整理解雇法理／労働契約・労使慣行／労働条件の決定 (1) 行 |
| 第 12 回 | 労働条件の決定 (2) | 就業規則と労働契約法 |
| 第 13 回 | 労働条件の決定 (3) | 就業規則の不利益変更 |
| 第 14 回 | 労働紛争の実態 | 労働紛争の実態を検討する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どういう事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020）

【参考書】

- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（有斐閣、2014 年）
- ・『デリー六法 令和 4 年版』（三省堂、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[中間テスト] 2 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
- ・[期末テスト] 5 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス感染症対応】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱い。適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようとするさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、できるだけ連続して受講することを勧めます。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】**【授業の進め方と方法 / Method(s)】**

・対面での講義を予定していますが、オンラインに変更となる可能性があります。

・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。

・進捗は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。

・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本的雇用と労働条件
第 2 回	賃金 (1)	労働基準法と賃金／最低賃金法
第 3 回	賃金 (2)	賞与／退職金／休業手当
第 4 回	労働時間 (1)	労働時間の定義／休憩・休日
第 5 回	労働時間 (2)	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第 6 回	労働時間 (3)	弾力的な労働時間制度
第 7 回	労働時間 (4)	裁量労働制／労働時間法制の適用除外

第 8 回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第 9 回	映像で学ぶ労働法	中間のまとめ／労働法に関する映像学習
第 10 回	人事制度 (1)	配転／出向、転籍
第 11 回	人事制度 (2)	昇・降格／企業再編
第 12 回	懲戒	企業秩序論／懲戒処分の根拠と限界
第 13 回	労災	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険／労災民訴
第 14 回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どういう事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）

【参考書】

村中学史・荒木尚志『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2023 年版）』三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

着任初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[関連科目]

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

[授業を受ける姿勢]

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。

・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。

・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

[新型コロナウイルス対応]

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008 年 3 月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3 で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（4 月 11 火）で Zoom にて行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。
・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第 2 回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第 3 回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第 4 回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第 5 回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第 6 回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について

第 7 回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第 8 回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第 9 回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第 10 回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第 11 回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第 12 回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第 13 回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第 14 回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web 小テスト（20 点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 20 点満点に換算して評価します。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報 1903 = 1904 号、2018 年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌 129 号、2017 年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林 113 号、2016 年）、（共著）「労働契約法 20 条の研究」（労働法律旬報 1853 号、2015 年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障 1645 号、2015 年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（9 月 26 火）で Zoom にて行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

- ・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守るための手段について
第 2 回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第 3 回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について

第 4 回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第 5 回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第 6 回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第 7 回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第 8 回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第 9 回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第 10 回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第 11 回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第 12 回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第 13 回	休暇	年次有給休暇等について
第 14 回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web 小テスト（20 点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 20 点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報 1903 = 1904 号、2018 年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌 129 号、2017 年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林 113 号、2016 年）、（共著）「労働契約法 20 条の研究」（労働法律旬報 1853 号、2015 年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障 1645 号、2015 年）ほか

【Outline (in English)】**1. Course Outline**

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB

教育法 I

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法 I では教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本としますが、オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第 2 回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第 3 回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第 4 回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第 5 回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第 6 回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第 7 回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第 8 回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第 9 回	教育権—学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第 10 回	教育権—学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第 11 回	教育権—教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第 12 回	教育権—教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。

- 第 13 回 教育権—学力テスト事 旭川学力テスト事件について沿件（沿革、学説） 革、学説を通して考察する。
- 第 14 回 教育権—学力テスト事 旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2023 年版』北樹出版、2023 年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

万が一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOM が視聴できる環境。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。万一オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する

第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2023 年版』北樹出版、2023 年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

万一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOM が視聴できる環境。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB

法哲学 I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学1では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、必要に応じてオンライン（あるいはオンデマンド）の可能性があります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。テキスト各章に上がっている事例について意見交換の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	ロールズに対する批判	功利主義・リバタリアニズム・共同体論などからの問題提起を取り上げる。
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第11回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第12回	平等	正義と平等の関係について見る
第13回	権利	権利の概念・特質について

第14回 自然権と人権

自然権・人権の歴史と現代の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
宇佐美誠/児玉聡/井上彰/松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
住吉雅美『あぶない法哲学』講談社、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業全体に関する期末レポート（予定：5000字程度）と各回終了後の内容確認オンライン「クイズ（10問ほど、穴埋め）」による。平常点/クイズ30%、期末レポートを70%とする。（クイズは復習が主なので二週間ほどの期限内、何度でも回答可）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（レジュメとクイズ）とグーグル・クラスルーム（大きい資料がある場合）を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline) "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws.

(Learning Objectives) The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. The main themes of "Philosophy of Law 1" are around Theory of Justice, namely Liberty, Equality, (Human) Rights and so on.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the relevant chapter.

(Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online(30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW200AB

法哲学Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見るができるようになることを本講義の目的とする。法哲学Ⅰを受けて、Ⅱでは教科書 6 章からはじめるが、Ⅰの履修を条件にはしない。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題、国際的正義、世代間正義、環境問題、動物の権利、違法義務と市民的不服従などに関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。対面授業の場合、授業内で各章の設例をもとに討論の機会を適宜設けたい。

対面授業ができない場合、音声等のファイルと、レジュメをもとにすすめる。授業時間内・指定した期間に質問を学習支援システムで受け付け、随時応答する。各授業後に、内容確認のため、簡単なクイズをオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第 2 回	6 章正義論の最前線、その 1	1 節グローバル正義論を中心に
第 3 回	6 章正義論の最前線、その 2	2 節世代間正義と 3 節姓名と環境を中心に
第 4 回	7 章ルールとしての法、その 1	1 節命令としての法、2 節命令からルールへを中心に
第 5 回	7 章ルールとしての法、その 2	3 節法と道徳を中心に
第 6 回	8 章法の価値	自然法論・法の中の道徳、法の底にある善
第 7 回	9 章法の権威	二つの法実証主義、理由・権威・法
第 8 回	1 0 章解釈としての法	法の意味論的理論、解釈、規約主義とプラグマティズム、批判と応答
第 9 回	1 1 章批判理論	「主流派法学」の批判、CLS の理論と主張、その後の批判理論
第 10 回	1 2 章違法義務、その 1	違法義務という問題、違法義務の正当化論、

第 11 回	1 2 章違法義務、その 2	自然状態と自然義務、悪法と不服従
第 12 回	エピローグ法哲学の基礎理論、その 1	メタ倫理学と価値の多元性
第 13 回	エピローグ法哲学の基礎理論、その 2	法哲学はどのような分野か
第 14 回	全体のまとめ	後期全体のまとめと相互の関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）、2,800 円+税

【参考書】

宇佐美誠/児玉聡/井上彰/松元雅和『正義論』法律文化社、2019 年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』法律文化社、2016 年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2020 年
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020 年
住吉雅美『あぶない法哲学』筑摩書房、2020 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験、もしくはレポート（オンラインの場合）、各回に簡単なクイズを実施する（オンライン）。それぞれ 70 %、30 %。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ、資料配付、クイズなどにつき授業支援システム。資料が大きい場合、グーグル・クラスルーム。必要に応じてオンライン授業（zoom）となる場合がありうるので、対応できるように。

【その他の重要事項】

法哲学Ⅰの受講が望ましいが、要件ではないので、ご自由に受講して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline) Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints. "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. (Learning Objectives) The main themes of "Philosophy of Law 2" are not only theoretical problems as the concept of law, or theories of legal reasoning, but also, the analysis of actual problems from the perspectives of it, namely "Global Justice", "Justice among different generations", "environmental justice", "animal rights", "civil disobedience" and so on. (Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the relevant chapter (Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online (30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW300AB

法と遺伝学 I

和田 幹彦

授業形式: 講義 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring
 単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

★この授業は、「他学部公開科目」でもあります！

●テーマ: 21 世紀の遺伝学・医学・細胞学と法・法学・政策
 その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。

【授業の概要】

①デザイナー・チャイルド: ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？
 2018 年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド 3 人はどうなったのでしょうか？

②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性 2 人の遺伝子を、あるいは男性 2 人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？

③イギリスでは 2015 年に既に「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？

【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの 3 つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する (自分の頭で考える)」です。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学 I」の内容は、21 世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

学生は、21 世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的・社会的な解決法を、「正しい答は一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する (自分の頭で考える)」能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。

●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します (匿名です)。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●授業の進め方の基本方針: 「自分の頭で考える: 正しい答は一つではない!」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。〈法と遺伝学〉の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は 21 世紀を生きていく中で必須です! これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義&質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門; および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解; さらに 21 世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第 2 回	デザイナー・チャイルド: ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (1)	2001-02 年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか? を解説した上で、ディスカッションを行う。
第 3 回	デザイナー・チャイルド: ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (2)	2003-05 年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか? を解説した上で、ディスカッションを行う。
第 4 回	デザイナー・チャイルド: ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (3)	2015-17 年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか? そして 2018 年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか? を解説した上で、ディスカッションを行う。
第 5 回	デザイナー・チャイルド: ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018 年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド 3 人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利、特に「出自を知る権利」、その父・母の「出自を知らせる権利・義務」について考え、ディスカッションを行う。
第 6 回	同性間の実子 (1)	多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学 I」は近未来のテーマとして ≪ 同性 2 者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり、同性間の実子誕生があり得る場合 ≫ を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する。関連するビデオ動画教材も見て、ディスカッションを行う。
第 7 回	同性間の実子 (2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている ≪ 同性 2 者から精子と卵子が細胞学により作成され、同性間の実子が誕生している ≫ マウス (ネズミ)、試行中のサイ (絶滅危惧種)、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。
第 8 回	同性間の実子 (3)	法的に同性婚をした 2 者の ≪ 遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション ≫ した例 (動画) を見て、「人工主体」の観点も交えて解説し、解説を踏まえたディスカッションを行う。

<p>第 9 回 「人工主体」と「法と遺伝学」</p>	<p>ブレイン・マシン・インターフェース (Brain Machine Interface; BMI) を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。</p>
<p>第 10 回 3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新しい「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (1)</p>	<p>2015 年 2 月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコで、法改正に先行して「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が出生した意味・意義・法的諸問題の解説と、ディスカッションを行う。日本政府の対応も検討する。</p>
<p>第 11 回 3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新しい「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (2)</p>	<p>2015 年 2 月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコで、法改正に先行して「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否についてディスカッションを行う。</p>
<p>第 12 回 授業内試験【その振り返り：第 13、14 回】</p>	<p>本授業「法と遺伝学 I」到達目標に達したかを、問題を通じて考え、論述する。</p>
<p>第 13 回 本授業「法と遺伝学 I」の総括；および授業内試験の振り返り (1)</p>	<p>デザイナー・チャイルド、同性間の実子、「人工主体」、3 人の DNA を受け継ぐ子ども等のトピックを通じ、「法と遺伝学 I」の分野を通じて「独自の思考で考察」した内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括し、ディスカッションを行う。</p>
<p>第 14 回 授業内試験の講評；授業内試験の振り返り (2)</p>	<p>本授業「法と遺伝学 I」到達目標に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。</p>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅でする。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

- 【教科書】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021 年刊、1,400 円＋税
- 【教材】追加的に、必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上の URL を教示、または PDF 化して学習支援システム上の「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】の PDF 配布は以下の通り：
 - ★和田幹彦著『法と遺伝学』2005 年より、抜粋した教材。
 - ★和田幹彦著『「デザイナー・ベビー」』『同性間の実子』再訪：実現性高まる——『ゲノム編集』『男性 iPS 細胞からの卵子作製』の新技术と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決』2015 年
 - ★和田幹彦著「3 人の DNA を継ぐ子を認める法改正——英国の新しい「ヒト受精及び胚研究法」』2015 年
 - ★ほかに、2020-2023 年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：

【1】平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回参照：初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ [グループ 1, 2, 3, 4, 5] に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらおう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

- 全員：第 1 回、第 13 回 グループ 1：第 2 回、第 7 回 グループ 2：第 3 回、第 8 回
- グループ 3：第 4 回、第 9 回 グループ 4：第 5 回、第 10 回
- グループ 5：第 6 回、第 11 回

【2】期末の「授業内試験」【配点 50 点】。

【3】試験採点後の第 14 回「授業内試験の講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】

●【2】の期末試験では、到達目標である：≪21 世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけた≫かどうかを基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
- 時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
- 法学部以外の学生は、誰でも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。
- 法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
- 全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学 II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.

【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.

【Learning activities outside of classroom】：Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】：Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

法と遺伝学Ⅱ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【前年度と比べ、本 2023 年度の本授業は 2022 年新刊の「教科書」を使うため、大幅に内容が更新され、学習しやすくなっています。】

★この授業は「他学部公開科目」でもあります！

★そこの人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみてください。

【授業の概要】

人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化、そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょうか？ 例えば：

①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第 8 回授業【人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか】を参照）

②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第 9 回授業【「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説】を参照）

③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！ 第 5 回授業【「法の進化的基盤」の解説】を参照）

【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの 3 つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学Ⅱ」の内容・到達目標の 1 つ「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」は、21 世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

【1】 学生は、21 世紀の遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答は一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけること。

【2】 さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのでは無いのであるから、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という考察に繋げること。

以上の【1】【2】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の基礎と、さらに法・法学との関係を解説していきます。

●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。

●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は 21 世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション；動画教材による人類 400 万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出】
第 2 回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類 400 万年史視聴（続き）【「成績評価の方法」欄のグループ 1 はリアクションペーパー提出】
第 3 回	ヒト集団・社会に法が進化した要因 (1) [(2) は第 11 回]	教科書欄の【教材 1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」の概要解説とディスカッション【グループ 2 はリアクションペーパー提出】
第 4 回	遺伝学モデルに基づく「文化進化論」による「法の進化」	教科書 13 章「ヒトに於ける文化の重要性」に基づく「文化としての法」の「文化進化」の解説とディスカッション【グループ 3 はリアクションペーパー提出】
第 5 回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎 (1)	教科書 1,2,3 章+【教材 2】に基づき「遺伝学は生物進化に直結すること」「法の進化的基盤」の解説；動画教材視聴；テーマのディスカッション【グループ 4 はリアクションペーパー提出】
第 6 回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎 (2)	教科書 1,2,3 章に基き「生物進化の遺伝学上のしくみ」の解説；テーマのディスカッション【グループ 5 はリアクションペーパー提出】
第 7 回	ヒト属集団・社会の 200 万年史における「法の進化」	教科書 4,5,6 章【+河田雅圭・動画教材】に基き「人類史上の進化の中で法はどのように進化し得たか」の解説；テーマのディスカッション【グループ 1 はリアクションペーパー提出】
第 8 回	ヒト属集団・社会における「家族・家族法」の重要性；及び「家族以外との協力行動」としての「法の進化」	教科書 7, 8, 9 章に基き「人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ「法の進化」の中核であることの解説；テーマのディスカッション【グループ 2 はリアクションペーパー提出】

第9回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書 10,11 章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション【グループ3 はリアクションペーパー提出】
第10回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書 12 章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかに関わりつづいたかの考察・解説；テーマのディスカッション【グループ4 はリアクションペーパー提出】
第11回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(2)【1】は第3回】	教科書欄の【教材1】【教材4】に基き、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション【グループ5 はリアクションペーパー提出】
第12回	授業内試験またはレポート【とその振り返り：第13, 第14回】	本授業「法と遺伝学 II」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第13回	「法と遺伝学 II」総括：進化を通じて「法」の本質を探る	この授業の第12回目までを通じて、「進化」を手掛かりに、「法」の機能と本質がどこまで解明できたかの解説と、ディスカッション【リアクションペーパー全員提出】
第14回	授業内試験またはレポートの講評	本授業「法と遺伝学 II」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。【リアクションペーパー全員提出】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

- 【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第2版（2022年）東京大学出版会（2,500円+税）：多用するので、必ず入手すること。
- 【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上の URL を教示、または PDF 化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。
【例】【教材1】和田幹彦（2021 刊）「律する」『進化でわかる人間行動の事典』234-238 頁.pdf
【教材2】河田雅圭〔東北大学教授・進化生物分野〕（2021 版）：学術的内容）「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」
<https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860>
【教材3】河田雅圭〔同上〕『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021 年）の第1章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）
<https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb>
【教材4】和田幹彦（2023 年刊行予定）「法の進化」研究・素描」.pdf
- 【参考書】
●経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021 年刊、1,400 円+税【春学期の「法と遺伝学 I」で使う本と同一；秋学期「法と遺伝学 II」のみの履修者は購入する義務はない。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：

【1】平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ [グループ 1, 2, 3, 4, 5] に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第 1 回、第 13 回 グループ 1：第 2 回、第 7 回 グループ 2：第 3 回、第 8 回
グループ 3：第 4 回、第 9 回 グループ 4：第 5 回、第 10 回
グループ 5：第 6 回、第 11 回

【2】期末の「授業内試験」または「レポート課題」提出【配点 50 点】。
【3】「授業内試験」または「レポート課題」採点後の「講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】

●【2】の期末試験またはレポートでは、到達目標である：≪ 遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の発展の中で、これらの自然科学と連動して、「法とは何か?」という法学の根源的な問いと向き合い、この問いへの「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する」ことにより「この問いに『応える』」能力が身についた ≫ か、≪ 進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきかという考察に繋げられたか ≫ を基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- 【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
- 時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着目し、「法とは何か?」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。
- 法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ!」姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学 I」との合わせでの履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】: To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology & Psychology, and Neuroscience".

【Learning Objectives】: To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.

【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB

法律学特講（日本レコード協会寄付講座）エンタメ産業と法

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、音楽・放送・出版・ゲームなどのエンターテインメント産業について、具体的なビジネスの内容やそれらを支える法制度（著作権法等）について、各界の第一線で活躍する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス講義形式で授業を行います。

各業界の現状・構造がどのようなものか、情報化社会の進展によりそれがどのように変容しているのかを学ぶとともに、将来の進路の選択肢のひとつとしてエンターテインメント産業を意識してもらうことが、受講生にキャリア形成の幅を広げてもらうことが本授業の目的です。

【到達目標】

受講生が、エンターテインメント産業の現状と今後について、それを支える著作権法などの法制度に関する事柄も含めて、重要な事項や概念を正しく理解し、説明できるようになること。

また、エンターテインメント産業を進路の選択肢のひとつとして意識し、講義内容を自身のキャリア形成に具体的に役立てるとともに、自身が講義から受けた影響を言語化して説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

エンターテインメント産業の第一線で活躍される方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス形式で講義していただく形で授業を進めます。市ヶ谷キャンパスでの対面授業を基本としますが、多摩・小金井の学生にも受講してもらえるよう、オンライン同時配信の実施も検討しています。

講義終了後、学習支援システムを通じてリアクションペーパー（感想文）を提出してもらいます。また、講義後と同じく学習支援システムに公開する小テストにも取り組んでいただきます。

以下には仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番共に変更される可能性がありますので、詳細は開講後に学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、エンターテインメント産業と著作権法	講義の概要や成績評価方法の説明、著作権法の概要
第 2 回	レコード産業の構図と現状	レコード産業の現状と課題、課題への法的対応など
第 3 回	レコード会社のビジネス	レコード会社のビジネスの実情、今後の課題など
第 4 回	音楽著作物の集中管理	音楽著作物の集中管理の実務と今後の課題
第 5 回	音楽配信ビジネス	音楽配信ビジネスの現状と展望
第 6 回	ライブ・コンサートビジネス	ライブ・コンサートビジネスの実情、今後の課題など
第 7 回	音楽出版社・プロダクション	音楽出版社・プロダクションの実務とその役割
第 8 回	コンテンツをめぐる紛争	コンテンツ制作やコンテンツ利用をめぐる法律紛争について

第 9 回	アニメ業界	アニメ業界と知的財産法をめぐる現状と課題
第 10 回	ゲーム業界	ゲーム業界の現状と課題、ゲーム業界の法務
第 11 回	映画ビジネス	映画ビジネスの現状と展望
第 12 回	放送業界	エンターテインメントとしての放送の現状と課題
第 13 回	出版業界	出版業界の実務
第 14 回	日本のコンテンツビジネス戦略	コンテンツ産業の政策実務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習については、事前に資料の紹介などがなされた場合、一読してから授業に臨んでください。

授業後、リアクションペーパー（感想文）の提出、及び小テストへの解答を、それぞれ学習支援システムから行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。（授業の資料は学習支援システムにアップします。）

【参考書】

参考書は、必要に応じて、各回の授業において提示されます。

著作権法を含む知的財産法に関する参考文献として、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）など。

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回、授業後に、学習支援システムを通じてリアクションペーパー（感想文）を提出してもらい、これによって成績評価をします（30 %）。

（2）また、同じく授業後に学習支援システムに公開される小テストによっても成績を評価します（70 %）。

（3）単位修得の最低条件として、10 回以上授業に出席し、上記（1）及び（2）の課題を提出する必要があります。（上記（1）・（2）の課題のどちらか一方でも、5 回以上未提出となった場合、単位修得はできません。）

小テストとリアクションペーパーの詳細については、第 1 回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

This omnibus course covers the entertainment industry and entertainment law in Japan.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of the entertainment industry and entertainment law in Japan.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on:

— online quiz(short test) : 70%

— online reaction paper : 30%

POL100AC

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【その他の重要事項】

講義の実施形態等に変更があった場合は、授業支援システムに記してまいりますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に関覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手ごかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、ダールのポリアーキー論を検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講義の進め方・政治体制とは何か
第 2 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 3 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 4 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 5 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 6 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 7 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 8 回	春学期中間考察	前半の内容をふりかえる
第 9 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 10 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 11 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 12 回	ライト・ミルズ	『パワー・エリート』
第 13 回	スティーブン・ルーク	『現代権力論批判』
	ス	
第 14 回	春学期総括考察	後半と全体の内容をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定ですが、授業計画（テーマと内容）に記した著者名の文献の多くは文庫本で読むことができます。履修者は極力、事前・事後にそれらの文献を読むように心がけてください。

【参考書】

参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

POL100AC

政治体制論Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【その他の重要事項】

講義の実施形態等に変更があった場合は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手ごかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、分節政治理論と全体主義批判を検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	原初条件と現代政治の条件
第 2 回	分節政治理論	農村型社会と都市型社会
第 3 回	分節政治理論	近代化の過渡媒体国家
第 4 回	分節政治理論	大衆政治の問題性
第 5 回	分節政治理論	シビル・ミニマム
第 6 回	分節政治理論	多元・重層化
第 7 回	分節政治理論	官僚内閣制・国会内閣制
第 8 回	中間考察	分節政治理論の可能性
第 9 回	天皇制国家の支配原理	装置と生活共同態
第 10 回	全体主義の時代経験	戦争
第 11 回	全体主義の時代経験	政治
第 12 回	全体主義の時代経験	政治
第 13 回	全体主義の時代経験	生活
第 14 回	結び	分節政治理論と全体主義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】

・松下家一『現代政治の条件』
 ・松下圭一『現代政治の基礎理論』
 ・藤田省三『天皇制国家の支配原理』
 ・藤田省三『全体主義の時代経験』
 このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

POL200AC

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？ ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 家族とは何か、家族の変化について説明する。多様性を認める方向の中で夫婦別姓や同性婚に関する動向についても考察する。
第4回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。 ここでは性別役割分業について理解する。 現在、議論が進んでいる「異次元の子育て支援」についても考察する。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第8回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉えるためにはどうすべきかを考える。

第 11 回 政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第 12 回 国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。
第 13 回 国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第 14 回 授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

- ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書 2023 年）
- ・前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019 年）
- ・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
- ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html>
- ・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
- NWEC 実践研究第 9 号「ジェンダーに基づく暴力」
- ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
- ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
- ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
- ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
- ・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持てられるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

- ・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第 2 回	歴史とジェンダー (1)	近世君主制とジェンダー
第 3 回	歴史とジェンダー (2)	近代君主制とジェンダー
第 4 回	歴史とジェンダー (3)	現代君主制とジェンダー
第 5 回	歴史とジェンダー (4)	女性君主をめぐる問題
第 6 回	歴史とジェンダー (5)	日本における女性天皇の可能性
第 7 回	女性と政治参加 (1)	政治の民主化とフェミニズム
第 8 回	女性と政治参加 (2)	女性参政権運動
第 9 回	女性と政治参加 (3)	政治運動とジェンダー
第 10 回	女性と政治参加 (4)	ウーマンリブ運動
第 11 回	女性と政治参加 (5)	労働運動とジェンダー
第 12 回	女性と政治参加 (6)	女性首相の誕生
第 13 回	女性と政治参加 (7)	政治的リーダーシップとジェンダー
第 14 回	女性と政治参加 (8)	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算など）
- ・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して 2 本分）

詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの内容を（匿名で）取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (80%) and short reports (20%).

POL200AC

福祉政策 I

淵元 初姫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。福祉政策とは何か。そこではどのような政策の選択肢があり得るのか。また、福祉はどのような過程を経て人々のもとに届くのか。本講義では、現代社会において福祉政策がどのように構成され、議論されているのかを検討するための基本的な概念や理論を取り扱います。

【到達目標】

- (1) 福祉政策を論じる上で必要となる基本的な用語や概念を理解する。
- (2) 現代社会における福祉政策の問題がどのように構成されているかを理解する。
- (3) 福祉政策をめぐる制度や仕組みを理解し、支援の実際について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーもしくは課題の提出を求めます。これは不定期に合計 3 回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のテーマや到達目標、評価基準等について説明し、福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第 2 回	現代の福祉課題	現代社会において生活を営む上で私たちが直面している福祉問題・課題について考える。
第 3 回	福祉制度の歴史と展開 (1)	福祉国家の形成過程について説明し、社会福祉がいかに制度化されてきたのかを学ぶ。
第 4 回	福祉制度の歴史と展開 (2)	福祉国家の変容とポスト福祉国家体制について学ぶ。
第 5 回	社会福祉の原理	なぜ人と人は支え合うのかを問いながら、福祉社会のあり方について検討する。
第 6 回	福祉政策の範囲と体系	広義・中間義・狭義の「社会福祉」を理解し、社会福祉法をはじめとする関連法規の概要を学ぶ。
第 7 回	社会保障制度	年金・医療保健制度をはじめとする社会保険制度のほか、社会扶助制度、社会福祉制度の内容について学ぶ。
第 8 回	日本における社会福祉の特徴	日本型福祉社会の形成過程と特徴を説明し、家族や地域社会、企業がいかなる役割を果たしてきたのかを論じる。

第 9 回	福祉政策の国際比較	福祉国家の類型について学びながら、国際比較の視点と方法を考える。
第 10 回	福祉政策と地方自治	地方自治体におけるこれまでの福祉政策に関する取り組みを学び、今後の課題を考える。
第 11 回	福祉政策の担い手	福祉政策を支える自治体職員、福祉専門職のほか、社会福祉法人や NPO 法人について学び、それらの役割を考える。
第 12 回	社会福祉と市民参加	福祉政策の領域における市民参加の諸形態について学ぶ。
第 13 回	コミュニティにおける社会福祉	地域福祉という考え方とその実践について学び、これからの福祉政策を展望する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多様な複数のメディアを通じて、身近な政策課題について関心をもつように心がけてください。皆さんが居住する自治体のホームページなども重要な情報源です。授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、出席者同士で問いかけあうことも必要です。講義の後は、復習としてその内容について振り返り、知識の定着をはかるとともに、自らの興味や関心と関連付けて考えてみることも大切です。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。授業中にリアクション・ペーパーや課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The lecture explores how social/welfare policies are constructed and debated in contemporary society. How are policies made? Which voices matter? How policies are delivered? The course will be of interest to those with an interest in how social/welfare policies, which affect our everyday lives, are made by politicians, government officials, citizens, and various other actors.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL200AC

福祉政策Ⅱ

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。

日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。

本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- ・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・近年における福祉政策の展開を理解する。
- ・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- ・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
- ・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開講する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第 2 回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第 3 回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第 4 回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について理解する。
第 5 回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を理解する。
第 6 回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第 7 回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。
第 8 回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。

第 9 回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点から求められる福祉政策の現状について理解する。
第 10 回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第 11 回	地域福祉計画	地域福祉の計画と実践について、自治体における事例をもとに検討する。
第 12 回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第 13 回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第 14 回	授業のまとめ、到達度確認（試験）	第 13 回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021 年、中央法規出版
- ・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第 5 版: 社会福祉の原理と政策」2021 年、勁草書房
- ・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisakaiportal/>
その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、授業内リアクションペーパー（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses.

Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".

In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL300AC

外国書講読（独語） I

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバースの最新刊をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の最新の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第1節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第1節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第1節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第1節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第2節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第2節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第2節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第2節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, "Überlegungen und Hypothesen zu einem erneuten Strukturwandel der politischen Öffentlichkeit" in ders. Ein neuer Strukturwandel der Öffentlichkeit und die deliberative Politik (Suhrkamp, 2022), 9-67.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなくて、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバースの最新刊をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の最新の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, "Überlegungen und Hypothesen zu einem erneuten Strukturwandel der politischen Öffentlichkeit" in ders. Ein neuer Strukturwandel der Öffentlichkeit und die deliberative Politik (Suhrkamp, 2022), 9-67.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

春学期の続きを読みますが、途中参加も可能です。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL200AC

ロシア政治史 I

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 I」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。質問やコメントは授業の前後および Google フォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。

※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoom によるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	世界史とロシア	世界近現代史におけるロシアの位置づけ
3	帝政期	「大改革」とその後
4	ロシア革命①	帝政の終焉とソ連政権の樹立
5	ロシア革命②	内戦と初期のソ連・ソ連建国
6	ソ連①	スターリン時代
7	ソ連②	大祖国戦争・後期スターリン時代
8	ソ連③	フルシチョフ時代
9	ソ連④	ブレジネフ時代
10	ソ連⑤	ペレストロイカとソ連の解体
11	現代ロシア①	エリツィン時代
12	現代ロシア②	第一次プーチン政権
13	現代ロシア③	「タンデム」期・第二次プーチン政権
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014 年。
和田春樹編『ロシア史（新版 世界各国史）』山川出版社、2002 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出・計 3 回）（30 %）、期末試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】

歴史をより身近に感じられるようにするため、可能な限り写真や映像を用いて授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination: 70%, Reflection papers: 30%.

POL200AC

ロシア政治史Ⅱ

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。講義内容へのリアクションおよび質問は Google フォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoom によるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	ソ連とロシア①	帝政期・ソ連
3	ソ連とロシア②	ソ連・現代ロシア
4	政治体制①	選挙
5	政治体制②	政党・社会運動
6	国家と社会①	体制と市民
7	国家と社会②	家族・ジェンダー
8	様々な政治主体①	宗教と政治
9	様々な政治主体②	軍・治安機関
10	国家と市場①	経済体制
11	国家と市場②	社会政策
12	民族と政治①	連邦制
13	民族と政治②	ナショナリズム
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全 5 巻）』岩波書店、2017 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出・計 5 回）（30 %）、期末試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックを重視し、双方向的な授業を心がける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state - society relationship, politics and economy, center - periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:
Term-end examination: 70%, Reflection papers: 30%.

POL300AD

アメリカ政治外交史

石川 敬史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アメリカ的な外交政策が揺籃された背景を歴史的に考察するものです。ヨーロッパ文明に端を発しながらも、ヨーロッパとは異なる世界観を獲得するに至ったアメリカ文明の形成過程を植民地時代から外観します。受講生は、日々のニュースでもたらされる膨大なアメリカの行動の背景に存在する「原則」を歴史的視座から理解できるようになることを目指していただきます。

【到達目標】

- ①アメリカ合衆国の外交政策を歴史的・文化的背景から考察する視座を涵養する。
- ②アメリカ合衆国の外交を内政の延長上にあるものとして再定位できるようにする。
- ③アメリカ合衆国を題材としつつも、外交政策一般の形成過程を各国の歴史的経緯から理解するよう努める知的習慣を身につける。
- ④外交政策を思想的に理解することができるようになる。
- ⑤アメリカ合衆国の合わせ鏡として最終的には世界の中の日本を考察する材料を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業とします。概ね 7 回目の授業を目処に簡単なミニレポートの課題を出し、授業前半の理解を確認し足します。質問はメール等で常時受けつけます。その質問内容は、授業に反映することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	重商主義政策下におけるヨーロッパ人のアメリカ大陸への移住とイギリス領北アメリカ植民地の形成史
第 2 回	フレンチ・インディアン戦争から反イギリス抗争へ	イギリス領北アメリカ植民地とイギリス本国の統治原則の乖離
第 3 回	国際戦争としてのアメリカ独立戦争	イギリス領北アメリカ植民地の戦時体制と啓蒙主義思想による戦時国際法の変化によるアメリカ合衆国の独立
第 4 回	フェデラリスト政権の外交 (1)	初代大統領ジョージ・ワシントンの外交政策とアメリカ孤立主義外交の契機
第 5 回	フェデラリスト政権の外交 (2)	第二代大統領ジョン・アダムズ政権の外交と内政事情
第 6 回	フロリダ併合から 1812 年の米英戦争	アメリカ合衆国における党派対立から政党政治への移行と消滅、その政治哲学的考察
第 7 回	モンロー・ドクトリンとアメリカ大陸の覇権国家への道	第 5 代大統領ジェイムズ・モンローと国務長官ジョン・クインシー・アダムズによる積極的孤立主義外交

第 8 回	アメリカの膨張と「マニフェスト・デスティニー」	アフリカ人奴隷制度をめぐる争いを梃子としたアメリカ合衆国の膨張
第 9 回	共和党の誕生と南北戦争	アメリカ合衆国憲法が棚上げにできた問題の解決と内戦期におけるリンカン政権の外交
第 10 回	フロンティアの消滅と新たな外交思想	第 26 代大統領セオドア・ローズヴェルト、第 27 代大統領ウィリアム・タフト、第 28 代大統領ウッドロー・ウィルソンによるアメリカ外交思想の形成
第 11 回	アメリカ合衆国と第一次世界大戦	図らずも訪れたアメリカの世紀
第 12 回	アメリカ合衆国と第二次世界大戦	ニューディール政策がもたらした動員力と冷戦の始まり、および冷戦期の外交
第 13 回	2001 年 9 月 11 日とアメリカ合衆国	冷戦終焉後の 10 年が見落としていた 21 世紀の諸問題
第 14 回	21 世紀現在のアメリカ外交の外観	保守レジームにおけるアメリカ外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で配布した資料、参考文献、授業で紹介した文献を読み込み復習に重点をおいた学習を心がけてください。概ね 1 時間 30 分。
・ミニレポートは、減点材料としては使用しません。授業で理解したことを言語化すると同時に、理解していなかったことに気づくためのものです。積極的に活用・提出を心がけてください。
・上記 2 点を踏まえた上で、次の授業テーマに当たる項目について参考文献に目を通してください。概ね 30 分。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。授業毎にテーマに沿った資料を配布します。授業において必要な参考文献を紹介します。

【参考書】

斎藤真・古矢旬『アメリカ政治外交史 [第二版]』（東京大学出版会、2012 年）
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30 %
期末試験 70 %
※単位取得の必須条件は、期末試験を受験することにあります。
※もしミニレポートを提出していなくても期末試験は受験できます。その際は、最高評価は B となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

質問は毎授業後に受けつけます。気軽に声をかけてください。また、下記メールで質問してもかまいません。
t-ishikawa@main.teikyo-u.ac.jp

【Outline (in English)】

This class is a historical view of the background of American-style foreign policy. We will look at the formation process of American civilization, which originated in European civilization but came to acquire a worldview different from that of Europe, starting in the colonial period. Students are expected to be able to understand from a historical perspective the "principles" that exist behind the vast array of American actions brought to us in the daily news.

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい土地利用規制 1	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい土地利用規制 2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E 評価とする）。
- ・「①授業ごとに出題する課題」の評価は下記になる。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
- ・なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- ・「②レポート課題」について
出題は、6 月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
- ・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
- 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第2回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第3回	防災まちづくり1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第4回	防災まちづくり2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第5回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第6回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第7回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第8回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第9回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第10回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第11回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

第12回 草の根まちづくり概論 地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。

第13回 草の根まちづくりの事例1 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

第14回 草の根まちづくりの事例2 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が9回未満（全14回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- ・「①授業ごとに出席する課題」のについて

・評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

・「②レポート課題」について

出題は、11月中の講義の中で行う（実施日は未定）。

提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。

（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）

・評価は下記とする。

A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。

B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。

C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要環境が必要となる。

【その他の重要事項】

・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。

・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance
6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance

10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, Global Governance Futures, Routledge, 2022.
 ・ Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.
 ・ Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.
 ・ 西谷真規子・山田高敬（編著）『新時代のグローバル・ガバナンス論 制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021年
 ・ 鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017
 ・ 笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治一文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on various issues related to global governance.

【Outline (in English)】

As written above.

POL200AD

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことにより、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではなく広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）
 毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppii を通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	アジア太平洋における日本の外交政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	国連と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際 NGO/NPO と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には 2 時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

講義や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出（60%）から総合的に判断する。なお、4 回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
 <研究テーマ>
 国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
 <主要研究業績>
 近著に、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021 年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』（明石書店、2016 年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013 年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、Japan: COVID-19 and the Vulnerable,” M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022); “Smart Sanctions’ by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020); “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018); “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機をもとついで、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ?」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい! と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が関わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開:途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊:開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題(40%)と最終試験(60%)で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義(講師からの説明)の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目)では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族は共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たとされる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。

- | | | |
|----|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② | 日本の ODA は借金を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。 |
| 13 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ | 2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱 (1992 年制定、2003 年改訂)」と比較しながら読み解く。 |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括 | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4 サイズで 2 枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つーく 善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。

小坂井敏晶、2017 年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (60%) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (40%) によって成績を評定する予定 (最終試験は行わない) であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論 I」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目) ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念館への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	平和とは何か	戦争がなければ平和なのか。
第 2 回	超大国による平和 勢力均衡による平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 3 回	集団安保による平和 軍備競争による平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 4 回	世界政府、国連による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 5 回	世界政府、国連による 平和 地域統合、国際法による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 6 回	機能主義 (functionalism) による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 7 回	終戦の状況と戦後日本の スタート	平和憲法、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約
第 8 回	日本の軍事政策 1	日米安保
第 9 回	日本の軍事政策 2	核政策・防衛大綱
第 10 回	日本の軍事政策 3	自衛隊とその装備
第 11 回	領土問題	個別の領土問題を概観
第 12 回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第 13 回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第 14 回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念物、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The first half of this course introduces the ideas and measures to achieve international peace which many scholars and politicians have envisioned.

It explains its details of ideas and will check how and why it will work or not. The second part of this course introduces the history of post-war Japan's military policy and the military situation of East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD

オセアニアの政治と社会 I

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、近年、米中競合の場として注目され、「自由で開かれたインド太平洋」、QUAD などに関連して報道される機会も増えた。しかし、日本の報道にみるオセアニア、なかでも島嶼国・地域は、パワーポリティクスに翻弄される、受動的な存在として映し出される傾向が否めない。また島の人々の様子も見えてこない。

オセアニアが生存を委ねる太平洋に目を向けると、地球の地表面積の 35 %、全海洋の 50 %、全陸地表面積の 1.2 倍の広がりを持ち、地球環境を大きく反映させる現場でもある。

小説家・島尾敏雄は日本列島を「ヤボネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアと歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本のオセアニア、とくに島嶼への関心は小さく、流通する情報には偏りや不正確さも目立つ。

オセアニアは、オーストラリア大陸とメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々からなるが、こうした区分は外来者によって行われたものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験を持ち、植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、心身への被害、離散をもたらし、社会・文化の消滅の可能性すら現実的なものとなっている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼は、ゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に具体策を提言してきた。また、強いられられた植民地化であっても、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵を活かし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、課題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、オセアニア島嶼への人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を中心に学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する課題としても理解することができる。
2. オセアニアに関する情報の所在を知り、正確な知識を得るとともに、島嶼や海に対する自身の認識を再構成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業は原則としてオンラインライブで行う（【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は Hoppii にて配布する。
2. リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
3. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
4. 授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
5. 授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。受講生の本授業への関心についてアンケートをとる。
第 2 回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。

第 3 回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第 4 回	オセアニアの課題につながる日本①	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 5 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 5 回	オセアニアの課題につながる日本②	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 6 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 6 回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第 7 回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第 8 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第 9 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第 10 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化の実態を、具体的な事例から学ぶ。
第 11 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZAC を事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第 12 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第 13 回	受講生の関心に基づいたテーマ	受講生の関心を踏まえて決めたテーマについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連の HP などを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023 年。
その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。本成績評価の方法をもとに、授業の到達目標の 60 % 以上を達成したものを合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

オセアニアに関する基礎知識や関心がなくとも、授業で適切な情報を得て関心が広がったとの意見から、継続して丁寧な情報提供を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
2. 授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行う可能性があるため、安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。

3. 提出物は学習支援システムで提出してもらう。提出は期限に余裕をもって準備し、安定的な接続環境で行うこと（スマホからの提出ではトラブルが報告されているので注意）。
4. **Hoppii** のお知らせ欄は常にチェックすること。教員への連絡は掲示板を通じて行ってください。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2. Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式: 講義 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オセアニアは、近年、米中競合の場として注目され、「自由で開かれたインド太平洋」、QUAD などに関連して報道される機会も増えた。しかし、日本の報道にみるオセアニア、なかでも島嶼国・地域は、パワーポリティクスに翻弄される、受動的な存在として映し出される傾向が否めない。また島の人々の様子も見えてこない。

オセアニアが生存を委ねる太平洋に目を向けると、地球の地表面積の 35%、全海洋の 50%、全陸地表面積の 1.2 倍の広がりを持ち、地球環境を大きく反映させる現場でもある。

小説家・島尾敏雄は日本列島を「ヤポネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアと歴史的に深い関わりをもって来た。しかし日本のオセアニア、とくに島嶼への関心は小さく、流通する情報には偏りや不正確さも目立つ。

オセアニアは、オーストラリア大陸とメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々からなるが、こうした区分は外来者が行ったものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験を持ち、植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、心身への被害、離散をもたらし、社会・文化の消滅の可能性すら現実的なものとなっている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼は、ゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に具体策を提言してきた。また、強いられられた植民地化であっても、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵を活かし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、課題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、日本が最も深いいかかわりを持つ赤道以北のグアム島を除くミクロネシア (旧南洋群島) を中心に学ぶ。本年度の「オセアニアの政治と社会Ⅰ」を受講していることを強く推奨する。

【到達目標】

1. ミクロネシアと日本との歴史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する課題としても理解することができる。
3. オセアニアに関する情報の所在を知り、正確な知識を得るとともに、島嶼や海に関する自身の認識を再構成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業は原則としてオンラインライブで行う (【その他の注意事項】を確認すること)。レジュメや資料は Hoppii にて配布する。
2. リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
3. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
4. 授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
5. 授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションー 三つのネシアとミクロ ネシア	授業の進め方、注意事項の説明。 「オセアニアの政治と社会Ⅰ」との 関連づけ。受講生の本授業テーマに ついてアンケートをとる。

第 2 回	ミクロネシアと日本との 関係の現在	ミクロネシアと日本との現在の関係 に関するトピックスをもとに、戦 前、戦後のミクロネシアと日本の関 係を学ぶ意義を確認する。
第 3 回	日本の南洋群島統治を 分析する視点と方法	南洋群島統治をめぐる日本政府、研 究者の評価を批判的に検討し、本授 業のアプローチを学ぶ。
第 4 回	「南洋群島」時代のミク ロネシア①ー法的な側 面からみた南洋群島統 治の特徴	国際連盟の委任統治制度のもとで行 われた日本の南洋群島統治の特徴 を、第一次世界大戦後の世界の植民 地支配体制の中で、また日本の植民 地法制度のなかで学ぶ。
第 5 回	「南洋群島」時代のミク ロネシア②ー植民地社 会の特徴	現地住民人口の 2 倍もの日本人が 移民し、なかでも沖縄出身者が多 かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第 6 回	「南洋群島」時代のミク ロネシア③ーチャモロ とカロリニアン経験	チャモロとカロリニアン植民地経 験を、日本の教育政策を中心に学ぶ。
第 7 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの 第二次世界大戦経験①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われた 南洋群島での戦争を、沖縄戦と比較 し関係づけながら学び、ミクロネ シアにとっての戦争経験を考察する。
第 8 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの 第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々 が戦争経験をどう捉え、若い世代に 伝えようとしているか、非体験者として 考察する。
第 9 回	「核の海」ミクロネシ アー Operation Crossroad と戦略的信 託統治	国際連合の戦略的信託統治として行 われたアメリカのミクロネシア統治 の特徴を、冷戦体制下アメリカの核 軍勢力を支えたマーシャル諸島での 初の核実験を中心に学ぶ。
第 10 回	「核の海」ミクロネシ アー水爆 Bravo による 核被害	米国がビキニ環礁で行った水爆 Bravo 投下による実験での、住民の 核被害の実態、その経験と継承から 学び、現代世界の核兵器問題、放射 能被害の考察につなげる。
第 11 回	「核の海」ミクロネシ アー「ビキニ事件/第 五福竜丸事件」	日本にとって「ビキニ事件/第五福 竜丸事件」と表現される水爆 Bravo 投下について、日本の漁師の経験から 学び、現代世界の核兵器問題、放 射能被害の考察につなげる。
第 12 回	ミクロネシアと日本 の関係再開	「ミクロネシア協定」から始まる、 戦後日本とミクロネシアとの関係を 学ぶ。
第 13 回	ミクロネシアと日本 受講生の関心に基づく トピックス	受講生の関心に基づくトピックスを 選び、学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業を総括し、私たちとオセアニア の島嶼との関係を改めて考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連の HP などを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真島編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 石森大知ほか編『南太平洋 (メラネシア・ポリネシア) を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』2012 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本ー日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻 (地域論)』岩波書店、2014 年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー、適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して (50%)。セメスター末のレポート (50%)。本成績評価の方法をもとに、授業の到達目標の 60% 以上を達成したものを合格とする。

2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで注目する意見や質問を取り上げて紹介し、授業に反映させたり、受講生の関心に基づいて授業計画を微修正したことが、ミクロネシアへの関心を高め、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が複数寄せられたことから、今年度もこうした工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
2. 授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行う可能性があるため、安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。
3. 提出物は学習支援システムで提出してもらおう。提出は期限に余裕をもって準備し、安定的な接続環境で行うこと（スマホからの提出ではトラブルが報告されているので注意）。
4. Hoppiiのお知らせ欄は常にチェックすること。教員への連絡は掲示板を通じて行ってください。
5. 沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の経験をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるか、の経験に基づく「地域研究」の方法を反映させた講義である。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/ Japanese as a member of Pacific Islands/ Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD

国際機構論Ⅱ

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations II” (which follows “International Organizations I”), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Role of international organizations (IO)	IO as global actors
2	Role of Member States	Relationship between Member States and UN
3	Role of civil society	Relationship between civil society and UN
4	Role of private sector	Relationship between the private sector and UN
5	Regional organizations	Relationship between regional organizations and UN
6	Sustainable development	2030 Agenda and SDGs
7	UN Secretariat	Role of UN Secretariat
8	Global governance	UN and global governance
9	Human security	Role of UN in human security

10	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
11	UN and Japan	Japan's role in the UN
12	Multilateralism	Multilateralism and UN
13	UN reform	Progress and issues in UN reform
14	Summary and review	Review of course contents

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Besides those listed below, other materials will be assigned in class.

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations, 42nd Edition. United Nations Publication, New York, 2017.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2018

【参考書】

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.

・ 植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018）

・ 山田哲也『国際機構論 入門』（東大出版会、2018）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵 編著『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）

・ 内田孟男 編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international organizations.

【Outline (in English)】

As written above.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第 2 回	朝鮮半島の分断	38 度線の由来 分断の状況、分断の責任
第 3 回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第 4 回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第 5 回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第 6 回	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデター	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデターを解説
第 7 回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第 8 回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第 9 回	全斗煥政権	1979-88 年
第 10 回	民主化運動とその実現	1987 年新憲法成立
第 11 回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第 12 回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第 13 回	李明博、朴槿恵の保守 政権と、文在寅政権、 2022 年 5 月に誕生する 新政権	その政策を中心に
第 14 回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020 年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア（第三版）—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20 %）、課題（0～20 %）、試験（60～80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and it situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ**権 鎬淵**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。オンラインによる受講が保障されている場合は、対面授業やオンライン同時中継が並行されるハイフレックス型授業になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第 2 回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、「わが民族同士」
第 3 回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第 4 回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第 5 回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第 6 回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第 7 回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第 8 回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第 9 回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第 10 回	教育制度	受験戦争、就職難
第 11 回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第 12 回	韓国の社会問題 2	女性関連
第 13 回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第 14 回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020 年
2. ドン・オーバードーファー、ロバート・カーリン『二つのコリア（第三版）—国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015 年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20 %）、課題（0～20 %）、試験（60～80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2019 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第 10 回	日本の冷戦時代の戦略	「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第 11 回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第 12 回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第 13 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 14 回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念物、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0~20%）、試験（60~80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and terror issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC

現代政策学特講Ⅰ（千代田区）

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする 2 単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。

なお、沖縄県の 2 大学（沖縄大学・名桜大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間を含む 4 日間（9 月 1 日～14 日）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。

なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8 月下旬	オリエンテーション・事前学習「千代田区概論」	授業の進め方および目的を説明し、対象となる千代田区の概説をする（オンデマンド）。
8 月下旬	現地実習の事前準備	グループごとに現地実習の準備（情報収集等）をする（リアルタイムオンライン）。
9 月 11 日 午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9 月 11 日 午後	講義：地域課題解決に取り組む学生の取組	大学生による地域課題解決に向けた活動紹介（ゲスト講師）
9 月 12 日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 12 日 午後	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 13 日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 13 日 午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。
9 月 14 日 午前	成果発表	グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間の作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価（20 %）、最終個人レポートの評価（20 %）、小レポートの評価（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また事前にオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

【到達目標（Learning Objectives）】

To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on group presentation (20 %), term-end report (20 %), and short report (60 %).

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（沖縄）

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：スプリングセッション/Spring Session

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、実習を中心とする2 単位科目である。沖縄大学（那覇市）・名桜大学（名護市）および千代田区内近隣大学の高等教育連携強化コンソーシアム（略称「千代田区キャンパスコンソ」）に参加する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学で受講を希望する学生とともに、沖縄でフィールドワーク（現地調査）を行う。調査は、沖縄本島（と必要に応じて離島）において実施し、歴史・文化を理解し、地域社会の政策課題を考察するとともに、本島と離島の文化・産業の違い等を体感して比較の視点をもって研究を進めることを目指す。

本講の受講を希望する学生には、あわせて「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」の受講を推奨する。双方を受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的視点を獲得することが期待される。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎知識を身につける。そして、現地実習や課題解決型授業によって地域の特性や魅力を理解し、さらに、自ら政策課題を発見して解決策を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は明田川が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。スプリングセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査を実施した後は、グループごとのプレゼンテーションを予定し、最終的には、各受講生が調査実習報告レポートを提出する。

フィードバックについては——上記との重複も含まれるが——フィールドワーク準備段階では事前学習後に、学生の報告と同報告に対する教員の論評というかたちでフィードバックを行う。また、沖縄本島でのフィールドワーク中は毎日の調査終了後および本島全体の調査終了後に、学生の報告と同報告に対する教員の論評というかたちでフィードバックを行う。（離島についても同様。）さらに、沖縄本島（と必要に応じて離島）では、同地の研究者、自治体職員、産業界等からコメンテーターをお招きし、学生の報告に対する講評をいただくというかたちでのフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	授業の進め方および目的を理解する。
①		
第 2 回	オンデマンド事前学習	オンデマンド授業や課題図書を活用し現地調査に必要な知識に関する講義を受講し、課題レポートを提出する。
②		
第 3 回	現地実習（沖縄県内：初日）	・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義を受講する。
③		

- 第 4 回 現地実習（沖縄県内：④⑤ 2 日目）
・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義を受講する。
- 第 5 回 現地実習（沖縄県内：⑥⑦ 3 日目）
・沖縄県内の自治体をフィールドとした現地調査を行う。
- 第 6 回 現地実習（沖縄県内：⑧⑨ 4 日目）
・引き続き沖縄県内の自治体をフィールドとした現地調査を行う。
- 第 7 回 現地実習（沖縄県内：⑩⑪ 5 日目）
・引き続きフィールドワーク
・その後、グループごとに調査結果を取りまとめ、報告の準備をする。
- 第 8 回 現地実習（沖縄県内：⑫⑬ 6 日目）
・グループごとに、沖縄の魅力創出ないし政策課題の解決をテーマとするプレゼンテーションを行う。
- 第 9 回 事後学習 ⑭
・各自調査実習報告レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2 時間ではおそらく不足する。現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題（30%）、現地調査における積極性（20%）や、調査報告レポートの内容（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

本講は、大学内外の多くの方々の協力を得て成立している。

そこで、(1) 各種提出物等の締め切りを厳守すること、(2) ヒアリング先に失礼がないように注意すること。その他、社会常識を守ることに十分留意することが求められる。

なお、本講で得られる他大学の学生等との交流機会を存分に活かしてほしい。

重要なお知らせ（2023 年 2 月 7 日）

新型コロナ禍の状況により、授業の開始日や方法、フィールドワーク地等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、感染拡大防止のための措置について協力をお願いする場合があります。また同様に、授業形態の変更および授業自体の中止をすることがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Okinawa Prefecture. This lecture has been a part of the convective projects between Tokyo and Okinawa supported by Cabinet Office.

【Learning objectives】

The goals of this course are to search for problems local communities of Okinawa face and to suggest solutions to those problems.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Prior research: 30%

Contribution to the field work: 20%

Research report: 50%

POL300AC

外国書講読（仏語） I

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルの読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいきます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながら読んでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら原書の文章を読むようにします。

文章の読解の他に、動詞の活用練習、文章の音読の練習を行います。音読ファイルの提出を課すこともあります。また、語彙数を増やすため、単語の小テストを行います。

課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久松健一編著『データ本位 出る順仏検単語集 5級～2級レベル』駿河台出版社、2006年

* 読解教材に関しては、プリントを配布します。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（単語の小テストはそのうち 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・初級のフランス語の授業（「フランス語 1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】

- ・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
- ・昨年度の春学期は主にヴィクトル・ユゴーの『死刑囚最後の日』（一部）を読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルの読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んできます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながら読んでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら原書の文章を読むようにします。

文章の読解の他に、動詞の活用練習、文章の音読の練習を行います。音読ファイルの提出を課すこともあります。また、語彙数を増やすため、単語の小テストを行います。

課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久松健一編著『データ本位 出る順仏検単語集 5 級～2 級レベル』駿河台出版社、2006 年

* 読解教材に関しては、プリントを配布します。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（単語の小テストはそのうち 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・初級のフランス語の授業（「フランス語 1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】

- ・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
- ・昨年度の秋学期は、アニー・エルノーの小説の抜粋を中心に読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL200AC

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。本年度は、合衆国の政治と社会の特質をいくつかのテーマにわけて考察していきます。

【到達目標】

われわれの目に映る現代のアメリカ合衆国は、どのような経緯を経ていまの姿をとるようになったのかを検討するのが本授業の目的です。合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ史を辿ります。アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での対面授業を行なう予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。受講者は、毎回、質問・コメントなどを HOPPII にアップしてください。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「America」と「United States」
第 2 回	時間 1	新しい社会
第 3 回	時間 2	古典古代の終わり
第 4 回	時間 3	共和主義・ビュウリタニズム・啓蒙主義
第 5 回	空間 1	隔離の論理
第 6 回	空間 2	聖地とフロンティア
第 7 回	空間 3	膨張の論理
第 8 回	人間 1	アメリカ人とはなにか 1 ー入植者と移民
第 9 回	人間 2	アメリカ人とはなにか 2 ー人種・階級・ジェンダー
第 10 回	人間 3	アメリカ人とはなにか 3 ーオバマとトランプ

第 11 回	アメリカニズム 1	統合の論理
第 12 回	アメリカニズム 2	包摂の論理と排除の論理
第 13 回	アメリカニズム 3	世界とアメリカ
第 14 回	時間・空間・人間	それぞれのアメリカを描いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回 4 時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

資料は、コピーして配布するか HOPPII にアップします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (100 %)

Grading will be decided on the term-end examination only.

なお、HOPPII へのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅱとセットになっています。できるだけ、両方の科目とも履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。
本年度は、アメリカ合衆国の政治思潮について考察します。
合衆国についての情報は日本に溢れていますし、合衆国の文化は日本社会に深く広く浸透しています。政治的・軍事的・経済的にも、合衆国は日本と密接な関係にあります。
しかし、合衆国についての理解は深まっていますし、そもそもわかりにくい国だと思えます。
この授業では、合衆国について理解するための一つの補助線として、アメリカ社会の思想（物事の捉え方というくらいの意味で）や行動の特質を考えてみようと思えます。

【到達目標】

合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ理解を深めることをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思えます。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業です。

ただし、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。

オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。

受講者は、毎回、リアクション（質問・コメントなど）を HOPPII にアップしてください。

すぐれたリアクションについては、成績評価において加点します。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リベラリズム 1	・リベラリズムの伝統ーリベラリズムしか知らない社会
第 2 回	リベラリズム 2	・封建制の不在と社会主義の不在 社会民主主義としてのリベラル vs. リベラリズムとしての保守主義
第 3 回	リベラリズム 3	多文化主義とリベラリズムー分離の論理と包摂の論理
第 4 回	デモクラシー 1	代表制ー自治なのか統治なのか アメリカ的な代表観を考える

第 5 回	デモクラシー 2	ポピュリズムー「人民（people）」とはだれなのか
第 6 回	デモクラシー 3	ストリート・デモクラシーー直接民主政の伝統
第 7 回	アメリカ的キリスト教 1	丘の上の町ーアメリカ例外主義
第 8 回	アメリカ的キリスト教 2	市民宗教ー統合の論理
第 9 回	アメリカ的キリスト教 3	信仰復興運動ー改革の思想
第 10 回	多文化主義 1	多様性の論理
第 11 回	多文化主義 2	共通の価値の解体
第 12 回	反知性主義 1	有用な知識の重視
第 13 回	反知性主義 2	知性への不信心
第 14 回	理念の共和国	アメリカとはなにか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示しますので、それを読むようにしてください。

とりわけ、教科書は、読んでいることを前提にして授業しますので、授業中にはその内容について触れない場合もあります。ですから、教科書は必読です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中適宜紹介します。

資料は、コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100%）

Grading will be decided on the term-end examination only.

リアクションが優れていれば、成績評価において加味します。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

American Political and Social Thought.

POL200AC

協同組合論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。一人ひとりが尊重され、生き生きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で 2020 年 12 月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えます。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か—協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心とした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問について、講義時間等に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	①ガイダンス ②「もう一つの世界は可能か—非営利セクターと生協	①本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ②公共政策にとって、政府セクター、営利セクターと違った、非営利セクターの役割を俯瞰し、現代生協の一つとしての生活クラブ運動の普遍的価値について触れます。今年、施行となる労働者協同組合法を含めた状況についても論じます。全 14 回の講座の道しるべとします。
第 02 回	世界の協同組合から考える—協同組合法制の変遷と課題	世界を見渡すと、協同組合を「憲法」に位置づけている国もあります。社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法や労働者協同組合法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	東京の生協と生活クラブ（消費材と共同購入）	東京の生協全体の状況を把握します。日本全体の協同組合や生協の現況に触れつつ、焦点としては、東京の生協の歴史、そしてその特徴を、街で走る「生協車両」の姿など、学生にとっても、身近な事例と結び付けて、論じます。その上で、生活クラブ生協の事業と運動の取組みを、具体的な食品問題（添加物、農薬、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。以降の講座で生活クラブを理解する上で、前提となる「考え方」を伝える講座となる予定です。
第 04 回	若者と協同組合—韓国の事例から	韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、現在の分析につなげていきます。韓国において「制度」が整備されることによって、「運動」が拡大していく条件を学びます。
第 05 回	地域づくりを描く協同組合	地域協議会の活動と働く人たちがつくる協同組合であるワーカーズ・コレクティブの理念と様々な事業分野に展開する実践および課題について学びます。ワーカーズ運動は、生活クラブ運動の中から生まれた経過を踏まえ、地域において<労働>が位置付けられるべきか議論します。一方、本年、労働者協同組合法が施行となる状況は、運動の新しい課題をもたらすものと考えます。
第 06 回	市民によるエネルギー自給の可能性を探る—エネルギーの共同購入	気候危機が世界的な課題となっています。しかし、日本の施策は、大幅に遅れているといっても過言ではありません。相変わらず、「電力業界」という古い世界が、「新電力」の壁となっており、問題が山積みです。こうした状況の背景を学びながら、地域と結びつきながら、再生可能エネルギーの推進をすすめる生活クラブのエネルギー自給の取り組みの背景と課題を研究者の立場から論じます。

第07回	コミュニティの未来を担うディーセントな働き方を求めて	人々が大事にされる働き方(ディーセントワーク)によってこそ、私たちの生きる基盤を支え、充実させていくことが可能となります。しかしながら、現代社会はディーセントな働き方が実現しにくい仕組みになっています。この仕組みに「挑戦」していくためには、どんな思想、実践が手掛かりになるのでしょうか。それを考え合うことが本講義の目的です。	第14回	市民による公共政策実現のプロセス～地域政策づくり/全体とのまとめ	講座全体の総合的な視点として、「政治」を講座の中心に置きます。運動グループの政治運動の全体と、条例提案や地域の実践という運動とリスク評価という点でも、視点をひろげながら課題を共有します。政策的課題の事例を踏まえつつ、最終的には、公共性政策という課題を展望します。
第08回	市民参加で都市農業を守る	生活クラブは、都市農業の育成と強化を柱としてきました。2016年度から開始した、生活クラブ農園・あきるの野の実践の意義と実践および政策的課題を共有します。	【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】		予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
第09回	市民金融によるコミュニティ・エンパワメント	協同組合運動にとって、「金融」とは不可欠な歴史があります。お金に意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取組みを紹介します	【テキスト(教科書)】		教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。
第10回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きいものがあります。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をととした生活提案やまちづくりを学びます。飲み物などの実験を行い、学生が体感することで理解を深めます。	【参考書】		適宜、案内します。
第11回	協同組合と子育て支援事業	子育て支援事業は、大都市部において、そのニーズは減っていません。しかし、政府政策は、その点で十分な措置をとっていません。このためこの事業の財政運営は、厳しいものがあります。このような状況の中で、生協事業の多様な世代への展開という点でも、この事業は不可欠となっていますが、その生活クラブの「子育て支援」の特徴を、「制度」や「地域的課題」と結びつけて、考えていきます。	【成績評価の方法と基準】		各講義時の小レポートによる評価の合計：各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。 ・小レポートの評価は下記とする。 A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。 B：適切な分量(リアクションペーパーの7割以上)を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。 C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。 D：未記入 なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。
第12回	生活クラブと居場所づくり	生活クラブが「個人化」時代の中で、「地域」にどうアプローチしていくのか、防災や減災という課題を関係づけながら、課題を共有します。とりわけて「居場所づくり」と結びついた、生活クラブの福祉事業についても言及します。地域の具体的な問題解決の活動事例を学びます。	【学生の意見等からの気づき】		学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。
第13回	地域づくりを描く協同組合と非営利セクター	協同組合や社会的連帯経済の世界的動向を踏まえつつ、ワーカーズ・コレクティブの理念と様々な事業分野に展開する実践を一方でグローバルな非営利セクターの視点で位置づけるとともに、地域の課題に引き付けて学びます。とくに、地域で、障がいがあってもなくてもともに働くワーカーズ運動に焦点を当てます。	【学生が準備すべき機器他】		講師によって、パワーポイント、映像を活用します。
			【Outline (in English)】		【授業の概要 (Course outline)】 This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects. 【到達目標 (Learning Objectives)】 By the end of the course, students should be able to do the followings: A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world. B.Recognizing the contemporary problems of urban space C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors. 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Your required study time is at least two hours for each class meeting. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Grading will be decided based on reports at each class.

POL300AC

政治学特殊講義 I (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：今年度前期は昨年度にひきつづき明治時代の思想家・中江兆民が翻訳した哲学史論『理学沿革史』（原著はアルフレッド・フィエ『哲学の歴史』(Alfred Fouillée, Histoire de la Philosophie))の後半部分の読解を通じて日本の思想家がどのように西洋の近代思想を受容し、どのような政治を目指したのかを検討する。

授業の目的：近代日本が受け入れてきた西洋思想の概要と、西洋の思想を受け入れる前提となった日本の伝統思想について学び、哲学的・政治的概念についての認識を深める。

【到達目標】

- ・西洋思想が近代日本に及ぼした影響についての理解を深める。
- ・日本や東アジアの伝統的な思想についての理解を深める。
- ・文章を批判的に読む方法を習得する。
- ・歴史的な文章に実際に触れることで史料読解能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、『理学沿革史』の PDF ファイルとフランス語原文および参考のための試訳を配布しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくことにより深い理解につながるでしょう (もちろんフランス語読解能力は必須ではありません)。
- ・希望があればテキスト (『理学沿革史』) の内容について受講者による口頭報告を実施します。
- ・原則として対面授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況しだいでは Zoom リアルタイム授業に切り替える場合があります。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
- ・レポート課題はやや早めに提出し、最終日に講評を行う予定です (受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と『理学沿革史』前半部分の概略	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。 ・『理学沿革史』「叙論」の前半部分の概略
第 2 回	スピノザ	『理学沿革史』第三編第四章の内容を読み解き、スピノザの思想についての記述を検討する。
第 3 回	ライプニッツ	『理学沿革史』第三編第五章の内容を読み解き、ライプニッツの思想についての記述を検討する。
第 4 回	ロック、パークリ、ヒューム	『理学沿革史』第四編第六章前半部分の内容を読み解き、イギリス経験論についての記述を検討する。
第 5 回	スミス、ベンサム、スコットランド学派	『理学沿革史』第四編 第六章前半部分の内容を読み解き、スコットランド啓蒙や功利主義についての記述を検討する。

第 6 回	十八世紀フランス哲学 (1)(コンデイヤック、ディドロ、ドルバック、ヴォルテール、ルソー)	『理学沿革史』第四編 第七章前半部分の内容を読み解き、フランス十八世紀の哲学についての記述を検討する。
第 7 回	十八世紀フランス哲学 (2)(エルヴェシウス、モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、テュルゴー、コンドルセ)	『理学沿革史』第四編 第七章後半部分の内容を読み解き、フランス十八世紀の政治思想についての記述を検討する。
第 8 回	カント	『理学沿革史』第四編 第八章の内容を読み解き、カントについての記述を検討する。
第 9 回	十九世紀フランス哲学 (1)(メヌ・ド・ピラン、クーザン)	『理学沿革史』第四編 第九章前半の内容を読み解き、フランス十九世紀哲学についての記述を検討する。
第 10 回	十九世紀フランス哲学 (2)(オーギュスト・コント、社会主義)	『理学沿革史』第四編 第九章後半の内容を読み解き、フランスの実証主義や社会主義についての記述を検討する。
第 11 回	フィヒテ、シェリング	『理学沿革史』第四編 第十章前半の内容を読み解き、フィヒテやシェリングについての記述を検討する。
第 12 回	ヘーゲル、ショーペンハウアー	『理学沿革史』第四編 第十章後半の内容を読み解き、ヘーゲルやショーペンハウアーについての記述を検討する。
第 13 回	J.S. ミル、スペンサー	『理学沿革史』第四編 第十一章の内容を読み解き、十九世紀イギリス思想についての記述を検討する。
第 14 回	まとめとレポート講評	これまでの内容のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指定・配布する史料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。レジュメ・史資料類は Hoppii 等を通じて配布します。

【参考書】

- ・『中江兆民全集』第 4 巻～第 6 巻 (岩波書店、1984 ～ 1985 年)
- ・宮村治雄『理学者 兆民』(みすず書房、1989 年)
- ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書、2003 年)
- ・和田博文・山辺春彦編『近現代日本思想史「知」の巨人 100 人の 200 冊』(平凡社新書、2023 年)

【成績評価の方法と基準】

レポート (60%)、リアクションペーパー・授業内発言 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし (教育活動レベルによって web 接続が可能な PC が必要となります)。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史 I および日本政治思想史 I・II の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This year, we will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for by reading "History of Philosophy" (originally written by Alfred Fouillée, *Histoire de la Philosophie*) translated by Chomin Nakae, a thinker of the Meiji era. We will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for.

The purpose of the course is to learn the outline of Western thought that modern Japan has embraced, and the traditional Japanese thought that was the premise for embracing Western thought and to deepen our awareness of philosophical and political concepts.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ(近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：今年度後期は明治時代の思想家・中江兆民が翻訳した道徳論『道徳学大原論』(原著はショーペンハウアー『倫理学の二つの根本問題』)の読解を通じて日本の思想家がどのように西洋の思想を受容し、どのような政治を目指したのかを検討する。

授業の目的：近代日本が受け入れてきた西洋思想の概要と、西洋の思想を受け入れる前提となった日本の伝統思想について学び、哲学的・政治的概念についての認識を深める。

【到達目標】

- ・西洋思想が近代日本に及ぼした影響についての理解を深める。
- ・日本や東アジアの伝統的な思想についての理解を深める。
- ・文章を批判的に読む方法を習得する。
- ・歴史的な文章に実際に触れることで史料読解能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、『道徳学大原論』の PDF ファイルを配布しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくことより深い理解につながるでしょう(もちろんフランス語読解能力は必須ではありません)。
- ・希望があればテキストの内容について受講者による口頭報告を実施します。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
- ・レポート課題はやや早めに出題し、最終日に講評を行う予定です(受講者数によっては全員のレポートに言及できないことがあります)。
- ・原則として対面授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況しだいでは Zoom リアルタイム授業に切り替える場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第 2 回	第一章 諸論	『道徳学大原論』第一章の記述を検討する。
第 3 回	第二章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(1)	『道徳学大原論』第二章第三節・第四節の記述を検討する。
第 4 回	第二章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(2)	『道徳学大原論』第二章第五節・第六節の記述を検討する。
第 5 回	第三章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(3)	『道徳学大原論』第三章第七節・第八節の記述を検討する。
第 6 回	第四章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(4)	『道徳学大原論』第四章第九節～第十一節の記述を検討する。
第 7 回	第五章 道徳の樹立(1)	『道徳学大原論』第五章第十二節～第十四節の記述を検討する。
第 8 回	第五章 道徳の樹立(2)	『道徳学大原論』第五章第十五節・第十六節の記述を検討する。

第 9 回	第五章 道徳の樹立(3)	『道徳学大原論』第五章第十七節・第十八節の記述を検討する。
第 10 回	第五章 道徳の樹立(4)	『道徳学大原論』第五章第十七節・第十八節の記述を検討する。
第 11 回	第五章 道徳の樹立(5)	『道徳学大原論』第五章第十九節・第二十節の記述を検討する。
第 12 回	第六章 道徳の本原に係る庶物原理学上の解釈	『道徳学大原論』第五章第二十一節・第二十二節の記述を検討する。
第 13 回	中江兆民の思想におけるショーペンハウアー倫理学の意義	『道徳学大原論』の読解全体を通して中江兆民の思想のなかでショーペンハウアーの思想はどのような位置付けであったかを検討する。
第 14 回	まとめとレポート講評	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業で指定・配布する史料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
- ・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に 3 時間、復習に 1 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】

- ・『中江兆民全集』第 9 巻(岩波書店、1984 年)
- ・『ショーペンハウアー全集 9：倫理学の二つの根本問題』(白水社、2016 年)
- ・宮村治雄『理学者 兆民』(みすず書房、1989 年)
- ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書、2003 年)
- ・和田博文・山辺春彦編『近現代日本思想史「知」の巨人 100 人の 200 冊』(平凡社新書、2023 年)

【成績評価の方法と基準】

レポート(60%)、リアクションペーパー・授業内発言(40%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし(教育活動レベルによって web 接続が可能な PC が必要となります)。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史Ⅱおよび日本政治思想史Ⅰ・Ⅱの事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This year, we will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for by reading "Doutokugaku Daigenron" (originally written by Arthur Schopenhauer, Die beiden Grundprobleme der Ethik) translated by Chomin Nakae, a thinker of the Meiji era. We will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for. The purpose of the course is to learn the outline of Western thought that modern Japan has embraced, and the traditional Japanese thought that was the premise for embracing Western thought and to deepen our awareness of philosophical and political concepts.

PHL200BB

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しく論証を組み立て、間違った議論を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、現代論理学のシステムを実際の議論に応用することは必ずしも容易ではない。科学哲学 1 では、直観的な理解が容易で、議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」の技法を習得し、論理的な議論を組み立て反論するための技法に熟達することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた論証の妥当性の判定や証明のテクニックに習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、練習問題の解答および解説によって進める。
 授業の冒頭で、前回の練習問題の解答と解説、誤りやすい点の指摘等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と言語	論理の目的
第 2 回	命題論理とタブロー法 (その 1)	命題論理と記号言語
第 3 回	命題論理とタブロー法 (その 2)	記号化のポイント
第 4 回	命題論理とタブロー法 (その 3)	タブロー法と推理規則
第 5 回	命題論理とタブロー法 (その 4)	タブロー法による妥当性の判定
第 6 回	命題論理とタブロー法 (その 5)	タブロー法の補助規則
第 7 回	命題論理とタブロー法 (その 6)	中間テストと解説
第 8 回	述語論理とタブロー法 (その 1)	述語論理とは何か
第 9 回	述語論理とタブロー法 (その 2)	記号化とモデル
第 10 回	述語論理とタブロー法 (その 3)	述語タブロー
第 11 回	述語論理とタブロー法 (その 4)	述語タブローと論証の妥当性
第 12 回	述語論理とタブロー法 (その 5)	タブローも用いた証明の方法
第 13 回	述語論理とタブロー法 (その 6)	述語論理の完全性
第 14 回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を整理し、課題として出される練習問題を解く。
 論理学の参考文献を自分で読み進める。
 本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfrid Hodges, Logic (penguin books)
 リチャードジェフリー 「形式的論理学」(産業図書)
 中釜他「論理学の初歩」(粹出版)

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 40 %
 中間試験 30 %
 期末の試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 は科学哲学 1 の発展なので科学哲学 1 と合わせて年間受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the first order logic by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the day's content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

PHL200BB

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相の概念（必然、偶然、可能、不可能）は、言語の意味理解、原因結果の概念、責任や義務の分析等々、現代の重要な諸問題を展開する上で必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 K、T、S4、S5 への展開を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とした上で、タブローの方法の様相論理の体系 K、T、S4、S5への拡張してその技法に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および練習問題とその解説によって進める。
各回の授業の冒頭で課題の解答と解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タブロー法に関する復習	タブロー法のポイント
第2回	様相とは何か (その1)	様相概念の説明
第3回	様相とは何か (その2)	可能世界の概念
第4回	体系 K (その1)	K の説明
第5回	体系 K (その2)	K タブロー
第6回	体系 K (その3)	K タブローによる証明
第7回	中間まとめ	中間テストと解説
第8回	体系 T (その1)	K と T の違い
第9回	体系 T (その2)	T タブローと証明
第10回	体系 S4 (その1)	S4 の説明
第11回	体系 S4 (その2)	S4 タブローと証明
第12回	体系 S5 (その1)	S5 の説明
第13回	体系 S5 (その2)	S5 タブローと証明
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノートを整理し、練習問題を解く。
論理学の参考文献を読み進める。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜浩一「論理学の初歩」（粹出版）Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：40 %
中間試験：30 %
期末の試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくか、参考文献によってタブロー法に習熟しておくこと。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some systems of modal logic by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想） 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期エマニュエル・レヴィナスの著『全体性と無限』を講読する。レヴィナスは、独自の現象学によって、西洋哲学を規定している「全体性」への傾倒を批判し、そこに包摂されない「無限」を思考しようとした。現代他者論の金字塔であるこの難書をあらためて丁寧に読み直し、レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深めることが本授業の目的である。

【到達目標】

- レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深め、一定程度の水準で哲学的に考察できるようになる。
- レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
- 各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備し、授業内でディスカッションに使用する。
- 授業後はリアクションペーパーを提出、教員が次回授業でコメントする。
- 発表担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要説明
第2回	形而上学と超越について	第1部 A-1,2 の講読
第3回	全体性について	第1部 A-3,4 の講読
第4回	形而上学と存在論	第1部 A-4,5 の講読
第5回	無神論について	第1部 B-1,2 の講読
第6回	語りと真理	第1部 B-3,4,5 の講読
第7回	形而上学と人間性	第1部 B-6,7 の講読
第8回	レヴィナスにおける自由	第1部 C-1,2 の講読
第9回	真理と正義の関係	第1部 C-3,4 の講読
第10回	絶対的なものについて	第1部 D の講読
第11回	現象学と志向性	第2部 A-1,2 の講読
第12回	私と身体の関係	第2部 A-3,6 の講読
第13回	表象化する作用について	第2部 B-1,2,3 の講読
第14回	始原的なものをめぐって	第2部 B-4,5 の講読と今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』（上・下）熊野純彦訳、岩波文庫、2006年

【参考書】

エマニュエル・レヴィナス『実存から実存者へ』（西谷修訳、ちくま学芸文庫、2005年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The course is an introduction for Emmanuel Levinas's major work, "Wholeness and Infinity". Through his unique phenomenology, Levinas criticized the inclination toward "Totality" that defines profoundly Western traditional philosophy, and tried to think about "Infinity" that is not encompassed by it. The purpose of this course is to reread this difficult book, a milestone in the modern theory of "Other", and to deepen our understanding of such basic concepts as other, identity, finitude, subject, and transcendence.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き、エマニュエル・レヴィナスの名著『全体性と無限』を講読する。レヴィナスは、独自の現象学によって、西洋哲学を規定している「全体性」への傾倒を批判し、そこに包摂されない「無限」を思考しようとした。現代他者論の金字塔であるこの難書をあらためて丁寧に読み直し、レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深めることが本授業の目的である。

【到達目標】

・レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深め、一定程度の水準で哲学的に考察できるようになる。
・レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備し、授業内でディスカッションに使用する。
・授業後はリアクションペーパーを提出、教員が次回授業でコメントする。
・発表担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要説明
第2回	自存性と依存性	第2部 C の講読
第3回	「住うこと」について	第2部 D 前半の講読
第4回	所有、労働、身体について	第2部 D 後半の講読
第5回	他者とエコノミー	第2部 E の講読
第6回	レヴィナスの「顔」	第3部 A の講読
第7回	顔の倫理学	第3部 B-前半の講読
第8回	言葉と他者	第3部 B-後半の講読
第9回	愛の問題	第4部 A の講読
第10回	エロスの現象学	第4部 B の講読
第11回	エロスと主体性	第4部 C,D の講読
第12回	超越性と水平性	第4部 E,F,G の講読
第13回	有限なもの無限なもの	結論前半の講読
第14回	「存在の彼方」について	結論後半の講読と、今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』（上・下）熊野純彦訳、岩波文庫、2006年

【参考書】

エマニュエル・レヴィナス『実存から実存者へ』（西谷修訳、ちくま学芸文庫、2005年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The course is an introduction for Emmanuel Levinas's major work, "Wholeness and Infinity". Through his unique phenomenology, Levinas criticized the inclination toward "Totality" that defines profoundly Western traditional philosophy, and tried to think about "Infinity" that is not encompassed by it. The purpose of this course is to reread this difficult book, a milestone in the modern theory of "Other", and to deepen our understanding of such basic concepts as other, identity, finitude, subject, and transcendence.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

PHL200BB

宗教学 1（伝統宗教） 1**松本 力**

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii 上での「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの答えた解答に対して個別にコメントすることはありませんが、次回授業開始時までに「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第 2 回	仏教①	仏陀について
第 3 回	仏教②	仏陀の教えについて
第 4 回	仏教③	仏教が目指したもの
第 5 回	キリスト教①	旧約聖書について
第 6 回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第 7 回	キリスト教③	キリスト教の神について
第 8 回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第 9 回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第 10 回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第 11 回	イスラーム①	ムハンマドについて
第 12 回	イスラーム②	クルアーンについて
第 13 回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第 14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各 2 時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島菌進『宗教学の名著 30』、ちくま新書。
 渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。
 エルンスト・ベンツ『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。
 小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30 %）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70 %）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】**Course outline**

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB

宗教学 1（伝統宗教） 2

松本 力

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii 上の「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんが答えた解答に対して個別にコメントすることはしませんが、次回授業開始時まで「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第 2 回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第 3 回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとつてのキリスト教について。
第 4 回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第 5 回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第 6 回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第 7 回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第 8 回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第 9 回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第 10 回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第 11 回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第 12 回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第 13 回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第 14 回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島藺進『宗教学の名著 30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』、岩波文庫。
ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30 %）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70 %）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PHL200BB

日本思想史 1

西塚 俊太

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び、怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握することを目的とする。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週に提出されたレポートからいくつかを取り上げ講評し、課題のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自然」についての考察
第 3 回	別離の思想史的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第 4 回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する思想史的考察
第 5 回	日本思想史における「仏教」	仏教の受容と日本化の過程についての検討
第 6 回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想のあり方について
第 7 回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体何であるのか
第 8 回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方についての検討
第 9 回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思い切ること」の意義の考察
第 10 回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方について
第 11 回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と国際化との関係を考察する
第 12 回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と「道」の思想の確認と検討
第 13 回	「愛」と「粹」	「愛すること」の中に見る思想のあり方の考察
第 14 回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
 また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
 本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45%）と、学期末試験（55%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※ hoppi を毎週（出来る限り毎日）確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL200BB

日本思想史 2

西塚 俊太

授業コード：A2261 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史1」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史の原典を読むことの意義	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と神話世界①	『古事記』に表現されている世界像について
第 3 回	日本思想と神話世界②	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第 4 回	近世世界における神話の受容と変容	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第 5 回	近代的な「記紀神話」読解	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第 6 回	厭離穢土と欣求浄土	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第 7 回	『歎異抄』の思想①	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第 8 回	『歎異抄』の思想②	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第 9 回	王朝文化とは何か	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第 10 回	『曾我物語』の思想①	武士社会の形成の原像についての検討
第 11 回	『曾我物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第 12 回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変容を検討する
第 13 回	『三河物語』の思想②	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
第 14 回	『葉隠』の思想	『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。

また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（42%）と、学期末レポート（58%）によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。講義後に直接質問するだけではなく、Hoppii の掲示板機能などを通じて行うことも可能である。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※毎週（出来る限り毎日）hoppii を確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理想論究 第 2 号』、2014）

② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）

③ 「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理学紀要 第 24 輯』、2017）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 42%, term-end reports 58%.

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題 1,2 の解説 第3課～第5課の説明 引用句 1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題 3,5,7 の解説 第6課～第8課の説明 引用句 2,3	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題 9,11,13 の解説 第9課～第11課の説明 引用句 4,5	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第5回	練習問題 15,17,19 の解説 第12課～第14課の説明 引用句 6,7	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化 i 音幹名詞
第6回	練習問題 21,23,25 の解説 第15課～第17課の説明 引用句 8,9	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題 27,29,31 の解説 第18課・第19課の説明 引用句 10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題 33,35 の解説 第20課・第21課の説明 引用句 11,12	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題 37,39 の解説 第22課・第23課の説明 引用句 13,14	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題 41,43 の解説 第24課・第25課の説明 引用句 15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,malo の変化
第11回	練習問題 45,47 の解説 第26課・第27課の説明 引用句 16	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio, fero の変化
第12回	練習問題 49,51 の解説 第28課・第29課の説明 引用句 17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題 53,55 の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでもみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分（または1課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明 引用句 19,20	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 の解説 第32課・第33課の説明 引用句 21	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 の解説 第34課・第35課の説明 引用句 22,23	事実に反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 の解説 第36課・第37課の説明 引用句 24	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 の解説 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 の解説 第40課・第41課の説明 文例 1	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞 バエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題 77,79 の解説 第42課・第43課の説明 引用句 25,26 文例 2	奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級 バエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
第8回	練習問題 81,83 の解説 第44課・第45課の説明	形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題 85,87 の解説 第46課・第47課の説明 引用句 27	動名詞 動形容詞
第10回	練習問題 89,91 の解説 第48課の説明 文例 3 文例 4	動名詞の代わりに用いられる動形容詞 カエサル『ガリア戦記』を読む。 キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題 93,95 の解説 第49課・第50課の説明 引用句 28	命令法 能動相欠如動詞の命令法、主文における接続法
第12回	練習問題 97,99 の解説 第51課の説明 引用句 29 文例 5	目的分詞 デカルト『省察』を読む。
第13回	文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んでも理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第 2 回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第 3 回	動詞、名詞変化 1	3. 動詞現在形
第 4 回	動詞、名詞変化 2	4. 名詞 A 変化 1
第 5 回	動詞、名詞変化 3	5. 名詞 A 変化 2
第 6 回	動詞、名詞変化 4	6. 動詞未来形
第 7 回	形容詞変化と前置詞	7. 名詞 A 変化 3
第 8 回	動詞変化 5	8. 名詞 A 変化 4
第 9 回	指示代名詞・強意代名詞、人称語尾 1	9. 動詞、未完了過去
第 10 回	人称語尾 2、動詞変化 6(mi 動詞)	10. 名詞 O 変化
第 11 回	疑問代名詞・不定代名詞、動詞変化 7	11. 形容詞変化（第一・第二変化）
第 12 回	人称代名詞、動詞変化 8	12. 前置詞
		13. 動詞アオリスト
		14. 動詞完了形
		15. 指示代名詞、強意代名詞
		16. 本時称の人称語尾
		17. 副時称の人称語尾 18.mi 動詞
		19. 疑問代名詞、不定代名詞
		20. 動詞中動相
		21. 人称代名詞
		22. 動詞中動相 2

第 13 回	再帰代名詞、動詞変化 9	23. 再帰代名詞その他
		24. 動詞第 2 アオリスト
第 14 回	動詞変化 10 受動形、名詞変化 5 第三変化	25. 動詞受動形
		26. 第三変化の名詞 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following. Usual performance score : 30% , Submit assignment : 70%.

LIN200BB

ギリシア語2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようにすることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてももらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第 2 回	約音動詞と第三変化の名詞 2	27. 約音動詞 1 28. 第三変化の名詞 2
第 3 回	約音動詞 2、動詞中動相	29. 約音動詞 2 30. 動詞完了形 2、中動相
第 4 回	第三変化の形容詞、流音幹動詞	31. 第三変化の形容詞 1 32. 流音幹動詞
第 5 回	第三変化の名詞、動詞接続法	33. 第三変化の名詞 3 34. 動詞接続法
第 6 回	動詞接続法、母音交替	35. 接続法中・受動 36. 母音交替
第 7 回	条件文、約音動詞	37. 条件文 38. 約音動詞
第 8 回	不定法 1,2	39. 不定法 1 40. 不定法 2
第 9 回	第三変化の名詞 4、関係代名詞	41. 第三変化の名詞 4 42. 関係代名詞
第 10 回	動詞希求法 1,2	43. 動詞希求法 44. 動詞希求法 2
第 11 回	第三変化の形用詞、約音動詞希求法	45. 第三変化の形容詞 2 46. 約音動詞の希求法
第 12 回	第三変化の名詞、分詞	47. 第三変化の名詞 5 48. 分詞 1

第 13 回	分詞、第三変化の名詞	49. 分詞 2 50. 第三変化の名詞 6
第 14 回	分詞 3、形容詞の比較、まとめ	51. 分詞 3 52. 形容詞の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、練習問題の解答のための学習時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しらしい。オンラインの場合は制約もあるが、むしろ、じっくり取り組めたと思う。基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船と一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following, Usual performance score : 30% , Submit assignment : 70%.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第 2 回	批評とは何か	その特徴について
第 3 回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第 4 回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第 5 回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第 6 回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第 7 回	高山樗牛	彼の作品の若者への影響について
第 8 回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第 9 回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第 10 回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第 11 回	言文一致運動	その過程の論争
第 12 回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第 13 回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第 14 回	大逆事件	石川啄木の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC

日本文芸批評史 B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大正・昭和期の文学の概説	20 世紀の欧米文学との比較
第 2 回	夏目漱石の批評	文明批評について
第 3 回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第 4 回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第 5 回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第 6 回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第 7 回	プロレタリア文学と新感覺派	関東大震災後の新たな潮流
第 8 回	小林秀雄の登場	日本における近代文芸批評の確立
第 9 回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第 10 回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第 11 回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第 12 回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第 13 回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第 14 回	ポストモダンとニューアカデミズム	柄谷行人の批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第 2 回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第 3 回	詩経	中国最古の歌謡集である「詩経」の歌謡を読む
第 4 回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第 5 回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第 6 回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第 7 回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第 8 回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第 9 回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第 10 回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第 11 回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 12 回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第 13 回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第 14 回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読み解くことを通じて、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読み解いたり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第 2 回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第 3 回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第 4 回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第 5 回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第 6 回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第 7 回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第 8 回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説についての概説
第 9 回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第 10 回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第 11 回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第 12 回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第 13 回	唐代古文運動	中唐に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第 14 回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隱の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
 ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005 年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
 B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
 C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を考察し、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	配列の問題について
第4回	『百人一首』の謎	藤原定家について
第5回	『百人一首』の謎	和歌史の流れ
第6回	『百人一首』講読	二条派の歌人について
第7回	『百人一首』講読	天皇の和歌について
第8回	『百人一首』講読	歌合での和歌について
第9回	『百人一首』講読	40「しのぶれど」歌・41「こひすてふ」歌について
第10回	『百人一首』講読	題詠について
第11回	『百人一首』講読	女流歌人の和歌について
第12回	『百人一首』解説	89「たまのをよ」歌
第13回	『百人一首』解説	男歌・女歌について
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）

角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）

その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、また、中世・近世で『百人一首』がどのように享受されていたかについて検討し、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』講読	成立について
第3回	『百人一首』講読	中世・近世の古注釈について
第4回	『百人一首』講読	六歌仙の和歌について
第5回	『百人一首』講読	8「わがいはは」歌について
第6回	『百人一首』解説	「然ぞ」か「鹿ぞ」か
第7回	『百人一首』解説	9「はなのいろは」歌について
第8回	『百人一首』解説	12「あまつかぜ」歌について
第9回	『百人一首』解説	17「ちはやぶる」歌について
第10回	『百人一首』解説	「括る」か「潜る」か
第11回	『百人一首』解説	22「ふくからに」歌について
第12回	『百人一首』解説	『百人一首』と絵画の関係について
第13回	『百人一首』解説	『百人一首』とカルタ
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（鳥津忠夫、角川学芸出版、1999 年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983 年）
角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010 年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
江戸時代中期、18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。さまざまなジャンルに触れつつ、知識を基盤としてそれと戯れる笑いの技法のさまざまなふまえて実際に作品を読み解くことで、表現技法の多様性とこの時代の文芸の特質を探る。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100 分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第 2 回	時代背景 洒落本①	江戸の遊里事情を知り、作品のさまざまなを読む。
第 3 回	洒落本②	江戸人の美学、「通」の概念を考える。
第 4 回	黄表紙①	赤本、黒本・青本という草双紙を「戯作」化したこのジャンルの基本的な性格を学ぶ。
第 5 回	黄表紙②	一例として『仮名手本忠臣蔵』のパロディ『案内手本通人蔵』を講義する。
第 6 回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第 7 回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、さまざまな作品を読み解く。
第 8 回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第 9 回	滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬の試みについて学ぶ。
第 10 回	滑稽本②	『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む。
第 11 回	合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学ぶ。
第 12 回	合巻②	なかでも『源氏物語』の近世番として著名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の前半を読む。
第 13 回	合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む。
第 14 回	まとめ	この時代の文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクション・ペーパーは終了後 10 分程度かけましょう。期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに 3 回程度の小課題を出します。本授業の準備学習は 30 分・復習時間は平均して 3 時間程度を標準に考えます。成績評価がアップグレード(?) できる任意課題として、「没後 200 年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界」(たばこと塩の博物館・押上 / 4 月 29 日(土)～6 月 25 日(日)) 見学レポートを出します(チケットは配付します)

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』(集英社インターナショナル [インターナショナル新書]、2019)

この時代の文芸についてのまとまった解説があります。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー (Hoppii 40%)、計 4 回の課題の得点 (60%) を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と(予習も含めた)個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください!

【学生が準備すべき機器他】

教室の対面授業をメインとしますが、オンライン(双方向)併用も想定して実施します。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も(スマホでもいいのですが)、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。
図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。(授業内で接続方法は案内します)

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらって各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing comic works from late 18th-century Edo (modern Tokyo) to discover the diversity of literary style, vocabulary and expressions in them.

Learning Objectives: The main goal of this course is to become familiar with each genre of literature of the time, understanding the skills applied in them and the various means of expression they make use of. Students also learn how to utilize digitalized materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. Four short reports are also required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世B

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がり学ぶ。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で4回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男女の悲恋を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を理解する。
第7回	さまざまな「忠臣蔵もの」	「忠臣蔵」から派生した作品の諸相に触れる。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第13回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。

第14回 まとめ 「忠臣蔵もの」「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。
のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。

授業外に提出課題を課すことがある。

本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）

『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）

『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）

その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40%

小課題（×4回）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けないが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura (The Treasury of Loyal Retainers)* and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshingura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 4 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (4): 60%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第2回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在
第3回	日本意識の芽生えと発展	プレゼンテーションの準備 「中華思想」との接触 中世の日本意識
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	プレゼンテーションの準備（続） キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学部、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文学研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化的恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIN100BD

英語学概論 A

椎名 美智

授業コード: A2804 | 曜日・時限: 月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次: 1~4 年

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月11日です。コロナの状況で授業形態(対面かZoom)が変更する場合は、Hoppii での週末までにお知らせします。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。毎週 Hoppii 「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が月曜日4限ですので、必ず、前日までは Hoppii をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までは Hoppii でお知らせします。Hoppii から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
	毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論 (1)	意味論の概説
第8回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論 (1)	文体論の概説
第12回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppii にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppii にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのことばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に Hoppii に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後に Hoppii にアップします。
・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (10%), and attendance (20%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習：母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説：子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 11 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 12 回	英語の歴史 (1)	英語史の概説
第 13 回	英語の歴史 (2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きなからとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 40%
平常点 40%
レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといふより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その 1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、party はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その 1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その 2（統語論）	「5 文型」のアホさ、X-bar Theory
第 8 回	今日の文法理論その 3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その 4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	Without her contributions failed to come in. ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。
 公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

自由記述では、わかりやすかったという声ばかりいただきましたが、わかりにくく感じた人は自由記述を書いていないものと推測します。なので、一部ではなく全体の理解度を上げるべく、一層精進します。また、英文学科以外の学生も履修していることを忘れないように頑張ります。

【その他の重要事項】

この授業は「言語学概論 B」とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.
 (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対して、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です。しかし、新型コロナウイルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」(Zoomを用いたリアルタイム配信形式)に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方向的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。

教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えは必ずしも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立っていきます。

なお、受講者の理解度などに応じて、説明にける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出たら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト/アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。試験形態は定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況などに左右されるため、試験期間が近づいてきたら (A) と (B) のどちらになるかを改めてお知らせします。

2. プラスアルファの加点

上記1の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 一昨年度に本科目を担当した際、リアクションペーパー等による学生からの質問や意見にコメントを十分に返すことができなかつたので、その点を反省し、昨年度はリアクションペーパーへのコメント返しに力を入れ、それが授業改善アンケートにおいて学生から大いに好評でした。ただしその一方で、コメント返しに授業時間を割きすぎて（酷い場合は授業時間の半分近くをコメント返しに費やした回もあった）、授業進捗が大幅に遅れ、その結果シラバスに記載した授業で扱う内容をすべて網羅することができず、それに苦言を呈す意見も授業改善アンケートでいただきました。教員・学生間のインタラクションにより授業内容が変更になったり充実することは悪いことではありませんが（むしろ授業とはそうあるべき）、授業計画を完遂できないこともまた問題ですので、今年度はリアクションペーパーへのコメント返しに関して、取り上げる学生からの質問・意見を厳選する、コメント返しをより簡潔にする等の工夫をして、予定している授業内容の完遂とコメント返しの充実を両立させることを目指していきたいと考えています。

2. 「授業が終了時間ぴったりには終わらず延びることが多く、それにより次の時限の授業に間に合わずに困った」という苦言を授業改善アンケートでいただきました。上記1で記載したように、授業進捗の遅れに焦り、2～3分程度授業時間が延びてしまうことが確かにあったので、今年度は少なくとも授業の終了時間にはきちんと授業を終わらせるように心掛けていこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの方は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

2. 「対面授業」に出席できない受講生 (e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生) は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください (ハイフレックス授業の準備が必要になるため)。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。

3. 本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を2グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

[Outline (in English)]

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:

- (a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.
- (b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.
- (c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of the day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of the day's class before class.

(b) Review

You should get the content of the day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in the day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときは Hoppii で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。

基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までは Hoppii を見てください。

毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ—』（角川新書）

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点（提出物等）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日 4 限です。事前に予約メールをください。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と「役割語」
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

社会言語学

椎名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係について研究する学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第2回	社会言語学の枠組み	社会と言語の関係
第3回	言語と社会の規定関係	言語と社会・文化
第4回	社会言語類型論	言語類型論的観点
第5回	言語間の格差	言語の捉え方
第6回	標準語と方言	言語運用の地域差
第7回	言葉の性差	言葉の中に見える性差
第8回	集団語	集団語の位置付け
第9回	敬語と社会	言語相対性と敬語
第10回	日本語の文字	文字と社会
第11回	談話の規則性	談話モデルとルール
第12回	談話と言語のバリエーション	規則性と創造性
第13回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」
第14回	社会言語学的センス	これまで勉強した事柄の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。この授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上史雄、田邊和子（共編）『社会言語学の枠組み』（くろしお出版）を使うので、各自購入しておいてください。

【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

レポート8割（フィールド・ワーク重視）、平常点2割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【その他の重要事項】

・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学ぶ。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の幅広さを知っていただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったですと思います。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

LIT200BD

比較文学 A

日中 鎮朗

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては Stoffgeschichte（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

さまざまな作品の成立過程を学び、また他の諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に 2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 比較文学とは何か？ 絵画の見方 マリアについて	比較文学・文化の意味と手法
第 2 回	聖書とマリア	マリアについての概説
第 3 回	マリアの絵画 キリスト教の絵画について	受胎告知から聖母へ マリア以外の聖書の絵画
第 4 回	『われら』 『素晴らしい新世界』 『1984』	歴史と未来とそのヴィジョンの関係
第 5 回	『私を離さないで』	未来文学と SF について
第 6 回	ユートピアの意味と文学と女性 『侍女の物語』 『消滅世界』	ユートピアとディストピアの諸相
第 7 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（1）	成立史 デュマの原作との比較 病と文学 ドゥミ・モンド
第 8 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（2）	村上春樹『ノルウェイの森』 エリック・シーガル『ラブ・ストーリー』との比較
第 9 回	ジャポニスムについて 舞台とジャポニスム	ジャポニスムの歴史と作品 フランスにおけるジャポニスム
第 10 回	蝶々夫人（1）	「蝶々夫人」成立史と日本の開国 ビエール・ロチの『お菊さん』との比較
第 11 回	蝶々夫人（2）	ルース・ベネディクト『菊と刀』 恥と日本文化
第 12 回	蝶々夫人（3）	歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』 能『隅田川』との比較
第 13 回	世界文学という考え方	フランコ・モレッティについて
第 14 回	期末試験	春学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 本などで作品を確認したり、オペラであればその見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。
 また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくとよい。興味が第一です。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50%）と期末のテスト（50%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Learning activities outside of classroom】: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIT200BD

比較文学B

日中 鎮朗

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で学んだことを踏まえ、絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては *Stoffgeschichte*（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に 2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	芸術文化の諸ジャンルの比較について
第 2 回	カルメン（1）	成立史 プロスパー・メリメ『カルメン』との比較
第 3 回	カルメン（2）	ファミ・ファタル（1） ホセの人物像
第 4 回	映画『ダメージ』	ファミ・ファタルの諸像
第 5 回	魔笛（1）	『魔笛』の成立史 モーツァルトの生涯
第 6 回	魔笛（2）	フリーメーソンの歴史 松本清張『モーツァルトの伯楽』とシカネーダー
第 7 回	魔笛（3）	グスタフ・クリムトのベートーベン・フリーズ
第 8 回	魔笛（4）	シラー「歓喜に寄せて」 <夜の女王>が象徴するもの <ザラストロ>とは誰/何か？
第 9 回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリスとユートピア
第 10 回	柳宗悦と民芸	民芸運動とモリスの影響
第 11 回	アル・ヌーヴォー	フランスへの影響と美術 ピアズリー
第 12 回	バウハウスと建築	20 世紀の建築と未来都市
第 13 回	現代芸術	21 世紀の美術に向けて
第 14 回	期末試験	秋学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

本などでオペラ作品の見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくとよい。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50%）と期末のテスト（50%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Work to be done outside of class】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年度は、昨年度と同様、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、(2) レポートは 3 作品、3 本とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタンのヒーロー像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのユーモア。アメリカの短篇小説の特徴。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回 感傷小説の伝統

大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。

第 13 回 ホイットマンとディキンソン

詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。

第 14 回 南北戦争その他

19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いのが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思ふ。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておいたら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにアクション・ペーパー (20%)、(2) 3 作品を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むつかしくなりすぎないようにやさしく語り。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード: A2906 | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカ文学の「アメリカンネス」(ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの)とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心できるのか、どんなふうに関心できるのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。

ほぼ毎回ハンドアウト(プリント)を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと(ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書+注釈書として配布)、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サムエル・クレメンズ(マーク・トウェイン)と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点 (point of view) の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲアリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第 12 回 トマス・ピンチオンとジョン・バース

ポスト=モダンな意識とは何か。

第 13 回 アメリカン・ドラマ

演劇とミュージカル。

第 14 回 同時代作家たち

アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史[全 4 巻]』(研究社、2007、2010)

平石貴樹『アメリカ文学史』(松柏社、2010)

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20%)、(2) 作品 3 冊を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用(無断引用)があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期(春学期)の「米文学史 A」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

（これを1年の授業をとっておこないたいので、通年の履修が望まれる）

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第2回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第3回	映画と文学（1）	映画を観る。
第4回	映画と文学（2）	映画を観てから映画を読む。→ novel とは何かの理解へ。
第5回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第6回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性としての novel 性。
第7回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性としての romance 性。
第8回	小説の登場人物について	round character と flat character（E・M・フォースターの『小説の諸相』）
第9回	会話と話法について	学校文法のおさらいから。
第10回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第11回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第12回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第13回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第14回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システム（Hoppii）の「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）

豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）

E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）

英米の文学史（教室でリストを配布する）

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【学生が準備すべき機器他】

ない。ただし、ときどきパソコン等で Hoppii をチェックしてほしい——「教材」に授業のハンドアウトや参考資料を保存するので。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
 - (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
 - (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。
- (これを1年の授業をとっておこないたいの、通年の履修がたいそう望まれる)

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のイントロダクションとして	イントロダクション
第2回	キリスト教と英米文学／シェークスピアと演劇	聖書、コンコルダンス。引用と盗用（剽窃）。エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第3回	アメリカの建国と言語問題——アメリカン・ヴァナキュラー	レポート課題の提示
第4回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19世紀アメリカの短篇小説。
第5回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。オックスフォード英語大辞典と歴史原則。
第6回	注釈について	注釈について。
第7回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第8回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第9回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第10回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第11回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20世紀アメリカの短篇小説。
第12回	視点と話法について——話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第13回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第14回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 10 パーセント

レポート 40 パーセント

期末試験 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

昨年はAの課題が長文だったのでBの課題をなくしたが、Aをとっていない人も多くて反省した——Bでも課題レポートを設定する。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がこころから望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (10%)
- 2) A couple of papers ("reports") (40%)
- 2) End-of-term examination (50%)

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。帝国主義、進化論、マルクス主義、フェミニズム、ポストヒューマニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。作品を原作とする映画を確認し、具体的イメージを膨らませるとともに、原作との違いから生まれる解釈の差異などを考える。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

・ユートピアというテーマとの関係で英文学を概観できる
・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する
・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパー（小レポート）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ユートピアとは何か、ユートピア文学史概観
第2回	16, 17 世紀	More, <i>Utopia</i> など
第3回	18 世紀	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第4回	19 世紀 (1)	Shelley, <i>Frankenstein</i> など
第5回	19 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第6回	19 世紀 (3)	Wells, <i>The Time Machine</i> など
第7回	20 世紀前半 (1)	Huxley, <i>Brave New World</i> など
第8回	20 世紀前半 (2)	Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> など
第9回	20 世紀前半 (3)	映画の鑑賞と議論
第10回	20 世紀後半 (1)	Le Guin, <i>The Dispossessed</i> など
第11回	20 世紀後半 (2)	Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> など
第12回	21 世紀 (1)	Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> など
第13回	21 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第14回	期末試験とまとめ	今学期の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された文献（作品の抜粋など）を読むこと、定期的に出される課題（小レポート）を提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自分で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・授業で扱う文学作品

・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013 年

・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993 年

・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.

・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパー（小レポート）などの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%

・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret English utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as imperialism, Darwinism, Marxism, feminism and posthumanism. This course also refers to films based on utopian literature. The goals of this course are to survey the history of English utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ（1）	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の"I"と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ（2）	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Formとは
第7回	翻訳ワークショップ（3）	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voiceとは
第9回	翻訳ワークショップ（4）	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ（5）	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ（6）	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度50%（リアクションペーパー、翻訳など）

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については **Hoppi** で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第 3 回	品詞	英語の品詞について
第 4 回	英語の文型	5 文型の分析
第 5 回	自動詞と他動詞	他動性について
第 6 回	意味役割	意味役割とは何か
第 7 回	テンス（1）	現在時制
第 8 回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第 9 回	アスペクト（1）	進行相
第 10 回	アスペクト（2）	完了相
第 11 回	態	受動態
第 12 回	モダリティ（1）	法助動詞
第 13 回	モダリティ（2）	準助動詞
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村田勇三郎・成田圭市 『英語の文法』（大修館）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語学講義 B の授業では、認知言語学や代表的な構文についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	日英語比較	事態把握
第 3 回	認知言語学 (1)	メタファー
第 4 回	認知言語学 (2)	メトニミーとシネドキシ
第 5 回	認知言語学 (3)	文法化
第 6 回	談話標識	談話標識の分析
第 7 回	不定詞 (1)	不定詞節
第 8 回	不定詞 (2)	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第 9 回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第 10 回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴
第 12 回	二重目的語構文	与格交替について
第 13 回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウトを配布する。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

LIN200BD

言語学講義 I A / 言語と論理 1 (言語学講義 I) A

石川 潔

授業コード：A2913, A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

音声知覚や単語の聞き取りに関する心理言語学の入門

【到達目標】

- ・人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得
- ・言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、グループ・ディスカッションを行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です(フィードバック方法は内容/分量によります)。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	<i>Olympic</i> って、「オリンピック」と「オリンピック」の、どっちが正しい?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その1)
第 3 回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その2)
第 4 回	「しおり」は可愛い……のかな? 比較対象は?	実験と統計分析の必要性: 統制条件、仮説と予測
第 5 回	英語の L と R、聞き分けられる?	母語の音韻体系に依存した音声知覚(その1): 注目する音響手がかり
第 6 回	母語話者でも、わからない違い	カテゴリー知覚(有声・無声、L と R、など)
第 7 回	わたしが言ったのは「抱っこ」じゃなくて「たっこ」!	音声知覚における語彙効果(Ganong effect)
第 8 回	「アメリカ人に <i>tloop</i> って言ったら、聞き間違えられた」とのこと。	音声知覚における音素配列制約の効果
第 9 回	<i>straight issue</i> と <i>stray tissue</i> って、どうやって聞き分けるの?	音節の概念、英語の強勢
第 10 回	<i>non-native</i> の方が <i>native</i> より成績が上!?	英語の聞き取り実習など
第 11 回	その単語、どういう意味?(その1)	意味プライミング(その1): 単語検索
第 12 回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第 13 回	その単語、どういう意味?(その2)	意味プライミング(その2): ambiguity resolution
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください(理由は授業を受ければわかる……はず)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

「他の授業と重複している」という声もあり、また他の理由もあり、大幅に内容を変えました。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception and auditory word recognition.

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English!

(Grading Criteria / Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義 I B / 言語と論理 1 (言語学講義 I) B

石川 潔

授業コード：A2914, A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、意味の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配信教材と講義で、二重に説明を行う予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 1)
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 2)
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味 (基本編)
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語 (や英語) に接していれば見つかるはず。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります)。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年に比べて昨年度の方が、(一部を除いて) 全体的な評価が下がってしまいましたが、自分が感じていた学生の反応とも、それは一致しています。少なくとも一昨年に評価していただけていた良い点を取り戻しつつ、さらに内容・構成ともに改善していきたいと思えます。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の方野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	意味論 (1)	語、句、文の意味
第 9 回	意味論 (2)	直喩、隠喩、換喩
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

言語学講義ⅡB

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の方野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別索性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 9 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 10 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 11 回	心理言語学 (1)	文の解析
第 12 回	心理言語学 (2)	言語習得
第 13 回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第 14 回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

岸山 健

授業コード：A2923 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が音声を聞き分けて単語を認識し、単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。前期では音声の概要と音声を知覚する過程、そして検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 音声の特徴と生成プロセスを説明できる
2. 人が音声を知覚する処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要1	心理言語学の研究対象・言語学・音声学との関係
第2回	音声の生成と知覚	Praatを用いた音声学入門・不思議な知覚現象
第3回	音声の錯覚とモデル	不思議な知覚現象を説明するモデルの紹介
第4回	音声知覚の実験：概要	対照実験とははじめ・音声ファイルの予備的知識
第5回	音声知覚の実験：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	音声知覚の実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究とははじめ	IMRaDと研究の進め方の学習・サーベイの体験
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	音声の概要（準備編）	発展的な概念の学習するため Python を導入
第11回	音声の概要（発展編）	より発展的な概念の学習（フーリエ変換、MFCC等）
第12回	音声の知覚（準備編）	Pythonの機械学習ライブラリの実習
第13回	音声の知覚（発展編）	計算機上で音声の知覚をシミュレーション実験
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価 2,600 円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

音声学を学ぶ人のための Praat 入門
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS 不問）

【その他の重要事項】

講義内容が連続する「英語・言語学特殊講義 B」も履修を検討されたい。
統計学やプログラミングの知識は不問とする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the characteristics of speech sounds and the processes by which they are produced; 2. to be able to explain models of the processing where people perceive speech sounds; and 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

岸山 健

授業コード：A2924 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the relationship between regular expressions and context-free grammars 2. to be able to explain the model of the process by which people give structure to words 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。後期では言語を「記号列」とみなし、記号列に構造を与える過程、検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 正規表現と文脈自由文法の関係を説明できる
2. 人が単語に構造を与える処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要2	心理言語学の研究対象・言語学・統語論との関係
第2回	オートマトンと言語理論	構文解析に必要な範囲に絞って文脈自由文法まで解説
第3回	構文解析と心理的実在生	文脈自由文法をベースとした構文解析を比較・検討
第4回	容認性調査：概要	対照実験の復習・that-痕跡効果・PCIBexの導入
第5回	容認性調査：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	容認性調査：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究ことはじめ2	IMRaDと研究の進め方の復習・サーベイの実施
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	構文解析（発展編）	Pythonを使って構文解析器の挙動を学習
第11回	自己ベース読文実験：概要	ガーデンパス効果・PCIBexの復習
第12回	自己ベース読文実験：実施	実験の実施とデータの取得
第13回	自己ベース読文実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価2,600円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

オートマトン 言語理論 計算論 I [第2版]
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常評価 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS不問）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

宮川 雅

授業コード：A2965 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◀ ジーン・ウェブスターから英米文学を考える——『あしながおじさん』から／へ ▶

マーク・トウェインの姪の娘で、彼が出資してつくった出版社 Charles L. Webster and Company の社主チャールズ・ウェブスターの娘でもあるのが『あしながおじさん *Daddy Long-legs*』(1912) の著者として有名な女性作家 ジーン・ウェブスター (Jean Webster, 1876-1916) で、ヴァassar 大学在学中に創作を始めて、作家デビューしたときには大祖父の大家から激励の手紙をもらったりもしていて、文体的にも American vernacular と呼べる口語体のスタイルの作品を書いた。が、文学史的には、大衆作家——児童文学ないし少女小説ないしユーモア小説作家——として、まともにとりあげられることはなかったと言ってよい。大衆作家ないし少女小説作家として周縁に位置づけられた女性作家ウェブスターの小説を中心に据え、アメリカ文学の特性や英米文学一般について、あるいは小説論について語ることで、複層的に視野を広げてもらいたい。

【到達目標】

- ① 作品の構造を語れる。
- ② 書簡体と視点について語れる。
- ③ 文体について語れる。
- ④ テキストを丁寧に読む楽しみを味わえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してウェブスターの『あしながおじさん』を中心にしておこなっていく。作品テキストを丁寧に読んでもらうことが議論の前提となる。教師が注釈プリント（ハンドアウト）をこしらえるので、それと作品テキストを読むことができるので必要。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション——古い映画を観る	プロローグ／テキストと参考文献について／邦題『孤児の生涯』(1919) サイレント映画時代のスター Mary Pickford (1892-1979) 主演、Marshall Neilan (1891-1958) 監督、85 分。
第 2 回	"Blue Wednesday" を読む——枠構造	ジャンル問題——少女小説と児童文学と『滑稽文学』(ユーモア小説)、そしてフェミニズム小説——東健而と遠藤寿子、そしてエレイン・ショーウォルター
第 3 回	1 年生の手紙	文体問題—— American vernacular と Mark Twain / アメリカの大学について／北部と南部
第 4 回	書簡体	書簡体小説の伝統／一人称の語りと物語の時間
第 5 回	2 年生の手紙	小説の時間／カレンダー／建物のシンボリズム
第 6 回	空間のシンボリズム	devil down-heads と地獄のイメージ
第 7 回	ムカデ（百足）と詩脚	英詩の構造／電報
第 8 回	3 年生の手紙	冒険と小説
第 9 回	引用の織物	英文科の授業と読書
第 10 回	教養小説——芸術家小説	ピカレスク小説からの変容／小説のジャンル
第 11 回	4 年生の手紙	本について
第 12 回	恋愛小説とフェミニズム	あらためてジャンル問題を考える
第 13 回	社会問題	social reform への関心／フェビアン協会／『続あしながおじさん』における優生思想への批判
第 14 回	まとめ	エビローグ—— belong to の意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習 2 時間復習 2 時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Elaine Showalter 編の Penguin Classics 版 *Daddy-Long-Legs and Dear Enemy* をプリントもしくは電子媒体で配布する。古い訳（たとえば『世界滑稽名作集』[1929] 所収の東健而の訳——その 10 年前の 1919 年、サイレント映画の『孤児の生涯』の出た年、の、たぶん暮れに出版された本邦初訳『滑稽小説 蚊とんぼスミス』のリプリント）も Hoppii の教材にのいる。

【参考書】

初回に参考書などのリストを提示する。折に触れて研究書・論文などを示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、そして配布できない資料とともに、Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 パーセント）と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど（30 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

[Objective] This lecture tries to consider several literary topics through reading closely Jean Webster's novel *Daddy-Long-Legs* (1912). Students will learn and think about the American-vernacular style; the narrative point of view; the "time" in narrative; literary allusions and quotations; symbolism of space; genres of bildungsroman and epistolary novel; English versification, and several kinds of "background" knowledge.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final examination (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

宮川 雅

授業コード: A2966 | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: (他) (優)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

≪ ゴシックから推理小説・SF へ——ポーを中核にしてミステリー属の文学を考える ≫

おもてだった営みとしては、「近代 探偵小説の父」と呼ばれる Edgar Allan Poe (1809-49) の推理小説を読む。探偵オーギュスト・デュパンを主人公とした「モルグ街の殺人事件」「盗まれた手紙」「マリー・ロジェの謎」の3篇のほか、「お前が犯人だ」、暗号解読の物語「黄金虫」(以上 5 篇が通常ポーの推理小説とされる)、さらに、探偵小説のメカニズムを考えながら「群衆の人」と「アッシャー家の没落」を、マボット版全集を使用して読む。

それと並行して、ドロシー・セイヤーズやハワード・ヘイクラフトやラッセル・ナイなどの古典的な探偵小説論を読んで歴史的・構造的な視野を得る。いっぽう、18 世紀にイギリスでおこったゴシック小説がポーの時代(まで)にどのように変容しえたのかを考え、さらに 20 世紀のたとえばトマス・ピンチオンやポール・オースター、さらに(突飛を承知の上で)フラナリー・オコナーといったSF的なないし探偵小説的なないしゴシック的作家に、「ミステリー」の感覚はどのようにつながっているのかを考えてみたい。それは、ボルヘスの短篇「アル・ムターシムへの接近」の言葉を使うなら「探偵小説のメカニズム」と「神秘主義の底流」がどのようにアメリカ文学の中にあるかを考えることになるのではないか、と思う。また、「神秘」「秘義」が「秘密」「謎」に、ちょうど magic が魔術から奇術・手品に格下げないし人間化されたように、意義が変わるのが近代だとすれば、そのような時代における mystery の意味を、アメリカ文学との関係で考えることになるのではないかとも思っている。

【到達目標】

- ① ゴシック・ロマンスの主題や方法についての概観的知識を得ること。
- ② ポーの "tales of ratiocination" を概念的に理解すること。
- ③ ゴシックの変容について歴史的理解を得ること。
- ④ ポーを読む楽しみを味わうこと。
- ⑤ 「ミステリー」の幅を考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してポーの探偵小説を中心しつつもゴシック小説をあわせて読むことで、おこなっていく。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション——ボルヘス「アル・ムターシムへの接近」	プロローグ/テキストと参考文献について
第 2 回	短篇作家の出発	"Metzengerstein"; "Berenice" ほか初期短篇/ゴシックの流行とポーの選択
第 3 回	解かれるミステリーと解かれないミステリー——「アッシャー家の没落 The Fall of the House of Usher」(1839) とテキストの重層性	デュパン以前の代表作を読み、ゴシックの超自然と推理小説のメカニズムについて考える/この超自然小説と見える作品を推理小説的に読む批評を考える
第 4 回	「群衆の人 The Man of the Crowd」(1840)	ワルター・ベンヤミンによって探偵小説の原型として有名になったこの都市小説をポール・オースターと比べてみる
第 5 回	「モルグ街の殺人 The Murders in the Rue Morgue」(1841)	この最初の探偵小説の出版 100 年を記念して書かれたハワード・ヘイクラフトの『娯楽のための殺人』(1941)を紹介する。
第 6 回	「モルグ街の殺人」(1841) その 2	テキストの精読/詩人批評家リチャード・ウィルバーのポー論を紹介する。

第 7 回	「マリー・ロジェの謎 The Mystery of Marie Roget」(1842)	現実のニューヨークの事件に基づいて作家ポーが推理を展開し、通好みかもしれない「マリー・ロジェの謎」——タイトルに mystery が入るが超自然について否定的な言葉がある——を読む。
第 8 回	「盗まれた手紙 The Purloined Letter」(1844)	デュパンもの第 3 作「盗まれた手紙」のテキストの精読/ double の問題を考える。
第 9 回	「黄金虫 The Gold-Bug」(1843)	テキストの精読/暗号解読とエジプト学・聖文字/フランスの批評家ジャン・リカルドゥーによる暗号解読的読み
第 10 回	「おまえが犯人だ Thou Art the Man」/ラッセル・ナイを読む	「盗まれた手紙」と同じ 1844 年の 11 月に発表された「お前が犯人だ」をさらっと読む/アメリカ大衆文化論の古典 Russell Nye, <i>The Unembarrassed Muse</i> のなかの探偵小説の章を読む。
第 11 回	ポーと科学と擬似科学	ゴシック・探偵小説・SF/ロマン主義と超自然
第 12 回	ドロシー・セイヤーズのアンソロジー序文/ 20 世紀の「思想」状況	3冊の探偵小説・恐怖小説アンソロジーを編んだイギリスの学者作家 Dorothy Sayers の序文を読む。3つの序文の原文を配る。
第 13 回	アメリカ現代作家とポー	トマス・ピンチオン『競売品 49 の叫び』ほか
第 14 回	まとめ——「ミステリー」をあらためて考える	エピソード——『秘義の発生』(カーモド、『秘義と習俗』(オコナー)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ(翻訳でもよいので) 作品を読む、そのことに予習 2 時間復習 2 時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く(聴く)だけでよい(というくらいです)。

【テキスト(教科書)】

Thomas Olive Mabbott 編の *Collected Works of Edgar Allan Poe* をプリントもしくは電子媒体で配布する。翻訳も配れるだけ配る。

【参考書】

初回にポー作品の注釈書などのリストを提示する。折に触れて参考書(研究書・論文など)を示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、また配布できない資料とともに Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末ペーパー(70 パーセント)と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど(30 パーセント)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Students learn to carry to a higher level the skillful analysis of language and text, by (participating in) close reading of Edgar Allan Poe's gothic fiction and "tales of ratiocination." Students also obtain knowledge about literary gothicism and about its developments.

[Objective] The principal objective of this class is to obtain a historical perspective of "mystery" in American literature, mainly through the consideration of tales by Edgar Allan Poe, who, while a gothic story-teller, originated the genres of science fiction and detective fiction. [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final report [paper] (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

吉田 裕

授業コード：A2967 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を通史的に学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を体系的に身につけることを目指します。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。音楽や映像も考察の対象とします。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、春学期の英米文学特殊講義Ⅲでは、カリブ海地域と近代世界の形成について、コロンブスの到来から 20 世紀前半までの歴史や政治を扱いつつ、関連する文学作品を紹介して、文学史の概要を学びます。カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができます。

文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて、とりわけコロンブスによるカリブ海地域の発見から 20 世紀前半までの歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学がどのような背景から生まれて、どのような課題に直面しているのかを、自分の言葉で説明できるようになること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多いが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学の定義について学ぶ。 C.L.R. James, "From Toussaint L'Ouverture to Fidel Castro" (1963)
第 2 回	Vera Bell, "Ancestor on the Auction Block" (1948) Orland Patterson, <i>The Sociology of Slavery</i> (1967)	奴隷制度について学ぶ。砂糖の生産と労働の実態を知る。
第 3 回	C.L.R. James, <i>The Black Jacobins</i> (1938)	ハイチ革命の経緯と世界史的意義について学ぶ。ハイチ革命を演劇として描いた作品を比較する。

第 4 回	Mary Prince, <i>The History of Mary Prince</i> (1831)	奴隷解放に資本主義の発展が果たした役割、ジェンダーのちがいがいによる経験の差異について学ぶ。
第 5 回	Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i> (1966)	イギリスの家父長制度と不在地主制度がカリブ海地域の植民地統治に与えた影響について学ぶ。
第 6 回	Vic Reid, <i>New Day</i> (1949)	モラント湾の反乱 (1865) がカリブ海地域の歴史、イギリスの政治に与えたインパクトについて学ぶ。
第 7 回	Edgar Mittelholzer, <i>Corentyne Thunder</i> (1941) <i>Redemption Song</i> , BBC ドキュメンタリー	インド及び中国からの移民を中心に、年季奉公制度の世界史的な意義について学ぶ。
第 8 回	Jamaica Kincaid, <i>Annie John</i> (1985) Austin Clarke, <i>Growing Up Stupid Under Union Jack</i> (1980)	植民地教育に英文学が果たした役割について学ぶ。帝国統治の言説と人種差別との関係について学ぶ。
第 9 回	Marcus Garvey, <i>Speeches</i> , Eric Walrond, <i>Tropic Death</i> (1926)	合衆国やパナマへの移住経験と人種意識の関係について学ぶ。
第 10 回	Claude McKay, <i>Una Marson</i> , Louise Bennet	故郷を離れることと民衆語で詩を書くことの関係について学ぶ。
第 11 回	C.L.R. James, "Victory" (1929) Alfred Mendes, <i>Black Fauns</i> (1935)	バラック・ヤード・ジャンルと芸運動について学ぶ。
第 12 回	Geroge Lamming, <i>In the Castle of My Skin</i> (1953) 音楽 Paul Robeson, "Let My People Go"	1930 年代のストライキとその後自治の獲得、物語での自我の揺れとの関連について学ぶ。
第 13 回	Aimé Césaire, <i>Return to My Native Land</i> (1956), Lorna Goodison, "I am Becoming My Mother" (1986)	ネグリチュード運動について学ぶ。「故郷」の発見と「母国」イメージの関係について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義の内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ 2 時間ずつとする。
予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること (2 時間)。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。授業中に説明した内容で分からない部分について、質問を考えてくること (2 時間)。

【テキスト（教科書）】

テキストは購入する必要はない。授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996 年。
エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020 年。
エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I) (II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014 年。
その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー (30%)
期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、秋学期の「英米文学特殊講義 IV」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam: 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

吉田 裕

授業コード：A2968 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を文学史として学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を学びます。後期では、20 世紀半ばから、2010 年代までに発表されたカリブ文学について扱います。音楽や映画も織り交ぜて考察の対象とします。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、秋学期の英米文学特殊講義Ⅳでは、カリブ海地域が植民地支配からの自治を獲得し、国として独立してゆく過程から、二十世紀後半に至る独立後の困難、合衆国のブラック・パワーの影響、レゲエやカリブソなどの音楽などさまざまなトピックを扱います。関連する作品を紹介して、文学史の概要を学びます。

カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができ

ます。文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて自分の言葉で説明できること。とりわけ 20 世紀前半から 2000 年代に至る歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学の作品を批評的な観点から理解すること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多くなるが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学における歴史をめぐる
	Derek Walcott, "The Muse of History" (1974)	問いについて考察する。
第 2 回	V.S. Naipaul, <i>Miguel Street</i> (1959)	カリブソという音楽ジャンルの社会的背景について学ぶ。
	Mighty Sparrow, "Jean and Dinah" (1956)	

第 3 回	Ralph de Boissière, <i>Rum and Coca Cola</i> (1954) Robert Antoni, <i>My Grandmother's Erotic Folktales</i> (2000)	米軍基地の建設により生活と社会、セクシュアリティがどのように変化したかを学ぶ。
第 4 回	Martin Carter, "I am No Soldier", "I Clench My Fist" (1954) Edwidge Danticat, <i>Krik? Krak!</i> (1995) 映画 <i>The Man by the Shore</i> (1993)	冷戦期の「熱戦」が文学にどのように描かれているかを学ぶ。
第 5 回	Samuel Selvon, <i>The Lonely Londoners</i> (1956) 音楽 Lord Kitchner, "London is the Place for Me" (1948) 映画『パディントン』 (2015)	なぜロンドンがカリブ文学誕生の地と言われているのかを学ぶ。
第 6 回	Orland Patterson, <i>The Children of Sisyphus</i> (1968)	民間信仰と宗教を描くことがなぜ重要なのかを学ぶ。
第 7 回	Roger Mais, <i>Brother Man</i> (1954) Erna Brodber, <i>Jane and Louisa Soon Will Come Home</i> (1980)	ラスタファリ運動とナショナル・イメージの関係について学ぶ。
第 8 回	Merle Hodge, <i>Crick Crack, Monkey</i> (1970) Zee Edgel, <i>Beka Lamb</i> (1982)	女性の成長と自立を描くことがナショナル・イメージの変容と結びついていることを学ぶ。
第 9 回	音楽 Bob Marley, "Redemption Song" (1980) Mutabarka, "dis poem" (1992) Jean Binta Breeze, "Can a Dub Poet be a Woman?" (1990) 映画『ハーダー・ゼイ・カム』 (1972)	レゲエやダブなどの音楽と詩の世界が、日常とその変革と関連していることを学ぶ。
第 10 回	Beryl Gilroy, <i>Black Teacher</i> (1976)	移住の地（イギリス）での生活と教育がいかに描かれているかを学ぶ。
第 11 回	Earl Lovelace, <i>The Dragon Can't Dance</i> (1979) Jamaica Kincaid, <i>Small Place</i> (1988)	ブラックパワーの影響、独立後の不満がいかに作品に描かれているかを学ぶ。
第 12 回	Merle Collins, <i>Angel</i> (1987) Dionne Brand, <i>Chronicles of the Hostile Sun</i> (1984)	グレナダ革命及びグレナダ侵攻の経緯、現代的意義について学ぶ。
第 13 回	Marlene Noubese Philip, <i>Harriet's Daughter</i> (1988) David Chariandy, <i>Brother</i> (2017)	カリブ文学第二の故郷と言われるカナダのトロントが作品にいか
第 14 回	まとめ	講義の内容についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ2時間ずつとする。

予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること（2時間）。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。それでも分からない部分について、質問を考えてくること（2時間）。

【テキスト（教科書）】

授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996年。
 エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020年。
 エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I)(II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014年。
 その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー（30%）
 期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、春学期の「英米文学特殊講義 III」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的現象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。(2 時間)
 ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。(1 時間)
 ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。(1 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）

アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）

ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %

グループ・プレゼンテーション 30 %

授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (30%)

2) Group presentation (30%)

3) Final exam (40%)

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 7 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 8 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 9 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 10 回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第 11 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 12 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン 『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）

必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3113, A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学の歴史について理解することを目的とする。日本考古学がどのような学術をたどって成立してきたかを理解し、日本考古学の現状と課題を理解する。

【到達目標】

日本考古学の成り立ちを理解し、現在の考古学の学問的位置と状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は授業中および学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムで行う。授業では資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。プリントを授業中に配布する場合もある。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	近代以前の考古学	考古学以前
第3回	近代日本考古学の誕生 民族論	大森貝塚とモース コロボックルと 先住民族
第4回	実証主義の萌芽	層位学 弥生土器の発見 古墳時代
第5回	大正時代の考古学	鳥居龍藏 喜田貞吉
第6回	型式学のはじまり	濱田耕作 松本彦七郎
第7回	実証的研究	加曾利貝塚 姥山貝塚
第8回	旧石器論争	国府遺跡 直良信夫と明石原人
第9回	弥生文化の研究	様式論
第10回	科学的歴史研究	ひだびと論争 社会構成体論
第11回	縄文土器と弥生土器の編年研究	山内清男 森本六爾
第12回	戦後の日本考古学	岩宿遺跡と登呂遺跡 相沢忠洋
第13回	ニューアーケオロジー（プロセス考古学）と考古学の現在	ルイス・ビンフォード
第14回	総括 期末試験（60分）	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料やノート・参考書等をよく読み、各時代の研究の流れを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

勅使河原彰 1995 『日本考古学の歩み』 名著出版

古庄浩明 2013 『「日本」のはじまり－考古学から見た原始・古代』 和出版

Hiroaki FURUSHO 2022 『Beginning of Japan』 kindle

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を50%とし、期末試験による評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料やノートをよく読み、時代背景も鑑みて学術を理解してほしい。現代の学史的解釈だけではなく、できるだけその時代の論文や図録を使って、当時の研究者の文章や図版に触れ、時代背景とともに解説するようにした。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど） 資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand the history of Japanese archaeology. To understand how Japanese archaeology has been established through its academic history, and to understand the current status and issues of Japanese archaeology.

Understand the origins of Japanese archaeology and be able to explain the current academic position and status of archaeology.

Classes will be conducted in lecture format. On-demand lectures may be given depending on the situation. Distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be conducted in class and through the learning support system. Specifically, students will be asked to submit assignments to the learning support system, and feedback will be sent back to each student via the learning support system. Questions and answers will be provided in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class. Printed materials may be distributed in class. Students are required to submit a small report after each class. Students should carefully read the distributed materials, notes, and reference books to understand the flow of research in each period. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代人の記した文章を読み、そこから当時の生活や社会の仕組み、江戸時代人の常識や思考方法などを読み取ろうとする授業である。ここでは旗本森山孝盛（1738～1815）の記した「蟹の焼藻の記」を素材とする。学生には活字史料を読む訓練ともなるだろう。

【到達目標】

- ①活字史料を読みこなし、適切に現代語訳することができる。
- ②人名や語句について適切な辞書を用いて調べることができる。
- ③史料に基づいて旗本の生活について説明できる。
- ④史料に基づいて江戸時代の社会や制度について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用した形式の授業とする。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。学生は必ず予習として、日記の次回授業分を読み、人物や不明な語について調べておくこと。授業時に指名して発表してもらおう。質問等に対するフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	旗本と森山孝盛について
第 2 回	幼少期の学問	テキスト 201～205 頁
第 3 回	経済事情	テキスト 206～210 頁
第 4 回	養子と学問	テキスト 211～215 頁
第 5 回	出世と賄賂	テキスト 216～220 頁
第 6 回	御徒頭として	テキスト 221～225 頁
第 7 回	風雅の道	テキスト 226～230 頁
第 8 回	定信の登場と打ちこわし	テキスト 231～235 頁
第 9 回	目付として	テキスト 236～240 頁
第 10 回	目付として（続）	テキスト 241～245 頁
第 11 回	関東筋川々普請見分へ	テキスト 246～250 頁
第 12 回	火附盗賊改加役として	テキスト 251～255 頁
第 13 回	寛政 10 年の時点から	テキスト 256～263 頁
第 14 回	まとめと試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み込むこと。不明な人物は『寛政重修諸家譜』で、語句は『国史大事典』『日本国語大辞典』（第 2 版）で調べること。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「蟹の焼藻の記」（『日本随筆大成』2 期 22 巻、吉川弘文館、1995 年所収）

【参考書】

『自家年譜』上中下（内閣文庫影印叢刊、1994～5 年）

『日本都市生活史料集成』2 巻（学習研究社、1977 年）

『徳川幕臣人名辞典』（東京堂出版、2010 年）

小川恭一『江戸の旗本事典』（講談社、2003 年）

松本剣志郎「自家年譜（寛政 3 年正月～6 月）解題」（『法政史学』99 号、2023 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces documents of vassal of Tokugawa shogunate to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical document. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3152, A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックは学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムを利用して行う。授業には資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考古学とは何でしょう	考古学の定義
第 2 回	世界考古学の大まかな歴史	世界考古学史
第 3 回	日本考古学の大まかな歴史	日本考古学史
第 4 回	考古学の資料収集 1	遺跡の発見
第 5 回	考古学の資料収集 2	遺跡の発掘
第 6 回	何が残っているか	考古資料とその種類
第 7 回	時代決定法 1	層位学
第 8 回	時代決定法 2	型式学
第 9 回	科学的年代測定法	放射性炭素年代測定法 年輪年代測定法 磁気年代測定法
第 10 回	分布論 1	ミクロの研究
第 11 回	分布論 2	マクロの研究
第 12 回	製作技法	石器の製作技法 土器の製作技法
第 13 回	用途論 遺跡の保存	機能と用途 遺跡保存の実例 文化財保護
第 14 回	授業の総括	期末テスト 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、教科書・参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第 2 版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

To be able to explain the process of academic development of archaeology, especially in Japan.

To be able to understand the process of development of archaeological methods.

To be able to understand the relationship between archaeology and related sciences.

Students will understand the methods and ideas of archaeology mainly from the perspective of academic history, and consider the broad historical picture that can be assembled from material culture.

The class will be conducted in a face-to-face lecture format. The class may be conducted on-demand depending on the situation. The distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be done through the learning support system and other means. Specifically, students will be asked to submit assignments to the Learning Support Office system, and feedback will be sent back to each student via the Learning Support System. Questions and answers to them will be given in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class.

Students will be asked to submit a small report after each class.

50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

An internet environment and a terminal (computer, smart phone, pad, etc.) are required. I will use a learning support system or other means to distribute materials and submit assignments.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸幕府第8代の将軍であった徳川吉宗は、行財政方面の再建・強化を中心とした幕政改革の主導者として注目されてきた。だが、実はこの人物が将軍職に就任することが決まって最も早期に着手していたのは、将軍家文庫（御文庫）の書籍目録の閲覧であった。そして、この書籍目録の閲覧以降、20年以上にわたって御文庫所蔵の書籍の校合、校勘に尽力していた。この授業では、吉宗が実施したこの事業がいったい何のために行われたものであるのか検討する。

【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した将軍家蔵書の校合・校勘の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を行う。よって、史料読解を深めるため、学習支援システムを利用してレポート学習を併用する。なお、質問や小レポート等へのフィードバックも、学習支援システムを介して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	徳川吉宗の人物像(1)	徳川吉宗の出自と将軍職就任の事情
第2回	徳川吉宗の人物像(2)	「徳川実紀」にみる吉宗の個性
第3回	将軍家の文庫(1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第4回	将軍家の文庫(2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第5回	将軍家の文庫(3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第6回	吉宗と書物(1)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態
第7回	吉宗と書物(2)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第8回	吉宗と書物(3)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第9回	吉宗と書物(4)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第10回	吉宗と書物(4)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)
第11回	吉宗と書物(5)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第12回	吉宗と書物(6)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第13回	吉宗と書物(7)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第14回	まとめ	吉宗政権の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習、小レポートの作成等（56時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）

大石 学『徳川吉宗—日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012年）

小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

史料読解の際には現代語訳（意訳）を行い、学生側の史料の内容把握を補助する。

【学生が準備すべき機器他】

教材配付や課題提出のために学習支援システムを使用する。よって各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

テーマ関連科目・日本史特講Ⅰ

【Outline (in English)】

(Course outline)

Yoshimune Tokugawa, the 8th shogun of the Edo period, is known as the driving force behind the administrative and financial reforms of the shogunate. In fact, the first thing this person did after taking office was to browse the shogun family's library catalog. Yoshimune, who saw this library catalog, spent more than 20 years proofreading the collection. This subject examines the purpose of this project by Yoshimune.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%), participation to the discussion (20%), and the final report (40%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視角から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第7回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第8回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第9回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第10回	緊張と排除（1）	魔女
第11回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第12回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第13回	ディスカッション（2）	近代と排除
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験を教室で実施する（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2019年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、分厚すぎて受講生はあまり活用していないことに気がつきました。2020年度以降、リストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思ひ改善しました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

(Learning activities outside of the classroom)

HIS200BE

西洋史特講V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2023 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次の授業冒頭でまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤論吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアリティと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸—— 伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、ほぼ対面で授業を行うことができました。また、学生の希望を聞いて「市ヶ谷を歩く」という特別セッションを行いました。都市史への理解を深めたと思います。今年度も学生の要望を聞いた上、シラバスを変更して同様のフィールドワークを行う可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Final examination (60%), and short essays and in-class contributions (40%)

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国・香港・台湾からみる東アジア近現代史」をテーマとする。東アジアにおいて、中国・香港・台湾はそれぞれ重要な地域であり、日本とも政治・経済・文化など多方面にわたって深い交流がある。この三地域は「兩岸三地」と総称され、同じ中華文化圏として一括りに捉えられることが多い。しかし、歴史的には異なる背景を持ち、特に近代以降は植民地統治や政治的対立の時代を経て、互いに複雑な関係の下に置かれてきた。その過程は今日の東アジア、ひいては世界的な国際関係にも、大きな影響を及ぼしている。

本授業では、こうした近現代における中国・香港・台湾の交流／対立の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化がどのように形成されてきたかを概観する。その上で、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる、外交、経済発展、地域アイデンティティ、政治的民主化といった様々な問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代の中国・香港・台湾の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化の成り立ちについて、知識と理解を深めるとともに、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジア近現代史入門	東アジア近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	中国の近代①	アヘン戦争と清末の変動
第 3 回	中国の近代②	辛亥革命と中華民国の成立
第 4 回	香港の近代	イギリス統治下の都市発展
第 5 回	台湾の近代	日本統治下の近代化と社会統合
第 6 回	戦時の中国・香港・台湾	日本の軍事侵攻と地域社会
第 7 回	戦後東アジアの冷戦構造	国共内戦と台湾海峡危機
第 8 回	社会主義国家としての中国①	中華人民共和国の成立
第 9 回	社会主義国家としての中国②	文化大革命から改革開放へ
第 10 回	戦後の香港	経済成長と中国への返還
第 11 回	戦後の台湾	国民党独裁から民主化へ
第 12 回	グローバル化時代の東アジア	地域社会の交流と変容
第 13 回	現在の中国・香港・台湾	東アジア国際関係の現状と行方
第 14 回	東アジア近現代史の課題と展望	東アジア近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国・香港・台湾に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会、2019 年。

中村元哉・森川裕貴・関智英・家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。

吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17 年。

倉田徹・張瑛啓『香港——中国と向き合う自由都市』岩波書店（岩波新書）、2015 年。

若林正丈『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』筑摩書房（ちくま新書）、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末試験 70 %

授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern east Asia focusing on China (People's Republic of China), Hong Kong and Taiwan (Republic of China) area.

The goal of this course is to understand the present various issues about international relations of east Asia from a historical perspective.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS100BE

東洋史序説

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交1	倭国の対外関係1
第2回	古代の外交2	倭国の対外関係2
第3回	古代の外交3	遣隋使
第4回	古代の外交4	遣唐使1
第5回	古代の外交5	遣唐使2
第6回	古代の外交6	遣唐使3
第7回	中世の外交1	日宋貿易
第8回	中世の外交2	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易1	日明貿易
第10回	近世の貿易2	日清貿易1
第11回	近世の貿易3	日清貿易2
第12回	近世の貿易4	日清貿易3
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税
簗原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税
田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

出席 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。
身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近世まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようになることを目指します。

また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、これまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。

毎回、出席確認を兼ねたりアクションペーパーや授業内小レポートの提出、ないし簡単な小テストへの解答を求める予定です。提出には学習支援システムを活用します。

授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーや小レポートからいくつかを紹介し、少しでも双方向の授業となるよう努めるつもりです。それに応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ歴史を学ぶのか？
第 2 回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：平和とは何か？
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」「アナール学派」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突？：中世シチリア王国と「12世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える

第 13 回 16 世紀：ハプスブルク 中世から、近世・近代への転換の時代

第 14 回 授業の総括 授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

準教科書として、以下を挙げます。大学で歴史を学ぶにあたり、また本授業の内容をより深く理解するためにも、是非手にとって読んでください。東京大学教養学部歴史学部会編『歴史学の思考法』岩波書店、2020 年。参考書としては以下を挙げます（いずれもミネルヴァ書房）。金澤周作監修『論点・西洋史学』2020 年。長谷川岳男編著『はじめて学ぶ 西洋古代史』2022 年。その他、参考文献授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価、随時実施する小テストの点数（60%）、および学期末の筆記試験ないしレポート（40%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出・授業後の確認小テストに学習支援システムを使用する予定ですので、パソコンの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuichi@rku.ac.jp までメールをください。授業の進行は、受講生の理解度や関心に応じ多少前後し、シラバス通りとならないことがあります。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the early modern period.

Learning Objectives:

The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

Learning activities outside the classroom:

Before and after each class, students are expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Policy:

Overall grade will be decided based on the following:

Short reports/Quiz/in class contribution: 60%

Term-end examination or Report: 40%

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤 慶太

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本最初の公式な歴史書である六国史について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』をはじめとする六国史は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。この講義では六国史の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。

【到達目標】

六国史各自の成り立ちや特色について、史料の根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、受講生の質問にも応えながら進行します。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	六国史について	ガイダンス／六国史についての概説
第 2 回	日本書紀の成立と受容	日本紀講と写本のながれ
第 3 回	日本書紀と神話	神代巻の構成と神社の伝承
第 4 回	日本書紀の対外交渉記事	外国史料との対応関係
第 5 回	日本書紀と壬申の乱	戦乱の叙述方法
第 6 回	続日本紀の成立	桓武天皇をめぐる修史事業
第 7 回	続日本紀と大仏開眼	大仏開眼記事にみる奈良時代の仏教
第 8 回	日本後紀とその復原	失われた歴史書の探索と出版
第 9 回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と歴史叙述
第 10 回	続日本後紀と宮廷の安定	仁明天皇と「国風文化」をめぐる
第 11 回	日本文徳天皇実録と春秋	六国史と中国史書との影響関係
第 12 回	日本三代実録と儀式書	平安前期の儀礼と史書
第 13 回	日本三代実録と類聚国史	菅原道真の学問と歴史記事の部類について
第 14 回	国史を継ぐもの	六国史の後の歴史叙述／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義資料を事前に web で公開するので、各自事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 1 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要資料は配布する。

【参考書】

坂本太郎『史書を読む』（中公文庫、1987 年）、遠藤慶太『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』（中公新書、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（30%）、小テストやレポート課題（70%）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間内で典籍や史跡の画像や江戸時代の木版本の実物をみてもらい、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ばすかけを提供できるよう心がける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the old Japanese history book, 'Rikkokushi' (Chronicles of the Japan). 'Rikkokushi' is not only a basic historical source of ancient history, but has been read as a classic for a long time. Behind the Type text and Electronic text that we see today, there are books that have been transcribed, published, and even unique annotations. In this lecture, we will take a concrete article on 'Rikkokushi' and consider the meaning of writing History while paying attention to the characteristics of each Text.

Students are expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour he in class.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Report: 70%, Contribution during class: 30%

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

徳留 大輔

授業コード：A3217 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】 東アジア陶磁史——中国陶磁史を中心に

【目的・意義】 東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】

陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2～3 回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも 1 回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	第 1 回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第 2 回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第 3 回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炆器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第 4 回	東西交流のはじまり	いまから 2000 年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。

第 5 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器①	8 世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第 6 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第 7 回	「青花」の誕生	14 世紀前半、突如して流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。
第 8 回	明清陶磁の展開	明清時代には景德鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第 9 回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第 10 回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第 11 回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いられてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することに主眼をおく見方が生まれる。それによりこれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第 12 回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のバイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第 13 回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を感じてもらう。
第 14 回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次回の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】

講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】

葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 唐物茶碗』淡交社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各講義時に課す課題（宿題）20 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】

<専門領域>考古学・東洋陶磁史

<研究テーマ>中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史

<主要研究業績>

徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 第一巻 唐物茶碗』淡交社、2021 年
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔編集『宋磁—神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018 年

【Outline (in English)】

【Outline】 The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.

【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

【Learning activities outside of the classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (report) : 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。提出されたペーパーについては次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べるのが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
 毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
 小杉奈、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016 年。
 菊地達也編著、『図説イスラーム教の歴史』、河出書房新社、2017 年。
 ・工具書
 大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002 年。
 その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（50%）、期末試験（50%）
 ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。
 期末試験は論述試験となる予定です。
 毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートより、図像等を用いてイメージをやすくしてほしいとの声がありました。特に地図などはできるだけ示しながら授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は Hoppii にて PDF で配布し、それをスクリーンで映しながら講義する予定です。配布資料は板書の代わりです。それを印刷して持参するか、あるいは自身の端末で閲覧するなどして、書き込みをしながら受講しましょう。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE

西洋史特講Ⅹ

大澤 広晃

授業コード：A3219 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、救貧・福祉の視座から近現代イギリスの歴史を考える。具体的には、貧民や貧困にかかわる制度の変遷とともに、人々の日常生活に現れる助け合いのかたちとその変容にも注目することで、思想および実践としての救貧・福祉を検討する。そうすることで、近世から現代に至るイギリスの政治・社会・文化の特質を探っていききたい。

【到達目標】

・救貧・福祉という視点から、近現代イギリス史を理解する。
 ・現代の重要な社会課題のひとつである貧困や福祉という問題を、歴史に即して批判的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	近世の救貧①：法と制度	近代以前の救貧と福祉の法制度について学ぶ。
第 3 回	近世の救貧②：貧民たちの戦略	近代以前の貧民のありようと共助や生存戦略について学ぶ。
第 4 回	改革の時代と新救貧法	新救貧法の内容とその特質を学ぶ。
第 5 回	「自由放任」の時代の救貧と福祉	19 世紀中葉における救貧と福祉の複合的なかたちを学ぶ。
第 6 回	貧民の世界	19 世紀の貧民たちの生活について学ぶ。
第 7 回	貧民の生存戦略	19 世紀の貧民たちの生存戦略について学ぶ。
第 8 回	貧困観の転回	19 世紀後半における貧困観の変化を、社会調査や社会主義、ニューリベラリズムの興隆と関連づけながら学ぶ。
第 9 回	福祉とナショナリズム	「外国人」への姿勢という観点から、福祉とナショナリズムの関係を学ぶ。
第 10 回	第一次世界大戦と福祉	第一次世界大戦が福祉の思想と実践に与えた影響を学ぶ。
第 11 回	帝国と福祉	イギリスの帝国支配と福祉の関係を学ぶ。
第 12 回	第二次世界大戦と福祉国家	第二次世界大戦期における福祉をめぐる議論と福祉国家の成立について学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

高田実・中野智世編『近代ヨーロッパの探求 福祉』ミネルヴァ書房、2012 年
 長谷川貴彦『イギリス福祉国家の歴史的源流—近世・近代転換期の中間団体』東京大学出版会、2014 年
 金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008 年
 金澤周作『チャリティの帝国—もうひとつのイギリス近現代史』岩波新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
 ・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course examines poverty and welfare in modern and contemporary British history. It covers various topics including system and ideology of poor relief and welfare, charity and philanthropy, mutual aid of ordinary people, makeshift economy, and so on.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about poverty and welfare in modern and contemporary British history.
- 2) Students are able to acquire critical views on poverty and welfare in contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100BE

日本史序説

齋藤 智志

授業コード：A3226 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年

備考(履修条件等)：2022 年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ (A3213)」を履修する。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業(第 2 回～第 12 回)は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。

レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題(史料読解など)にも取り組んでもらいます。

毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料/歴史を学ぶ意味
第 2 回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観 1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話の古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第 3 回	古代の国家と社会	・時代の概観 2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第 4 回	中世社会の成立	・時代の概観 3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第 5 回	中世社会の諸相	・時代の概観 4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第 6 回	幕藩体制の成立	・時代の概観 5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第 7 回	幕藩体制の動揺	・時代の概観 6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第 8 回	近代国家の形成	・時代の概観 7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第 9 回	近代国家の展開	・時代の概観 8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勲業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	・時代の概観 9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観 10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第 12 回	戦後日本の歩み	・時代の概観 11 戦後改革と高度経済成長 ・戦後の戦争観
第 13 回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識

第 14 回 授業内試験

・授業内試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。

授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年

『大学の日本史：教養から考える日本史へ』(全 4 巻) 山川出版社、2016 年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % (リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます)

期末レポート 30 %

期末試験 30 %

※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

※期末レポートの課題は第 1 回の授業で発表する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについての説明に不十分なところがありましたので、1 回目の授業で具体的に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、学習支援システム (Hoppii) の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器 (ノート PC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか) を持参してください。なお、第 4、7、9、11 回はノート PC かタブレットの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。

また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

【Outline (in English)】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports: 30%, in-class contribution: 40%

HIS200BE

歴史特講

大澤 広晃、内藤 一成、宇都宮 美生

授業コード：A3227 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の3分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないかな。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。

今年度の主題は、「帝国」である。中国（清朝）、日本、イギリスの事例を比較することで、帝国とはなにか、それが歴史にいかなる影響を及ぼしたのかを考えてみたい。

【到達目標】

- ・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
- ・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総合的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：大澤
第2回	帝国について：概要と論点	帝国についての概要を学び、この授業でとくに考察したい論点（帝国の構造と統治、君主の立場と称号、帝国間の相互関係）を示す。 担当：大澤
第3回	清朝①	中国の帝国（王朝）の概要について学ぶ。 担当：宇都宮
第4回	清朝②	清朝の統治体制と内部構造について学ぶ。 担当：宇都宮
第5回	清朝③	清朝の盛衰にかかわる諸外国との対外関係について学ぶ。 担当：宇都宮
第6回	日本①	日本の呼称について学ぶ。 担当：内藤
第7回	日本②	天皇の住居である皇居を通じて大日本帝国の核心について学ぶ。 担当：内藤
第8回	日本③	天皇行幸を通じて大日本帝国の周縁について学ぶ。 担当：内藤
第9回	イギリス①	イギリス帝国の概要について学ぶ。 担当：大澤

第10回	イギリス②	帝国統治におけるイギリス国王の役割と呼称について学ぶ。 担当：大澤
第11回	イギリス③	イギリス帝国が同時代の日本と中国をどうみていたのかを学ぶ。 担当：大澤
第12回	帝国をめぐるディスカッション	授業で学んだことや課題資料に基づき、帝国をテーマに受講生どうしで議論する。 担当：大澤
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。 担当：大澤
第14回	授業内試験	期末試験。 担当：大澤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。課題資料についての宿題も出す予定である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

山本有造編著『帝国の研究—原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. It pays particular attention on empires in China, Japan and Britain.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
- 2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

GEO200BF

自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。毎回スライドを投影し、授業資料は Hoppii で公開する。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：河川とは	授業の概要、計画、評価方法を説明する。また、河川（特に地形）の基礎的な事項を復習する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境を概説する。
第 3 回	岩石と自然景観	岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。
第 4 回	堆積物と環境変遷	様々な地層から読み取れる自然環境の変遷を学ぶ。
第 5 回	河川がつくった暮らし（1）	多摩川水系を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 6 回	河川がつくった暮らし（2）	米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 7 回	自然災害と社会（1）	安倍川と常願寺川を例に、土石流を中心とした自然災害と地形発達を考える。
第 8 回	自然災害と社会（2）	相模川水系を例に、火山災害と土地利用を考える。
第 9 回	自然環境と人間生活（1）	天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。
第 10 回	自然環境と人間生活（2）	熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。
第 11 回	自然環境と人間生活（3）	琉球列島・小笠原諸島を例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。
第 12 回	海外の自然環境（1）大陸河川	大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 13 回	海外の自然環境（2）島嶼	海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 14 回	まとめ	自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業資料は Hoppii で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校までに使用していたもので構わない）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントシート（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は専門科目であり、また「概説」ではありませんので、教員の視点と専門性が強めに反映された授業内容になっています。授業では扱っていないが関連して興味をもっている内容は自分自身で調べて学びを深めてもらいつつ、適宜教員に相談してもらえれば学びへのアドバイスはできます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– A) Understand the formation of natural environment and relationship with the living people in various regions.

– B) Consider the relationship between yourselves, the people around them, and the familiar natural environment.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-report (30%), final report (50%) and short comments (20%).

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

なお、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30 %、筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPT を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第 2 回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します。
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します。
第 6 回	水資源問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します。
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します。
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します。
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します。
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します。
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023 年

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

Learning Objectives

HUG200BF

社会経済地理学（3）

佐々木 達

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生構造と国土利用	近代産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第 3 回	文化地理学とセクシュアリティ (1)	LGBT の空間経験 (1)
第 4 回	文化地理学とセクシュアリティ (2)	LGBT の空間経験 (2)
第 5 回	文化地理学とセクシュアリティ (3)	「女性専用車両」の意味
第 6 回	文化地理学とポリティクス (1)	政治という場所
第 7 回	文化地理学とポリティクス (2)	男性・異性愛の空間構造
第 8 回	文化地理学と広告 (1)	自然な風景
第 9 回	文化地理学と広告 (2)	身体と空間
第 10 回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第 11 回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第 12 回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第 13 回	文化地理学と現象学 (1)	空間の認識論
第 14 回	文化地理学と現象学 (2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF

文化地理学（2）

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、順に読解しながら、文化地理学のさまざまなトピックを学び、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的
第 2 回	文化地理学の視点	空間・環境・景観
第 3 回	文化地理学研究の手順	視点としての空間
第 4 回	空間と環境と景観	さまざまな環境論
第 5 回	言語の文化地理学	言語と空間・環境・景観
第 6 回	自然と生業の文化地理学	自然・生業と空間・環境・景観
第 7 回	宗教の文化地理学	宗教と空間・環境・景観
第 8 回	民俗の文化地理学	民俗と空間・環境・景観
第 9 回	政治の文化地理学	政治と空間・環境・景観
第 10 回	都市の文化地理学	都市と空間・環境・景観
第 11 回	観光の文化地理学	観光と空間・環境・景観
第 12 回	性の文化地理学	性と空間・環境・景観
第 13 回	文化地理学の前線と現代の文化	デジタル文化
第 14 回	文化地理学の応用	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森正人・中川正 (2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』（ナカニシヤ出版）¥2400 + 税

【参考書】

中俣均編 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥4180

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100%）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

CUA200BA

民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的な位置づけを推します。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。

第 14 回 試験と総括

本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010 年、森社）
室井康成『政治風土のフォークローア—文明・選挙・韓国』（2023 年、七月社）
岩本通弥他編『民俗学の思考法—（いま・ここ）の日常と文化を捉える』（2021 年、慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。ただし、どのような内容を出題するかは、最終講義の 3～4 回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination;100%

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身につけることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありませんが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べる。また授業外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam on the last day of the lecture

HIS200BA

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えたための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。

この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。ペーパーの作成には講義後半の 20～30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について
第 3 回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第 4 回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第 6 回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第 7 回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第 10 回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 13 回	20 世紀のイスラム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
 佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートにおいて、もっと画像等でイメージを示してほしいとの声がありました。特に地図については必要性が高いと考えられるので、できるだけ授業内で示していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自 PC やスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈大〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もおお進み中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを旨とする。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえたペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第5回	イスラムとジェンダー	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第7回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景
第8回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割
第9回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第10回	イスラムと奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第13回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラム：社会生活・思想・歴史』、新曜社、2006年。
小杉泰ほか編、『大学生・社会人のためのイスラム講座』、ナカニシヤ出版、2018年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートにおいて、授業資料の記述が時に簡素にすぎるとの指摘がありました。それを踏まえ、受講者がノートを取りつつ講義に耳を傾けることのできる、適切な塩梅を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意して、そちらで授業資料を閲覧してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：「歴史地理学 I」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
 本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第 14 回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
 取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題 50 %、ビデオ鑑賞コメント提出 25 %、平常点 25 % で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and

practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports:50% Short reports:25 % and in class contribution:25 %

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人とアイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、ビデオ鑑賞コメント提出 25%、平常点 25%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書をもとに説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports: 100% Short reports:25% and in class contribution:25%

ECN300FB

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN300FB

組織経済学 I (2018 年度以前入学者)

奥西 好夫

経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性: <他> <優> <実>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材 (ハンドアウト) は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義) 以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験 (期末試験) として行う可能性がある (コロナの収束状況等による)。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」(I は秋学期、II は春学期) でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい (ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980 ~ 89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

MAN200FD

日本経営論 I

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第 2 回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第 3 回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリア、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第 4 回	トップマネジメントの日米比較	20 世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第 5 回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス (企業統治) の特徴を検討する。
第 6 回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990 年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第 7 回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 8 回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 9 回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究及び開発活動の特徴を講義する。
第 10 回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第 11 回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70 年代まで、労使関係・人的資源管理にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 12 回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980 年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 13 回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第 14 回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

金容度 (2023) 『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直 (2018) 『現代日本経済第 4 版』有斐閣
- ②金容度 (2021) 『日本の企業間取引』有斐閣
- ③小池和男 (1991)(2005) 『仕事の経済学』東洋経済新報社、第 1 版及び第 3 版
- ④鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004) 『ビジネスの歴史』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験 (70 %)、授業中の小試験 (30 %) である。授業中の小試験は 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion on business management in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The Learning Objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間ものの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第 2 回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第 3 回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第 4 回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第 5 回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第 6 回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第 7 回	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第 8 回	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 9 回	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 10 回	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第 11 回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第 12 回	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第 13 回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
第 14 回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度 (2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 IC 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 70 %、授業中の小テスト 30 % (1 回 10 % ×3 回)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion on the inter-firm relationships in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The Learning Objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN300FD

広告論

宮井 弘之

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがあるため、その場合 ZOOM となる可能性が高い。
何度かグループワークを通じて、リアクションペーパーを書いてもらう
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく
実務家からいただいた講話に関して質問を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第 2 回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第 3 回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】 大手広告代理店 博報堂 営業部長
第 4 回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第 5 回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第 6 回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】 大手広告制作会社 プランナー
第 7 回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第 8 回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】 大手広告代理店 博報堂クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第 9 回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】 大手メディアレップ 博報堂 DY メディアパートナーズ テレビ担当（録画を利用）
第 10 回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類
第 11 回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第 12 回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第 13 回	広告効果測定	広告測定の様々な手法 【講話】 ブランドコンサルタントの仕事
第 14 回	グローバル広告と法務	グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらって準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり 1-2 時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

- 1) 授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容 (60%)
- 2) 最終回におけるレポート課題 (40%)

授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に 2~4 年生は入学以来オンラインが多くグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】

実務家の講話は、オンラインになるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline (in English)】

【Outline】 In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

【Goal】

1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.

【Grading criteria】

No final exam will be given.

1. reaction paper through group work in each class (60%)
2. final report assignment (40%)

No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.

Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

MAN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

原 宏敏

特殊講義選択_特殊講義 2~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。
※講義テーマ、順番、講義形態等変更可能性あり。

【到達目標】

- 金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- 「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- 自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- 野村グループ各講師による講義を進めていきます。
- 適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやり取りが発生することもあります。
- 感染症対策などにより、対面授業が困難な場合、オンライン（Zoom、Webex 等）によるリアルタイム非対面授業や教材並びに音声ファイルの提供によるオンデマンド型の授業となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「ガイダンス・経済情報の捉え方」	金融リテラシーを身につけることの重要性、本講座で学習する意義を理解する。我々の周りにおける様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。
第 2 回	「金融資本市場の役割とその変化」	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを学習し、金融市場の役割を理解する。
第 3 回	「債券市場の役割と投資の考え方」	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（=金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 4 回	「株式市場の役割と投資の考え方」	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について学習した後、株値の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 5 回	「投資信託の役割とその仕組み」	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第 6 回	「リスク・リターンとポートフォリオ分析」	「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習し、ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方について学習する。
第 7 回	「外国為替相場とその変動要因について」	「外国為替」の基礎知識と、外国為替レートの変動要因について学習する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 8 回	「グローバル化する世界と資本主義の果たす役割」	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第 9 回	「ライフプランニングと資産形成」	なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。
第 10 回	「公的年金制度について」	この講義では、公的年金制度の仕組みや制度などの基礎知識、年金制度を取り巻く変化や、改正への動きを学習する。年金制度を正しく理解し、さらに自助努力も続けることは、ライフプランの充実につながる。
第 11 回	「確定拠出年金（DC）について」	この講義では、比較的に新しい年金制度である「確定拠出年金」について詳しく学ぶ。加入者が増えている現状を把握しながら、「企業型」と「個人型」の違いや「運用の仕組み」また「税制メリット」などを学び、最後に、社会人になって実際に確定拠出年金を活用する際にイメージできるように、具体的な運用商品のラインアップの例も含めて学習する。
第 12 回	「DC ポートフォリオの作成」	この講義では確定拠出年金制度を活用するにおいて、学んだ知識を活かしながら、実際に拠出金をどのような資産の組み合わせとし、自身の年金ポートフォリオを構築するかを模擬練習も交えて考えていく。
第 13 回	「マネープランの作成」	この講義では、自らの『マネープランの作成』を通じ、全体の講義のまとめとしていく。自らの資金管理がとて大切な時代であり、皆さんがこれから社会人となるにあたり、特にしっかりと対応すべき課題と考えるべきだろう。主体的な模擬体験を通じ、この講義で得た知識を自らの将来に生かしていただきたい。
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第3版」

榊原茂樹、城下賢吾、姜喜永、福田司文、岡村秀夫著／有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点等 30 %

This course will be evaluated through:

- Term end examination : 70%.

- Participation and performance in classroom activities : 30%

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしております。

【学生が準備すべき機器他】

講義の1週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【その他の重要事項】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。

証券投資提案、ライフプランニング、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての事例を交えながら講義を行います。

【関連科目】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline (in English)】

Lecturers with abundant practical experience as Nomura Securities employees will explain the role of the financial and capital markets and important themes in securities investment in a relay format through 14 lectures.

ART300ZA

Advanced Topics in Contemporary Art

Utako Shindo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 6/Tue.6

その他属性 : 〈他〉〈優〉

[Outline and objectives]

Since the late 19th century we have witnessed a number of artistic movements from, what is considered, modern to contemporary: the birth of realism, impressionism, abstract expressionism, minimalism, the rise of conceptual art, installation, video and pop art, the extension into earth, body, public domain, the revival of painting, the exploration into photography, the shift to more participation and collaboration based art practices. Amidst all these transformations, how does art continue to remain inspirational and 'contemporary'? In which way, are we able to recognize and respond to truly creative works from personal, global and interdisciplinary perspectives? This course looks at various topics in Fine art and closely pay attentions to how an artwork exists in a certain milieu: time and space, and among all kinds of relationships. Artistic practices mainly in Europe, North America, Asia and also other areas across the globe will be examined.

[Goal]

You will learn to appreciate an artwork by 'listening' to voices of an artwork as well as an artist, becoming familiar with terms in art from the late modern to contemporary times.

You will understand how one can engage with an artwork respectfully and express her/his/their unique experience in writing and speech.

You will become active and discerning participants/viewers of art, equipped with basic knowledges of Fine Art and related theories.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

I will provide a referential material as a post on Google Classroom in prior to each class. In the class, we will read texts, watch video clips, look at lecture slides, to learn about the key terms, artistic backgrounds, a milieu of an artwork that will help us understand and engage with the work. We will also have a in-class exercise and the time for questions at the end. Unless your question involves something personal, please ask during this time. In addition, you are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the course (determined by the instructor). You will then make presentations and write their research papers. You will be also asked to explore your own creative possibility, inspired by the shared learnings and experiments, at the end of the course.

The feedbacks to the in-class exercises will be provided in the next class as well as through the google classroom as comments where students are asked to submit them.

The feedbacks to the assignments, the presentations, and the experiments will be provided through the google classroom as comments as well as in the class.

NOTE 1: Please be aware that some works shown in class may address controversial issues and may include nudity.

NOTE 2: The schedule and the content may change in response to the students' needs.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course: experiencing and understanding an artwork in time and space.
2	Modern to Contemporary	Romanticism, Impressionism, Cubism (William Turner, Gustave Courbet, Édouard Manet, Paul Cezanne, Pablo Picasso)
3	Modern Life and the Wars	Abstract Art, Symbolism, Surrealism, Bauhaus (Wassily Kandinsky, Joseph&Annie Albers, Edvard Munch, Paul Gauguin)
4	From Europe to America	Abstract Expressionism, Minimalism (Mark Rothko, Jackson Pollock, Ad Reinhardt, Frank Stella, Donald Judd, Agnes Martin)

5	Explosion of Medium	Post Minimalism, Video, Performance (Robert Rauschenberg, Vito Acconci, Fujiko Nakaya, John Cage, Marce Cunningham)
6	Institutional Critique	Conceptual Art, Dematerialization, Installation Art (Marcel Duchamp, Joseph Kosuth, Jiro Takamatsu, Micheal Asher)
7	Criticism of Social Norms	Queer Art, Pop Art, Art in Public (Yasumasa Morimura, Felix Gonzales-Torres, Andy Warhole, Barbara Kruger)
8	Impossibility of Representation	Counter Monument and Architecture (Rachel Whiteread, Isamu Noguchi, Daniel Libeskind)
9	Telling and sharing story	Relational Art, Participatory Art, Video Installation, (Rirkrit Tiravaniya, William Kentridge, Neshat Shirin)
10	Archive and Collective	Collection, Collaboration, Curation (Tino Sehgal, Koki Tanaka, Raqs Media Collective)
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Experimentation & Wrap-up	Experimentations for interdisciplinary and creative minds

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students need to keep up with the class materials (readings, videos and so forth) and to be prepared for class discussions and activities. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Readings will be made available on Hoppii or Google Classroom.

[References]

References will be made available on Hoppii or Google Classroom.

[Grading criteria]

Participation (30%) : Students will be expected to spend time with the referential materials (text and video clip) posted on Google Classroom for each class. Students will complete comment card (as part of In-class-exercise) and submit at the end of the class or 5pm on the next day. A self-guided field trip to one exhibition and the following presentation and paper: Each student is required to visit one of the exhibitions to be suggested by the instructor.

Short Presentation (20%) : Present the chosen work to class that you engage with during your self-guid museum/gallery visit. Project Paper (30%) : Write a paper, which is more than the written version of your presentation. Rather, it is a research paper and you will need to find and discuss an article on the artwork or the artist of your choice.

Experimentation (20%) : Students will experiment to connect a topic from the class to your interdisciplinary interest, to draw an idea for new art, and together to follow an instruction for making an artwork.

Experimentation (20%) : Students will experiment to connect a topic from the class to your interdisciplinary interest, to draw an idea for new art, and together to follow an instruction for making an artwork.

[Changes following student comments]

I have made the reaction comments due by 5pm on the next day. This will achieve equity especially for slow-writing students.

[Others]

Do not miss the first class as a selection process may occur.

[Prerequisite]

None.

HSS203LB

スポーツ方法論

阿部 成雄

配当年次/単位：2～4 年年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の身体やことに関する知識を深め、日常生活やスポーツ実践場面、スポーツ指導場面で活かすことを目的とする。

【到達目標】

- ・心身のトレーニングの理論について、理解を深める
- ・心身のコンディション調整について、理解を深める
- ・スポーツ実践者、指導者としての活動に役立てられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツでは心身の状態を理解し、コントロールすることが求められる。本授業では心身両面のトレーニング方法、コンディションに関する知識を獲得し、自身の身体やことへの理解につなげていく。そして、本授業で得た知識を自身の競技や指導場面に活かせるようになることを目指す。

各授業では講義および技法の実践、グループワークを行い、授業内容を深めていく。毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する。
2	体力とは	体力の定義、運動の心身への効果について学習する。
3	トレーニングの理論	トレーニングの種類やトレーニング理論の3原理5原則について学習する。
4	運動学習・練習方法	運動学習・練習方法について学習する。
5	トレーニング計画	トレーニング計画の重要性について理解し、自身のトレーニング計画を立てる。
6	メンタルトレーニングの基礎	メンタルトレーニングについて学習する。
7	心理テストの実施・解説	心理テストを実施し、自己理解を深める。
8	目標設定	目標設定について学習する。
9	リラクゼーション技法	リラクゼーション技法について学習する。
10	イメージ技法	イメージ技法について学習する。
11	スポーツと健康	スポーツと健康、メンタルヘルスについて学習する。
12	スポーツの指導	指導者に求められるスキルについて学習する。
13	スポーツ現場での応用	事例を通して、スポーツ現場での実践について検討する。

14 総括

授業のまとめ、期末レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度・リアクションシートが60%、(2) 期末レポートが40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で実施するアンケートの結果や授業の進捗により、講義内容に修正を加える場合もある。

【その他の重要事項】

グループワークを行いますので、協力的な態度で授業に出席してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire physical and psychological knowledge. The goals of this course are to understand them and use this in daily life, playing sport and coaching.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, in class contribution(including short report in each classes): 60%

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980 年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスの動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。授業内の小テストは学習支援システムを用いて行います。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第 2 回	スポーツの価値	なぜスポーツが目目されるか
第 3 回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第 4 回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第 5 回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第 6 回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第 7 回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第 8 回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第 9 回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第 10 回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第 11 回	スポーツマーケティングにおける S T P	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価

第 12 回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第 13 回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、スリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを读んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤眞・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
原田宗彦編「スポーツ産業論第 7 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 ― スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパーや小テスト等 70%、学期末試験 30%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静かな授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this course is to understand the basic theories of the sports business, which has developed in conjunction with the unique theories of sports marketing, based on the basic theories of marketing.

Learning Objectives

This course aims to understand (1) the relationship between marketing and sports marketing, (2) the characteristics of sports consumption from the perspective of consumer behavior theory, and (3) sports business strategies based on basic marketing theories.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. During the course period, students are expected to actively gather information by reading news and other media related to the sports business.

Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on 70% of reaction papers and quizzes collected at the end of class, and 30% of final examinations.

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次/単位：2～4 年年 / 2 単位

開講semester：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。

授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。

受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありませんが、人数多数の場合はスポーツビジネス論Ⅰの単位取得をしている者を優先します）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	スポーツマーケティングの使命	この授業における理論等を確認する
第3回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第4回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第5回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第6回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第7回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第8回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第9回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第10回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第11回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第12回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第13回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第14回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤眞・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房

仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版

原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、グループワークの参加状況 20%、プレゼンテーション 40%、学期末の課題 10%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

Discover the challenges posed by contemporary sports conditions and learn how sports business knowledge can be utilized to solve them.

Teams will be formed to make presentations (all students must participate in one of the teams), and each team will compete for proposals.

Students who have taken "Sports Business Theory I" in the spring semester are encouraged (but not required) to take this course.

Learning Objectives

To deepen understanding of various issues in the sports business

To be able to propose solutions to various problems in the sports business

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to class time, group members will be asked to meet together to gather information, discuss, and prepare presentations.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper 30%, group work participation 20%, presentation 40%, end-of-term assignment 10%.

HSS216LB

スポーツメディア論

小池 隆俊

配当年次／単位：2～4 年 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知ることが目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】

放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行う。ニュース記事やTV番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、コロナの感染状況などによりオンデマンドに変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション。受講生がおもにどのメディアでスポーツ観戦し、情報を得ているのかのアンケートを行う。
2 回	スポーツメディアの概観	新聞でスポーツが扱われ始めたのがおよそ 140 年前、ラジオスポーツ放送の始まりが 95 年前、テレビが主役となってからおよそ 70 年。そして 15 年ほど前からネット時代へ。メディアの変遷とそれぞれの現在地を概観する。
3 回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけでなくスポーツの主催者とも深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。

4 回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それは LIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメディアの中核となっていった放送メディアの歴史を見る。
5 回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、メディア企業、そしてスポンサー企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技のルール変更や、競技日程の変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
6 回	放映権高騰と OTT の登場	1984 年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やベイテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そして OTT の登場によりさらに激化の様相を呈している。
7 回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と発展の歩みを知ることにつながる。
8 回	スポーツ中継の仕組み	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などがあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考え方を解説する。
9 回	スポーツドキュメンタリーのさきがけ	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
10 回	スポーツドキュメンタリーの進化	テレビのスポーツドキュメンタリーはカメラの小型化により長期密着取材が可能になり、CG 技術などの発達で証言をデータで実証できるようにもなっている。証言・実証・密着といった要素を組み合わせて進化する番組の姿を最近の秀作から探る。
11 回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG 技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。変化の真ただ中にある現状を洞察する。
12 回	誰もがメディアになる時代	SNS で選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。

- 13 回 スポーツメディアの近未来 インターネットがメディアの中心となりつつある中、既存メディアのネット展開も急速に進展し、大融合時代を迎えている。また5Gの実用化で新たな映像技術が次々に開発され、その進歩は目覚ましい。メディアのこれからを探る。
- 14 回 授業全体のまとめとレポート提出 これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を整理し再確認する。課題として提示したりレポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してることが重要。準備学習・復習時間 2 時間をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司 創文企画
「現代スポーツ評論 2・4 1」清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

各授業内での小テストもしくはレポート 50 %。
学期末レポート課題 50 %。両方の内容を総合的に判断して評価する。
レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に則した秀作番組の視聴が好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用できるスマートフォンもしくはパソコン・タブレットを持参すること。

【その他の重要事項】

講師の 40 年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動を基にしてメディア論を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

【Learning Objectives】 This course is designed to help students learn to become able to: 1. Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers. 2. Analyze the ever-changing media situation in one's own way.

【Learning activities outside of classroom】 Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention. Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.

【Grading Criteria/Policy】 Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

HSS218LB

アスリートキャリア論

荒井 弘和

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートの多様なキャリアに触れて学び、自らのキャリアについて考える。

【到達目標】

- ①アスリートである前に一人の人間（社会人）であることを認識し、自分の言葉で説明することができる。
- ②自らの手でキャリアをつくり上げようとするキャリアオーナーシップを身につけ、発揮することができる。
- ③文武不岐に根差したデュアルキャリアの考え方に基づいてキャリア形成（自己実現）を図ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

本学体育会の出身者をはじめ、学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方（ゲストスピーカー）を招いて講義を行う。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、アスリートと自らのキャリアを考えていく。その際、リアクションペーパーなどから寄せられた示唆に富むコメントを授業内で紹介し、議論や理解を深めることに活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要を解説し、単位認定の基準や受講にあたっての心得などを伝達する。
第 2 回	招聘講義：教育①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 3 回	招聘講義：教育②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 4 回	招聘講義：アスリート	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 5 回	招聘講義：コーチ	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 6 回	招聘講義：製造	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 7 回	招聘講義：保険	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 8 回	招聘講義：IT ①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。

第 9 回	招聘講義：IT ②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 10 回	招聘講義：医療	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 11 回	招聘講義：報道	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 12 回	招聘講義：建設	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 13 回	招聘講義：金融	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第 14 回	まとめ	この科目で学んだ内容を総括して、期末レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマについて事前に調べ、論点を考えた上で授業に臨む。また、授業で学んだことを自分なりに調べ、考えることで学びを深めていくこと。この科目の準備・復習時間は、1 回につき 4 時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を前提条件として、「毎回の授業レポート」を 70%、「期末レポート」を 30% の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が担当元年となるが、受講者が少しでもアスリートや自らのキャリアに興味をもち、計画的にキャリア形成を進めていくことの重要性を理解してもらえような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがある。

【Outline (in English)】

This course focuses on learning about athletes' careers. The goal of this course is to design and build my own career systematically. Students will be expected to spend four hours understanding the course content for the next class. Grading will be decided based on discussion reports (70%) and the class's quality of the term-end report (30%).

HSS203LB

スポーツ方法論

佐藤 祐輔

配当年次/単位：2~4年 年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおいてより高いパフォーマンスを発揮するためには、アスリート自身がスポーツ障害・外傷への対応や身体コンディショニング方法を身につけることが重要である。本講義では、スポーツで好発する各関節の障害・外傷におけるリスク因子やメカニズムを学び、受傷直後から復帰までのコンディショニングやトレーニング方法および予防方法を身につける。つまり、アスリート自身が障害・外傷からの復帰過程や障害・外傷の発生を予防する過程を学習し、セルフマネジメント能力を養うことが本講義の到達目標である。

【到達目標】

- ・自らのスポーツにおいて好発する障害・外傷に関する理解を深める。
- ・急性期のスポーツ障害・外傷の対処法に関する理解を深める。
- ・スポーツ障害・外傷からの復帰または発生を予防するためのコンディショニングやトレーニング方法に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、スポーツ障害・外傷に関する受傷シーンやケガのメカニズムに関するスライドや動画を閲覧する。次に、そのスポーツ障害・外傷の予防に必要なトレーニング&コンディショニングを学ぶ。最後にグループディスカッションにより、該当するスポーツ障害・外傷への対処方法を議論し、発表およびフィードバックする。毎回、授業の終わりに、授業内で学んだ内容に関する簡易的な筆記テストを行い、筆記テストの解答用紙とリアクションペーパーを提出する。なお、基本的に講義は現地にて行うが、現在の世間情勢を踏まえてオンラインでの講義に変更する場合もある。その場合は改めて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する。
2	脳しんとうのメカニズムと予防法	脳しんとうに関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
3	脳しんとう後の症状と復帰までの対処法	脳しんとうに関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。
4	前十字靭帯損傷のメカニズムと予防法	前十字靭帯損傷に関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
5	前十字靭帯損傷後の症状と復帰までの対処法	前十字靭帯損傷に関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。

6	肩関節脱臼のメカニズムと予防法	肩関節脱臼に関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
7	肩関節脱臼後の症状と復帰までの対処法	肩関節脱臼に関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。
8	肘内側副靭帯損傷のメカニズムと予防法	肘内側副靭帯損傷に関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
9	肘内側副靭帯損傷後の症状と復帰までの対処法	肘内側副靭帯損傷に関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。
10	足関節内反捻挫のメカニズムと予防法	足関節内反捻挫に関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
11	足関節内反捻挫後の症状と復帰までの対処法	足関節内反捻挫に関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。
12	腰椎椎間板ヘルニアのメカニズムと予防法	腰椎椎間板ヘルニアに関する基礎的な知識とその予防法について学習し、共有する。
13	腰椎椎間板ヘルニア後の症状と復帰までの対処法	腰椎椎間板ヘルニアに関する症状と復帰までのプロセスについて学習し、共有する。
14	自身の競技に活かすトレーニング・コンディショニング法のプレゼンテーション	全授業を通して、自身の競技において実践したいコンディショニング法のプレゼンテーションを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。アクティブラーニングの際には必要に応じて準備する。加えて、スポーツに携わるものとして、しっかりと健康管理を行なうこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- ・スポーツ医学検定公式テキスト 2級・3級 東洋館出版社
- ・スポーツ医学検定公式テキスト 1級 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

1) 授業への参画状況・授業態度：60% 2) 課題・期末レポートの内容：40%
授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含める。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待する。
簡易テスト・期末レポートについて：毎授業の終わりに簡易的なテストを実施する。期末レポート提出は締切期限厳守の上、点数は非公開とする。
なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

【学生が準備すべき機器他】

身体を動かす実習をする場合がある。その際には運動着および室内履きを用意して貰う。授業内で実習の日は指示をする。

【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

<< 受講について >>

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論Ⅰ」となります。

【Outline (in English)】

In order to show maximum performance in sports, it is important for athletes themselves to cope with sports injuries/trauma and to learn how to condition their bodies. The aim of this course is to help students acquire prevention methods and conditioning, training methods from immediately after an injury to returning. The goals of this course are that athletes themselves learn the process of recovering from injuries/trauma, preventing injuries/trauma, and enhancing self-management skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class participation and in class contributio: 60%. Short reports : 40%.

HSS209LB

リーダーシップ論 I

浅井 玲子

配当年次/単位：2～4 年 年 / 2 単位

開講semester：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

課題は Hoppii を通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。

情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れ
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学ぶこと、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点

8	【特別講義】 リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範 ・場の理論
12	リーダーシップとチームビルディング②	・タックマンモデル ・心理的安全性
13	総括	リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各 10 点とし、提出回数および内容によって評価します。

B. 最終授業におけるレポート… 100 点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ 50 % ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることにより気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は Hoppii を通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの Hoppii にアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

なお、本授業は、多摩キャンパス開講分（火曜日 1 限）のみ公開科目になっています。市ヶ谷キャンパス開講分（水曜日 1 限）に関しては、SSI 生のみ履修可能となります。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS210LB

リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4 年 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考えます。

リーダーシップについて心理学的観点から理解を深め、「シェアードリーダーシップ」について、講義やワークなどの体験を通じて学びます。

リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

【到達目標】

・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める

・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する
・所属する組織において、自身のリーダーシップを活かす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことを記入し、毎回提出をします。

各回の課題提出は Hoppii を通じて行い、採点后、適宜履修生へ返却します。

授業内で取り組む課題の成果と合わせて、最終授業において、論述形式の授業内試験を行い、評価に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究①】 リーダーシップ論Ⅰのおさらい	・リーダーシップとは ・リーダーシップ理論の変遷
3	【リーダーシップに関する研究②】	・組織が変わるためのリーダーの行動
4	【リーダーシップに関する研究③】	・PM リーダーシップ理論
5	【リーダーシップに関する研究】 4つのリーダーシップ	・4つのリーダーシップスタイル
6	【リーダーシップと関係性】 関係性リーダーシップについて	・関係性リーダーシップとは

7	【リーダーシップと自己理解】 セルフリーダーシップの発見、開発	・自己の価値、役割について考える ・
8	【リーダーシップとマネジメント】	・変化について ・リーダーシップとマネジメント
9	【リーダーシップと価値観】	・アドラーの理論 ・価値観について（実習）
10	【リーダーシップに関するスキル】	・5つの「なぜ」 ・ネガティブとポジティブ
11	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	・スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 （外部講師招聘予定）
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフポディション
13	まとめ①	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	まとめ②	論述形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

特にありません。

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の達成度や参加姿勢を重視します。

授業参加状況と毎回の提出物（50%）、最終講義での論述形式の試験（50%）によって総合的に成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

自分自身のチームに持ち帰り、活用したいという意見が多かったことを受けて、より活用しやすい内容を目指します。

本年度も様々な履修生の考えに触れ学びあうことができる環境を整えるように努力します。

所属が異なる履修生とグループワークを実施することによって、新たな視点からチームを振り返る機会を得たという感想が多かったので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii にアクセスできる機器

【その他の重要事項】

・各回の授業順序は情勢により変更する場合があります。その際には事前にお知らせします。

・各回課題は、Hoppii を通じて提出します。

・外部講師招聘などについては情勢を鑑みて行わない可能性があります。その場合にも事前にお知らせします。

・忌引き、感染症、競技における試合の為の欠席等については、分かり次第速やかにメールにて担当教員に提出し指示を受けてください。

・リーダーシップ論Ⅰで扱う内容を習得後に履修することが望ましいですが、履修に関してこの点における制限はありません。

★ 公欠届など欠席に関する資料はメールのみで受理します。

【Outline (in English)】

This course introduces the psychological theories on leadership, and also consider about shared leadership. The work of the course is done via lecture and group works.

【Goal】

The goals of this course are to

・ Obtain knowledge about leadership

・ Practice individual ideal leadership style in your team

【Grading criteria】

Your final grade will be calculated according to the following process:

・ Short report in classes: 50%

・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this class is two hours. This class covers a variety of issues related to sports and leadership. You will also have the opportunity to be asked questions about your ideal leadership style. In that sense, I expect students to actively collect various information outside of class.

HSS218LB

アスリートキャリア論

伊藤 真紀

配当年次/単位：2～4年 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

招聘講師のアスリートの多様なキャリアに関する講義を聞き、日本のスポーツ界の現状を理解し、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランについて考える。

【到達目標】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。

講義を通じて、自分のキャリアをイメージし、キャリアプランを立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方（ゲストスピーカー）を招いて講義を行う。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、自らのキャリアを考えていく。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかを学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概要の説明（全体）	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。
2	招聘講義：コーチ①	講師（ゲストスピーカー）のコーチングの仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
3	招聘講義：医療	講師（ゲストスピーカー）の医療の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
4	招聘講義：公務員①	講師（ゲストスピーカー）の公務員の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
5	招聘講義：公務員②	講師（ゲストスピーカー）の公務員の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
6	招聘講義：スポーツ組織①	講師（ゲストスピーカー）のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。

7	招聘講義：スポーツ組織②	講師（ゲストスピーカー）のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
8	招聘講義：スポーツチーム①	講師（ゲストスピーカー）のスポーツチームにおける仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
9	招聘講義：スポーツチーム②	講師（ゲストスピーカー）のスポーツチームにおける仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
10	招聘講義：保険	講師（ゲストスピーカー）の保険企業における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようにする。
11	招聘講義：教育	講師（ゲストスピーカー）の教育に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようにする。
12	招聘講義：航空	講師（ゲストスピーカー）の航空会社に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようにする。
13	招聘講義：商社	講師（ゲストスピーカー）の商社に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようにする。
14	総括	講義のまとめ：この授業を通して学んだこと、これからのキャリアプランにどのように生かしていきたいかを期末レポートとしてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で学んだこと、感じたことを復習してください。予習として、次回の講師の仕事や経歴について調べておくようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の授業レポート（講義の感想並びに自身の意見をまとめる。）70%

②最終レポート 30%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度が担当元年となるが、受講者が少しでもアスリートや自らのキャリアに興味をもち、これからのキャリア形成を計画的に進めるための有意義な機会となるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業を通して、講義を聞くだけではなく、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがある。

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Athletes will be invited to give lectures on their diverse careers to help students understand the current state of the Japanese sports world. Students will be trained to create a career plan based on what they learn during their university years and how they will connect what they learn to their careers after graduation.

Learning activities outside of classroom

Review what you have learned in each lecture. As a preparation, try to find out about the career and backgrounds of the next lecturers.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on

- ① Every class report (summarize your impressions of the lecture and your own opinions) 70%
- ② Final report 30%

Total: 100%

HSS216LB

スポーツメディア論

小池 隆俊

配当年次／単位：2～4年 年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知ることが目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】

放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行う。ニュース記事やTV番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、コロナの感染状況などによりオンデマンドに変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション。受講生がおもにどのメディアでスポーツ観戦し、情報を得ているのかのアンケートを行う。
2回	スポーツメディアの概観	新聞でスポーツが扱われ始めたのがおよそ140年前、ラジオスポーツ放送の始まりが95年前、テレビが主役となってからおよそ70年。そして15年ほど前からネット時代へ。メディアの変遷とそれぞれの現在地を概観する。
3回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけでなくスポーツの主催者とも深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。

4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはLIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメディアの中核となっていった放送メディアの歴史を見る。
5回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、メディア企業、そしてスポンサー企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技のルール変更や、競技日程の変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
6回	放映権高騰とOTTの登場	1984年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やペイテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そしてOTTの登場によりさらに激化の様相を呈している。
7回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と進展の歩みを知ることにつながる。
8回	スポーツ中継の仕組み	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などがあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考えなどを解説する。
9回	スポーツドキュメンタリーのさきがけ	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
10回	スポーツドキュメンタリーの進化	テレビのスポーツドキュメンタリーはカメラの小型化により長期密着取材が可能になり、CG技術などの発達で証言をデータで実証できるようにもなっている。証言・実証・密着といった要素を組み合わせて進化する番組の姿を最近の秀作から探る。
11回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。この変化の真ただ中にある現状を洞察する。
12回	誰もがメディアになる時代	SNSで選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。

- 13 回 スポーツメディアの近 未来 インターネットがメディアの中心となりつつある中、既存メディアのネット展開も急速に進展し、大融合時代を迎えている。また5Gの実用化で新たな映像技術が次々に開発され、その進歩は目覚ましい。メディアのこれからを探る。
- 14 回 授業全体のまとめとリポート提出 これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を整理し再確認する。課題として提示したりレポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してることが重要。準備学習・復習時間 2 時間をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特にありません

【参考書】

「21 世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司 創文企画
「現代スポーツ評論 2・4 1」清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

各授業内での小テストもしくはレポート 50%。
学期末レポート課題 50 %。両方の内容を総合的に判断して評価する。
レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に則した秀作番組の視聴が好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用できるスマートフォンもしくはパソコン・タブレットを持参すること。

【その他の重要事項】

講師の 40 年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動を基にしてメディア論を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

【Learning Objectives】 This course is designed to help students learn to become able to: 1. Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers. 2. Analyze the ever-changing media situation in one's own way.

【Learning activities outside of classroom】 Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention. Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.

【Grading Criteria/Policy】 Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発表	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）

11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項
 - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
 - (2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
 - (3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
 - (4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
 - (5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
 - (6) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表しているんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

Final grading will be decided based on term-end report (100%).

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。

10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は今回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

(6) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表している人意見を開けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

Final grading will be decided based on term-end report (100%).

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。
2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
 (B) 技術者倫理
 (C) 工学基礎学力
 (D) 専門基礎学力
 (E) 専門知識の活用・応用能力
 (F) 総合デザイン能力 25%
 (G) コミュニケーション能力 25%
 (H) 継続的学習能力 25%
 (I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
 デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスワード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介いたします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
 フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション

P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』
ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点 90 %）、平常点（配点 10 %）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
4. 提出期間：第 14 回授業日の午前 10 時 30 分から翌週水曜日の午前 10 時 30 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

(6) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1 つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表しているような意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

Final grading will be decided based on term-end report (100%).

ECN100NA

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれます。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求されます。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験は、多岐選択・正誤などの記号選択の形式を予定しています。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 45%
 (B) 技術者倫理 30%
 (C) 工学基礎学力
 (D) 専門基礎学力
 (E) 専門知識の活用・応用能力
 (F) 総合デザイン能力 25%
 (G) コミュニケーション能力
 (H) 継続的学習能力
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。イントロダクション。
2	消費者理論 1	満足度、効用最大化について学ぶ。
3	消費者理論 2	最適消費計画、限界分析、ラグランジュ関数について学ぶ。
4	生産者理論 1	企業とは何か？ 利潤最大化問題について学ぶ。
5	生産者理論 2	生産関数と費用関数、損益分岐価格と操業停止価格について学ぶ。
6	市場均衡理論	完全競争市場における需要と供給を考える。消費者余剰、生産者余剰、総余剰について学ぶ。
7	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
8	ゲーム理論 1	なぜゲーム理論が必要なのか、土地ゲーム、囚人のジレンマについて学ぶ。
9	ゲーム理論 2	ゲーム理論の考え方について学ぶ。
10	ゲーム理論 3	同時手番ゲームと逐次手番ゲームの解け方を学ぶ。
11	情報の経済学とオークション	不確実性問題、期待効用理論、モラル・ハザード、アドバース・セレクションについて学ぶ。
12	マクロ経済学の基礎 1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学ぶ。
13	マクロ経済学の基礎 2	価格指数、バブル、信用乗数について学ぶ。
14	マクロ経済学モデル、IS-LM モデル	IS-LM モデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の予習と復習が必要。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や演習問題には目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1～2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

宿題 2 回：50%

期末試験：50%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントで講義を進めるが、コロナなどの感染症の状況によっては、オンライン授業（zoom）での講義を行うため各自で PC またはスマホなどの IT 環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

2023 年度の授業も秋学期になりました。

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

【Outline (in English)】

This "Economics" course, based primarily on microeconomics and macroeconomics, will help students understand the basic principles and concepts of modern economics, learn how to allocate resources efficiently, and understand the concept of human economic behavior through the lens of economics. Specific topics covered include consumer behavior, corporate production behavior, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policy. The goal of this course is to enhance students' analytical and thinking skills by familiarizing them with elementary algebra, analysis, and other analytical tools that are essential to the study of modern economics. Therefore, the course avoids historical approaches and ideological discussions, and instead focuses on understanding "economic models" and their application to solving realistic microeconomic problems. Those who lack a solid foundation in reading, writing, and basic mathematics (character equations, linear equations, quadratic equations, linear functions, quadratic functions, and calculus) will be required to make independent efforts to compensate for their weaknesses. In order to improve comprehension, students will be required to practice problems rather than attend one-way lectures. The mid-term and final examinations will be in the form of multiple-choice, correct/incorrect, and other symbolic choices.

ECN100NA

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原則と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれます。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求されます。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験は、多岐選択・正誤などの記号選択の形式を予定しています。力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験では、多岐選択・正誤問題など記号選択中心の試験となる予定です。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えると何かを解説する。イントロダクション。
2	消費者理論1	満足度、効用最大化について学ぶ。
3	消費者理論2	最適消費計画、限界分析、ラグランジュ関数について学ぶ。
4	生産者理論1	企業とは何か？ 利潤最大化問題について学ぶ。

5	生産者理論2	生産関数と費用関数、損益分岐価格と操業停止価格について学ぶ。
6	市場均衡理論	完全競争市場における需要と供給を考える。消費者余剰、生産者余剰、総余剰について学ぶ。
7	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
8	ゲーム理論1	なぜゲーム理論が必要なのか、土地ゲーム、囚人のジレンマについて学ぶ。
9	ゲーム理論2	ゲーム理論の考え方について学ぶ。
10	ゲーム理論3	同時手番ゲームと逐次手番ゲームの解け方を学ぶ。
11	情報の経済学とオークション	不確実性問題、期待効用理論、モラル・ハザード、アドバース・セレクションについて学ぶ。
12	マクロ経済学の基礎1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学ぶ。
13	マクロ経済学の基礎2	価格指数、バブル、信用乗数について学ぶ。
14	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の予習と復習が必要。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や演習問題には目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各1~2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

宿題2回：50%
期末試験：50%
合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用する。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

2023年度の授業も秋学期になりました。シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。対面授業で行う予定です。

【Outline (in English)】

This "Economics" course, based primarily on microeconomics and macroeconomics, will help students understand the basic principles and concepts of modern economics, learn how to allocate resources efficiently, and understand the concept of human economic behavior through the lens of economics. Specific topics covered include consumer behavior, corporate production behavior, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policy. The goal of this course is to enhance students' analytical and thinking skills by familiarizing them with elementary algebra, analysis, and other analytical tools that are essential to the study of modern economics. Therefore, the course avoids historical approaches and ideological discussions, and instead focuses on understanding "economic models" and their application to solving realistic microeconomic problems. Those who lack a solid foundation in reading, writing, and basic mathematics (character equations, linear equations, quadratic equations, linear functions, quadratic functions, and calculus) will be required to make independent efforts to compensate for their weaknesses. In order to improve comprehension, students will be required to practice problems rather than attend one-way lectures. The mid-term and final examinations will be in the form of multiple-choice, correct/incorrect, and other symbolic choices.

ECN100NA

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原則と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれます。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求されます。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験は、多岐選択・正誤などの記号選択の形式を予定しています。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○			◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えると何かを解説する。イントロダクション。
2	消費者理論1	満足度、効用最大化について学ぶ。
3	消費者理論2	最適消費計画、限界分析、ラグランジュ関数について学ぶ。

4	生産者理論1	企業とは何か？ 利潤最大化問題について学ぶ。
5	生産者理論2	生産関数と費用関数、損益分岐価格と操業停止価格について学ぶ。
6	市場均衡理論	完全競争市場における需要と供給を考える。消費者余剰、生産者余剰、総余剰について学ぶ。
7	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
8	ゲーム理論1	なぜゲーム理論が必要なのか、土地ゲーム、囚人のジレンマについて学ぶ。
9	ゲーム理論2	ゲーム理論の考え方について学ぶ。
10	ゲーム理論3	同時手番ゲームと逐次手番ゲームの解け方を学ぶ。
11	情報の経済学とオークション	不確実性問題、期待効用理論、モラル・ハザード、アドバース・セレクションについて学ぶ。
12	マクロ経済学の基礎1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学ぶ。
13	マクロ経済学の基礎2	価格指数、バブル、信用乗数について学ぶ。
14	マクロ経済学モデル、IS-LM モデル	IS-LM モデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の予習と復習が必要。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や演習問題には目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各1~2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

宿題2回：50 %
期末試験：50 %
合計：100 %

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用する。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

2023年度の授業も秋学期になりました。シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。対面授業で行う予定です。

【Outline (in English)】

This "Economics" course, based primarily on microeconomics and macroeconomics, will help students understand the basic principles and concepts of modern economics, learn how to allocate resources efficiently, and understand the concept of human economic behavior through the lens of economics. Specific topics covered include consumer behavior, corporate production behavior, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policy. The goal of this course is to enhance students' analytical and thinking skills by familiarizing them with elementary algebra, analysis, and other analytical tools that are essential to the study of modern economics. Therefore, the course avoids historical approaches and ideological discussions, and instead focuses on understanding "economic models" and their application to solving realistic microeconomic problems. Those who lack a solid foundation in reading, writing, and basic mathematics (character equations, linear equations, quadratic equations, linear functions, quadratic functions, and calculus) will be required to make independent efforts to compensate for their weaknesses. In order to improve comprehension, students will be required to practice problems rather than attend one-way lectures. The mid-term and final examinations will be in the form of multiple-choice, correct/incorrect, and other symbolic choices.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー

第4回 PDCA と BSC

経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC

第5回 経営と戦略、人材育成、マーケティング

経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造

第6回 経営と財務1

財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴

第7回 経営と財務2

財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー

第8回 経営と情報技術

情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用

第9回 経営と法律、知財

ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン発想と実行／実装

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義

事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・友人実行、発想法／ブレインマップの特徴

第12回 価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 演習2、ブレインマップを活用した友人実行

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCA と BSC について教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社、2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点(第5版)』文眞堂, 2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂,
2022年。

境新一(編著)、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井
真美(著)

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社, 2020年。
『日経 業界地図2022年版』日本経済新聞社, 2021年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度(演習を含む)20% 期中レポート40% 期
末試験または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期
末試験/期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表
します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として、各
テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが、期中レポート(小課題2回)、期末レ
ポート、演習も交えて行います。毎回、学習支援システムに講義資
料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル(PDF)を
ダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー

第4回 PDCA と BSC

経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC

第5回 経営と戦略、人材育成、マーケティング

経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造

第6回 経営と財務1

財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴

第7回 経営と財務2

財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー

第8回 経営と情報技術

情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用

第9回 経営と法律、知財

ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン発想と実行／実装

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義

事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・友人実行、発想法／ブレインマップの特徴

第12回 価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 演習2、ブレインマップを活用した友人実行

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCA と BSC について教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社、2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点(第5版)』文眞堂, 2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂,
2022年。

境新一(編著)、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井
真美(著)

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社, 2020年。
『日経 業界地図2022年版』日本経済新聞社, 2021年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度(演習を含む)20% 期中レポート40% 期
末試験または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期
末試験/期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表
します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として、各
テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが、期中レポート(小課題2回)、期末レ
ポート、演習も交えて行います。毎回、学習支援システムに講義資
料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル(PDF)を
ダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー

第4回 PDCA と BSC

経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC

第5回 経営と戦略、人材育成、マーケティング

経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造

第6回 経営と財務1

財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴

第7回 経営と財務2

財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー

第8回 経営と情報技術

情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用

第9回 経営と法律、知財

ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン発想と実行／実装

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義

事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・友人実行、発想法／ブレインマップの特徴

第12回 価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 演習2、ブレインマップを活用した友人実行

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCA と BSC について教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社、2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点(第5版)』文眞堂, 2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂,
2022年。

境新一(編著)、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井
真美(著)

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社, 2020年。
『日経 業界地図2022年版』日本経済新聞社, 2021年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度(演習を含む)20% 期中レポート40% 期
末試験または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期
末試験/期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表
します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として、各
テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが、期中レポート(小課題2回)、期末レ
ポート、演習も交えて行います。毎回、学習支援システムに講義資
料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル(PDF)を
ダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

【learning goal】

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

【Learning activities outside the classroom】

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

【learning goal】

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

【Learning activities outside the classroom】

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

【learning goal】

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

【Learning activities outside the classroom】

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているのか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を 6 回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で 6 回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマと講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6 回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 6 名の講師を選定し招聘している。2021 年度よりデザイン工学部 3 学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

公共経営戦略（2023年度以降入学生）

平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・ 公共政策とは？ ・ 講師陣の自己紹介・経験談 ・ 生徒との意見交換
第 2 回	インフラストラクチャー計画全般 (新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します)	・ インフラストラクチャー計画のアウトライン ・ 社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・ 需要予測・経済評価・財務評価 ・ 事業スキーム・財源の調達 (講義&グループディスカッション)
第 3 回	インフラストラクチャー事業の構想 (どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところ)	・ インフラストラクチャー構想の動機 ・ 構想実現の推進 ・ 構想の挫折 (講義&グループディスカッション)
第 4 回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 (これからはインフラの運営・維持管理の時代です)	・ インフラストラクチャー施設の維持管理 ・ 維持更新投資 ・ インフラストラクチャー事業の運営 ・ 更新と除却 (講義&グループディスカッション)
第 5 回	インフラストラクチャー事業の海外展開 (インフラによる海外への貢献について解説します)	・ 途上国への開発援助 ・ 海外インフラストラクチャービジネス ・ 課題解決先進国・日本としての貢献 (講義&グループディスカッション)
第 6 回	公共事業評価	・ 公共事業評価の現状 ・ 費用便益分析の基礎
第 7 回	社会インフラにおける官民連携 (Public Private Partnership)	・ 官民連携の概念 ・ 公共事業と官民連携 ・ PFI ・ その他の官民連携手法
第 8 回	市民合意形成	・ 市民合意形成の概念 ・ コミュニケーションの理論とスキル

第 9 回	海外プロジェクト	・ 海外プロジェクトの種類 ・ 事例紹介
第 10 回	公共施設マネジメント	・ 公共施設のマネジメント計画 ・ 公共施設の統合・再配置計画 ・ デジタル都市マネジメント
第 11 回	ライフサイクルコスト算定 (講義・演習)	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法
第 12 回	ライフサイクルコスト算定 (グループ学習)	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法
第 13 回	i-Construction、インフラ DX	・ 建設分野への ICT、DX 導入政策 ・ 国および民間企業の取組
第 14 回	アセットマネジメント概論	・ インフラの老朽化の現状と対策 ・ アセットマネジメントの導入 ・ 国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

合意形成論—総論賛成・各論反対のジレンマ(土木学会誌叢書)
国土交通白書 (<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>)

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%

※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

公共経営戦略（2023年度以降入学生）

平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・ 公共政策とは？ ・ 講師陣の自己紹介・経験談 ・ 生徒との意見交換
第 2 回	インフラストラクチャー計画全般（新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・ インフラストラクチャー計画のアウトライン ・ 社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・ 需要予測・経済評価・財務評価 ・ 事業スキーム・財源の調達（講義&グループディスカッション）
第 3 回	インフラストラクチャー事業の構想（どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところですか）	・ インフラストラクチャー構想の動機 ・ 構想実現の推進 ・ 構想の挫折（講義&グループディスカッション）
第 4 回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用（これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・ インフラストラクチャー施設の維持管理 ・ 維持更新投資 ・ インフラストラクチャー事業の運営 ・ 更新と除却（講義&グループディスカッション）
第 5 回	インフラストラクチャー事業の海外展開（インフラによる海外への貢献について解説します）	・ 途上国への開発援助 ・ 海外インフラストラクチャービジネス ・ 課題解決先進国・日本としての貢献（講義&グループディスカッション）
第 6 回	公共事業評価	・ 公共事業評価の現状 ・ 費用便益分析の基礎
第 7 回	社会インフラにおける官民連携（Public Private Partnership）	・ 官民連携の概念 ・ 公共事業と官民連携 ・ PFI ・ その他の官民連携手法
第 8 回	市民合意形成	・ 市民合意形成の概念 ・ コミュニケーションの理論とスキル

第 9 回	海外プロジェクト	・ 海外プロジェクトの種類 ・ 事例紹介
第 10 回	公共施設マネジメント	・ 公共施設のマネジメント計画 ・ 公共施設の統合・再配置計画 ・ デジタル都市マネジメント
第 11 回	ライフサイクルコスト算定（講義・演習）	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法
第 12 回	ライフサイクルコスト算定（グループ学習）	・ ライフサイクルコスト算定目的 ・ ライフサイクルコストの算定方法
第 13 回	i-Construction、インフラ DX	・ 建設分野への ICT、DX 導入政策 ・ 国および民間企業の取組
第 14 回	アセットマネジメント概論	・ インフラの老朽化の現状と対策 ・ アセットマネジメントの導入 ・ 国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

合意形成論—総論賛成・各論反対のジレンマ（土木学会誌叢書）
国土交通白書（<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>）

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

公共経営戦略（2023年度以降入学生）

平石 和昭、由利 昌平、大熊 修司、矢嶋 宏光、松永 久、竹末 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会インフラに関する様々な政策やその進め方を事例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】

社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・ 公共政策とは？ ・ 講師陣の自己紹介・経験談 ・ 生徒との意見交換
第 2 回	インフラストラクチャー計画全般 (新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します)	・ インフラストラクチャー計画のアウトライン ・ 社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・ 需要予測・経済評価・財務評価 ・ 事業スキーム・財源の調達 (講義&グループディスカッション)
第 3 回	インフラストラクチャー事業の構想 (どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところ)	・ インフラストラクチャー構想の動機 ・ 構想実現の推進 ・ 構想の挫折 (講義&グループディスカッション)
第 4 回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 (これからはインフラの運営・維持管理の時代です)	・ インフラストラクチャー施設の維持管理 ・ 維持更新投資 ・ インフラストラクチャー事業の運営 ・ 更新と除却 (講義&グループディスカッション)
第 5 回	インフラストラクチャー事業の海外展開 (インフラによる海外への貢献について解説します)	・ 途上国への開発援助 ・ 海外インフラストラクチャービジネス ・ 課題解決先進国・日本としての貢献 (講義&グループディスカッション)
第 6 回	公共事業評価	・ 公共事業評価の現状 ・ 費用便益分析の基礎
第 7 回	社会インフラにおける官民連携 (Public Private Partnership)	・ 官民連携の概念 ・ 公共事業と官民連携 ・ PFI ・ その他の官民連携手法
第 8 回	市民合意形成	・ 市民合意形成の概念 ・ コミュニケーションの理論とスキル

第 9 回 海外プロジェクト ・ 海外プロジェクトの種類
・ 事例紹介

第 10 回 公共施設マネジメント ・ 公共施設のマネジメント計画
・ 公共施設の統合・再配置計画
・ デジタル都市マネジメント

第 11 回 ライフサイクルコスト算定 (講義・演習) ・ ライフサイクルコスト算定目的
・ ライフサイクルコストの算定方法

第 12 回 ライフサイクルコスト算定 (グループ学習) ・ ライフサイクルコスト算定目的
・ ライフサイクルコストの算定方法

第 13 回 i-Construction、インフラ DX ・ 建設分野への ICT、DX 導入政策

第 14 回 アセットマネジメント概論 ・ 国および民間企業の取組
・ インフラの老朽化の現状と対策
・ アセットマネジメントの導入
・ 国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

合意形成論—総論賛成・各論反対のジレンマ(土木学会誌叢書)
国土交通白書 (<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>)

【成績評価の方法と基準】

最終レポート：80%、講義への積極的参加度：20%

※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.

Grade evaluation: Reports 80% + Activities 20% = 100%.

Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが普段接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方のきっかけとなる入門的な内容の講義となります。特に、21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。

「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」の2つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部

「近現代の芸術史と理論」では、芸術について学ぶ上での基礎となる18世紀から21世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

第二部

「現代社会の課題と芸術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解すること、私たちの周辺にある身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会と美術について 講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近現代美術の歴史と理論 1 近代美術の誕生（古典主義、ロマン派、写実主義、印象派）	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が落とされました。その頃に起こった古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派の芸術は、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では近代社会の変化を参照しながら、これらの芸術運動について学んでいきます。
第3回	近現代美術の歴史と理論 2 アバンギャルドの時代 I（フォービズム、表現主義、キュビズム）	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッホ、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
第4回	近現代美術の歴史と理論 3 アバンギャルドの時代 II（未来派、ダダイズム、シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス）	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
第5回	ワークショップ 1 遠近法	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の講義内容の確認をします。
第6回	近現代美術の歴史と理論 4 戦後アメリカ美術（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート）	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・リアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第7回	近現代美術の歴史と理論 5 1960年代 市民運動と新しい動向（ミニマル、コンセプチュアルアート、ハプニング、パフォーマンスアート）	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。

- 第8回 近現代美術の歴史と理論 6
多文化の時代（ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート）
- 第9回 ワークショップ 2
新しい時代の芸術表現
- 第10回 現代社会の課題と美術 1
政治への課題
- 第11回 現代社会の課題と美術 2
ジェンダーとアート
- 第12回 現代社会の課題と美術 3
環境問題と美術
- 第13回 現代社会の課題と美術 4
感染症パンデミックの時代
- 第14回 ワークショップ 3
現代社会と芸術表現

1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist /リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

戦後アメリカ美術、60年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。

第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争など、プロパガンダ、社会主義リアリズム、戦時中から現在までの文化政策の変化など政治課題と美術について学びます。

社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアップローチを考察します。

2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症拡大の中で生活をしています。私たちにとってパンデミックは現在最も関心のあるテーマですが、過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。

14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【テキスト（教科書）】

Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LIT200GA

言語文化概論

中和 彩子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学に限らず、あらゆる文化事象をテキストとして捉え、批評的に読み解くための道具である「文学理論 (literary theory)」を学ぶ。

【到達目標】

- 20世紀以降現在までの「文学理論」がどのような問題をどう扱ってきたかを学ぶ。
- 「文学理論」を応用して現代の文化・芸術・社会を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者がテキスト（教科書）等の指定箇所を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として講義をおこなう。適宜ペア／グループでのディスカッションの時間とする。

授業の最後に、リフレクションペーパー（授業内容のまとめとコメント、感想、質問などを含む）を課す。

提出されたワークシートやリフレクションペーパーの解答、コメントや質問については次回の授業でとりあげてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。
2	理論とはなにか？ (テキスト第1章, pp.1-p.13.)	理論 (theory) という言葉/ジャンルとしての理論/理論の効果/フーコーと性/理論の打つ手とは
3	理論とはなにか？ (テキスト第1章, pp.13-25.)	デリダと書くこと (エクリチュール) /二つの例は何を示すのか/
4	文学とはなにか？ 文学は重要か？ (テキスト第2章, pp. 26-42)	文学の外にある文学性/どういいう問いか？ /歴史的な変化/テキストを文学として扱う/文学の約束事
5	文学とはなにか？ 文学は重要か？ (テキスト第2章, pp. 43-62)	文学の性質/属性 対 結果/文学の機能/文学のパラドックス
6	文学とカルチュラル・スタディーズ (テキスト第3章)	カルチュラル・スタディーズの出現/さまざまな緊張関係/目標/区別
7	言語、意味、解釈 (テキスト第4章)	文学における意味/ソシュールの言語理論/言語と思想/言語の分析/詩学対 解釈学/読者と意味/解釈/意味、意図、コンテキスト/
8	レトリック、詩学、詩 (テキスト第5章)	修辭的形象 (レトリカル・フィギュア) /ジャンル/言葉と行為としての詩/抒情詩の突飛さ/リズムをもつ単語/詩の解釈
9	物語 (ナラティヴ) (テキスト第6章)	プロット/提示/焦点化/ストーリーは何をするか
10	物語 (ナラティヴ)	第6章で学んだことを用いて、文学作品を分析する。
11	行為遂行的な (パフォーマティヴな) 言語 (テキスト第7章)	オースティンのパフォーマティヴ/パフォーマティヴと文学/デリダのパフォーマティヴ/パフォーマティヴとコンスタティヴとの関係/パトラーのパフォーマティヴ/重要点と暗示
12	アイデンティティ、同一化、主体 (テキスト第8章)	主体 (サブジェクト) /文学とアイデンティティ/表象か、生産か/精神分析学/集団としてのアイデンティティ/支配的な構造/理論
13	補遺 諸理論の流派と運動 (テキスト pp. 180-195)	20世紀初頭から現在に至るまでの理論的な運動を概観する。
14	まとめ	復習/復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の準備学習として、テキスト（教科書）の指定箇所等を精読し、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。受講者それぞれのテキストや講義の理解度にもよるが、なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

ジョナサン・カラー『1冊でわかる 文学理論』荒木映子・富山太佳夫訳、岩波書店、2003。

*テキスト以外にも随時プリントを配付する。

*英語資料を補足的に用いることもある。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシート、リフレクションペーパーなどの提出物を含む）60%と復習試験 40%の総合評価とする。

評価にあたっては以下の3点の達成度に基づいて判断します。

- 1) 準備学習が十分におこなわれているか。
- 2) 準備学習と講義を通じ、テキストを十分に理解できているか。
- 3) 学んだ理論の応用ができているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題提出、授業に関する連絡などのため、学期を通じて学習支援システムを利用します。

毎回の授業に端末デバイス（PC やタブレット）を持参してください。

授業がオンライン実施されるときに大学の教室で受講する場合は、ハウリング防止のためヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

・初回授業について

初回授業はリアルタイムオンライン (Zoom 利用) で実施します。Zoom の URL や講師への連絡方法については、事前に、学習支援システムの「お知らせ」で知らせます。

受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづいて選抜を行いますので、受講希望者は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce students to basic literary theory. As Jonathan Culler, the author of the textbook of the course, explains in his preface, literary theory challenges common sense, and it explores “how meaning is created and human identities take shape.” By the end of the course, students should understand what topics scholars have debated using literary theory, and learn to apply it to contemporary literary and artistic works, as well as cultural and social phenomena.

Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the textbook and doing the worksheet, given online, in advance. At the end of each class meeting, students are required to write a reflection paper.

The required study time is about four hours per class.

The overall grade will be decided based on worksheets and reflection papers (60%) and the end-term examination (40%).

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は1-2年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトウェアについて考える
11	国際協力と想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点 50%、期末レポート 50%
- ・授業後課題は毎回設問に 200 字～800 字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・法政大学の教育活動における行動方針レベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業を行うため、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK 記者や、開発協力分野の NGO として実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation in cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は1-2年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとする事について考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデータベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。

・授業後課題は最初のうちはかなり負担が重く感じているようだが、続けるうちに大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと肯定的なフィードバックが多くなった。そのような授業だと思って取り組んで欲しい。

・履修者が多いため、過去2年間はオンデマンド形式だったが、2023年度から対面で実施する。毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを行う。

【学生が準備すべき機器他】

・法政大学の教育活動における行動方針がレベル2以上になった場合は、オンライン授業に切り替えるため、パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA

宗教と社会

田中 浩喜

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教に関する知識は、現代社会を生きるうえで必要不可欠です。この授業では、世俗化、ポスト世俗化、情報化、国際化、政治、カルトなどの観点から、宗教と社会の関係を体系的に学習します。宗教と社会に関する学問的な視座を身につけることで、世界の文化や価値観をよりよく理解するだけでなく、現代の世界が直面しているさまざまな課題について、主体的に思考できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

●受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●レジュメ、参考資料、文献は、HOPPII の「教材」からダウンロードしてください。

●毎回提出するリアクション・ペーパーは、HOPPII の「テスト/アンケート」にアップロードされた問いに関して、序・本論・結論がある文章を書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜいま宗教なのか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教へのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのように体系化されていったかを検討する。
3	宗教社会学の諸理論	宗教社会学の基礎的な知識や理論を学び、宗教と社会についての事例を学問的に分析する視座を養う。
4	宗教と日本社会	日本社会における宗教のあり方について、初詣や結婚式などの儀礼、無宗教の増加などの事例を取り上げながら理解を深める。
5	宗教と世俗社会	世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、近代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
6	宗教とポスト世俗社会	ポスト世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、現代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
7	宗教と情報社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、アニメやマンガなどのポップカルチャーを事例に、情報化の観点から現代宗教のあり方を考える。
8	宗教とグローバル社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、宗教の海外布教を事例に、グローバル化の観点から現代宗教のあり方を考える。
9	宗教と政治：戦後日本編	戦後日本の政教関係の歴史を学ぶことで、日本社会における「政教分離」の意味と変化について検討する。

10	宗教と政治：フランス編	フランスの政教関係の歴史を学ぶことで、フランス社会における「ライシテ」の意味と変化について検討する。
11	宗教と政治：アメリカ編	アメリカの政教関係の歴史を学ぶことで、アメリカ社会における「良心の自由」の意味と変化について検討する。
12	カルト問題を考える	現代におけるカルト問題について、基礎的な知識を身につけるとともに、宗教社会学の視座を培う。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義編『3STEP シリーズ 宗教学』（昭和堂、2023年）。
- 井上順孝『宗教学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- 望月哲也『社会理論としての宗教学』（北樹出版、2009年）。
- 棚次正和、山中弘編『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー	40%
期末レポート	60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【その他の重要事項】

- 受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。
- 200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。
- 第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
- 7月7日（金）の授業は休講とし、別日に補講を実施します。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religions and societies by taking up issues ranging from secularization, post-secular, informatization, globalization, to "cult" so that students can acquire an academic perspective on these topics and deepen their reflections on various issues related to religions.

By the end of the course, students are expected to be able to:
1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

COT200GA

メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組み。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるのかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- DTP に向けてのスキヤナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・デジタル写真のリタッチ
- ・ポスター作り（Photobam + 大判プリンタ・Web）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

- ・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
 - ・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
 - ・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
 - ・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
- なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
8	レイヤーの技法	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop 5.5 and Illustrator 8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性,30%）、クリティーク（課題作品の相互批評,15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。

提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム(スケッチ)基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Processing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習(マルチメディア対応の情報実習室)

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション: Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎 (1) : 簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎 (2) : 基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎 (3) : 変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインター フェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】 習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作: 移動、回転、 拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用方法を学ぶ。 【課題】 学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
8	アニメーション: 動きの 演出 【制作課題 2 : 学習成果 のまとめと Web 化の検 討】	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
9	関数	

10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】 学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】 制作物の実装方法の構想発表。マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。
14	まとめ: 最終課題の発表 と相互批評	

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Processing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧(翻訳)、「Processing をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」, オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【Processing】

Daniel Shiffman (著)、尼岡 利幸(翻訳)、「初めての Processing」、オライリー・ジャパン (2018)、ISBN-13: 978-4873118611

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之(監修)「Generative Design with p5.js — ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン(著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘(監修)、沖 啓介(翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アートの Processing による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性、20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目: 「情報リテラシー I」、「情報リテラシー II」を履修していることを前提とする。
関連科目: 「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg Johnston

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

1. Students read individual chapters in the book.
 2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
 3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
 4. End of chapter quizzes are taken.
 5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
 6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.
- Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.

Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure: The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output Decisions	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
 2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
 3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
 4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
- The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up Presentation Tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous presentations' themes based on music, art, and traditional public customs followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussion of Contrasting Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com

LANe300GA

英語アプリケーションV

ジョナサン・エイブル

配当年次/単位：3~4年 / 2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if ...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam - 30%
- ・ Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests - 40%
- ・ Class Participation - 20%
- ・ Word-up Tests - 10%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

ANDREW JONES

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.

Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

大野 ロベルト

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第3回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第4回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第5回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第6回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第7回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第8回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions

第9回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第10回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第11回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第12回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第13回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第14回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read about Japanese culture.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% Presentation(s)

30% Written Assignments

30% Class Participation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際化学部等のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The differences between Japanese and International business presentation styles	Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.

Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学準備とともに、SA によって獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
- ・抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論に加わることができる。
- ・まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、お互いの発言とテキストの理解が十分に深まることを目指しながら、学んでいきます。
- ・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます。
- ・テキストの内容と重要概念（語彙）を確認します。
- ・授業ではプレゼンテーションやペアワーク、グループワークなどを取り入れつつ、練習を積み重ねながら「言いたいこと」がよりスムーズにドイツ語で言えるようにブラッシュアップしていきます。

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル1」の場合は対面授業で、「レベル2」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。

- ・LMSとして、Hoppii と Google Classroom を使用します。
- ・連絡手段として、学期を通じ法政 G メールをチェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、各自、あるいは全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	So wohnt man	どんなところに住んでいるの？
3	Sie wünschen?	日々のお買い物はどこですか？ 課題提出（1）
4	Es gibt Essen	「ドイツ料理」って一体どんな食べ物？
5	Politik und Parteien	選挙には行きますか？
6	課題（1）のプレゼンテーション	ディスカッション
7	Kunst und Wissenschaft	「芸術」の様式とは？！
8	Beginn der Moderne	「近代」って何？ そして現在は？

9	Bis heute	戦後活躍した、あるいは現在活躍している芸術家や作家、誰か名前を知っていますか？
10	Wirtschaft und Industrie	「ドイツ製」で何が思い浮かびますか？
11	Krisen und Konflikte	ドイツにはどんな社会問題が？？！ 課題提出（2）
12	Im Nordwesten von Deutschland(1)	ドイツ北西部とはどんなところ？
13	Im Nordwesten von Deutschland(1)	リューネブルクってどんなところ？
14	課題（2）のプレゼンテーション、期末試験	ディスカッション、春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間以上を標準とします。
- ・所定の予習・復習課題があります。
- ・授業時間外の課題については、その都度指示します。
- ・上記以外にも、できるだけ新聞（日刊紙）を読む、あるいはニュースを聞くなどにチャレンジしてみましょう。
- ・国際政治を自分の身近な問題として引き受けるために、ドイツ語圏のメディアにはインターネットや SNS 等を効果的に活用してください。

【テキスト（教科書）】

„ Dreimal Deutsch“ (Klett) (2021 年度、2022 年度「ドイツ語 7」使用教科書)

ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60 %、学期末課題（テスト）40 %を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。
- ・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル2」以上の場合、リアルタイム型オンライン授業（Zoom）となります。お手元に WiFi が利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PC のどれか）、また大学構内で受講する場合はイヤホン（マイク付きヘッドセット）も用意してください。

【その他の重要事項】

- ・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA 参加予定学生、滞在学习者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては 4 セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
- ・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。
- ・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。以上の受験結果については、2023 年 7 月 20 日までに担当者へ通知されたもののみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
- ・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後も受け付けます。

[Outline (in English)]

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

[Learning Objectives]

- To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- Able to write texts of a certain length in German.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
- There are prescribed preparation and review tasks.
- Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

[Grading criteria]

The course will be judged on the basis of a combination of 60% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 40% of end-of-term assignments (tests).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

熊田 泰章

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。授業では、簡潔に文意を捉える力を養うために、また、ドイツ語の構文を正しく理解し内容を精緻に把握する力を養うために、読解の訓練をしていきます。必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する資料を用い、内容を把握します。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する理解を深める。ドイツ語の文章を正確に読み解く。迅速に文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語の仕組みや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。様々な文化との対比を通して、異文化性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する資料を用います。授業では、テキストを読み、理解を得ていく練習をします。内容を正確に読み解くとともに、そこで取り上げられているトピックについての議論も行います。教材資料は学習支援システムで提示します。

セメスターの後半では、準備したテーマに加えて、受講者の提案によって取り上げるテーマを選定し、テキストを追加していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	2022年の世界を振り返る;Energiekrise	2022年に起きたことや社会情勢を振り返る。特にEnergiekriseを取り上げる。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	ドイツ語圏のいまを知る。ドイツの社会や政治制度について、日本とも比較しながら学ぶ。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	ドイツの隣国オーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて	EU諸外国とは大いに異なるスイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）ポピュリズム	要人の殺害やシナゴーク襲撃など、ドイツにおける排外主義の高まりについて考える。
7	ドイツ語圏を知る（5）ドイツの選挙制度	似ているようで大きく異なる日独の選挙制度や政治システムの相違について考察する。
8	ドイツ語圏を知る（6）ドイツと日本の交流史を知る	1861年に修好通商条約が締結されて間もなく160年となる日本とドイツの関係について学ぶ。
9	ドイツ語圏を知る（7）ドイツとEU諸国との関係	戦後ドイツが諸外国とどのような関係を築いてきたのかを知る。
10	コロナ禍	コロナ禍について確認する。
11	受講者選定テーマ1	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。初級・中級文法の定着を図る。
12	受講者選定テーマ2	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。リスニングの練習を加える。
13	受講者選定テーマ3	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。複雑な表現を学ぶことを加える。
14	このセメスターのまとめ	学んだことを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材資料は、学習支援システムで事前に配布しますので、適宜予習してください。

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、教材資料を学習支援システムで提示します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年
 辻朋季『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』三修社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加40%、課題への取り組み40%、小テスト20%。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言する授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材資料の提示と課題の提出を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, in Austria or in Switzerland and so on. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, Austria, Switzerland or so, and to gain broad cultural understanding.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
 contribution to each class meeting: 40%, short reports : 40%,
 examinations: 20%

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。

この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、長所、短所を挙げるができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	Einstufung
第2回	自己紹介	Selbstvorstellung
第3回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第4回	Männer und Frauen 1	Über Klischees sprechen
第5回	Männer und Frauen 2	Statistiken und Grafiken beschreiben
第6回	Tiere 1	Die Tierliebe der Deutschen
第7回	Tiere 2	Tierschutz
第8回	Musik	Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第9回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第10回	Arbeit im Wandel 1	Das Ruhrgebiet
第11回	Arbeit im Wandel 2	Eine Region vorstellen

第11回	Klima und Umwelt 1	Nachrichten verstehen
第12回	Klima und Umwelt 2	Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業での発言(30%)、宿題提出(30%)、プレゼンテーション(40%))

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (30%), homework (30%) and presentation (40%)

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.

Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel et des participants Organisation et calendrier de la classe.
2	Unité 3 L1 Unis pour la vie?	Le plus-que-parfait Les liens de famille Raconter un souvenir
3	Unité 3 L2 Question de génération	Participe passé Génération et éducation
4	Unité 3 L3 Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Les relations humaines
5	Unité 3 L4 Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
6	Unité 4 L1 Fait maison	Hypothèse Les loisirs créatifs
7	Unité 4 L2 Mon art de vivre	Le conditionnel présent et l'expression du souhait

8	Unité 4 L3 Action!	Il faut que + subjonctif Les sports extrêmes
9	Unité 4 L4 C'est pour vous?	Le sport Donner des conseils
10	Unité 5 L1 Sur les bancs de la fac	La mise en relief Les études
11	Unité 5 L2 Ce job est pour moi	Adverbes et passé Le travail
12	Unité 5 L3 Motivés!	Le travail: les conditions de travail
13	Unité 5 L4 Vous êtes convaincu?	Se présenter dans le cadre professionnel
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、その他の小テスト:約 30 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 25 %

・出席点:約 25%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.30 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.25%。

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.

Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF
2	Unité 6 L1 Mieux vaut prévenir que guérir	L'hypothèse Le corps et les maladies
3	Unité 6 L2 Tout va bien, docteur?	Les maladies Donner des précisions
4	Unité 6 L3 Les paradoxes de la santé	La place des pronoms Allergies et alimentation
5	Unité 6 L4 La santé avant tout	Le conditionnel pour le conseil Les démarches santé
6	Unité 7 L1 Pour tous les goûts	L'hypothèse incertaine Les styles vestimentaires
7	Unité 7 L2 La mode, liberté ou contrainte?	Subjonctif et opinions négatives Critiques et jugements
8	Unité 7 L3 La mode change les mentalités	Subjonctif et volonté, sentiments
9	Unité 7 L4 Parlons mode	La critique de mode
10	Unité 8 L1 A la une	La nominalisation Médias et actualité
11	Unité 8 L2 Faits divers	Le passif Le fait divers
12	Unité 8 L3 Info ou intox?	Discours indirect Interviews et fausses nouvelles
13	Unité 8 L4 Place au débat	Le débat
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

・宿題, ミニ発表, その他の小テスト:約 30 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 25 %

・出席点:約 25%。尚, 出席点に関しては減点方式をとり, 4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり, 遅延証明は 2 回まで認めず。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので, 該当しない。)

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・ Homework, short tests and presentations: app.30 %
- ・ "Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
- ・ Essays: app.25 %
- ・ Attendance: app.25%。

LANF300GA

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

The goals of this course are as follows :

A.Develop oral (mainly) capacity in French language at intermediate level.

B.Know how to use French in concrete situations of everyday life.

C.Learn more about France and French customs.

This course can also help you to prepare exams as DAPF Jun 2Kyū or DELF A2 / B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions "à" "de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom "de"	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)

⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Français - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 % , Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 % .

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 % , Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 % .

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野 ブレンダン

配当年次/単位：3～4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (A2/B1). A travers différents types d'exercices, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, notamment à travers l'étude intensive d'un film.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de français applications, il permet la préparation des examens de DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Les étudiants réaliseront diverses activités à partir de scènes tirées d'un film (présenté en début de semestre): dialogues à trous, description de scènes, questions sur le contenu..., leur permettant de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.

いわゆる「Contents based learning」というアプローチで、具体的にはフランス語の映像を教材に、台詞を聞き取って理解した上で、様々な興味深い場面について質問に答えたり、意見を述べたり、会話・議論をしたりします。その中から出てきた重要な文法項目を復習・学習したり、面白いフレーズに対して例文を作ったりもします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours, des participants et du film étudié en cours
②	Scènes 1 à 6	Présentation des personnages 作文 1 : décrire une personne
③	Scènes 7-8	Premier déplacement des personnages
④	Scènes 9-10	La famille des personnages
⑤	Scène 11	作文 2 : imaginer la suite de l'histoire
⑥	Scènes 12-13	Deuxième déplacement des personnages
⑦	Scènes 14-15	La nouvelle vie des personnages
⑧	Scènes 16 à 18	Le nouveau travail des personnages
⑨	Scènes 19 à 21	作文 3 : Résumer des éléments d'information
⑩	Scènes 22 à 25	Tentative d'évasion

⑪	Scène 26	Le rassemblement 作文 4 : Décrire une scène au passé
⑫	Scène 27	Le marchand ambulant
⑬	Scènes 28-29	Tentative de fuite et punition
⑭	Scène 30	Le Code noir

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (regarder les scènes suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Documents préparés et distribués en cours ou sur "hoppi" par l'enseignant.

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé (仏仏辞典の持参が望ましい), et au minimum un dictionnaire français-japonais / japonais-français (少なくとも和仏/仏和辞典は必須)

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、その他の小テストや課題:約 30 %

・リーディングマラソン (フランス語多読):約 25 %

・作文:約 25 %

・出席点:約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【Prerequisite】

Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (A2/B1).

Through different kinds of activities mainly based on a movie (listening, ask and answer questions, reading, writing), students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.30 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.25 %

・Attendance: app.25%。

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可
を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画視聴を通して、多様な情報や知識、決まった口語表現を覚える楽しみを分かち合ひましょう。2023年度ロシア語短期語学研修（8月）に参加予定の学生のみなさんにとっては事前学習となる内容になりますので、ぜひ履修するようにしてください。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験3級程度、またロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）基礎レベルのロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

平易なロシア語の動画を視聴しながら、文法とリスニング、会話をバランスよく学んでいきます。動画やテキストを通してロシアの文化や慣習を知ることが可能となります。発音や対話のチェックは教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	Знакомство	ロシア語で、ある程度複雑な自己紹介ができるようにする。動画のリスニング。
第3回	Знакомство	ロシア語で、ある程度複雑な自己紹介ができるようにする。動画のリスニングと台詞の暗記。
第4回	В кафе	ロシア語で注文をできるようにする。食文化について知る。動画のリスニング。
第5回	В кафе	ロシア語で注文をできるようにする。食文化について知る。動画のリスニングと台詞の暗記。
第6回	В театре	劇場のシートについて、観劇のマナーについて知る。動画のリスニング。
第7回	В театре	観劇のマナーについて知る。動画のリスニングと台詞の暗記。
第8回	Мы любим спорт	スポーツに関する用語を確認し、観戦を楽しめるようにする。動画のリスニング。
第9回	Мы любим спорт	スポーツに関する用語を確認し、観戦を楽しめるようにする。動画のリスニングと台詞の暗記。

第10回	Мы едем отдыхать	観光に必要な表現：交通機関の表現、宿泊に必要な表現を覚える。動画のリスニング。
第11回	Мы едем отдыхать	観光に必要な表現：交通機関の表現、宿泊に必要な表現を覚える。動画のリスニングと台詞の暗記。
第12回	В гостях	ロシア人の家庭に招待された時の表現、マナーを会得する。動画のリスニング。
第13回	В гостях	ロシア人の家庭に招待された時の表現、マナーを会得する。動画のリスニングと台詞の暗記。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で視聴した動画内容の習得のために、1回につき1.5時間程度の復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテキスト選びを心がけました。授業もテンポよく、しかし丁寧に進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

The aim of this course is to maintain and improve listening and speaking in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through the short movies in Russian. The level of this course is A2(CEFR).

● Learning Objectives

The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far.

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours for class review.

● Grading Criteria/Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソ連・ロシア映画を2編とりあげ、その作品に関する文章をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。読解力、聴解力を身につけます。読解についてはТРКИ第1レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアの日常や慣習、歴史について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】

読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア映画の作品論・作品概要をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、ТРКИ第1レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や歴史に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ロシア映画の2つの作品に関する資料を講読します。みなさんの学習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を少しずつ鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。映画『戦争と平和』（原作トルストイ）は生涯に一度は見たい大作であり、『サリュート7号』は、冷戦末期、ソ連の宇宙ステーション事故をめぐる人間ドラマの珠玉です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第2回	映画 Война и мир:Андрей Болконский について1	Война и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画を鑑賞。
第3回	映画 Война и мир:Андрей Болконский について2	Война и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画 Война и мир:Андрей Болконский について3	Война и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画 Война и мир:Наташа Ростова について1	映画 Война и мир:Наташа Ростова の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第6回	映画 Война и мир:Наташа Ростова について2	映画 Война и мир:Наташа Ростова の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。

第7回	映画 Война и мир:1812 について1	映画 Война и мир:1812 の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第8回	映画 Война и мир:1812 について2	映画 Война и мир:1812 の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画 Война и мир:Пьер Бержезуков について1	映画 Война и мир:Пьер Бержезуков の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画 Война и мир:Пьер Бержезуков について2	映画 Война и мир:Пьер Бержезуков の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第11回	映画 Салют-7 について1	映画 Салют-7 の内容、反響について読解。映画を鑑賞。
第12回	映画 Салют-7 について2	映画 Салют-7 の内容、反響について読解。映画を鑑賞。
第13回	映画 Салют-7 について3	映画 Салют-7 の内容、反響について読解。映画を鑑賞。
第14回	映画 Салют-7 について4 テストとまとめ	映画 Салют-7 の内容、反響について読解の続き。小テストと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア映画の作品に関するテキスト読解の予習に、1回につき1.5時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【Outline (in English)】

● Course outline

We will pick up two Russian films, read the text about the film in Russian, and watch some scenes of the film while checking the text. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about Russian daily life, customs and history.

● Learning Objectives

Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and history.

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画視聴を通して、多様な情報や知識、決まった表現を覚える楽しみを分かち合ひましょう。この科目は2023年度からの新設科目です。夏季休業中、ロシア語短期語学研修に参加した学生は、培ったロシア語運用能力の維持のため履修を勧めます。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験2級、あるいはロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）の第1レベル（CEFR B1）のロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけるべき頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

平易なロシアの動画を視聴しながら、文法、リスニングと会話をバランスよく学んでいきます。動画やテキストを通してロシアの文化や慣習を知ることが可能となります。フィードバックは授業内のロシア語会話やリスニングをチェックするかたちで行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	Мой день 1	一日のスケジュールをロシア語で語れるようにする。動画のリスニング。
第3回	Мой день 2	一日のスケジュールをロシア語で語れるようにする。動画のリスニングと台詞の暗記。
第4回	Служба быта 1	サービスや修理の依頼をロシア語でできるようにする。動画のリスニング。
第5回	Служба быта 2	サービスや修理の依頼をロシア語でできるようにする。動画のリスニングと台詞の暗記。
第6回	В театре 1	劇場のシートについて、観劇のマナーについて。動画のリスニング。
第7回	В театре 2	観劇のマナーについて。動画のリスニングと台詞の暗記。
第8回	Как отметить праздники 8 марта 1	国際婦人デーを祝う表現、慣習、ホームパーティについて。動画のリスニング。
第9回	Как отметить праздники 8 марта 2	国際婦人デーを祝う表現、慣習、ホームパーティについて。動画のリスニングと台詞の暗記。

第10回	На даче 1	ロシア人が週末や夏を過ごすダッチャ（家庭菜園付き郊外の家）について知る。動画のリスニング。
第11回	На даче 2	ロシア人が週末や夏を過ごすダッチャ（家庭菜園付き郊外の家）について知る。動画のリスニングと台詞の暗記。
第12回	В доме отдыха 1	冬の休暇の過ごし方について。動画のリスニング。
第13回	В доме отдыха 2	冬の休暇の過ごし方について。動画のリスニングと台詞の暗記。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で視聴した動画内容の習得のために、1回につき1.5時間程度の復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、期末テスト20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度から新設の科目であるため、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

● Course outline

The aim of this course is to maintain and improve listening and speaking in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through the short movies in Russian. The level of this course is A2 (CEFR).

● Learning Objectives

The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far.

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours for class review.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc300GA

中国語アプリケーション I

曾 士才

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新華社のニュースサイトや中央テレビニュースアプリなど各種サイトが提供する報道記事を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、 論説文の基礎①	授業の進め方の説明、教材配布。 『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第 1 課
第 2 回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第 2 課、 第 3 課
第 3 回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第 4 課、 第 5 課
第 4 回	論説文の基礎④	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第 6 課、 第 7 課
第 5 回	プリント 1 ①	政治・経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 2 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 3 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。

第 13 回 プリント 3 ③ 翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。

第 14 回 読解力テストと講評 読解力テストの実施とテスト後の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第 2 回から第 4 回までの授業に備える、また、プリント教材（報道記事など）を読み、翻訳し、第 5 回から第 13 回までの授業に備えておく。本授業の準備・復習時間は、各 1～2 時間程度。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010 年

【成績評価の方法と基準】

第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題の翻訳（20%）と学期末に実施する読解力テスト（80%）で達成度を判定する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

【Learning Objectives】

At the end of the course, participants should be able to efficiently read news articles and critiques using dictionaries and the Internet.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, participants will be expected to translate exercises for reading comprehension (in the 2nd to 4th classes), to read and translate specified news articles (in the 5th to 13th classes). Your study time will be one or two hours.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Translation of basic exercises (20%) and reading comprehension test conducted at the end of the semester (80%)

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に e-Learning を利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK4・5 級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閲読」（リーディング力）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は e-Learning や過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK の「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う

【授業の進め方と方法】

①「聴力」問題の発音練習と解説

②「閲読」問題の解答と解説

【課題等に対するフィードバックの方法】

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用する e-Learning 教材の利用方法を解説する
第 2 回	HSK4 級対策①	・聴力問題第一部分 ・閲読問題第一部分
第 3 回	HSK4 級対策②	・聴力問題第二部分（上） ・閲読問題第二部分
第 4 回	HSK4 級対策③	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第三部分（上）
第 5 回	HSK4 級対策④	・聴力問題第三部分（上） ・閲読問題第三部分（中）
第 6 回	HSK4 級対策⑤	・聴力問題第三部分（下） ・閲読問題第三部分（下）
第 7 回	HSK4 級模擬試験	HSK4 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第 8 回	HSK5 級対策①	・聴力問題第一部分（上） ・閲読問題第一部分
第 9 回	HSK5 級対策②	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第二部分（上）
第 10 回	HSK5 級対策③	・聴力問題第二部分（上） ・閲読問題第二部分（下）
第 11 回	HSK5 級対策④	・聴力問題第二部分（中） ・閲読問題第三部分（上） 4
第 12 回	HSK5 級対策⑤	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第三部分（中）
第 13 回	HSK5 級対策⑥	・書写 ・閲読問題第三部分（下）
第 14 回	HSK5 級模擬試験	HSK5 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

①教材ページ上に用意された e-Learning 教材を使い、HSK の「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う

②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSK の「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意した e-Learning 教材や HSK の問題冊子などを利用する。教材用ページの URL と利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況（60%）

③ HSK 模擬試験の成績（40%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSK の取得を希望する人が多くなったため、一昨年度から HSK の過去問を教材として授業を行うことにした。HSK の問題は実際の会話も役立つため、資格の取得とともに、実践的な中国語力も身につけていきたい。

また HSK の必修単語を覚えるのが難しいという声が多く寄せられたので、単語やフレーズを復習する e-Learning を用意した。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learning による事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.

This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.

Chinese Application IV is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 4 and 5. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on assignments(80%) and mock examinations(20%).

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

We should achieve to these levels:

- 1,talk the Chinese language by accurate pronunciation.
- 2,talk the daily conversation well.
- 3,achive the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第 2 回	文章の読解・日常用語 (1)	1、短い文章を読み、文法の基本を確認する。 2、簡単な日常会話を練習する
第 3 回	文章の朗読・日常用語 (2)	1、会話文を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第 4 回	会話パターン (1) ものの尋ね方	現地で使用する会話パターンをチェックする
第 5 回	授業内発表 (1)	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第 6 回	会話パターン (2) イベント	友達と交流する会話パターンをチェックする
第 7 回	授業内発表 (2)	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第 8 回	実力テスト	HSK 問題を解く
第 9 回	解説	HSK 問題の解説を行う
第 10 回	会話パターン (3) 面接	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する

第 11 回	授業内発表 (3)	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第 12 回	会話パターン (4) スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第 13 回	授業内発表 (4)	スピーチの個人発表をする
第 14 回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は2時間を標準とします。また作文の課題も2回ほど課される。

Prepare for the conversation and exercise enough. We should do the preparation and review about two hours a week. We maybe do the task of writing about two times.

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2023 年度版』・三浦正道その他・朝日出版社・2023 年
2090 円

【参考書】

劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

Term-end test:60%

Presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。

また基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験を推奨される。

留学生の受講を歓迎する。

【Outline (in English)】

Chinese Application I ~ IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

We should achieve to these levels:

Talk by accurate pronunciation.

Talk the daily conversation well.

Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

We maybe do the tusk of writing about two times.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

渡辺 昭太

配当年次/単位: 3~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 隔年開講 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選: 初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

備考(履修条件等): ※ 2023年度は、国際文化学部生のみ 2~4年を対象とする。

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。練習問題へのフィードバック(解説・コメント等)や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認(本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など)
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か/どこか/だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞+名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么/那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再/又/还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で/に/から/と/まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現状況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”

11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

相原茂(著)2006『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社(2,300円+税)

【参考書】

- ・劉月華(他)2019『实用現代漢語語法(第三版)』北京:商務印書館
- ・相原茂(他)2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京:同学社
- ・木村英樹2017『中国語はじめての一步[新版]』(ちくま学芸文庫)東京:筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京:白水社
- ・守屋宏則(他)2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎[改訂新版]』東京:東方書店

【成績評価の方法と基準】

・平常点を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、原則として日本語母語話者向けの授業である。そのため、中国語母語話者(留学生等)の受講は推奨しない。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, students will mainly improve their writing skills. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose complicated Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

神谷 丹路

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可
を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「SA韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語・韓国語の児童文学を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりを体験する。日本語への翻訳する力の伸長を目指し、また内容について朝鮮語でディスカッションしたり、関連事項について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語・韓国語の世界を渡り歩いていける力を身に着ける。

【到達目標】

韓国の児童文学を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身に着ける。内容を読み解いたり、未知の事項を説明したりする力を養成し、日本語への翻訳についても実践学習する。同時に、内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
に関連。

【授業の進め方と方法】

身の回りの題材で簡単な日常会話のウォーミングアップをしたのち、
テキストに沿ってリーディング、翻訳実践練習などを行う。文章や
内容について、疑問点、関連事項などについて話し合い、その場で
解決できない場合は、それぞれ調べ、次の回に朝鮮語で報告し、互
いの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	①	
3	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	②	
4	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	③	
5	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	④	
6	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	⑤	
7	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	⑥	
8	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	⑦	
9	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	⑧	
10	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。
	⑨	

- 11 テキストリーディング 受講生の発表と質疑応答。
⑩
- 12 テキストリーディング 受講生の発表と質疑応答。
⑪
- 13 テキストリーディング 受講生の発表と質疑応答。
⑫
- 14 まとめ プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、課題を読み日本語に翻訳する予習が必要です。本授業の準備、
復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画度80%、プレゼンテーション20%。この成績評価の
方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格と
する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance
the development of the skill in reading, writing, listening and
talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to
spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the
following.

Presentation : 20%, in class contribution:80 %.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション**梁 禮先**

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to speak your opinion with confidence. Please actively participate in the discussion.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出てない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んで自ら表現できることを目指します。授業は朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。また、自分の意見を自信をもって積極的に話したり、討論に積極的に参加できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着していきます。

授業は、朝鮮語で進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国語の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話し合います。
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題の映像を見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます。
第10回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネットなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%)と、期末レポート(50%)と、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多様な主題を活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションを実施したり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換をする
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%)、期末レポート(50%)、など、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

< Learning Objectives >

Please actively participate in the discussion in Korean.

The goal is to be able to read Korean literary works as well.

< Learning activities outside of classroom >

Check out the content of the theme. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

神谷 丹路

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「S A 韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語・韓国語の児童文学を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりを経験する。日本語への翻訳する力の伸長を目指し、また内容について朝鮮語でディスカッションしたり、関連事項について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語・韓国語の世界を渡り歩いていける力を身につける。

【到達目標】

韓国の児童文学を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身につける。内容を読み解いたり、未知の事項を解明したりする力を養成し、日本語への翻訳についても実践学習する。同時に、内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

身の回りの題材で簡単な日常会話のウォーミングアップをしたのち、テキストに沿ってリーディング、翻訳実践練習などを行う。文章や内容について、疑問点、関連事項などについて話し合い、その場で解決できない場合は、それぞれ調べ、次の回に朝鮮語で報告し、互いの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	テキストリーディング①	受講生の発表と質疑応答。
3	テキストリーディング②	受講生の発表と質疑応答。
4	テキストリーディング③	受講生の発表と質疑応答。
5	テキストリーディング④	受講生の発表と質疑応答。
6	テキストリーディング⑤	受講生の発表と質疑応答。
7	テキストリーディング⑥	受講生の発表と質疑応答。
8	テキストリーディング⑦	受講生の発表と質疑応答。
9	テキストリーディング⑧	受講生の発表と質疑応答。
10	テキストリーディング⑨	受講生の発表と質疑応答。
11	テキストリーディング⑩	受講生の発表と質疑応答。
12	テキストリーディング⑪	受講生の発表と質疑応答。
13	テキストリーディング⑫	受講生の発表と質疑応答。
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、課題を読み日本語に翻訳する予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画度 80 %、プレゼンテーション 20 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution:80 %.

HUI200GA

文化情報のデザインワークショップ

甲 洋介

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションI

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザーの体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う
道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大
きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで
楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新
しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデ
ザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバラ
ンスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすいデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすい魅力あ
るのにはどうすればよいか？ その鍵は、ユーザーの特性と、ユーザに
起こっている出来事の的確な理解にある。道具のデザインを改良する具体
的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいか？
その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活
が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするた
めの方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデ
ザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え
方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、
実践できるようにする。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実
践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に
関連。

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、
この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。
授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実
践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使い
やすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具
の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工
学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活
をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体
的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワ
ークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。
グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を
行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

※新型コロナウイルス状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方
針レベルが2となった場合、原則としてオンラインで行う。変更については
学習支援システムで伝達する。実習やグループワークの実践的な効果が得ら
れるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすいとする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザーインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis) 2006.

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える [アップデート版]」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い (50%)

・課題レポート、プロトタイプなど制作物 (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【文化情報学の実践】科目群【共通のテーマ】

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。

【前提科目と関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

・「文化情報学の実践」科目群の姉妹科目と合わせて履修する事で多面的な学習効果が得られるよう工夫されている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with a unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA

文化情報のためのネットワーク技法

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションⅡ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションⅡ）

【旧科目：情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【本科目の学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. 個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
 7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
 8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.

The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

(Learning Objectives)

- To acquire a methodology for research and study of cultural information.

- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

COT300GA

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次/単位: 3~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選: 初回の授業に出席すること

備考(履修条件等): 情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性: <他> <優>

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、Makerムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法(意外と簡単!)を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、Makerムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino入門	Arduinoとは何か、MakerムーブメントにおけるArduinoの役割を学ぶ。開発環境ArduinoIDEの使い方を学ぶ。音楽に特化したArduino互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduinoライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備としてArduinoから音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリMozziとその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせてセンサーからの信号に応じた音が変化する仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作(1): 音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、Arduinoで打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作(2): 楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。
7	日用品を打楽器に	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
8	シークエンサーの製作(1)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
9	シークエンサーの製作(2)	MIDIによる電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。
10	電子楽器の相互接続: MIDI	【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化(1)	LCDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化

12	表示の高機能化(2)	LEDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力: さらに多様なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、Arduinoによるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使うArduinoは互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使ってみて応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

「Make:」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介いたします。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。Makerムーブメント(モノづくりの世界)を楽しむ学べる2冊と電子楽器の自作やプロトタイプングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい!でも何を作ろう…?】

Karen Wilkinson(著)、Mike Petrich(著)、金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【Arduino+音楽】

中西宜人、「Arduinoではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN:ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり+デバイスアート】

青木直史(著)、「ArduinoとProcessingではじめるプロトタイプング入門」、講談社(2017)、ISBN:978-4061565692

小林茂(著)、「Prototyping Lab第2版ー「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機のArduinoとクラウド上のシミュレーターTinkercadを併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、Arduinoなど共通の電子部品と配線材は用意します。課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by Arduino micro-controllers. Students will become well familiar with the Arduino IDE (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから、「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？」

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

【無意識】とは何か

私たちは夢を見ることがあります。それでは夢はわたしたちが見たいときに、いつも見ることができるのでしょうか？ なかなかそうはいきません。また、どうして言い聞かないなどが起きるのでしょうか？ 正しいことを言おうとしたのに、変なことを言うってしまうのは、なぜでしょうか？ 食欲や睡眠欲のような生理的な欲求は別にして、思わずしてしまうことや、嫌いだと思う前に避けてしまうのはなぜでしょうか？ これらは「無意識」のせいだと、精神分析学の創始者ジークムント・フロイト（1856-1939）と言います。

2023年度は、「ニューロサイコアナリシス（神経精神分析学）」という新しい「こころの科学」から、「こころとからだ」の関係を哲学的に考えていきます。「こころ」については、20世紀初頭にフロイトが創始した精神分析学によって、「こころ」の深層に潜む「無意識」が発見されました。その一方で、フロイトは神経科学者として「からだ」の一部である「脳」や「神経」がどのように「こころ」に関わっているかを「科学的に」説明しようとしていました。

そして、精神分析学が新しい段階に入ったのは、20世紀後半にフランスの精神科医・精神分析学者ジャック・ラカン（1901-1981）が「構造主義的精神分析学」を展開したことに端を発します。しかも、20世紀末から21世紀にかけて、脳科学・神経科学とラカンの精神分析学をつなぐ試みとして、「ニューロサイコアナリシス」が登場してきました。そこで、本授業では、ラカンの学説を取り上げながら、脳神経と無意識との関係を「ニューロサイコアナリシス」の手法を通じて哲学的に分析していきます。

【到達目標】

- ・精神分析学を学ぶことによって、意識と無意識の関係の基礎を学ぶことができる。
- ・無意識の構造について、哲学的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「意識と無意識/からだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。

【授業の方法】

授業は、基本的には、『ラカンの仕事』の解説に即して授業する予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	・精神分析学前史 ・ジークムント・フロイトは何をしたか？ ・フロイトによる無意識の発見
2	精神分析学とは何か①	・『夢判断』
3	精神分析学とは何か②	・『精神分析学入門』 ・初期の著作
4	ラカンの精神分析学①	(1926-33) ・鏡像段階 (1936) ・現実原則の彼岸 (1936) ・ローマ講演 (1953)
5	ラカンの精神分析学②	・「盗まれた手紙」 (1956) ・「文字（手紙）という審級」 (1957)
7	ラカンの精神分析学④	・エディプス・コンプレックス ・精神病 ・「主体の転覆」 (1960)
8	ラカンの精神分析学⑤	・『アンコール』 (1972-73)
9	ニューロサイコアナリシス①	・ラカン精神分析学から、ニューロサイコアナリシスへ
10	ニューロサイコアナリシス②	・ニューロサイコアナリシスからみたフロイト理論
11	ニューロサイコアナリシス③	・ニューロサイコアナリシスからみた「ヒステリー」
12	ニューロサイコアナリシス④	・ニューロサイコアナリシスにおける「トラウマ」
13	ニューロサイコアナリシス⑤	・ニューロラカン①——死の欲動論
14	ニューロサイコアナリシスの展開	(1)「革新される精神分析」 ・ニューロラカン②——死の欲動論 (2)「自我・無意識・脳」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・資料として提示しているテキストを事前に読んで、レジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 岸本寛史編著『ニューロサイコアナリシスへの招待』、誠信書房、2015年
- 久保田泰孝『ニューロラカン——脳とフロイトの無意識のリアル』、誠信書房、2017年
- ビチェ・ベンヴェヌート『ラカンの仕事』、青土社、1994年
〔古本でしか手に入らないので、必要に応じて、配布する〕
- Bice Benvenuto & Roger Kennedy, *The Works of Jacques Lacan: An Introduction*, Free Association Books, 1986.

【参考書】

- 新宮一成『ラカンの精神分析』、講談社現代新書、1995年
 - 向井雅明『ラカン入門』、ちくま学芸文庫、2016年
 - マーク・ソームズ他『神経精神分析入門——深層神経心理学への招待』、青土社、2022年
 - マーク・ソームズ他『脳と心的世界——主観的経験のニューロサイエンスへの招待』、星和書店、2007年
- ※ その他については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・討議への参加（30%）・授業内発表レジュメ（30%）・期末課題レポート（40%）。以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

- ・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
- ・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているため、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What is the "unconscious"?

We all have dreams. But do we always see them when we want to? It's not so easy. And why do we say things wrong? Why do we have desires and needs? These are the result of the "unconscious," according to Sigmund Freud (1856-1939), the founder of psychoanalysis.

In 2023, we will philosophically consider the unconscious discovered by psychoanalysis. Psychoanalysis, founded by Freud, was succeeded by the French structuralist Jacques Lacan (1901-1981) in the latter half of the 20th century. Moreover, from the end of the 20th century to the 21st century, "neuropsychanalysis" emerged as an attempt to connect brain science and neuroscience with Lacan's psychoanalysis.

Therefore, in this class, while taking up Lacan's theories, we will philosophically analyze the relationship between cranial nerves and the unconscious through the "neuropsychanalysis" method.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to learn the basics of the relationship between consciousness and the unconscious and to be able to explain the structure of the unconscious philosophically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports : 30%、 in class contribution: 40%

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次/単位：2~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方やコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスター内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】 PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン(ブッシュホン) や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】 パッチ(Pd のプログラム)を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン(1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。

7	リズムマシン(2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 人間の歌声のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット(スターウォーズ R2D2) の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】 ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション(2013) ISBN: 978-4862671424

松村誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data 』ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社(2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『PureData』ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社(2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、最終課題の評点(40%)で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけでなく、課題の発展的应用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にしたい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なボイジャー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理 (特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識)、マルチメディア処理 (音楽音響、電子透かし) 分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：ジュディス・バトラーの思想——性的マイノリティの挑戦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどのようにして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を根底で支えている「人生・生・生命 (Life)」に焦点を当てて考えてみます。その際に、私たちが日常生活を営むとき、自分が「生きていること」に、それほど意識を向けていません。

でも、突然、病気になったり怪我をしたりすると、自分が「生きている」という当たり前のことがとても重要なことであることに気づきます。私たちの「生活 (Life)」も「無事に生きている」からこそ営めるのです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、ジュディス・バトラー (1956-) の思想を取り上げ、性的マイノリティを通じて、私たちの「生」と「性」、さらには社会のあり方について哲学的に考えてみることを試みます。

【到達目標】

- (1) 21世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など ・ジュディス・バトラーとは誰か
2	序 なぜバトラーなのか？	・バトラー思想のキーワード (弁証法・パフォーマンス・ヴィヴィティ)
3	第一章 主体①	・ヘーゲル哲学とコジェーヴ
4	第一章 主体②	・構造主義とポスト構造主義
5	第二章 ジェンダー①	・女性性という問題
6	第二章 ジェンダー②	・メランコリーとしてのジェンダー
7	第三章 セックス①	・物質としての身体
8	第三章 セックス②	・ラカン精神分析における女
9	第三章 セックス③	・ファルス「である」こと、ファルスを「もつ」こと
10	第四章 言語①	・傷つける言葉
11	第四章 言語②	・呼びかけとしての言葉
12	第五章 精神①	・権力と精神

- 13 第五章 精神② ・バトラー以降
14 バトラー思想のまとめと ・バトラーの残したものの批判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・サラ・サリー『ジュディス・バトラー』竹村和子他訳、青土社、2005年
- 【テキストが手に入りにくい場合は、必要に応じてこちらで準備する】
- ・ジュディス・バトラー『欲望の主体——ヘーゲルと20世紀フランスにおけるポスト・ヘーゲル主義』大河内泰樹ほか訳、堀之内出版、2019年
- ・Sara Salih, *Judith Butler*, Routledge, 2002.
- ・Judith Butler, *Subject of Desire: Hegelian Reflections in Twentieth-Century France*, Columbia University Press, 1987/2012.

【参考書】

- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』竹内和子訳、青土社、1999年
- ・ジュディス・バトラー『問題=物質となる身体』佐藤喜幸ほか訳、以文社、2021年
- ・Judith Butler, *Gender Trouble*, Routledge, 1990.
- ・Judith Butler, *Bodies That Matter: On the Discursive Limits of "Sex"*, Routledge, 1993.

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (30%)、授業内レジュメ (30%)、平常点 (40%)
- ※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

※要注意【変更】

リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

- ・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

- ・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture". Therefore, we will first focus on "Life", which underlies "I" or "self". When we go about our daily lives, we do not pay much attention to the fact that we are alive.

However, when we suddenly get sick or injured, we realize that the fact that we are alive is very important. Our life is possible because we are "alive". So what is life? At the end of the course, students are expected to think about our life, and between philosophically.

In this class, we will focus on **the philosophy of Judith Butler** (1956-). From the standpoint of sexual minorities, she philosophizes about the relationship between our lives and sexuality, as well as about society and politics.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.
- B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表も取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価される。評価基準は平常点20%、選択式試験の結果80%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、議論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age. The goals of this course are to acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background. A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for multiple-choice test. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンス、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。

この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について 授業計画について 評価方法と基準
第2回	現代美術の基礎知識 1 メディアとアート	美術の様々な技法やメディアについて確認してみましょう。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。
第3回	現代美術の基礎知識 2 20世紀の美術	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクシオン、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
第4回	現代美術の基礎知識 3 21世紀の美術	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。次に、ミレニアム前夜にイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深めます。2010年代からソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
第5回	ワークショップ 1	「現代美術の基礎知識」の講義内容の確認をします。
第6回	身体とパフォーマンス 1	ワークショップ・ドローイングパフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	身体とパフォーマンス 2	パフォーマンス・アートは視覚芸術であるファインアートに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス 3	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマル現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック

第9回	身体とパフォーマンス4 言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	「身体とパフォーマンス」の講義内容の確認をします。 ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス
第11回	社会と関わるアート1 スライス・オブ・ライフー日常を描くー	スライス・オブ・ライフは、映画や小説、演劇の世界でありふれた日常を描くことを指しますが、日常を切り取る手法は絵画や映像などの美術作品にも存在します。この講義では、日常をテーマとしてフィールドワークを重ねて作品化するアーティストの手法について考察します。
第12回	社会と関わるアート2 アートと文化研究	文化研究（カルチュラル・スタディーズ）やパフォーマンス研究（パフォーマンス・スタディーズ）は人種や民族、ジェンダーなどの社会的な課題や日常、アイデンティティなど様々なテーマとした学際的研究アプローチについての理解を深めます。
第13回	社会と関わるアート3 社会と関わるアート	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	「社会と関わるアート」の授業内容の確認をします。 ワークショップ・コラボレーションワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

クリエイティブ・ライティング

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：メディア表現ワークショップ2

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

『小説作法 ABC』 島田雅彦 新潮選書 2008

『小説作法 XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work. The goals of this course are to learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc. Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2023 年度は、国際文化学部生のみ 2～4 年を対象とする。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- ・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
- ・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
- ・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
- ・「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
- ・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は初回授業回のみ対面授業、2～14回はオンデマンド型オンライン授業で実施する。

- ・文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返しながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。
- ・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出します。
- ・LMSとして、Hoppii と Google Classroom を使用します。
- ・提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入

- | | | |
|----|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 2 | J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年） | ファンタジー小説 V.S. 映像テク ノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写 |
| 3 | 筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年）その 1 | 時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（1） |
| 4 | 筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年）その 2 | 学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来 |
| 5 | 万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）その 1 | 「ステレオタイプ」の使い方、青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント |
| 6 | 万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）その 2 | 友情と恋愛と学校の関係、コンピュータゲームは世界と私たちの視覚／知覚をどう変えたのか |
| 7 | S. フィτζェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 1974 年）その 1 | キラークンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（2） |
| 8 | S. フィτζェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 2013 年）その 2 | 「時代を超えた真実」V.S. 「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響 |
| 9 | 堀辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その 1 | 「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（3） |
| 10 | 堀辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その 2 | 「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間 |
| 11 | L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その 1 | 「私」の記憶と真実の複数性、「西洋 V.S. 東洋」という二項対立 |
| 12 | L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その 2 | 「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体 |
| 13 | W. ヘルンドルフ／F. アキン『14 歳、僕らの疾走／50 年後のボクたちは』（小説 2010 年、映画 2016 年）その 1 | ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（4） |
| 14 | W. ヘルンドルフ／F. アキン『14 歳、僕らの疾走／50 年後のボクたちは』（小説 2010 年、映画 2016 年）その 2 | ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

・授業で扱う文学作品、映像作品をあらかじめ視聴し、授業資料をダウンロードしてください。

- ・授業資料を手元に置いた状態で、オンデマンド型授業（動画）を視聴してください。
- ・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。形式は初回授業に周知します。

【テキスト（教科書）】

- ・授業で扱う文学作品（2～10回授業）のテキスト、映像作品の映像ソフト（民間各社ビデオレンタル／ストーリーミングサービスへのアクセス）は、ご自分で用意していただきます。
- ・映像作品のうち、9、10回授業作品は国内各社ストーリーミングにて未扱により、授業開催時限（木3限）に授業教室で視聴できるようにする予定です。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
- ・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
- ・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史—ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
- ・A・バザン（野崎欽ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
- ・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005年
- ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
- ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
- ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画—アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価の方法と基準】

- ・毎授業提出する課題（「小レポート」／平常点）合計100%を成績評価の対象とします。
- ・一定以上の課題を提出済みの（一定の基準を満たす）希望者には、「最終レポート」の提出を認めます（締め切りは最終授業回と同日、課題内容および評価基準の詳細は初回授業時に提示）。レポートしての形式や内容の水準を満たすものについては、上限10%で上記成績評価の対象（毎授業提出する課題）に加えます。
- ・以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

- 詳細は Hoppii 上で秋学期開始前に周知します。
- ・オンデマンド型オンライン授業で、かつ映画作品を複数扱うので、履修には安定的なインターネット通信環境と PC の準備が不可欠です。また授業で扱う日本語文学作品・翻訳5点（全て文庫で刊行）と映画ソフト8点（レンタルで可／映像サブスクリクションサービスの使用／レンタル）を各自でご準備いただきます。（以上の条件のクリアが難しい方は、ぜひ履修前に担当者にご相談ください。）
- ・LMS として、Google Classroom を使用します。

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・理由なく提出期限（目安は初回授業時に提示）を大幅に過ぎた授業課題は、原則として受理しません。欠席の代替措置（未提出課題の埋め合わせ）等も特に用意しません。
- ・部活動の公欠届や、就職活動を理由にした欠席届等の類の提出は不要です。
- ・第一回目の授業は「対面」で実施予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況次第で、リアルタイム型オンラインで実施することになります。授業形態については学期開始前（第一回目授業より前）に授業支援システムで通知します。

【Outline (in English)】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film adaptation or film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above, especially about literature, films and its adaptation.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on 100% of ordinary marks (submitted assignments (report) as a result of active participation)

- ・In addition to the above, students already completed minimum tasks could submit an another report until the final lecture day. It will be included up to 10 % of ordinary marks.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANj300GA

世界の中の日本語

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：受講は先着 500 名までとする。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっぽ抜ける。現代社会でおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本語を、近代文学を素材として、主に海外との応答関係のなかで見つめてみたい。原典のみならず英訳されたテキストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。また、古典文学との比較などを行いながら、日本の近代性についても検討する。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺めたいと、客観的な評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につく、英語のテキストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える（日本語はどのような言語なのか）。
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する（日本語は愛せない言語である）。
3	外国語と日本語 1	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える（日本語は借りものの言語である）。
4	外国語と日本語 2	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える（日本語は創造的な言語である）。
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える（日本語は組み合わせ自由な言語である）。
6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える（日本語は多声的な言語である）。

7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える（日本語は光と影のある言語である）。
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える（日本語は音楽的な言語である）。
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる（日本語は私を語る言語である）。
10	世界と日本語 1	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える（日本語は美しい言語である）。
11	世界と日本語 2	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える（日本語は世界的な言語である）。
12	世界と日本語 3	大江健三郎を中心に、「個人的」なものとしての日本文学を考える（日本語はあいまいな言語である）。
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える（日本語は寂しい言語である）。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる（日本語は楽しみな言語である）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHK ブックス、1998

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間レポート 40 %、期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義で取り扱う作品やテーマが多岐にわたるので、情報過多にならぬよう、無駄を削ぎ落とすことを心がけたい。

【Outline (in English)】

One cannot fathom the qualities of foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language. To survey different works spanning across decades of modern Japan, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course. The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting. The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSe200GA

中国の文化 I (現代中国社会)

曾 士才

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈A〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。クイズの解答例など課題へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第2回	都市と農村 (1)	経済格差、三農問題、社会主義新農村建設
第3回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、大学生の就職難
第4回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、政治社会意識
第5回	人の移動 (1)	都市の出稼ぎ者、留守児童
第6回	人の移動 (2)	新型都市化、ポイント制度、強制移住
第7回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、変化する家族像
第8回	家族と婚姻 (2)	新人類「80後」「90後」、人口政策の転換
第9回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第10回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第11回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第12回	日本と中国 (1)	中国の近代化と日中協力、構造変化する日中関係
第13回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第14回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業テーマに関連した課題論文を読む。受講者は参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。理解度を自己評価するために、学習支援システムの「課題」にあるクイズに回答する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリント教材 (学習支援システムの「教材」に掲載する)。

【参考書】

A 高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための40章【第4版】』明石書店2012年

B 藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための44章【第5版】(エリア・スタディーズ)』

明石書店2016年

C 藤野彰『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店2018年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使ったクイズへの回答(10%)と期末に課すレポート(90%)で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

クイズへの解答例を掲示板にアップし、受講生の復習に活用できるようにする。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan.

【Learning Objectives】

At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and answer to the quiz. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Answer to the quiz (10%) and term-end report/dissertation (90%).

HIS200GA

中国の文化Ⅲ (日中文化交流史)

鈴木 靖

配当年次/単位: 1~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】

中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

By the end of the course, students will be able to:

Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.

Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第2回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第5回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	元寇	ユーラシア大陸を席卷したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝

第7回 倭寇

モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。

【キーワード】

・「倭寇図巻」(東大史料編纂所蔵)
・「明人抗倭図巻」(中国国家博物館所蔵)

第8回 鄭成功

中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いまま民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。

第9回 藤野先生

中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与え続けている。

【キーワード】

・藤野厳九郎
・魯迅

第10回 霧社事件

1930年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されるようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。

【キーワード】

・ドラマ「風申緋桜」
・映画「セデック・バレ」

第11回 日中戦争

戦後、60年以上経ったいまま日中関係に影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。

【キーワード】

・「認罪」教育

第12回 留用された日本人たち

終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまま中国で高く評価される日本人の事績について考える。

【キーワード】

・「留用」された日本人

第13回 日中国交正常化

1972年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして日中国交正常化を実現したのか。いまま中国で高く評価される田中らの交渉について考える。

【キーワード】

・田中角栄
・周恩来

第14回 今日の日中関係

歴史問題や領土問題など、日中間にはいまま多くの課題が残されている。閣僚による靖国神社参拝問題と尖閣諸島(中国名・釣魚島)問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。

【キーワード】

・靖国神社参拝問題
・尖閣諸島(中国名・釣魚島)問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業の前に教材用ページのPDF資料で事前学習を行う。本授業の準備学習時間は4時間を標準とする。

Students will be required to have completed the given, relevant assignments before each class. Study and class preparation will amount to at least four hours per class.

【テキスト (教科書)】

毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のためのPDF資料を配布する。教材用ページへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』(農山漁村文化協会、2000年)
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』(日本エディタースクール出版部、2000年)
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』(現代書館、1996年)
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』(中公新書、2011年)
- ⑤孫崎享『日本の国境問題』(ちくま新書、2012年)

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の2つの基準をもとに評価する。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容 (80%)
- ②期末レポート (20%)

これらの成績をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

Final grade will be calculated according to the following process:

1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

【学生の意見等からの気づき】

授業の復習に必要な要望があったため、授業用スライドの PDF を配布することにする。

【学生が準備すべき機器他】

fixi を通じて資料の配布を行う。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline (in English)】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が練習問題の解答を発表する機会も設ける。
・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

14 まとめ

授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019『やさしくくわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ばない「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners.
- (2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar.
- (3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・After every class, students are required to review the materials.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
・No final exam will be held in this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

*中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

*中国古典を現代語訳で読むときの注意点

*中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『莊子』と神話	莊子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『莊子』の哲学	莊子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・莊子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40%、期末試験60%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

Learning Objectives

To be able to deeply understand modern Japanese society by learning the basic knowledge of Chinese philosophy.

Learning activities outside of classroom

Read the parts of the textbooks that were not mentioned in the lesson to supplement the understanding of the lesson contents.

Grading Criteria/Policy

Grades will be evaluated with 40% reaction paper (submitted each time at the end of class) and 60% final exam.

If you are absent 5 times or more, you will not be eligible to take the final exam. Also, if you are late class twice, you will be considered as absent once.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】

中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話しします
2	近代文学の誕生 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生 2	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生 3	魯迅「阿 Q 正伝」
5	近代文学の誕生 4	周作人と日本
6	新世代の作家たち 1	文学研究会
7	新世代の作家たち 2	創造社
8	近代中国のモダニズム 1	新月社
9	近代中国のモダニズム 2	新感覚派
10	1930年代、注目すべき作家と作品 1	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930年代、注目すべき作家と作品 2	沈從文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「小二黒の結婚」
13	淪陷区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。併せて2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：60%

コメントペーパー・平常点：40%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明するために出した例があまり効果を発揮していないこともあったので、説明にまだまだ工夫が必要だと思いました。遠慮せずに随時ご意見ください。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand modern Chinese society and culture.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports /in class contribution: 40%.

LIT300GA

中国の文化区（中国俗文学）

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせで行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の資料を授業用ページを通じて配布するので、授業前に読んでおくこと。授業後は授業用スライドのPDFファイルを配布するので、これをもとに復習を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、事前学習の資料と授業で使用するスライドのPDFファイルを教材用ページを通して配付する。

【参考書】

各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80%）
- ②期末レポート（20%）

これら成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの感染拡大によって対面授業に参加できない受講生のために、Zoomでのオンライン配信を行い、あわせて授業のスライドや映像資料などを授業用サイトに公開するようにした。

今年度は対面授業で行うが、授業のスライドや映像資料は授業用サイトに公開することを続ける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how the Chinese culture influenced the development of Japanese culture. How kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries, how Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries. How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries. Students will also need to consider when paper and printing were invented and how they changed the world. How Chinese Popular literature was born and influenced Japanese literature.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the cultural history of China and rethink our culture from an East Asian perspective.

【Learning activities outside of the classroom】

Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on reflection essays(80%) and an end of term report(20%).

HIS300GA

中国の文化X（歴史）

張 玉萍

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】

現在、日中両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中関係史を避けて通ることはできない。19世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたるまでの日中関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業を通じて知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼を醸成する可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインの形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国とは何か（1）	地域文化へのアプローチ 地理——東低西高、南船北馬
第2回	中国とは何か（2）	民族——56民族の由来と特徴、分布
第3回	中国とは何か（3）	言語——普通話と方言
第4回	儒教（1）	中国人の価値観の中核
第5回	儒教（2）	儒教の興隆、衰退、復活
第6回	満族（1）	“入主中原”
第7回	満族（2）	“満”と“漢”
第8回	旗袍（1）	下位文化から上位文化への上昇
第9回	旗袍（2）	上位文化から下位文化への転落および復活
第10回	清末留日学生（1）	史上初の留日ブーム ——師弟関係の逆転
第11回	清末留日学生（2）	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第12回	日中間における人的交流（1）	政治家としての戴季陶と日本
第13回	日中間における人的交流（2）	戴季陶の日本観およびその意義
第14回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の内容に関して、興味のある部分をさらに自分なりに調べて、理解を深めていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業用資料はオンライン上で公開する。

【参考書】

張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011年。

【成績評価の方法と基準】

最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものを一つ選び、それについて自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。期末テスト（70点）、平常点（授業資料の視聴確認、30点）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies, and clothes, we will enter the world of modern and contemporary China. The purpose of this lesson is to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

At present, the level of trust between Japan and China is far from satisfactory. This lesson will help students to understand the causal relationship between the current situation and Japan-China relations from the reversal of the two countries' positions at the end of the 19th century to the present day. Then, the possibilities of fostering mutual trust between Japan and China will be explored, and the methods of cross-cultural understanding will be learned.

Students are expected to further their own understanding of the content of each assignment by further researching the areas of interest to them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

An essay test will be given in the final session. Students are required to choose one of the six themes studied in class that interests them, research it in depth, and summarize it by themselves. In the examination, students are required to discuss two questions, one on the theme they have researched and one on the theme designated by the instructor. Students are allowed to bring their own materials and handouts from the class.

The final exam (70 points) and the regular exam (30 points for watching the class materials) will be used to evaluate the overall performance of the course.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的な流れは、以下の通りである。

朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入/朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、網渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮(王宮の再建から王妃殺害事件まで) ・徳寿宮(大韓帝国の近代) ・昌徳宮(最後の国王、植物園、動物園)
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員

8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代、70 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明(歴史の再評価)
10	1980 年代、90 年代、2000 年代	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女 ・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン ・期末試験
12	歴史の和解とは	
13	世界のコリアン・韓国の外国人	
14	まとめ	

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

毎回、授業資料を配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』(平凡社) 2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』(明石書店) 2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』(青木書店) 2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』(明石書店) 2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する方針である。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

SA 韓国2年生はかならず受講してください。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Little exams : 50%.

LANk300GA

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山 政春

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を音声、文字、語彙、文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって、朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています。

また日頃接する機会の少ない、北朝鮮の言語と、さらに方言と古語についても言及したいと思っています。

【到達目標】

この授業は、実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が、その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで、ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

みなさんには、少なくとも朝鮮語を2年（週3コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます。他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが、ついていくにはかなりの努力を要します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	音声と音素	2種類の「音」についての解説を行なう。
2	音素交替①	つづりと発音の「規則的なずれ」についての解説を行なう。
3	音素交替②	つづりと発音の「規則的ではないずれ」についての解説を行なう。
4	語種	おもに漢字ごと外来語についての解説を行なう。
5	体言と格	品詞分類や助詞についての解説を行なう。
6	用言①	用言の語幹と語尾の結合方式についての解説を行なう。
7	用言②	不規則用言についての解説を行なう。
8	ボイス	用言の受身と使役についての解説を行なう。
9	待遇法と敬語	朝鮮語の各種文体、ていねい形と尊敬形の区別などについての解説を行なう。
10	アスペクトと接続形	「～ている」の2つの意味と動詞の性質の関係についての解説を行なう。
11	方言	おもに韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについての解説を行なう。
12	南北の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについての解説を行なう。
13	古語	『訓民正音』を見ながら現代語との違いについての解説を行なう。
14	まとめ	1学期間のまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「この授業のため」というのではなく、授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です。「この授業のため」の準備学習は特に必要ありませんが、毎回課題を出す予定なので、次回の授業までにやってきてください。授業外学習の標準時間は授業1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に必要に応じて説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とレポート（20%）によります。平常点は、なるべく毎回の授業で課題を出し、その評価によって決定します。あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのには上に書いたとおりですが、にもかかわらず、シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います。そういう非常識なことはやめてほしいと思います。

韓国人留学生（朝鮮語母語話者）の受講者の受講も歓迎しますが、単に「簡単そうだから」受講するのではなく、「なぜそうなのか」自分の母語を振り返る機会を持つという意欲のある者に受講してほしいと思います。たとえば授業中に（授業内容とは無関係に）スマホを見てばかりの学生などがいた場合、途中でやめてもらうことになるかもしれません。

【その他の重要事項】

履修者の状況によっては、授業を朝鮮語で行ないます。またおそらく少数の授業になると思いますので、受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have a certain degree of practical language skills to gain a deeper understanding "rules" of Korean grammar and vocabulary.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policy >

Grading will be decided based on assignments (80%) and term-end report (20%).

AR5b300GA

ロシア・中央アジアの文化

古庄 浩明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で学生は、中央アジアの過去と現在について学ぶ。中央アジアを理解するにはその複雑な歴史を知らなければならない。それによって、学生は、現代の中央アジアの社会と文化、ロシア・中国を含めた国際関係について理解する。

【到達目標】

(1) ロシアおよび中央アジア諸国の歴史と現状に関わる様々な事項を説明できる。(2) ロシアと中央アジアの類似点及び相違点について自分なりに考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

学生は授業ノートを「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」からダウンロードしておき、それを利用する。学習支援システムを利用したオンデマンド方式のビデオも利用する。

講義内容へのリアクションおよび質問は、授業内および学習支援システムで受け付け、授業内および学習支援システムにて回答する。

また、期末レポートを提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中央アジアとは？	地勢と民族・宗教・文化
2	中央アジアにおける文明の発生	オクサス文明の始まり 鉄器時代 スキタイとその美術
3	アケメネス朝ペルシャとアレキサンドロス大王	ペルセポリス ベヒスタン碑文
4	サカと塞	イシク古墳黄金人間
5	バルティアとローマ	オクサスの遺宝
6	グレコバクトリア	張騫
7	シルクロードの始まり	クシャン朝
8	クシャン朝	考古学調査の成果
9	ガンダーラ美術	テリヤテベ
10	トルコ系民族の流入	エフタル
11		突厥
12	玄奘とシルクロード	その経路と遺跡・遺物
13	ササン朝ペルシャ	アフラシアブの壁画
14	唐の進出と衰退	
15	イスラム教の定着	ターヒル朝からカラキタイ
16	モンゴル帝国	ジョチウルス・フレグウルス・チャガタイウルス
17	ティムール朝の興亡	グル・エミール
18	東トルキスタンの情勢	新疆ウイグル自治区の成立
19	ロシア帝国と三藩国の時代	ヒヴァ・ハン国 プハラ・ハン国
20	ソビエト連邦の成立と崩壊	コーカンド・ハン国
21	中央アジア諸国の現在の授業の総括	中央アジア諸国とロシア・中国との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に教科書や参考資料・授業ノートに授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

授業ノートは「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」からあらかじめダウンロードしておくこと。データにはプロテクトがかかっている。プロテクトキー（パスワード）は授業中に知らせる。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『中央アジアの歴史と考古学 第2版』三恵社 ISBN978-4866933580

【参考書】

小松久男（編）2000『世界各国史 4 中央ユーラシア史』山川出版社
 エドヴァルド・ルトヴェラゼ 2011『考古学が語るシルクロード史』平凡社
 加藤九祐 2013『シルクロードの古代都市』岩波新書
 その他、授業時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）（50%）、期末レポート（50%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業タイトルだけでなく、授業内容についてもよく確認してから履修すること。教科書がほしいという要望に応じて、講義内容をまとめ、本として出版した。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのビデオ・参考資料配付などに学習支援システムを利用する。授業ノートは「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」からあらかじめダウンロードしておくこと。データにはプロテクトがかかっている。プロテクトキー（パスワード）は授業中に知らせる。

【その他の重要事項】

プロフィール
 厚木市役所職員・東京国立博物館事務補佐員・土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム学芸員を経て、法政大学兼任講師・駒澤大学講師・国士館大学講師。考古学者・博物館学者。

日本の遺跡の調査はもちろん、1998年から2016年までウズベキスタン共和国ダルベルジンテベ遺跡・カンピルテバ遺跡・カルシャウールテパ、キルギスタン共和国アクベシム遺跡、ブルガリアそして、駒澤大学発掘実習・中国周公廟遺跡群の発掘調査に参加した。2000年から2016年までウズベキスタン首都タシュケントの平山郁夫国際文化のキャラバンサライにて国際交流基金の事業として「考古学と文化財の修復と保存、博物館学」を教えるワークショップを主催した。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course students will learn about the past and present of Central Asia. To understand Central Asia, students must know its complex history. By doing so, students will gain an understanding of contemporary Central Asian society and culture, as well as international relations, including Russia and China.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain various matters related to the history and current status of Russia and Central Asian countries, and 2) analyze the similarities and differences between Russia and Central Asia.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the textbook before class. Read through class materials. After class, review the lecture content to deepen understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Final report: 50%, Reflection papers: 50%.

ARSB300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで「優等生」と位置付けられてきたポーランド、そしてハンガリーが今ではEUのなかで足並みを揃えない傾向にあります。なぜでしょうか。

この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）それぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。なお2023年度は、SAロシア代替として実施予定のエストニア短期語学研修に向けて、エストニアの文化や歴史も概観していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはいかなることかを学生のみなさんに考えてほしいと思います。

本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAロシアの2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識や批判的視点を持ちながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。2023年度はエストニア短期語学研修実施で予定のため、エストニアも扱います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、建築、美術）、現代事情を視聴覚資料を通して東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉えて考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。

第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容について。伝統音楽からシヨパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら政治や歴史と映画について考える。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コリーヤ、愛のプラハ』を紹介。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からエストニアを概観。e-Estonia（電子国家エストニア）の現状について。
第13回	エストニア：街並みと風土	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、ワバム広場、「歌と踊りの祭典」について。
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	アンドルス・キヴィラフクの小説、ピレット・ラウドの絵本／映画『ノベンバー』（ライネル・サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回4時間以上、期末レポートの作成には、1週間程度かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、コメントシート 30 %、期末レポート 20 %に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、皆さんの協力を期待します。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process you will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia, Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Please take about a week to create the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50 %), Short reports(30 %) and term-end reports(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSA300GA

ドイツ語圏の文化Ⅱ

熊田 泰章

配当年次/単位: 2~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 隔年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ(昔のドイツ・東ドイツ・西ドイツ・統一後のドイツ)とオーストリア、スイスにおいて、ドイツ語で書かれた文学作品を読む。それによって、ドイツ語によって構築される文化についての考察を行なう。加えて、他の文化圏への参照を行う。

言語使用における理解の仕組みについて考え、インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を中心に置き、言語テキストを解析することを通して、異文化間の理解と誤解の実例としてテキストを分析する。

言語芸術としての文学作品の作品性も合わせて分析する。

☆作品は、日本語翻訳として出版されているものを用いる。

ドイツ語の知識は必須ではない。

☆他の文化圏で書かれているドイツ語以外の作品(日本語版)を対照として読む。

【到達目標】

インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を理解する。
異文化間の理解と誤解の成立について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

作品を読みながら、考えていく授業です。

作品例として以下のものを予定しています:

クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』

エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』

エーリヒ・ノサック『盗まれたメロディー』

オルハン・パムク『雪』

ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』

ミュリエル・バルベリ『優雅なハリネズミ』

カズオ・イシグロ『チェリスト』

アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』

グリム『グリムの昔話』

アゴタ・クリストフ『悪童日記』

などから選びます。

また、受講者からの提案も入れて取り上げる作品を組み立て直すことも行います。

採用する作品については、学習支援システムでお知らせします。

作品を読み、分析を行ない、毎回課題ミニレポートを書いて提出するを行なう授業です。

毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の確認、作品の提案と概説
第2回	作品1: クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』第1回	作品1: クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説
第3回	作品1: クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』第2回	作品1: クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の分析
第4回	作品2: エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』第1回	作品2: エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説
第5回	作品2: エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』第2回	作品2: エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の分析
第6回	作品3: オルハン・パムク『雪』第1回	作品3: オルハン・パムク『雪』の読解と解説

第7回	作品3: オルハン・パムク『雪』第2回	作品3: オルハン・パムク『雪』の分析
第8回	作品4: ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』第1回	作品4: ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説
第9回	作品4: ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』第2回	作品4: ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の分析
第10回	作品5: カズオ・イシグロ『チェリスト』第1回	作品5: カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説
第11回	作品5: カズオ・イシグロ『チェリスト』第2回	作品5: カズオ・イシグロ『チェリスト』の分析
第12回	作品6: アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』第1回	作品6: アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説
第13回	作品6: アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』第2回	作品6: アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の分析
第14回	まとめ	これまでの作品のまとめ 授業で学んだことの総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で読みきれなかった作品を読み通す。

取り扱う作家と作品の背景について調べる。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

選定した作品を用い、学習支援システムで閲覧する。

【参考書】

熊田泰章「テキスト外参照性を封じる語り手の声—アゴタ・クリストフ『悪童日記』における拒絶する語り—」法政大学国際文化学部紀要『異文化』10号、法政大学国際文化学部、2009年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課す。

その上で、最後に期末試験を行なう。

ミニレポート 50%、期末試験 50%。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

作品内容を文化圏の諸事情に即して理解することがポイントである。

【学生の意見等からの気づき】

学生の提案を反映していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

We read literary works written in German in Germany (old Germany, East Germany, West Germany, Germany after reunion), Austria and Switzerland. It gives a consideration of the culture constructed in German. In addition, we make references to other cultural areas, thinking about the mechanism of understanding in language use, focusing on the important concepts of interculturality and intertextuality, and analyzing language texts. We analyze texts as an example of cross-cultural understanding and misunderstanding. The workability of literary works will be also analyzed.

☆ We use works published as a Japanese translation. Knowledge of German is not essential. ☆ We read Non-German works (Japanese version) written in other cultures as a contrast.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[授業の目的] この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が一層も悪くも一西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。

[授業の概要]

※世界史以外を受験のさいに選んだ人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。

・デュヴィ&マンドルー『フランス文化史』IIによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みで囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性もつ尊敬のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

・17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。

・イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、16世紀から17世紀にかけてのフランスにおける思想や文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から、そのなかに含まれている主題を、ステレオタイプに陥らずに、見いだす力を養う。
3. 権力と正義、そして宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は基本的に「対面」です。
- ・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムや Google Classroom を利用する場合があります。
- ・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入①：なぜこの科目？ 高校2年生の視点から	映画「アデル、ブルーは熱い色」
第2回	導入②：17世紀の前には16世紀が(フランスにおけるルネサンス)	ラブレール『ガルガンチュワとパンタグリユエル』 モンテーニュ『随想録(エッセー)』
第3回	「フランスの」思想？	石井洋二郎『フランス的思考』 アンドレ・シエグフリート『西欧の精神』 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説—まんがで読破—』
第4回	情念と理性 ～秩序 vs 破壊的な混沌～	赤木昭三・赤木富美子『サロンの思想史』 ボワロー『詩法』 ラシーヌ『フェードル』
第5回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～①	バルトルシャイティス『アナモルフォーズ』 タビエ『バロック芸術』 コルネイユ『舞台は夢』
第6回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～②	バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』 ボーサン『ヴェルサイユの詩学』 フーコー『言葉と物』
第7回	「隠れた神」を読みとる	カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』 拙稿「自発的隷従とは何か」 高階秀爾(たかしな しゅうじ)『フランス絵画史』
第8回	「宮廷社会」と感情のゆくえ	エリアス『宮廷社会』 モリエール『町人貴族』『人間嫌い』 ラファイエット夫人『クレヴの奥方』
第9回	中間ふりかえり	映画「王は踊る」
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニテ、あるいは人生の寓意(アレゴリー)」 「1662年の奉納画」 ルイ・コニュ『ジャンセニズム』 パスカル『田舎人への手紙(プロヴァンシャル)』

- 第 11 回 モラリストと仮面① ラ・フォンテーヌ『寓話』から「セミとアリ」「寓話の力」「M・L・D・D・L・Rへ」ファフ・ララージュ（ラッパー）「オオカミと仔ヒツジ」マリアヌ・ヴルシュ（ラジオ番組）「ジャン・ド・ラ・フォンテーヌまたは反抗する詩人」
- 第 12 回 モラリストと仮面② ラ・ロシュフォーコー『箴言（しんげん）集』箴言 266 番「怠惰はまったく柔弱ではあるが、にもかかわらず、しばしば他の情念の支配者にならずにはいない」他
- 第 13 回 パスカルの賭け
Pari pascalien 映画「モード家の一夜」パスカル『パンセ』『デュラス × ミッテラン対談集 パリ 6 区デュパン街の郵便局』アントワーン・コンパニオン『パスカルと過ごす夏』から「パスカルとマルクス主義者」（ラジオ番組）
- 第 14 回 まとめ あなたにはどの箴言が刺さりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 予習は必要ありません。
- (イ) 授業にたいするコメントを書いてもらう場合があります。
- (ウ) (イ) 以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点します。指定する LMS (学習支援システム-Hoppii の掲示板か Google Classroom のストリーム>コメント) に、文章やリンクを貼り付けてください。
- (エ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記 (イ) (ウ) を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修するため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書を買う必要はありません。
- ・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。

【参考書】

- 参考となる映像作品：
- パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994 年。
ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000 年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。
リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998 年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。
- 参考となる音楽作品：
- 夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しません (0%)
- (イ) 期末レポート：実施しません (0%)
- (ウ) 授業への参加 (50%)
- (エ) 担当範囲外における発言など積極的な参加 (40%)
- (オ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）(10%)
- ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17 世紀のヨーロッパ）に関する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください【学内生のみ、要統合認証】<https://docs.google.com/document/d/1k6QWm-Hdj6ozZfzcQw4EuUyJKC3mlQxIx1yG2uBVc8/edit?usp=sharing>

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。そのため、こうしたサイトを使うのに必要な情報環境はあったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ①法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
- ②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
- ③履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
- (※) この「フランス語圏の文化 I（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

【Learning Objectives】

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

【Learning activities outside of classroom】

- (a) No preparation is required.
- (b) Students may be asked to write comments on the class.
- (c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
- (d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

【Grading Criteria】

- (a) Class participation (50%)
- (b) Active participation such as speaking outside the scope of the course (40%)
- (c) Others (cooperation in administration and pointing out mistakes of the instructor) (10%)

* Based on this grading method, those who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class.

ART200GA

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】

エポック・メイキングな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。

コメントシートに関するフィードバックは授業内や hoppii で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド1 (キュビズム、フォーヴィスム)	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画
第9回	アヴァンギャルド2 (ダダイスム、シュルレアリスム)	デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第10回	エコール・ド・パリと詩的リアリズム	ユトリロ、藤田 クレール、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエニブ レッスン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第13回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家
第14回	期末試験	期末試験の説明 期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントで代用する。

【参考書】

中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書

そのほかは随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50%）＋期末試験（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We take a general view of history of French fine art, photography and movie.

【Learning Objectives】 The aim of this course are to know the outline of history of Modern French Arts, and to have an appreciation of great works.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】 Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。ラテンアメリカと総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちている。本授業では、特にインカ帝国が栄えたペルーの歴史や文化を中心的なテーマに据えながらも、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得る。各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。

授業はすべて、授業支援システムを活用したオンデマンド方式で行うため、指定された期間内に課題やコメントを提出し、電子掲示板を用いて議論を行う。そのため、頻繁に授業支援システムから授業連絡や掲示板をチェックすることが必須となる。特定の時間割に設定されていないため、自ら積極的に授業参加する意識が求められる。

なお、受講生の関心に応じて各回のテーマについては変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「インカ王国の生成」	『インカとスペイン帝国の交錯』1～2
3	「古代帝国の成熟と崩壊」 「中世スペインの共生する文化」 「排除の思想 異端審問と帝国」	章 テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』3～4章
4	「交錯する植民地社会」 「世界帝国に生きた人々」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』5～6章
5	「帝国の内なる敵 ユダヤ人とインディオ」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』7章
6	「女たちのアンデス史」 「インカへの欲望」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』8～9章
7	「インカとスペインの決別」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』10章
8	ラテンアメリカの芸術	ラテンアメリカの画家とその作品を通して、歴史と文化を学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
9	ラテンアメリカの文学	ラテンアメリカ出身の作家と作品について紹介する。受講生によるプレゼンあり。
10	ラテンアメリカの食文化	ラテンアメリカの食の歴史をたどりながら、その多様性について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
11	ラテンアメリカの音楽	ラテンアメリカの音楽について、音源や映像を活用しながら学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
12	日本とラテンアメリカ	日本とラテンアメリカの関係について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
13	ラテンアメリカの映画	映画を題材に、その背景について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
14	ラテンアメリカの女性たち	ラテンアメリカの女性像を切り口に、歴史と社会的背景について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲を読んでおくこと。また AV 資料の視聴が指示された場合にも必ず従い、事前に準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008年。

【参考書】

- 寺尾隆吉『ラテンアメリカ文学入門 - ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』中公新書、2016年。
- 高橋均、網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年。
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：50%、授業への貢献とプレゼンテーション：50%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。AV 資料を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション担当の回は、発表者が PC を準備すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

また、受講生と相談しながら、授業計画にあるプレゼンのテーマや内容の順番を入れ替える可能性もある。

この授業は定員を設けているため、定員以上の受講希望者がいる場合は 1 回目授業に選抜を行う。したがって受講を強く希望する人は必ず 1 回目から参加すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

< Learning Objectives >

By the end of this course, students are expected to gain a basic understanding of Latin American history, culture and society.

You will be able to deepen your interest in problems and translate them into presentations and reports.

< Learning activities >

Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Short reports : 50%, in class contribution: 50%.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ① フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ② 多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③ 一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。

第13回 ケベック州の文化③

・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第14回 総括

・本授業の全体のまとめ
・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』エリアスタディーズ・72巻、明石書店、2009年。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40%
②期末レポート：60%
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】

・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LANs300GA

カタルーニャの文化 I (言語 A)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにはなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことはいままでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の基礎をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化II (言語 B)」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化III (歴史・社会 A)」および「カタルーニャの文化IV (歴史・社会 B)」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

- ① 基礎カタルーニャ語の能力を確実に習得すること (ヨーロッパ言語共通参照枠 A1 レベル相当)。
- ② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 小テスト：定期的に行う 10~15 分の筆記・リスニングのテストです。
- ② 自主学習ファイル：カタルーニャ語に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ③ 期末テスト：筆記・リスニングテストです。
- ④ 作文：提出日までの文法・語彙を活かした簡単な自己紹介文です。
- ⑤ 授業態度：主に授業中・外に行った活動を理解・上達しようとする努力です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、挨拶などの日常表現	— Com anem? — Molt bé, gràcies. I tu?
2	アルファベット、発音、二重母音、強勢の位置、主語の人称代名詞、人称冠詞、動詞 ser、疑問文、否定文	— Ets de Barcelona, oi? — No, jo soc de Girona.
3	名詞と形容詞の性数、冠詞、動詞 estar、動詞 tenir、疑問詞	— Com és en Jiro? — En Jiro té 20 anys i és molt simpàtic.
4	位置と存在の動詞、位置の表現	El Museu Picasso és al centre de Barcelona. A Barcelona hi ha molts museus!

5	指示詞、所有詞	Aquests són els meus pares i aquest és el meu gos.
6	動詞 ser, estar, haver-hi, tenir の使い分け	La Marina és molt activa, però ara està cansada i té una mica de son.
7	現在の規則動詞と不規則動詞、時間の表現	Jo visc a Mallorca. Estudio a la universitat i treballo en un restaurant italià.
8	動詞 poder、動詞 voler、動詞 conèixer, saber, poder の使い分け、前置詞、つなぎ言葉	— Saps qui és aquell noi? — No, no ho sé, no el conec pas.
9	直接・間接目的格弱勢代名詞	Vull aquest videojoc, però els pares no me'l compren.
10	動詞 agradar と同型の動詞、動詞句と他の便利な表現	M'agrada molt el cafè, però avui m'estimo més un te.
11	量詞、不定語	— Vols veure alguna pel·lícula? — No, no en vull veure cap.
12	再帰代名詞を使う動詞	Nosaltres normalment ens aixequem a les set.
13	期末テスト	筆記・リスニングテストを実施します。
14	映画鑑賞とディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、カタルーニャ語で内容についてディスカッションを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも 60 分の予習と 180 分の復習・宿題を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に重要です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

配布資料 (文法・練習・語彙を含みます)。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕 (2002) 『カタルーニャ語辞典』大学書林。
—— (2007) 『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
—— (2013) 『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
—— (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, London and New York, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 小テスト [30%]
 - ② 自主学習ファイル [20%]
 - ③ 期末テスト [20%]
 - ④ 作文 [15%]
 - ⑤ 授業態度 [15%]
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudi”, “Dali”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire a basic knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.

Finally, this class is followed by "Catalan Culture II (Language B)", so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture III (History and Society A)" and "Catalan Culture IV (History and Society B)" as well.

[Learning Objectives]

1. Acquire a basic knowledge of Catalan language (CEFR A1 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia's history, culture and society.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary at least 30 and 60 minutes for preparing and reviewing each class, respectively. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

[Grading Criteria / Policy]

1. Minitests (30%)
2. Self-study file (20%)
3. Final term test (20%)
4. Composition (15%)
5. Attitude in class (15%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の初級をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

- ① 初級カタルーニャ語の能力を確実に習得すること（ヨーロッパ言語共通参照枠 A2 レベル相当）。
- ② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 小テスト：定期的に行う 10～15 分の筆記・リスニングのテストです。
- ② 自主学習ファイル：カタルーニャ語に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ③ 期末テスト：1 時間前後の筆記・リスニングテストです。
- ④ 作文：主に各過去時制を活かした作文です。
- ⑤ 授業態度：主に授業中・外に行った活動を理解・上達しようとする努力です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総復習	Quant de temps!
2	比較級、最上級	El Mont Fuji és més alt que la Pica d'Estats.
3	点過去、現在完了、線過去	Aquest matí quan m'he aixecat tenia molta gana.
4	過去完了、過去時制の使い分け	Quan vaig arribar a l'estadi, el partit ja havia començat.
5	未来、命令	Vine a la festa, que t'ho passaràs bé!
6	現在分詞	En Miquel sempre està fent bromes als seus amics.
7	間接話法	El meu fill diu que vol ser astronauta.
8	無人称性を表す構文	Es pot visitar la Casa Milà a la nit?

9	過去未来	Et convindria no menjar tants dolços.
10	関係詞節	Tinc un amic que parla set llengües.
11	接続法（Ⅰ）	Espero que guanyeu el partit!
12	接続法（Ⅱ）	Necessito un llibre que expliqui bé el subjuntiu.
13	期末テスト	筆記・リスニングテストを実施します。
14	映画鑑賞とディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、カタルーニャ語で内容についてディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも 60 分の予習と 180 分の復習・宿題を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に重要です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供予定です。

田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。

——（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。

——（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。

——（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, London and New York, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 小テスト [30%]
- ② 自主学習ファイル [20%]
- ③ 期末テスト [20%]
- ④ 作文 [15%]
- ⑤ 授業態度 [15%]

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

Obviously, one cannot really appreciate Catalonia’s fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire an elementary knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia’s world.

Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire an elementary knowledge of Catalan language (CEFR A2 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 30 and 60 minutes for preparing and reviewing each class, respectively. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Minitests (30%)

2. Self-study file (20%)

3. Final term test (20%)

4. Composition (15%)

5. Attitude in class (15%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインだけではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾=ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 授業態度：主体的に学ぼうとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする態度です。
- ② アクティブラーニング：学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な研究・発表です。
- ③ 自主学習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ④ 期末テスト：選択回答・自由記述式の筆記テストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	先史・古代史・中世史	おおよそ 15 世紀まで。
3.	近代史	おおよそ 16 世紀から 19 世紀初頭まで。
4.	現代史	おおよそ 20 世紀から現在まで。
5.	バルセロナの都市空間史	都市空間を分析する妥当性、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。
6.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、現状など。

- | | | |
|-----|------------|-----------------------------------------------------------------|
| 7. | 文学 | 各時代の文学の特徴や主な作家、名作の紹介など。 |
| 8. | 民俗文化 | 祭りと習俗（クリスマス、サン・ジョルディの日、パトゥム、サン・ジュアン祭り）、民俗芸能（人間の塔、サルダナ）、闘牛の禁止など。 |
| 9. | 建築・絵画 | ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。 |
| 10. | 音楽 | クラシック音楽、ノバ・カンソー、現代音楽など。 |
| 11. | 食文化 | 伝統的な料理と行事食、現代の超創作料理など。 |
| 12. | スポーツ | 巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FCバルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。 |
| 13. | アクティブラーニング | 学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な研究・発表です。 |
| 14. | 期末テスト | 選択回答・自由記述式の筆記テストです。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも 180 分の予習と 60 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業態度 [30%]
- ② アクティブラーニング [30%]
- ③ 自主学習ファイル [20%]
- ④ 期末テスト [20%]

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助教機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia's history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today's global society.

Finally, this class is followed by "Catalan Culture IV (History and Society B)", so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture I (Language A)" and "Catalan Culture II (Language B)" as well.

[Learning Objectives]

1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary at least 60 minutes for preparing and 30 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class participation (30%)
2. Active Learning (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Written exam (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会 B)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインだけではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾=ヒントも多く見出されます。

最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ (言語 A)」および「カタルーニャの文化Ⅱ (言語 B)」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 授業態度: 主体的に学ぼうとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする態度です。
- ② アクティブラーニング: 自分が選んだカタルーニャに関するテーマのレポートです。
- ③ 自主学習ファイル: カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ④ 映画分析: 学生が選んだカタルーニャの映画を批判的に分析・考察するレポートです。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	産業革命に対する社会的闘争	19世紀から20世紀当初まで。
3.	独裁制に対する社会的闘争	1930年代から1970年代まで。
4.	グローバル化社会に対する社会的闘争	1970年代から現在まで。
5.	政治	自治復活、カタルーニャ自治憲章、現代の諸政党、近年の政治論争など。

6.	独立運動	独立運動の歴史、現在の独立運動の特徴、各社会行為者による立場と理由づけ、今後の独立実現の可能性など。
7.	経済	カタルーニャ独自の産業革命の特徴、内戦中のアナキスト革命による経済、スペイン国家内の自治州としてのカタルーニャの経済など。
8.	移民とアイデンティティ	移民の動向、移民受け入れ政策の変遷、多文化共生の諸相など。
9.	カタルーニャ語の現在と未来	カタルーニャ語の使用の動向、公教育をめぐる論争、グローバル化社会に伴う諸挑戦など。
10.	メディア	メディア業界の企業・団体の概要と特徴、表現の自由、メディアの中のカタルーニャ語など。
11.	ジェンダー	フェミニズムとLGTBI+の運動と制度の歴史、法律の詳細、現代の論争など。
12.	映画	バルセロナ映画派、クリエイティブ・ドキュメンタリー、近年の国際化など。
13.	映画鑑賞とディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、スペイン語で内容についてディスカッションを行います。
14.	アクティブラーニングと映画分析の紹介とディスカッション	アクティブラーニングのレポートと映画分析のレポートの内容を気軽に紹介し合っ、ディスカッションを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも180分の予習と60分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

配布資料 (論文・映画を含みます)。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕 (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。
—— (2019) 『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高/奥野良知編 (2013) 『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, London, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業態度 [30%]
 - ② アクティブラーニング [30%]
 - ③ 自主学習ファイル [20%]
 - ④ 映画分析 [20%]
- 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudi”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia’s history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today’s global society.

Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

[Learning Objectives]

1. Acquire a general knowledge about Catalonia’s history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia’s history, culture and society.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary at least 60 minutes for preparing and 30 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class participation (30%)
2. Active learning (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Film analysis (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ (文学と社会 A)

須藤 祐二

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選: 教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてももう一度解説をする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなに	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス(荒野)を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値を与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのように反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのように反映されているのかを考察する。
第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。

第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようとするかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する。併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で資料(英文)を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト(教科書)】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀(編) 油井大三郎(編) 『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣アルマ, 2003年
 亀井俊介(編) 『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』 昭和堂, 2006年
 板橋好枝、高田賢一 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房, 1991年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを70%、中間レポートを30%とする。
 両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を補足するうえで映像資料が役立ったという意見が多かったため、今年度も同様に用いる。
 例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。教室定員を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。
 基本的に、授業は対面で行う。しかし、感染症対策として、授業をZoomを使ったリアルタイム・オンラインに切り替えることがある。連絡は授業支援システム(Hoppi)の「お知らせ」で行う。授業実施方法に変更がないかを毎週授業前に必ず確認すること。なお、Zoomに切り替えても問題なく受講できるように、あらかじめ各自で通信環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds evidently articulated in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact that American literary works have had on pictures, films, and music of different periods.

At the end of this course, students should be able to explain some characteristics of American literature and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

The 1st report (30%) and the 2nd report (70%)

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名譽革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代（1837-1901）の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。

各授業の終わりには、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す。提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション (1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション (2) 19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習（原文抜粋の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習（原文抜粋の分析）・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習（小説前半の分析）
6	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
7	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895年）	演習（原文抜粋の分析）
9	H.G. ウェルズ『モロー博士の島』（1896年）	演習（原文抜粋の分析）
10	H.G. ウェルズ まとめ	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

(1) 2作品については、次の邦訳を使用する。

①アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。

②コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009。

(2) その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014。

※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシート 40%、リフレクションペーパー 20%）と、試験の成績（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

・購入が必要な本を4冊から2冊に減らした。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

・オンライン授業を教室で受講する際には、ハウリング防止のためマイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】

・授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を用いておこないます。

・初回授業について

受講希望者が教室定員を上回った場合、授業の最後に作成・提出してもらうペーパーをもとに、選抜をおこないます。

初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者は、当日中に出される「お知らせ」の指示にしたがってください。

【Outline (in English)】

Course Outline: "Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)" aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.

Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets (40%), reflection papers (20%), and the end-term examination (40%)

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ (英語の構造)

興石 哲哉

配当年次/単位: 3~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1, 2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方 (構造主義)。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇 (品詞論)。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思えます。
 2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思えます。
- 課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について (1)	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について (2)	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について (3)	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について (4)	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について (5)	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。

7	英語の音声について (6)	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素 (アクセント、リズム、イントネーション等) について解説します。
8	英語の文法について (1)	英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
9	英語の文法について (2)	英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
10	英語の文法について (3)	英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
11	英語の文法について (4)	英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
12	英語の文法について (5)	英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念 (おおまかな説明: 語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか) について学びます。そして、不連続構成素とどのように扱うかについての話をします。
13	英語の文法について (6)	英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
14	まとめ~今後につなげて	これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

- 授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』。東京: 講談社 [のちに講談社学術文庫に収載。]
 - ・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』。東京: 講談社 [のちに講談社学術文庫に収載。]
 - ・竹林滋・斉藤弘子 (1998). 『改訂新版 英語音声学入門』。東京: 大修館書店。
 - ・中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』。東京: 講談社 [講談社学術文庫]。
 - ・田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』。東京: 講談社 [講談社学術文庫]。
 - ・竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』。東京: 岩波書店 [岩波ジュニア新書]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。(やむを得ない場合に限り、欠席3で-10% (大体のところ評価にして1段階下がる)、5で失格、というのを一応の目安とします。)

基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
 2. 本科目はグローバル・オープン科目の Structure of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。
 3. 初回授業に必ず参加してください。
 4. かなり早いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。
- 授業形態については、「オンライン」となっていますが、可能であれば周知の上、「対面」も採り入れていきたいと思えます。したがって、その点を考慮の上、履修をお願いします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上、SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。)英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期でするので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS. Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ (Study Questions) への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズム III	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『バイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『バイマックス』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論 II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論 IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論 V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論 VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題 (SQ) へのレスポンスを提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題 (Study Question): 50%
- ・積極的な授業参加 (ディスカッション): 20%
- ・期末レポート: 30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況他理由でオンライン授業になった場合、「ラスト・サムライ」、「バイマックス」、ディズニーアニメ「シンデレラ」、「エバーアフター」は当該週に学生各自がオンラインでレンタルして視聴する必要があります。レンタル料はそれぞれ300円程度〜かかります（レンタル方法によって料金は異なります）。

【その他の重要事項】

第一回目の授業はオンラインで行います。履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments: 50%

Active Participation in class discussion: 20%

term paper: 30%

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田 泰章

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。

実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テキストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。

サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。

星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めめめとした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テキストに忠実に分析します。日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】

翻訳についての基本的学術用語を理解する。

翻訳の原理と可能性・限界を知る。

私たちが日常的に行っている他言語テキストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業は対面授業を実施しない。学習支援システムで資料と課題を掲示する。受講希望者は初回授業までに学習支援システムで仮登録し、初回授業の資料を用いて課題に答え、課題を学習支援システムによって提出すること。受講者数が教室定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテキスト実例は、学生による分析に付する。毎回、課題を出し、学習支援システムで提出する。

毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

<< 1 回目の授業で課題=ミニレポートを書いてもらいます。>>

その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテキスト分析 シニフィアン・シニフィエ ミニレポート1	基本概念の説明1： シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテキスト分析 恣意性 ミニレポート2	基本概念の説明2： 恣意性
4	基本概念の説明とテキスト分析 共時的・通時的 ミニレポート3	基本概念の説明3： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテキスト分析 間文化性 ミニレポート4	基本概念の説明4： 間文化性
6	基本概念の説明とテキスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート5	基本概念の説明5： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテキスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート6	基本概念の説明6： オノマトペと慣用表現

8	基本概念の説明とテキスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート7	基本概念の説明7： 社会制度と翻訳
9	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート8	基本概念の説明8： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート9	基本概念の説明9： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート10	基本概念の説明10： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテキスト分析 解釈学的循環 ミニレポート11	基本概念の説明11： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテキスト分析 複合的テキスト ミニレポート12	基本概念の説明12： 複合的テキスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講のために『星の王子さま』を各自が用意することは必須としません。授業の中で教材として示します。

受講者が作品全体を理解するためには、『星の王子さま』の翻訳版を以下のよう各自で購入することは可能です：

1. 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか1冊。
2. 加えて、英語、フランス語などなどのどれか1冊。
(日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります)

【参考書】

熊田泰章編『国際文化研究への道—共生と連帯を求めて—』彩流社、2013年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。

その上で、最後に最終レポートを書く。

ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。

ミニレポート 50%・最終レポート 50%。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

教材と資料を分かりやすくするように努めています。

課題の指示を明確に出すようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて、教材提示と課題提出を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible. In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.

We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as any languages as possible. When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way? The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important academic concept "Interculturality".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the basic concept of the Faculty: Interculturality.
- understand the mechanism of cultural generation and change.
- understand the mechanism of translation

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the followings:

- short reports after each class meeting(50%).
- term-end report(50%).

LIT300GA

日英翻訳論

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講は先着 500 名までとする。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。

13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間レポート 40 %、期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ

田中 浩喜

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていたのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・受講を希望する人は9月21日（木）までにHOPPIIに登録してください。100名を超える場合は抽選を行います。9月25日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII）で提出してもらいます。
・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	アメリカとヨーロッパの世俗神学	20世紀後半のアメリカとヨーロッパにおける世俗神学と神の死の神学を取り上げ、それが当時の世俗化論において有した意味を検討する。
4	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
5	ラテンアメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
6	アメリカにおけるフェミニスト神学	20世紀後半以降のフェミニスト神学の展開と多様性を、アメリカでの議論に焦点をあてながら検討する。
7	戦前の日本におけるキリスト教の社会運動	戦前の日本におけるキリスト教の歩みを、とりわけキリスト教社会主義に焦点を当てながら検討する。
8	戦後の日本におけるキリスト教の社会運動	戦後の日本におけるキリスト教の歩みを、靖国問題に関する社会運動に焦点を当てながら検討する。
9	近代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	革命以降のフランスにおけるライシテ（世俗主義）の形成過程において、キリスト教が果たした役割を検討する。

10	現代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	20世紀後半以降のフランスにおけるライシテの変容とともに、キリスト教と国家の関係がいかに変化したのかを論じる。
11	キリスト教とセクシュアリティ	フランスにおけるカトリック教会の変容を、同性婚や生殖補助医療、性的スキャンダルをめぐる近年の議論を概観しながら検討する。
12	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
13	ポスト世俗社会のキリスト教	現代の宗教研究で「ポスト世俗」が重要なテーマになっていることを確認したのち、その議論におけるキリスト教の位置付けと、その議論に神学が与えている影響について検討する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 栗林輝夫『現代神学の最前線—「バルト以後」の半世紀を読む』（新教出版社、2004年）。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社、2004年）。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史—理念によって建てられた国の軌跡』（新教出版社、2006年）。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- 芦名定道『現代神学の冒険—新しい海図を求めて』（新教出版社、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30％）
2. 期末試験（70％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

POL200GA

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次/単位: 1~4年 / 2単位

旧科目名: 国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

旧科目との重複履修: ×

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針: 法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広い場合、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック: 講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題: 毎回課す。思考を促す課題で、200字~800字程度で書いてもらう。アカデミックスキルを維持・向上することも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認: 初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は2-4年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム (アプローチ) であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans) のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。

- 14 まとめ (プライベートレ ジーム) 「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデータベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編 (2013) 『NGO から見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子 (2011) 『NGO から見る国際関係: グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎回の授業後課題) 50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

・2021年度と22年度は代講の教員が担当した。3年ぶりに松本が担当するため、授業の内容や進め方は大きく変化する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- (1) 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- (2) メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- (3) 反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。

■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに200字～400字で書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

■発表担当者：履修人数にもよるが複数の履修者で毎回担当してもらう予定。事前に準備し共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

- 12 重複の機能（メコン全体） メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
- 13 歴史から考えるメコン開発（メコン全体） 系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
- 14 開発と責任（メコン全体） 開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってこよう。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。また、授業後課題は授業後3日以内に学習支援システム（Hoppii）に投稿する。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（授業直後のリアクションペーパー 10%、授業後課題 20%）30%、発表 10%、グループ討議への参加度 20%、期末レポート 40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[at]atmarkihosei.ac.jp）。

■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の演習（ゼミ）とは異なる学びがある。

■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅰ

曾 士才

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると 2 千万人から 3 千万人といわれているとされており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシエーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】

中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～	華僑・華人の見方、華僑の歴史 華僑の誕生
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、引用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、 ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、 中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、 華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、横浜中華街、池袋の中華街
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年
曾士才、王維編『日本華僑社会の歴史と文化—地域の視点から』明石書店 2020 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は対面を基本としますが、初回のみオンラインで実施します。受講者数が教室定員を超えるような場合は、2 回目以降の授業で教室変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

Your required study time is two hours for each class meeting.

ARs400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介する動画（約10秒）をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Ro6Mhc34ck8> この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2022年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第2次世界大戦後の統合をめぐる政治史やEUの諸機構に焦点をあてるやり方があります（「EUの政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第2次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。農業経済学の観点からEUの共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論A」）。グローバル教養学部（GIS）には、中世ないし近代以降のヨーロッパ史に注目した授業があります（「European History」, 「History of Modern Europe」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世のヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユダニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革をもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoomを活用した授業参加も積極的にみとめています。
- ・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明

2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出した「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？ ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代 考古学的定義 神話と政治	ギリシア世界 「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ 「ギリシア文明」の地理的拡大 ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
6	ヘレニズムと地中海世界 古代ローマ	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入 いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出 西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
7	西ローマの崩壊と民族大移動	ボルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユダニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂 ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開 ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
8	「周縁」としてのヨーロッパ	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行
9	フラン王国と「12世紀のルネサンス」	
10	大航海時代とルネサンス、宗教改革	
11	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	
12	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	
13	啓蒙思想と革命	
14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii上で宿題として出される場合があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格（レターグレードでCマイナス以上）とします。
- ・期末テストは行いません 0%
 - ・出席はとりません 0%
 - ・小テストの受験【Hoppiiを使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】60%
 - ・運営への協力【協力してくれた方に加点しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】5%
 - ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】5%
 - ・期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1N26CUUJJPX-y1xfITeM4eYo7XOVtLF8b0Y3BVZ71I1I/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in this course will be decided based on the following:

- Quizzes on LMS-Hoppii - 60%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 5%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 5%
- Term paper (optional) - 30%

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えます。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためです。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心に据え、国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。万が一教室定員を超えた場合は、2-4年生の履修を優先して抽選する。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ発表、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題 20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度 40%、授業内試験 40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

■遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、最初の2～3ケースは1つのケースに授業2回分を充てることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】

■国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自ら関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第1回授業終了後3日以内に履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[at]mark[hosei.ac.jp]）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SOC300GA

実践社会調査法

松本 悟

配当年次/単位: 2~4 年 / 2 単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査 (観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など) を実践できる。
- (3) 卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った短い論文執筆ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針: 法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が過去の履修者数と比べて十分広いため、初回授業から対面で行う。万が一教室定員を超えそうな場合は選抜を行う。

■フィードバック: 毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法: ①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か?	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ドキュメント分析班の問い	ドキュメント分析を選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
5	ライフストーリーインタビュー班の問い	ライフストーリーインタビューを選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
6	ドキュメント分析班の問いの修正と研究・調査計画	2週間前の議論をもとにドキュメント分析を選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
7	ライフストーリーインタビュー班の問いの修正と研究・調査計画	2週間前の議論をもとにライフストーリーインタビューを選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
8	インタビューとプレゼンテーション	インタビューのやり方と口頭発表の際に留意すべきことを演習形式で学ぶ。
9	論文作法・量的リテラシー	チュートリアルの復習を兼ねて論文のルールを演習する。また、量的調査のリテラシーを演習で向上させる。
10	ドキュメント分析の初稿	ドキュメント分析班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
11	ライフストーリーインタビューの初稿	ライフストーリーインタビュー班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
12	ドキュメント分析班の口頭発表	ドキュメント分析班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。

13	ライフストーリーインタビュー班の口頭発表	ライフストーリーインタビュー班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。(ドキュメント分析班の最終稿提出)
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。(ライフストーリーインタビュー班の最終稿提出)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題は多いが、その分まちがいがなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

大谷他 (2005) 『社会調査へのアプローチ—論理と方法 [第2版]』ミネルヴァ書房。

鹿島茂 (2003) 『勝つための論文の書き方』文春新書。

その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

事前・事後課題を通じた平常点 40%、ライフストーリーインタビュー論文もしくはドキュメント分析論文の最終稿が 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文を書く意思のある 2、3 年生を主な対象とした授業だが、学生の負担が大きいため。2023 年度は、各自が取り組む調査はドキュメント分析かライフストーリーインタビューのどちらかを選択してもらうことにする。他の履修者の発表や原稿を通じて、自分が取り組まない調査への理解を補って欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. 調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。

2. 教室定員の 42 名を履修者の上限とする。過去この上限を超えたことはないため初回から対面で実施する。なお、履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること (smatsumoto[at]atmarkhosei.ac.jp) 万が一、事前連絡者を含めて教室定員を超える履修希望者がいた場合は、選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から 3 日以内に学習支援システム (Hoppii) の「掲示板」で学生証番号を発表する。

3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。

4. 選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。

5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。

6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

7. 担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
- 2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
- 3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, short assignment reports: 40%

CUA200GA

国際関係研究Ⅰ

石森 大知

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について文化人類学的に考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	性と生殖①	民俗生殖理論
第6回	性と生殖②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセスタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	この世からあの世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスンフィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。
クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業で教室定員を超過する履修者がいた場合、定員を超えて入室はできません。そのような事態が発生した場合に限り、入室できなかった履修者を対象に追って授業内容を動画で配信しますので、学習支援システムをご確認ください。
- ・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、家族と結婚について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

OTR300GA

海外フィールドスクール

稲垣 立男

サブタイトル：

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

人数制限・選抜・抽選：定員：30名

備考（履修条件等）：年度により開講コースは変わります。詳細は4月上旬にお知らせします。

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外フィールドスクール・プログラム（Field School Program：略称 FS）とは、2年次に実施される長期・夏期スタディ・アプロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を習得するものです。

東・東南アジアをフィールドに開発と文化コース、表象文化コース、環境と文化コースの3つのコースで実施します。当該年度の開催コースは、国際文化学部 Web サイトにてご案内いたします。（3コースのうち、1コースまたは2コースが例年実施されます。）

【到達目標】

- ・各コースで取り上げる地球規模問題（グローバル・イシュー）の分析を通して、課題の発見や解決、あるいは異文化の中での表現をすることができるようになります。
- ・日本とは異なる環境で考える力や活動する精神力を身に付けることができます。
- ・サステナブルな社会を構築できる自律的・利他的な考えや行動ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

渡航前には、各コースのテーマに基づいた事前学習を行います。現地ではテーマに基づいた調査・実習を行います。帰国後は、事後学習を経てレポート・論文・作品などを提出することになります。各コースの構成内容はそれぞれ異なりますので、オリエンテーションには必ず参加し、各内容を確認してください。また、学部ウェブサイトおよび実施要綱も必ず参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各コースの内容の詳細、現地での注意事項など
2-4	事前学習	各コースのテーマに関連した内容の講義や事前調査を行う。
5-10	現地での調査	1週間から10日程度の間、教員や現地関連機関の人々と共にフィールドワークを行う。
11-13	事後学習	現地調査を総括・整理するための事後学習を行う。
14	成果の報告	調査の成果に関するプレゼンテーション、レポート、論文、作品などの発表とその準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。詳しくは、各コースから指示します。

【テキスト（教科書）】

各コースから指示します。

【参考書】

各コースから指示します。

【成績評価の方法と基準】

事前学習、現地調査、事後学習、成果発表及び平常点を加味して総合的に判断します。それぞれの評価基準の割合については各コースごとに異なりますので、各コースから指示します。

【学生の意見等からの気づき】

現地での実習を充実したものにするためには、事前学習及び事後学習がとても重要です。

【学生が準備すべき機器他】

各コースから指示します。

【その他の重要事項】

- ・詳細は4月1日以降、学習支援システムにてお知らせします。
- ・2021年度、2022年度については、現地講師によるオンラインによる講義・実習を市ヶ谷キャンパスで実施されました（両年とも表象文化コース）。

【Outline (in English)】

The field school program is not only the intercultural communication skills cultivated by the Study Abroad Program (SA) and the Study Japan Program (SJ), which are held in the second year but also the basic and specialized study at Hosei University and the Faculty of Intercultural Communication. The purpose of this course is to acquire highly skilled knowledge, research methods, and expression methods overseas by making full use of specialized learning.

Each course will be held in East and Southeast Asia, with three courses: Development and Culture Course, Culture and Representation Course, and Environment and Culture Course. Courses for the year will be announced on the website of the Faculty of Intercultural Communication (two of the three courses are usually held every year).

LAW200HA

国際法 I

鈴木 孟

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コ：グ

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、独立平等な主権国家群から成る国際社会において妥当し、ゆえにそのような国際社会の特徴を反映した独自の法体系である。春学期の「国際法 I」（総論）、秋学期の「国際法 II」（各論）を通じて、国際法の基本事項を一通り学ぶ。総論では、①法源論、②国際法の主要な法主体である国家に関わる諸分野の2点を中心に学ぶ。総論と各論は不可分一体であり、年間を通して、国際社会で日々生起する様々な国際問題を理解し分析するための一視点を養う。

【到達目標】

国際法の基本的特徴と基本的枠組みを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業を除き、基本的に対面での授業とします。

第1回のみオンライン授業（ライブ配信）とします。詳細は改めて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義に関する説明、国際法の調べ方、国際法の定義
第2回	国際法の特徴	国際社会の構造と国際法の特徴、国際法の変容
第3回	法源（1）	法源の意義、慣習国際法、条約
第4回	法源（2）	法の一般原則、判例と学説、その他
第5回	条約法	条約の概念、条約締結手続、条約に対する留保、条約の効力、条約の解釈、条約の改正と終了
第6回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第7回	国際法主体	法主体性の概念、各法主体について（国家、国際組織、個人）
第8回	国家に関する基本事項	国家の定義、承認、承継、国家の基本的権利義務
第9回	国家管轄権	国家管轄権の定義と分類、国家管轄権の根拠（適用基準）、国家管轄権の競合と調整
第10回	国家管轄権からの免除	国家免除（主権免除）、特権免除
第11回	国家領域（1）	領域と領域主権、領域権原
第12回	国家領域（2）	領域紛争の解決、日本の領域紛争
第13回	国際化地域、航空法、宇宙法	国際河川、国際運河、南極、航空法、宇宙法
第14回	試験	書き込みのない条約集のみ持ち込み可（線引きは可）

（ただし授業が遅れている場合は第14回で残りを扱い、試験は試験期間中に実施するよう変更する可能性があります）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な課題は出ませんが、授業内容の理解のため、指定教科書を事前に読み、授業後には配布されたレジュメと教科書を照らし合わせながら復習することが望ましいです。また条約集で必ず関連条文を確認するようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・岩沢雄司『国際法』（東京大学出版会、2020年）
- ・植木俊哉、中谷和弘（編）『国際条約集 2023年版』（有斐閣、2023年）

【参考書】

- ・森川幸一・兼原敦子・酒井啓巨・西村弓（編）『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
- ・薬師寺公夫・坂元茂樹・浅田正彦・酒井啓巨（編）『判例国際法〔第3版〕』（東信堂、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

・第1回のみオンライン授業（ライブ配信）とします。詳細は改めて連絡します。

・試験は第14回に実施する予定ですが、この時点で授業が遅れている場合は第14回に残りを扱い、試験は試験期間中に実施するよう変更する可能性があります。これも近付いたら改めて連絡します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Being valid in the international society composed of independent and equal sovereign States, international law is a unique legal system that reflects such characteristics of that society. Together with the autumn course “International Law II” (Special Part), this course aims to look through most of the fundamental matters in international law. This spring course (General Part) mainly deals with the following two points: (1) sources of international law and (2) some basic fields on States, which are the main legal subject in international law. General Part and Special Part being closely interconnected, students are expected, throughout the year, to enhance their ability to understand and analyze various international problems that arise on a daily basis in the international society.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students should be able to explain the fundamental characteristics and basic framework of international law.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on your performance in the term-end examination alone. (Term-end examination: 100%)

LAW200HA

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：G

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第3回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第4回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第5回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第13回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版] 東京大学出版会、2022年。（旧版でも可）

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023年。（旧版でも可）

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環Ⅱ：経、口

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点

第14回 環境問題に起因する風評被害訴訟
 環境問題に起因する風評被害訴訟
 風評被害訴訟及び授業内における因果関係、損害評価の難しさと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終回に実施される授業内試験により100%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

< Learning Objectives >

This class shows you the knowledge necessary to get involved in the reality of environmental problems. The goal is to be able to think in the legal framework when faced with these problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023年。（旧版でも可）

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

MAN300HA

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次/単位：2~4年 / 2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 備考（履修条件等）：環コア：経
 その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の改革、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけでなく、企業の実践的取り組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第 2 回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第 3 回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第 4 回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第 5 回	経営戦略②	CSR や SDGs などへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第 6 回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第 4 回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。

第 7 回 経営組織②

第 5 回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（企業間関係や組織間関係）を説明する。

第 8 回 経営管理①

企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。

第 9 回 経営管理②

産業クラスター・マネジメント（ICM）の研究や企業の実践例をもとに、環境保全のための ICM の概念と仕組みを説明する。環境経営を支援する会計システムを説明する。企業の実践的取り組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。

第 10 回 経営管理③

第 11 回 環境経営と会計

第 12 回 ケーススタディ

第 13 回 新たな環境経営

現在注目されている新たな環境経営（再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。講義のポイントを整理する。

第 14 回 講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。
 ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
 ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面を実施する。

・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第 2 回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第 3 回	新たな環境経営と意義と方法②	第 2 回で説明した各種概念に基づいて、新たな環境経営の実現方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第 4 回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-①	環境省の取り組みを紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。

第 5 回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-②	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第 6 回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第 4 回や第 5 回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第 7 回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010 運動など）とその特徴を説明する。
第 8 回	サステナブルファッション	環境省の政策的特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第 9 回	健康経営①	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第 10 回	健康経営②	日本企業（大企業、中小企業）の動向とともに、先進事例とその特徴も説明する。
第 11 回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネスや BOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第 12 回	新たなビジネスモデルの構想①	BSC（バランス・スコアカード）の概念に基づいた現状のビジネスモデルの評価方法を説明する。
第 13 回	新たなビジネスモデルの構想②	第 12 回の方法をもとに、国内で新たな事業内容を検討しつつ、ビジネスモデルも提案する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
- ②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

SOC200HA

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第 2 回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力
第 3 回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第 4 回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第 5 回	資本主義と労働	労働、階級、搾取
第 6 回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第 7 回	前半のまとめ、試験 1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第 8 回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第 9 回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクシヨナリティー
第 10 回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第 11 回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第 12 回	情報化社会	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第 13 回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは
第 14 回	後半のまとめ、試験 2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014 『社会学の歴史 I』 有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015 『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017 『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダードイノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライティ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈夕〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることのできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史的変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりとは生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012年）
小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えた脳死・臓器移植』岩波書店（2010年）
磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社（2015年）
谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008年）
柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房（2012年）
マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』（2017年）
アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版（2004年）
毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざま』毎日新聞社（2013年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC300HA

環境社会論 I

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。またそのなかで、授業内容にもとづく簡単な課題を出すこともある。

大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義と種類、環境社会学のアプローチ、地域住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から1980年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	マスクー法の自動車排ガス規制とエンジン開発を事例に、生産の踏み車とエコロジカル近代化について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	地域開発問題を事例に、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。

第10回	地球環境問題期②	環境 NGO・NPO、ボランティアについて、理論と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	ブラックバス問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	河川法改正を事例に、ローカル知の役割について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。
第14回	環境問題と住民・市民のかかわり	環境問題の特徴と解決のために必要な行動について、地域住民・市民のかかわりという観点から整理し、本授業の内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回 PowerPoint と配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+定期試験（70%）を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、実践編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on the ways that residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and the actions to solve them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives) Being able to explain the history of environmental problems and policies in Japan. Being able to point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology. Being able to propose actions for solving the problems.

(Learning Activities Outside of Classroom) Students should pay attention to news about environmental problems and policies and collect information daily. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Regular Work (30%) + Final Examination (70%). Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境運動、NGO・NPO、ボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動論、NPO論の理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの理論を社会運動論とNPO論に大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。またそのなかで、授業内容にもとづく簡単な課題を出すこともある。

大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの定義と特徴、環境運動、NGO・NPO、ボランティアの種類について学ぶ。
第2回	環境運動・NPOの歴史	戦後から現在までの環境問題・環境政策の歴史について、環境運動、NGO・NPO、ボランティアのかかわりを学ぶ。
第3回	運動論①	社会運動論の前提となる公共財と集合行為の理論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	運動論②	地域開発問題を事例に、資源動員論、地域のネットワークの役割について学ぶ。
第5回	運動論③	市民風車運動を事例に、運動の文化的側面、問題のフレーミングについて学ぶ。
第6回	運動論④	運動のイベント分析や気候変動政策のネットワーク分析を例に、運動を取り巻く政治的構造について学ぶ。
第7回	NPO論①	生協運動を事例に、運動の事業化、サードセクター、NGO・NPOの役割について学ぶ。
第8回	NPO論②	環境NGO・NPO、ボランティアについて、行政とのパートナーシップの歴史を学ぶ。

第9回 NPO論③

海外の環境NGO・NPOの制度化、行政の下請け化問題、ミッション・ドリフトについて学ぶ。現代社会における権力、統治性の変化、新自由主義について学ぶ。ブラックバス問題を事例に、NPO、ボランティアの環境保全活動とその課題について学ぶ。生物多様性条約COP10を事例に、NGOの政策提言活動とその課題について学ぶ。

第10回 NPO論④

第11回 NPO論⑤

第12回 NPO論⑥

第13回 NPO論⑦

第14回 サードセクターの役割 環境問題解決におけるサードセクターの役割、地域住民・市民の立場から問題解決にかかわる方法を整理し、本授業の内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、実践編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline) The role of the third sector, including environmental movements, NGOs/NPOs, and volunteers, which is not governments nor companys are essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements and NPOs and their role in solving environmental problems. Students will learn the ways to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives) Being able to explain the role of the third sector, including environmental movements, NGOs/NPOs, and volunteers to solve environmental problems in contemporary society. Being able to propose the ways to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom) Students should pay attention to news about environmental problems and policies and collect information daily. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Regular Work (30%) + Final Examination (70%). Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。

そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性はどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるために Zoom も利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第 2 回 自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1

地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。

第 3 回 身近な景観と災害＝理科 2

事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW 期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで

日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。

第 5 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後

日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。

第 6 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災

東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

第 7 回 東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える

南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第 8 回 近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第 13 回 災害と恵み・防災教育・ジオパーク 自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 9 回 近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第 14 回 試験レポート 「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでも OK。
第 10 回 近年の風水害から、課題を考える	令和 2 年 7 月豪雨、2020 年 7 月豪雨や台風 10 号、2019 年台風 15 号や 19 号（東日本台風）、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。
第 11 回 災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【テキスト（教科書）】 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。 【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。
第 12 回 市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。	【成績評価の方法と基準】 平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリাবেて授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20%、期末試験（試験レポート）評価 40%。 【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoom のブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間をもちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。 【学生が準備すべき機器他】 オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。 【その他の重要事項】 試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメント Web」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
- 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

【Learning Objectives】

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SHS300HA

科学技術社会論 I

金光 秀和

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、プロフェッション概念などをもとに説明します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。

第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札幌順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 日本科学協会編『科学と倫理：AI時代に問われる探求と責任』中央公論新社、2021年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS300HA

科学技術社会論 II

金光 秀和

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
- ・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「水俣病」から学ぶ	水俣病を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。
第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。
第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。

第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術にどのようにかわるのかについて考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain their own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

PHL200HA

仏教思想

宮部 峻

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環コ7：文

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近現代日本の仏教思想への理解を深めることを目的とします。

仏教は、日本においても長い発展の歴史を持つ宗教の一つです。「家の宗教」という言葉に代表されるように、日本に住む多くの人が、自覚的に信仰していない宗教なかもしれません。しかし、葬式やお盆などに代表されるように、仏教は、今なお日本の生活に深く根ざしていると言えるでしょう。

日本の生活に根ざしながらも、近現代日本の仏教は、教義、儀礼や実践、教団組織などを近代化させながら発展しました。こうした展開は、仏教が「寺院から出て行く」過程でもあったと言われることもあります。仏教が「寺院から出て行く」歴史は、多くの人はあまり馴染みがないかもしれません。本講義では、仏教が「寺院から出ていく過程」を学ぶことで、近現代日本の仏教思想の発展の歴史に対する理解を深めていきます。それを通じて、今日の仏教のあり方を考えていくヒントを提供します。

【到達目標】

近現代日本の仏教思想について、歴史的事例をもとに論じることができる。

また近現代日本の仏教思想の展開を学ぶことにより、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、今日の仏教のあり方について認識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。適宜、ディスカッションも設けます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第2回	仏教の近代化（1）	日本の仏教の近代化について、教学の近代化を中心に学ぶ
第3回	仏教の近代化（2）	日本の仏教の近代化について、政治・国家との関わりを中心に学ぶ
第4回	仏教と社会事業（1）	仏教の社会事業が生じた歴史的背景について、1920年代の社会問題を中心に学ぶ
第5回	仏教と社会事業（2）	仏教の社会事業の制度化について学ぶ
第6回	仏教と戦争（1）	仏教と戦争の歴史について、日清・日露戦争期の仏教者の発言と活動を中心に学ぶ
第7回	仏教と戦争（2）	仏教と戦争の歴史について、アジア・太平洋戦争期における仏教の戦争協力を中心に学ぶ

第8回	仏教と平和（1）	仏教者の非戦・反戦について、日清・日露戦争、アジア・太平洋戦争期を中心に学ぶ
第9回	仏教と平和（2）	仏教者の非戦・反戦について、戦後の平和運動を中心に学ぶ
第10回	仏教と差別	仏教と差別の問題について近現代日本の歴史から学ぶ
第11回	仏教とジェンダー	仏教とジェンダーの問題について、日本仏教における女性の問題を中心に学ぶ
第12回	仏教とソーシャル・キャピタル	仏教とソーシャル・キャピタルについて、仏教者の社会貢献を中心に学ぶ
第13回	仏教と死	仏教と死の問題について、近年の死生学の議論を中心に学ぶ
第14回	まとめ	本講義を通じて学んだ歴史的事例をもとに、近現代日本の仏教思想の課題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

島蘭進, 2012, 『現代社会とスピリチュアリティ』弘文堂.
吉永進一・大谷栄一・近藤俊太郎編, 2016, 『近代仏教スタディーズ』法蔵館.

大谷栄一編, 2019, 『ともに生きる仏教』筑摩書房.

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、平常点（50%）

平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断します。

レポートは、各回で取り上げた事例から一つ以上選んでいただき、各回で示した参考文献をもとに近現代日本の仏教思想が成し遂げたことと課題について論じていただきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the history of modern Japanese Buddhism. Japanese Buddhism has modernized their theology, practice, institutions. This lecture helps students to acquire the knowledge about the history of modern Japanese Buddhism. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

PHL200HA

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は 1970 年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では 1990 年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
9	リスク論	リスク論の概要を紹介する
10	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
11	持続可能性と環境正義	持続可能性と環境正義について議論する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年（序章、第 4 章～第 10 章）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年（第 1 章と第 2 章の内容が関連します）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40 点）と書評レポート（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:バルク	オギユスタン・バルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
9	湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
10	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
11	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
12	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
13	アメニティマップの発表	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表(残り)と全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

（第3章と第6章の内容を扱います）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40%）とマップ作成（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：グ,文

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界（Lebenswelt）がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性についての理解を広げるための視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。

第8回 都市と自然・災害 都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。

第9回 都市と緑 都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。

第10回 20世紀の都市問題 20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。

第11回 田園都市と郊外の開発 20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。

第12回 20世紀後半の都市改造 第二次世界大戦後の都市では、震災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。

第13回 現代における都市の再生 1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。

第14回 まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境 ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のレジュメや資料を使用して復習をすること。
授業期間中に2回、授業内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。

そのほか、授業中に紹介する文献を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のミニレポート（20%）と学期末の筆記試験（80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century.

By examining the historical development of European cities, how the lifeworlds (Lebenswelten) of their inhabitants have changed over time, and how the relationship between humans and the natural environment has changed, we will provide a perspective that will broaden our understanding of the history and cultural uniqueness of urban societies not only in Europe but also in other parts of the world, including Japan.

Students should review using the lecture resume and materials. In addition, students are required to prepare and submit mini-reports on class content twice during the semester. Reading the literature introduced in class will enhance your understanding of the course content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Comprehensive evaluation will be based on two mini-reports (20%) and a written exam at the end of the semester (80%).

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：G, 文

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「弱者」の包摂と排除の社会史

【到達目標】

社会のなかには、さまざまな人たちの「弱者」がいる。病気・貧困・老齢・障害・失業などの理由により、通常の生活を送ることができず、時には自力で生計を維持できなくなった人々である。社会的「弱者」は、往々にして社会の周縁に追いやられ、差別や迫害を受ける場合もある。しかし、同時に彼らに保護し救助の手をさしのべることは、時代と地域を問わず、つねに社会の大きな関心事であった。「弱者」とはどのような人たちで、なぜ排除されるのか、また誰がどのような手段で彼らを救助するのか、そのあり方は、それぞれの社会状況を反映して、時代とともに大きく変化してきた。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、ヨーロッパ社会において、こうした「弱者」の社会からの排除と、その救助を通じた包摂が、どのようにおこなわれてきたのか、中世のキリスト教会による慈善活動から現代の社会福祉制度にいたるまで検証してみたい。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 「弱者」の社会史について。	いま、社会的な「弱者」を問題にすることの意義について。
第2回	キリスト教精神と道徳	キリスト教道徳が、慈善というかたちでいかに社会のなかでセイフティネットの役割を果たしていたか。
第3回	中世における排除のあり方	乞食、ジプシー、「ライ病患者」、ユダヤ人など中世社会から排除された人々の姿を紹介する。
第4回	中近世の包摂の制度	救貧法や貧民救済制度を例に、救助と一体となった規律化の試みについて考える。
第5回	産業革命による社会の変化	18-19世紀の工業化は社会の秩序を揺るがし、それまでの排除と包摂のあり方を一変させた。
第6回	弱者の団結	新たに出現した工業労働者たちは、その弱い立場のゆえに団結し、やがてマルクス主義の影響下に自らを組織化していく。
第7回	近代市民社会と包摂の制度	都市内の弱者の包摂に、市民社会はどのような制度を持って取り組んだか。
第8回	社会福祉制度の始まりと発展	19世紀後半から国民国家の強化を背景に国家が主導して国民の生活を保障する制度が構築されていく。

第9回 総力戦と福祉国家 第1次世界大戦、世界大恐慌、第2次世界大戦とつづく非常事態は、各国の社会福祉制度の発展にどのような影響を与えたか。

第10回 福祉国家と黄金時代 1950年代後半から1960年代の高度経済成長下で、ヨーロッパ各国の社会福祉制度はその最盛期を迎える。

第11回 社会主義という可能性 ソ連など社会主義経済のもとでの社会保障のあり方を考える。

第12回 福祉国家の動揺と再編 1970年代以来、景気の停滞を受けて各国は産業構造の変化への対応と貧困の克服のための新しい取り組みを開始した。

第13回 新自由主義と「新しい中道」 1990年代半ばから2000年代に架けて試みられた社会民主主義の新展開を分析する。

第14回 多文化社会における排除と包摂 複雑な社会問題を生じさせている外国人移民とホスト社会の葛藤について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業期間中に2回、授業内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のミニレポート（20%）と学期末の筆記試験（80%）により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

History of social work and social welfare in Europe from the middle ages to the contemporary period.

There are various forms of "vulnerable persons" in society. They are those who, due to illness, poverty, old age, disability, unemployment, or other reasons, are unable to lead a normal life and sometimes cannot make a living on their own. The socially "vulnerable" are often pushed to the margins of society and may be subject to discrimination and persecution. At the same time, however, providing them with protection and rescue has always been a major social concern, regardless of the time period or region. Who are the "vulnerable," why are they excluded, and who rescues them, and by what means, have changed dramatically over time, reflecting different social conditions.

This lecture will examine how the exclusion of the "vulnerable" from society and their inclusion through rescue have been conducted in European society, from the charitable activities of the Christian Church in the Middle Ages to the modern social welfare system.

Students should review using the lecture resume and materials. In addition, students are required to prepare and submit mini-reports on class content twice during the semester. Reading the literature introduced in class will enhance your understanding of the course content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be based on two mini-reports (20%) and a written exam at the end of the semester (80%).

ENV300HA

環境科学 I

浦野 真弥

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題には様々な形、構成要素がありますが、それらを捉える上で科学的な視点が極めて重要です。

この授業では、過去から現在の環境問題を俯瞰し、環境科学の役割を学んだ後、私たちの生活に関連の深い個別の分野について、環境科学の視点から学びます。

学生は、本授業によって、身のまわりの種々の環境問題が何故起きているのかを理解し、それらがどの様な要素を含むかを学ぶことができます。その学びの過程で、環境問題の捉え方や解決のための視点を身につけることを目指します。

【到達目標】

環境科学の基礎として、大気や室内環境、水環境、土壌環境、廃棄物、悪臭、騒音、振動、化学物質について学びます。

授業では特に身近な環境問題を取り巻く要素を理解し、問題が相互に関係し、多面的であることを学びます。

環境科学は環境問題解決の礎であり、学生は、この授業を履修することにより、身のまわりの環境について理解し、過去の問題がどの様に解決されたのか、また現在の状況と課題を理解できます。

過去の問題と解決のためのアプローチを理解することで、新たな問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では環境に関わる諸問題について、分野を分けて一コマもしくは二コマを目的にパワーポイントを用いて説明します。なお、講義の内容は進行状況によって、変更になることがあります。

資料は前日の夕方までに Hoppii にアップします。

その授業に関連した問題について、授業終盤で小テストを行います。その回答について、その授業中、もしくは次の授業の冒頭に一部を紹介するなどして、問題の捉え方の幅の存在を学び、さらなる学びに繋がります。

最終講義は試験とまとめとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の背景と環境科学の位置づけ、環境管理の方法、基準、環境技術
第 2 回	大気汚染	歴史、大気汚染物質の原因、健康影響、対策
第 3 回	大気汚染と室内汚染	その他の大気汚染物質、室内汚染、健康影響、対策
第 4 回	水環境、上水道	水資源、水循環、水道水の製造、水質と健康、費用
第 5 回	下水道	下水道、下水処理、富栄養化
第 6 回	水質汚染と管理	有害物質による汚染と管理
第 7 回	土壌汚染	土壌地下水汚染、調査、浄化
第 8 回	悪臭、騒音、振動	基礎、測定、対策
第 9 回	廃棄物	一般廃棄物の実態と処理
第 10 回	廃棄物	産業廃棄物の実態と処理
第 11 回	資源利用とリサイクル	資源利用、リサイクル法、リサイクル技術

第 12 回 化学物質の利用と影響 化学物質の利用と健康影響、生態系影響

第 13 回 化学物質の利用と管理 化学物質による環境汚染と管理

第 14 回 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備：次回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して概要を掴み、どこかに問題があるか、その原因はどこにあるかを考えてみてください。

前回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して、今から出来る対策や改善策を考えてみてください。

調査では必ず複数の情報に当たる。考察では他の要素（例えば、経済活動や他の環境要素への影響）についても考えてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

藤倉良、藤倉まなみ著、文系ための環境科学入門 新版、有斐閣
浦野紘平、浦野真弥著、地球環境問題がよくわかる本 改訂版、オーム社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業内容の区切りで小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行います。

評価は項目の基礎的な理解度、テーマに対する多角的視点からの要点整理と考察の程度によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【関連の深いコース】

環境科学 II
自然環境科学の基礎
自然環境論

【実務経験のある教員による授業】

環境に関連したコンサルティング業務を行った経験を有しており、科学的、基礎的な内容に加えて、適宜、事例を交えた講義を行い、理解の向上を図る。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Environmental problems come in various shapes and components, and a scientific perspective is extremely important in understanding them.

In this class, we will look at environmental problems from the past to the present, and after learning the role of environmental science, we will learn about individual fields that are deeply related to our lives from the perspective of environmental science.

Through this class, students will be able to understand why various environmental problems are occurring around them and learn what elements they contain. In the process of learning, we aim to acquire perspectives for understanding and solving environmental problems.

【到達目標 (Learning Objectives)】

As the basis of environmental science, students will learn about the atmosphere, indoor environment, water environment, soil environment, waste, odors, noise, vibration, and chemical substances.

In class, students will understand the factors surrounding environmental issues that are particularly familiar to them, and will learn that issues are interrelated and multifaceted.

Environmental science is the foundation of solving environmental problems. By taking this class, students will be able to understand the environment around them, how past problems were solved.

By understanding past problems and approaches to solving them, we aim to acquire perspectives for understanding and solving new problems.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

For the next class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about whether there is a problem somewhere and where the cause lies.

For the previous class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about what you can do from now on.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be done by quizzes (30%) and final exams (70%) according to class content.

Evaluation is based on the degree of basic comprehension of the item, and the degree of summary and consideration of the theme from multiple perspectives.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。授業に用いたパワーポイントは、PDFにしてHoppiiにアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、またはHoppiiにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	IPCC、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	化石燃料
第8回	気候変動・その5（第8章）	緩和策
第9回	気候変動・その6（第8章）	適応策
第10回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント

第11回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席（30%）と期末試験（70%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China (This is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA

環境科学Ⅲ

石渡 幹夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：サマーセッション/Summer Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環7：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は、自然資源を活用してさまざまな社会経済活動をしています。自然資源の不適切な利用は環境破壊を引き起こし持続可能な開発へとつながります。自然資源が抱える問題、その管理政策や手法について論じ、環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。

【到達目標】

水、土壌、森林、水産などさまざまな資源について、利用と保全の歴史的な経緯から始まり、その性質、持続的な利用と管理についての基礎知識を習得します。これにより

- ・自然資源の問題について説明できるようになります。
- ・自然資源の利活用の意義について説明できるようになります。
- ・自然資源の持続的な利用と保全のための政策や管理方法について説明できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

グループワークを行います。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資源論の社会科学	授業のテーマや到達目標及び授業の方法についての解説
2	水資源の問題	世界はどういった水問題を抱えているか？
3	水関連災害	世界と日本の災害の現状と対策は？
4	土壌管理	土壌を保全し土砂災害を減らすには？
5	気候変動	気候変動は水資源にどう影響を与えるか
6	水資源管理（1）	日本の水資源管理の経験とは何か
7	水資源管理（2）	水資源を統合して管理するには
8	水関連施設訪問（1）	「東京都水道資料館（文京区本郷）に視察（水道橋駅より徒歩：交通費は自己負担）」 水道整備の歴史
9	水関連施設訪問（2）	近代水道
10	森林資源管理（1）	森林資源は社会や人々の生活にどのように影響するか？
11	森林資源管理（2）	森林保全の問題は何か？ どう管理するのか？
12	水産資源管理	自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？

13 循環型社会 自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？

14 まとめ 全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 Hoppii で配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します

【参考書】

日本の防災、世界の災害：日本の経験と知恵を世界の防災に生かす
石渡幹夫

2016 鹿島出版会

【成績評価の方法と基準】

出席（30%）

グループワーク（30%）

レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

国土交通省、世界銀行、アジア開発銀行、国際協力機構にて、水資源管理、防災、都市管理などに従事。プロジェクトの実例を使って授業を行います。

【Outline (in English)】

Course outline

Modern society uses natural resources for a variety of socio-economic activities. Excessive use of natural resources leads to environmental destruction and unsustainable development. This course aims to discuss the issues of managing natural resources, their management policies and methods, and to learn the scientific basis for mechanisms and strategies to deal with environmental issues.

Learning Objectives

Students will learn about basic resources such as water, soil, forests, and fisheries, starting with the historical background of their use and conservation, and their sustainable use and management. This will enable students to

- explain the problems of natural resources.
- explain the background and necessity of utilizing and conserving natural resources. and
- explain policies and management methods for sustainable use and conservation of natural resources.

Learning activities outside of the classroom

Please review using the resume distributed in Hoppii each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

- attendance (30%)

- group work (30%)

- report (40%)

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：G, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	その他の世界の自然	これまでの補足、海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA

環境管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 備考（履修条件等）：環コア：経, サ
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】 デイズニー、コカ・コーラ、ユニリーバのように、地球温暖化などの気候変動に対応でき ESG や SDGs に対応したサステナビリティを理解する必要があります。したがって、このコースでは、水の浄化技術、リサイクル、環境法など、持続可能な環境管理の基本的な知識を学びます。

授業は、学生が環境管理と水質汚濁防止の基本的な方法を学び、理解できるように設計されています。また、河川、湖沼、海、土壌/地下水に関するさまざまな環境問題についても学びます。内容は、排水処理技術に加えて、環境法規制や公害事件についても扱います。

【到達目標】 企業の環境経営、環境行政、各種国際活動に必要な実践的な環境知識を学びます。文系の一般学生が興味を持って学べるよう授業内容は分かりやすい内容にします。授業終了までに、学生は廃水を物理化学的および生物学的に浄化するための主要なスキルを学びます。このコースを受講する学生は、企業の環境管理者が使用する BOD/COD やサーキュラーエコノミーなど、多くの専門用語やコンセプトを理解することが期待されます。

【授業時間外の学習】 講義/演習: 各クラスのミーティングの前後に、学生はコースの内容を理解するために 4 時間を費やすことが期待されます。さらに、学生は学習支援システムで提供する教科書や関連記事を読むことが期待されています。

【採点基準・方針】

最終成績は、以下に基づいて計算されます。

期末試験：70%、レポート：30%

【到達目標】

脱炭素社会や GX (グリーントランスフォーメーション)、循環型社会などに関連する新しいコンセプトや用語も習得します。環境コンプライアンスの面から興味深い汚染事故も解説し公害防止の重要性を理解します。受講者は、水環境や環境汚染の原理原則をマスターし、環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化技術の基礎を習得します。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスは非常に興味深いです。

授業では米国大学の環境科学の知見や汚染事故、カナダ、アメリカ、ドイツ、マレーシア、ネパールなど海外情報も学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指します。実社会で役立つ環境技術と法令の理解を深めます。授業終了段階では、公害防止管理者国家試験や民間検定などの技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本問題が解けるよう目指します。これらは就職や公務員試験にも役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を原則としますが学習支援システムで要確認。毎回テーマに関するパワーポイントスライド等を使用、ビジュアルを多く利用します。講師は新聞や専門誌に毎月記事を掲載しているため、その記事なども教材にして学習し、マスコミ報道でよく耳にする環境キーワードを十分理解できるようにします。各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の環境管理や汚水処理の実例、汚染メカニズム等も解説します。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法も学びます。

テーマは各授業単位でなるべく完結させるので、1コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにします。重要事項や難解かつ苦手のテーマは繰り返し説明します。授業は5月から教科書も使用する予定（生協で取扱い予定）で、学生からの建設的なコメントや要望などは次回講義等に可能な限り反映します。リアクションペーパーや課題なども授業中および学習支援システムでフィードバックします。（大学からの授業方針変更がありえるので適宜学習支援システムで確認してください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体の授業計画説明。国内外の環境事情。SDGs と ESG に関連する環境管理。	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見ながら環境汚染など国内外の環境事情。環境 SDGs と ESG と環境管理の関係など解説。
第2回	東京デイズニーリゾートなどの環境管理、環境法令全般、水質環境基準	生物多様性など含む実際の企業における環境管理を解説。環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。
第3回	コカ・コーラやビール会社の環境管理。法令の読み方、水質汚濁防止法と排水規制、水田の水質悪化事件	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の解説。具体的事例の説明。
第4回	ダイオキシン騒動。水質汚濁防止法の誕生秘話。日本の水質汚濁の現状と原因	ダイオキシンの土壌汚染など。水濁法の誕生の裏話。水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第5回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。有機溶剤による汚染事例を解説。
第6回	ドイツ工場を例にして、物理化学的処理法	排水処理の全体像、終末沈降速度、傾斜版、凝集沈殿など物理処理法をわかりやすく解説。海外の技術にも触れる。
第7回	ろ過法を中心とした物理処理法	ろ過メカニズムと急速ろ過、アンスラサイトとザクロ石（ガーネット）、逆流洗浄、浸漬型膜分離活性汚泥法（MBR）などの原理を学ぶ。
第8回	物理化学的処理法	酸化還元、pH 調整、酸化還元の原因などの基本及び逆浸透 RO など高度な技術を解説。
第9回	生物処理法の概要と基礎	異化と同化、排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第10回	生物処理法の好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。
第11回	活性炭による高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。
第12回	汚泥脱水、処理装置の維持管理。	活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術を学ぶ。物理化学的処理の維持管理。
第13回	確認テストを実施。BOD と COD、溶存酸素 DO など用語解説。環境法令など授業の復習	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

第 14 回 水質管理のパラメータと水質測定の方法と水質測定の結果の解説、時間があれば授業内テストの解説

環境測定で使用する汚濁指標など知識の整理。試料採取など水質測定の方法。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web 公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。

テキストは「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023（4 月発行）。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回 PP スライドで解説。5 月からは教科書を併用します。「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023 年 4 月発刊予定

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記 3 冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する (30%)。択一式中心の簡単な最終テスト (70%) で評価。60 点以上が合格。大学方針により対面授業が中止になった場合は hoppii で代替策を通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要。

パソコンで週に 1 回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。

環境法令は理屈でなく、製造工場など事業者の視点で実務的内容を解説する。

(過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講しているが受講後の満足度は高い。)

【実務経験のある教員による授業】

講師は米国企業で長年の勤務経験があり、国内で環境コンサルタントや大規模な汚水処理事業所の責任者も経験している。その実務経験と知識により複数の海外政府向けに環境教育を実施している。米国勤務や JICA 専門家海外派遣などの経験をベースに、世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline (in English)】

Like Disney, Coca-Cola and Unilever, it is necessary for students to understand sustainability that is compatible with ESG and SDGs and that can respond to climate changes such as global warming. Therefore, in this course, you will learn basic knowledge of sustainable environmental management, including water purification technology, recycling and environmental laws.

This course is designed to help students learn and understand the environmental management and the basic methods on water pollution control. You will also learn the various environmental issues on lakes, streams, ocean and soil/groundwater. In addition to wastewater treatment techniques, this course deals with the environmental laws and regulations as well as pollution incidents.

[Learning objectives] You can learn practical environmental knowledge required for corporate environmental management, environmental administration, and various international activities. The content of the class should be easy to understand so that liberal arts students can learn with interest. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.

By this course, students taking this course are expected to understand a number of technical terms and environmental concepts including BOD/COD and Circular Economy, that are used by the environmental managers.

[Learning activities outside of classroom] Lecture/Exercise: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Further, students are expected to read textbooks and/or relevant articles provided by Hoppii.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated based on the followings.

Term-end examination:70%, Short reports: 30%.

ENV300HA

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：環ア：経、サ

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を管理、

抑制するための、関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業の ESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題から PM2.5 汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじんの発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2 回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第 2 回	近年の大気環境問題（その 1）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第 3 回	近年の大気環境問題（その 2）	国内の大気状況について、環境基準の達成率や PM2.5 及び光化学オキシダントの問題について学ぶ。
第 4 回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第 5 回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。

第 6 回	アクティブラーニング 課題 1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGs の 17 のゴールとの関連についても考察する。
第 7 回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第 8 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 9 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 10 回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第 11 回	アクティブラーニング 課題 2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第 12 回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第 13 回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第 14 回	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味をもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート 2 回の評価 各 20 (%) × 2 期末テスト 60 (%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を 10 年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline :

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の導入	環境教育の歴史や重要な点を概説する。
第3回	環境教育の歴史（1）	90年代までの環境教育の歴史について概説する。映像教材を通じて環境教育について理解を深める。
第4回	環境教育の歴史（2）	2000年代の環境教育・ESDについて解説する。映像教材を通じて理解を深める。
第5回	（ワークショップ）環境教育の歴史と自分の経験を重ねて考える	環境教育ネイティブをキーワードに環境教育の歴史と自分史を重ねて考えや理解を深める
第6回	持続可能な開発と教育・1	持続可能な開発、ESD,SDGsについて考える
第7回	中間まとめ	これまでの内容を踏まえた課題に取り組み発表する（発表形式は受講者数など状況に応じて決定）
第8回	環境教育の教材（1）	環境教育教材を体験してみる
第9回	環境教育の実践（1）	環境教育の実践事例を学ぶ（自然学校・森のようちえん）
第10回	環境教育の教材（2）	環境教育教材を体験してみる
第11回	環境教育の実践	地域での環境問題に取り組み実践事例を取り上げます
第12回	環境教育の課題（3） ソーシャルアクション	環境教育の課題である社会が変わり、環境問題が解決することに教育がどうかかわるのか考える

第13回 環境教育プログラムを 環境教育プログラムを作成する課題に取り組み、発表する
考えよう

第14回 まとめ 授業の内容や学びを振り返り、まとめにかえす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝える SDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝える SDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社

【成績評価の方法と基準】

課題（課題の提出と授業内発表） 30% × 2 = 60%
最終レポート（小レポート） 10%
授業・グループワークへの参加、コメントペーパーなど平常点 30%
詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

対面形式の授業では、参加型・グループワークの機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
資料は、hoppi 経由で配布します。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。
成績に関係する課題を発表する時間を授業内で取りますが、発表の形式は受講人数などを鑑みて決定します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following Mid-term report (35%), term-end report (35%), and in-class contribution(30%).

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに 20 世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第 2 回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトル『存在と無』を中心に (1) ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) ——『弁証法的理性批判』を中心に
第 3 回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (1) ——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (1)
第 4 回	個人の自由と反植民地主義 (3)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (2) ——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に (2)

第 5 回	個人の自由と反植民地主義 (4)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (3) ——フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (1)
第 6 回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (4) ——フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (2)
第 7 回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第 8 回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第 9 回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナスマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第 10 回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第 11 回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』 ・クロード・ランズマン・『シオア』 を中心に
第 12 回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』 ・ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』 を中心に
第 13 回	全体主義批判と人間性の問題 (5)	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (30 %) + 期末試験 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力します。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにします。

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈夕〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罫	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）+期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは、時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば、私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、背景にある歴史事象と共に説明できるようにします。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の授業を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、オンラインの授業を併用します。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。
- ・授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立

第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもへの学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクを ON にできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システム等を利用します。

【Outline (in English)】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

原 葉子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における教育や学習のあり方は、近代化以降どのような経路をたどって形作られてきたのだろうか。この授業では、日本近現代において展開されてきた教育や学習に焦点を当て、ライフコース、家族、ジェンダー等の変容と関連させて理解するとともに、現代の問題につなげて考察することを目的とする。

【到達目標】

- ・教育や学習の社会史に関わる基礎的な知識を獲得する。
- ・歴史を学ぶことを通じて、現在の社会的事象を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインの両方で授業を行う。講義中心だが、対面授業においては、受講人数によってグループワークを採り入れることがある。また、授業のテーマについての考察を深めるため、原則として毎回の授業後にリアクションペーパー等の提出を求める。場合によっては事前課題や小テストを課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか、社会史とは何か
第 2 回	社会の近代化と教育	おもに西洋における近代化の諸相と、それに伴う教育や家族の変容
第 3 回	学校の近代	日本社会の近代化と学校制度
第 4 回	「教育する家族」の誕生	「教育する家族」としての近代家族の生成とその特徴
第 5 回	子ども観の変容	近代における「子ども中心主義」の展開とその影響
第 6 回	「教育する家族」の社会史	戦後の結婚観と配偶者選択方法の変化
	①配偶者選択の変容	
第 7 回	「教育する家族」の社会史	性別役割分業に基づいたジェンダー別
	②ライフコースの変容	ライフコースの形成とその影響
第 8 回	「教育する家族」の社会史	長期にわたる三歳児神話の影響と、母
	③母親役割の変容	親観の変容
第 9 回	「教育する家族」の社会史	家族規範の変容にともなう祖父母役割
	④祖父母役割の変化	の変化
第 10 回	「教育する家族」の社会史	「権威者」から「ケアする男性性」へ
	⑤父親役割の変容	
第 11 回	女子教育の展開	近代の女子高等教育から、戦後の家庭科必修まで
第 12 回	スポーツと身体の社会史	近代スポーツとジェンダーの関係
第 13 回	教育とセクシュアリティ	性的身体の管理と性教育の歴史
	の社会史	
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を理解するにあたり歴史についての知識を必要とするため、高校レベルの日本近現代史の概要を学習しておくこと。授業後は、参考文献等にあたり知識を深めるとともに、新聞等を読み現代社会の問題に関心を開いておくことを推奨する。予習時間・復習時間ともに各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出など）50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

In what ways have modern education and learning been shaped since modernization? This course will help students understand issues related to education and learning in modern and contemporary Japan in the context of changes in the life course, family, gender, etc., and relate them to current issues.

It is desirable for students to have studied Japanese modern and contemporary history at the high school level and to read newspapers on a regular basis. Students are expected to spend approximately one hour before and after each class to understand the class content. Grading will be based on the final exam (50%) and submission of assignments (50%).

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事もたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %

授業内で実施するリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports :10%

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。今、社会は大きく変化しています。「人生 100 年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、職業キャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病氣治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスライドについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』（中央経済社、2023 年 4 月出版予定）です。テキストに沿って授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 Smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、ambie 株式会社（ソニーグループ発スタートアップ企業）、SPACECOOL 株式会社（大阪ガス発スタートアップ企業）、株式会社 Stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ① 起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ② 産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③ グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④ 自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

(i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.

(ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.

(iii) Be able to think and express their own views during group work.

(iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

(i) Attendance and participation in discussions 60%

(ii) Mini-report 20%

(iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPEN8 Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

- (i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
- (ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
- (iii) Be able to think and express their own views during group work.
- (iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

- (i) Attendance and participation in discussions 60%
- (ii) Mini-report 20%
- (iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF A などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行います。ただし、新型コロナウイルスの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。

・なお第1回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっておりますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。

・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うこととなりますのでご注意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもらおう（授業終了後 30 分まで）かたちを考えています。

・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）

第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新 (IT) の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール (RESAS)	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き： AI/IoT や Society5.0、スマートシティ、web3・メタバースなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回 2 時間を標準とします。
・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト（教科書）】

※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。

・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレシユ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986 年
そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC 等の準備をお願いします。

※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が 60 点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえで、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等で PC を使用します。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.

- ・ To understand the citizenship
- ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 2-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざしの変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目(1)	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目(2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目(3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

第12回	歴史と社会を見る目(2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目(3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数: 2 単位 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

曜日・時限: 月 3/Mon.3 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー (小レポート) としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション / 子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 / 「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方 (社会病的見方) の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点 (1)	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点 (2)	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点 (4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第 13 回 歴史と社会の再生産

第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第 14 回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー (小レポート)、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします (個別の問い合わせには応じられません)。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison. (Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities. (Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

アート・マネジメント論 展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。久しぶりの対面での講義となりますので、個別の質問等にもできるだけ対応しながら進めたいと思います。

他、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状と変化	コロナ禍における文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。場合により、オンラインでのフィールドワークも可とする。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実践について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。

第 14 回 授業のまとめ・最終課題 これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（50%）と最終課題（50%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間オンデマンド型での講義となってしまったため、リアルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての参加型の授業なども実施したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

対面に講義は戻りますが、課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、武石 恵美子

単位数: 2 単位 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

曜日・時限: 火 4/Tue.4 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、連合 (日本労働組合総連合会) と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうの困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第 1 回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2022 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2022 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。2022 年度実績は明治安田生命労組。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と 処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2022 年度実績は伊藤ハム労組。
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた 取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は安川電機労組。
7	【ケーススタディ④】 男女 がともに働きやすい職場 づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。2022 年度実績は通建連合。
8	【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共 サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス (新しい公共) の実現に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は自治労。
9	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り 組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。2022 年度実績は JAM。
10	【課題への対応①】 国際 労働運動の役割 ～グ ローバリゼーションへの 対応	進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み事例、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅 持・強化に向けた取り 組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向 上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来～ これから社会へ出る皆さ んへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
14	【論点整理】 「働くということ」と労働 組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席 (コメント内容含む) が 50 %、レポートが 50 %。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 作文と論文の違い ビジネス文書作成 エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	ビジネスマナー 報連相の重要点 トラブル対処力 顧客満足向上とは
5	商社事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ベンチャー企業経営 株主重視経営 資金調達力
6	商社事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 グローバル企業経営 提案力の構造 世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 大学と仕事の関係 企業と個人の関係 コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 百年企業 最先端技術力 ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 大企業との差別化 商品企画力 プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 企業からの課題提示	市場調査 新商品開発（マーケティング） チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 米国公認会計士講話 採用担当者の視点 求められる人材像 状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ビジネスマナー ヒアリングスキル 課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 起業家行動の支援 全国ネットワークの活用 中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション 課題解決力 プレゼンテーション力 ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。
*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクションペーパー）	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末レポート	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000~2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル	8つのアカデミックスキルの具体例と大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000~2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのこと。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

AGC300YA

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持つようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、スライドを印刷したプリントを毎回配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

BME300YB

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微鏡操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 30%・中間試験（1と2）20%・発表点 30%・平常点 20%の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

COT211KA-CS-205

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3 年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理（音声の時間領域処理）	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ（音声の時間領域処理）	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門

著者名: 青木直史

出版社: CQ 出版社

出版年: 2006

書名: Digital Signal Processing First, Global Edition

著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder

出版社: Prentice Hall

出版年: 2016

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20% 程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2022b (もしくは R2023a) をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf

この授業に必要な Toolbox は、

Image Processing Toolbox

Signal Processing Toolbox

Statistics and Machine Learning Toolbox

である。

本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grade will be calculated according to the following process: final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

MAT247KA-GMP-351

フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。 サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の計算例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギプス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。
No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。

No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。 δ 関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありません。
学習支援システムを通じて、必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
・ フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著 岩波書店
・ すぐわかるフーリエ解析 石村園子著 東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題（15%）・授業内ミニテスト（10%）・中間試験（25%）、および期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.

【Learning Objectives】

To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Fourier transform, and to understand how to use those in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assignments: 15%, Quizzes in each class: 10%,
Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

BSC100CA
化学A
細川 さとみ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。この授業での学習は、身近なところにある「物質」や“反応”を題材にします。受講者は、物質によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて理解を深めます。

【到達目標】

「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。ほぼ毎回課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第2回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第3回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第4回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質量とモル
第5回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第6回	『スケート靴、ボンボン船』	物質の状態変化
第7回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第8回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第9回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第10回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』 『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸と塩基 酸化と還元
第11回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第12回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第13回	『食品と食品包装プラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第14回	予備日	まとめ、質疑応答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山崎友紀 著『みつけよう化学－ヒトと地球の12章－』 裳華房
2023年3月刊

【参考書】

- 1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を50%、課題（毎回の授業後）や授業中の取組み等の平常点を50%として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

The knowledge of chemistry is important to understand the various natural phenomena around us. In this class, we will use familiar substances and reactions as the main topics of study. Through "chemistry," students will deepen their understanding of our bodies and the global environment, which are supported by materials, as well as the rapid development of science and technology.

・ Evaluation of class work and assignments (50%)

・ Evaluation of examinations related to class content (50%)

Total score will be 100 points.

BSC100CA
化学B
細川 さとみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験を多く取り入れ、身近な化学について体験的に学ぶ。

【到達目標】

化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な知識内容に加え、演習（実験）を通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上または対面で対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと「元素の化学の基礎」	化学の基礎を確認し、2 回目以降の準備をする。
第 2 回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。
第 3 回	実験 1	石鹼合成を通して、鹼化や洗浄機構について学ぶ。また、試薬の取り扱いやバーナーの使用について体験的に学ぶ。
第 4 回	実験 2	身の回りのポリマー（樹脂）について説明する。また、実際にナイロン合成を行う。
第 5 回	実験 3	「機器分析」について説明する。また、実際に装置を操作してみる。
第 6 回	実験 4	クロマトグラフィーの原理について説明する。また、実際に薄層クロマトグラフィー（TLC）に関して実験を行う。
第 7 回	実験 5	ゲル、コロイドについて説明する。また、「固体燃料」を作成することで、実際にゲル化を観察する。
第 8 回	実験 6	「蛍光」について説明する。また、有機蛍光物質の合成を行う。
第 9 回	実験 7	カフェインについて説明する。また、実際に、緑茶、紅茶、エナジードリンクからカフェインを抽出する。
第 10 回	実験 8	「ジベンジリデンアセトン」合成を行い、有機反応について説明する。
第 11 回	実験 9	実験 8 で合成した化合物を用いて、「結晶」について学ぶ。
第 12 回	実験 10	色と染料、染色機構について説明する。

第 13 回 医薬品、食品に関して 医薬品、食品について説明する。また、実際の食品内の添加物について調べる。

第 14 回 予備日 自由参加とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。薬品を使用する場合は、その性質について調べてくること。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

- 1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017 年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実験の取組みを 50 %、課題点を 50 %として、トータル 100 点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実験を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、インターネット接続環境

【その他の重要事項】

- ・この授業では、実験・実習を行います。丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（40 名以内）。
- ・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
- ・初回授業に参加してない方は 2 回目以降、受講できません。
- ・別途、必要な資料は配布します。

【Outline (in English)】

It is important to understand chemistry in modern society. In this course, we learn the basics of chemistry through experiments.

- ・ Evaluation of your effort in the experiment (50%)
- ・ Evaluation of each assignment related to the class content (50%)

Total score will be 100 points.

LAW200CA
日本国憲法
村元 宏行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、前半で人権を、後半で統治機構を主にとりあげ、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。

日本国憲法の全体構造について理解できる。

現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第 2 回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第 3 回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第 5 回	憲法 9 条と平和主義（その 1）	憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。
第 6 回	憲法 9 条と平和主義（その 2）	憲法 9 条をめぐる裁判等について学ぶ。
第 7 回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第 8 回	基本的人権（基本的人権の種類と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第 9 回	基本的人権（包括的基本人権）	憲法 13 条の幸福追求権について学ぶ。
第 10 回	基本的人権（自由権その 1）	精神的自由権について学ぶ。
第 11 回	基本的人権（自由権その 2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第 12 回	基本的人権（社会権その 1）	生存権について学ぶ。
第 13 回	基本的人権（社会権その 2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第 14 回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。
第 15 回	統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第 16 回	立法権（その 1）	立法権について概要を学ぶ。
第 17 回	立法権（その 2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。

第 18 回	行政権（その 1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第 19 回	行政権（その 2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第 20 回	司法権（その 1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第 21 回	司法権（その 2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第 22 回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第 23 回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第 24 回	憲法改正（その 1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第 25 回	憲法改正（その 2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第 26 回	憲法をめぐる現代的課題（その 1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第 27 回	憲法をめぐる現代的課題（その 2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第 28 回	授業のまとめ	1 年間の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50 %）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50 %）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA
民法一部
上杉 めぐみ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の基本的知識を身につけることを目的として、民法典のうち、財産法に共通する「総則」と物権法（担保物権を除く）を学ぶ。

【到達目標】

民法総則（民法典第1編）及び物権（第2編第1、2、3章）について、基本的な知識を修得するとともに、民法に関する法的思考力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民法とは何か
第2回	総則①	権利能力・意思能力
第3回	総則②	制限行為能力
第4回	総則③	制限行為能力者の相手方の保護
第5回	総則④	物
第6回	総則⑤	法律行為
第7回	総則⑥	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第8回	総則⑦	意思表示（2）錯誤
第9回	総則⑧	意思表示（3）詐欺、強迫
第10回	総則⑨	代理（1）代理概論
第11回	総則⑩	代理（2）表見代理
第12回	総則⑪	代理（3）無権代理
第13回	総則⑫	法人
第14回	まとめ	練習問題と解説
第15回	総則⑬	前期授業内容の復習
第16回	総則⑭	無効・取消し
第17回	総則⑮	条件・期限
第18回	総則⑯	時効（1）時効概論
第19回	総則⑰	時効（2）取得時効・消滅時効
第20回	総則⑱	時効（3）効果・援用者の範囲
第21回	物権①	物権法概論
第22回	物権②	所有権
第23回	物権③	物権的請求権
第24回	物権④	占有権
第25回	物権⑤	物権変動（1）物権変動と登記
第26回	物権⑥	物権変動（2）第三者の範囲
第27回	物権⑦	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第28回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）[第3版]』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1[第4版]』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門[第4版]』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される課題（平常点）（30%）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course deals with the general principle of Japanese Civil Code and This course aims to introduce you to the general principles

of the Japanese Civil Code and property laws, paying close attention to their functions in Contract Law. The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
商法一部
笹久保 徹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、 前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する 解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社・ 監査等委員会設置会社	指名委員会等設置会社等に関する解説
第 15 回	春学期学習内容の確認	春学期の復習・補習
第 16 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 17 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 18 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 19 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 20 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する 解説
第 21 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 22 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 23 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 24 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 25 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 26 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する 解説
第 27 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 28 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）

・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）

・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）及び平常点（20 %）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 HIJKLMPRSTUVW 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保債券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30%）および期末試験（70%）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCDEFGNOQXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 HIJKLMPRSTUVW 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を論理的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCDEFGNOQXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を論理的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第 14 回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅井和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。

現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口を3区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018年	名目GDP、実質GDPの動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた30年	1991年のバブル崩壊から現在まで、5期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策（1）	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策（2）	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策（1）	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策（2）	MMT理論に関して考察する。
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策（2）	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括 1	第1回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
- ②小崎・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
- ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.

I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.

The goal is to understand the current state and future prospects of the Japanese economy, and to acquire basic knowledge to read economic articles in newspapers and news with interest.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 B は、日本経済論 A をより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深掘する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。

学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケジュール
2	少子化に関する基礎理論 (1)	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論 (2)	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数 (1)	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数 (2)	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策 (1)	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策 (2)	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場 (1)	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場 (2)	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働 (1)	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働 (2)	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行 (1)	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行 (2)	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第 4 次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

レポート (100%) を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】

Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.

Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.

The goal is to acquire the basic knowledge necessary to consider the problems faced by the Japanese economy in individual fields, the means to solve them, and, of course, the basic knowledge necessary to understand economic articles in newspapers.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどうか、貿易政策の影響はどうかといったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・棟著、国際経済学をつかむ、有斐閣
 ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
 Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等（70%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。また、内容を英文で要約した資料も配付します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版、2017年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13回を予定）（30％）と、期末試験（70％）
授業はオンラインですが、期末試験は対面（参照不可）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（30%）、期末試験もしくはレポート等（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。また、内容を英文で要約した資料も配付します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	国際収支表の項目
第 2 回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 6 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 7 回	金融政策と為替レート	オーバーシュート・テイクモデル
第 8 回	長期の為替レート決定	購買力平価
第 9 回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第 10 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 11 回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第 12 回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第 13 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
 高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と期末試験（70 %）
 授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面（参照不可）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 DEFGNOTUVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定に迫られています。この講義ではこれらの現状について、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の働き	価格メカニズムの働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の非対称性の問題など
4	財政の 3 つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の 3 つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の 3 つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	データから見る政府が経済に占める大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と収税規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の発行額と政府債務残高の規模
10	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
11	プライマリーバランス	プライマリーバランスの考え方
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
14	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解していることと授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCHJKLMQRS 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨れ上がった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定に迫られています。この講義ではこれらの現状について、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンラインで実施します。Hoppii で教材（音声や画像も含む）を配信します。また、課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けますので、みなさんはそれらを読んで復習して下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みして下さい。掲示板又は教材により、回答します。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格メカニズムの働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の非対称性の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再配分機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の発行額、政府債務残高の規模
第 10 回	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
第 11 回	プライマリーバランス	プライマリー・バランスの考え方
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第 14 回	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議過程の把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1 年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

5 回の授業内課題 (50%) + 対面による期末試験 (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。

【その他の重要事項】

教材の配布や授業に関するお知らせは全て Hoppii を通じて行います。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか、確認して下さい。(小林・廣川、ふたつのクラスがあるので、間違えないように。また、履修変更を行った人は自分で登録すること。) なお、期末試験は対面により実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homeworks 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 DEFGNOTUVWXYZ 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
2	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
3	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
4	租税の転嫁と帰着 (1)	税の転嫁の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による余剰分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（政府支出増大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学	公債負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解していることこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』 新世社。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCHIJKLMPQRS 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初に扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンラインで実施します。Hoppii で教材（音声や画像も含む）を配信します。また、課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けますので、みなさんはそれらを読んで復習して下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板又は教材により、回答します。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
第 2 回	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
第 3 回	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (1)	税の転嫁の紹介
第 5 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による余剰分析
第 6 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 7 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 8 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 9 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 10 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 11 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 13 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 14 回	公債の経済学	公債負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1 年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。また、財政学 A のノートも見直して下さい。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』 新世社。

【成績評価の方法と基準】

5 回の授業内課題 (50%) + 対面による期末試験 (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。

【その他の重要事項】

教材の配布や授業に関するお知らせは全て Hoppii を通じて行います。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか、確認して下さい。(小林・廣川、ふたつのクラスがあるので、間違えないように。また、履修変更を行った人は自分で登録すること。) なお、期末試験は対面により実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homeworks 50% = 100%.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について

第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	交換の利益	経済学における交換の便益
3	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	貨幣の時間価値 3	年金、コンソル債の価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	複数状態を仮定した時の分散化
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	最終課題（テスト実施）	金融の役割、証券の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T 等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 1 もしくは 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100% として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か

第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルームス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①： 金融の機能	金融市場概要
2	金融論 A の復習②： 金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論 A の復習③： 不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	情報の非対称性、契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、FT等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第 2 版』（日本評論社、2016 年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社
中室敦子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないう現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1年次の「企業と経済・基礎」（マイクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』を使って授業を進める。講義では、過年度に好評だった「Zoom」による動画配信のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 vs 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別） 3つのモデルの比較（余剰分析）
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス 第2版』日本経済新聞出版
5. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
6. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（4、5回程度）、最終レポート（小エッセイ）、リアクションペーパー内容の合計で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題への解答）の合計点（80%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終（小）エッセイ（15%）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Four Assignments (Problem Sets as the Home work)(80%), Submission of Reaction Papers (every week)(5%), and a Final (Short) Essay (15%).

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1 回課題を出すので、1 週間を目標に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後には、授業内で正解の解説を行う。後半の 5 回分は、zoom による授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要-総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルの zoom でのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートの PDF ファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたは PDF ファイルでの復習が 2 時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時間開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時間中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して 85%、1 回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.

The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP, interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.

More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をするための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
 井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
 井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量

14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析
----	-------	-------------------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準4時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身につけるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】

この統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰 (1)	・クロスセクションデータ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰 (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰 (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰 (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰 (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
 - ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
 - ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
- 統計学の参考書には以下をあげます。
- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
 - ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を使うので、必要に応じて USB メモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: final report (100%)

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済地理学のアプローチについて立地論から概説する。産業ごとの立地の違いや現代経済における立地パターンなどを事例にあげて、立地の経済的論理を理解することを目的とする。

【到達目標】

産業立地の理論と実際を学ぶことによって、現代経済における多様な地理景観の形成を経済学のメカニズムから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	立地論の基礎	立地論の基礎概念と系譜
第 3 回	産業立地の基礎①	農業立地論の基礎と応用
第 4 回	産業立地の基礎②	工業立地論の基礎と応用
第 5 回	産業立地の基礎③	中心地理論の基礎と応用
第 6 回	都市と集積の立地論①	オフィス立地と都市システム論
第 7 回	都市と集積の立地論②	集積と空間経済の理論
第 8 回	立地論の応用①	現代工業の立地調整と組織的立地論
第 9 回	立地論の応用②	グローバリゼーションと立地
第 10 回	立地論の応用③	商業・流通と立地論
第 11 回	立地論の応用④	創造性と文化産業の立地
第 12 回	立地論と政策①	福祉政策と立地論
第 13 回	立地論と政策②	環境問題と立地論
第 14 回	まとめ・総括	立地論の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
 鈴木洋太郎（2009）『産業立地論』原書房
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will provide an overview of the industrial location theory from the perspective of economic geography. The objective is to understand the economic logic of location, with examples of locational differences in industries and location patterns in the modern economy.

Learning Objectives:

By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第 3 回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第 4 回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第 5 回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第 6 回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第 7 回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第 8 回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第 9 回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第 10 回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第 11 回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第 12 回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第 13 回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第 14 回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
 松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGs をテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使と企業のガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。最近、海外ファンドなどの大株主が反対を表明したため、東芝が提案した会社の 2 分割計画が臨時株主総会で株主の反対多数で否決されたケースは、コーポレートガバナンスの一例である。コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。

インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する

第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第 14 回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGs をテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長や CEO は、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。2021 年 6 月 25 日、東芝の定時株主総会で計 11 人の取締役選任案のうち、取締役会議長ら 2 人の再任が反対多数で否決されたケースは、コーポレート・ガバナンスの一例である。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及び ESG などを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役義務	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進

第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

CAR200CA
企業実務研究 A
井上 祐樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（1）
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（2）
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジюме

【参考書】

各講師のレジюмеが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA
企業実務研究 B
井上 祐樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体に働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に履修登録すること。2 単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

POL200CA
国際関係論 A
藤田 吾郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 A では、現代の国際政治のあり方を理解する上で必要不可欠となる、国際政治の歴史的展開および理論的概念について考察する。その際には、国際政治における中心的な争点である安全保障に主たる争点を当て、考察を進める。学生は、本講義を通じて、現代の国際政治を歴史的・理論的な文脈に引き付けて深く検討し、関心のある国際政治上の事象について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 国際政治の歴史的展開および理論的概念に関する知見を習得できること。
2. 本授業で習得した知見に基づいて、現代の国際政治上の諸問題について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業の狙い、授業の概要
第 2 回	国際政治の歴史的展開 I	主権国家体系の成立
第 3 回	国際政治の歴史的展開 II	ウィーン体制、第一次世界大戦の起源
第 4 回	国際政治の歴史的展開 III	国際連盟と集団安全保障体制、第二次世界大戦の起源
第 5 回	国際政治の歴史的展開 IV	冷戦期の国際政治
第 6 回	国際政治の捉え方 I	リアリズム、リベラリズム
第 7 回	国際政治の捉え方 II	従属論と世界システム論、コンストラクティヴィズム
第 8 回	国際政治の捉え方 III	交渉理論と戦争原因論
第 9 回	安全保障と同盟	同盟の起源、同盟のジレンマ、同盟と集団安全保障
第 10 回	安全保障と経済	相互依存論、覇権安定論、レジーム論
第 11 回	安全保障と外交	強制外交（抑止・強要）、安心供与外交
第 12 回	国際政治と国内政治	アリソン・モデル、二層ゲーム論、民主的平和論、観衆費用論
第 13 回	紛争と介入	平和維持、平和構築
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ 第 3 版』有斐閣、2023 年。定価 2,420 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17731-4（※ 2023 年 4 月上旬発売予定）

【参考書】

小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018 年。定価 2,530 円（本体 2,300 円）ISBN 978-4-641-15052-2
 多湖淳『戦争とは何か——国際政治学の挑戦』中央公論新社（中公新書）、2020 年。定価 880 円（本体 800 円）ISBN 978-4-12-102574-6
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN 978-4-641-05378-6

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course mainly focuses on the interstate relations regarding security issues, and explores historical backgrounds and theoretical conceptions.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of historical developments and theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

POL200CA
国際関係論 B
藤田 吾郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 B では、国際関係論 A の内容を踏まえた上で、戦後日本がいかなる外交を展開してきたのかについて、歴史的な視点から考察する。その際には、戦後日本の外交政策（および安全保障政策）を大きく規定してきた日米関係を中心に考察を進める。学生は、本講義を通じて、戦後日本外交の来歴についての知見を獲得するとともに、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 戦後日本がどのような外交を展開してきたのかについての知見を習得できること。
2. 本授業で身につけた知見に基づいて、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第 2 回	アジア・太平洋戦争	日中戦争、日独伊三国同盟、日米開戦
第 3 回	占領期 I	アジア・太平洋戦争の終結と日本占領の開始
第 4 回	占領期 II	占領政策の転換とその影響
第 5 回	占領期 III	講和・安保条約の締結
第 6 回	講和直後の日米関係	日本再軍備と米軍基地問題
第 7 回	極東の緊張緩和と日本の内政・外交	1955 年体制の成立、日ソ国交回復
第 8 回	日米関係の新展開	日米安全保障条約の改定と 60 年安保闘争
第 9 回	沖縄返還への道	対日講和と沖縄問題、佐藤政権と沖縄返還交渉
第 10 回	近隣諸国との関係回復の模索	日韓国交正常化、日中国交正常化、東南アジア外交
第 11 回	日米安全保障の多角化・深化	同盟の制度化、総合安全保障
第 12 回	冷戦終結期の日本外交	湾岸戦争と日本、自衛隊海外派遣問題
第 13 回	冷戦終焉後の日本外交	安保再定義、小泉外交
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

五百旗頭真編『戦後日本外交史 第 3 版補訂版』有斐閣、2014 年。定価 2,200 円（本体 2,000 円）（ISBN 978-4-641-22018-8）

【参考書】

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008 年。定価 2,640 円（本体 2,400 円） ISBN 978-4-64118357-5

添谷芳秀『日本の外交——「戦後」を読みとく』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2017 年。定価 1,100 円（本体 1,000 円） ISBN 978-4-480-09829-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with historical knowledge which is essential to understand current Japan's foreign relations. This course mainly focuses on the development of the U.S.-Japan relations, which has been a central framework of postwar Japan's foreign and security policies.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the history of postwar Japan's diplomacy
2. To acquire the ability to explain your opinion about desirable Japanese foreign policies logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第 2 回	贈与と再分配の世界	経済人類学の入り口を垣間見る
第 3 回	贈与と互酬性	一般交換と限定交換
第 4 回	贈与と禁止	レヴィ=ストロースの学説
第 5 回	贈与・循環・所有	サーリンズとモースの学説
第 6 回	『贈与論』にみる人とモノ	異なる所有観の発見
第 7 回	贈与から考える人とモノ	モース派の人類学と譲渡不可能性の概念
第 8 回	贈与から考える女性の労働①	2人のフェミニスト人類学者の論争から
第 9 回	贈与から考える女性の労働②	権利から関係性へ
第 10 回	交換の類型学	互酬、再分配、市場
第 11 回	再分配と集団の境界	ミクロネシアの儀礼経済から考える①
第 12 回	再分配の中心	ミクロネシアの儀礼経済から考える②
第 13 回	再分配と階層性	ミクロネシアの儀礼経済から考える③
第 14 回	負い目と権力	贈与と再分配の違いをめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

【授業時間外の学習（Learning Activities outside of Classroom）】

Students will be expected to conduct their own independent research on the specialized knowledge of Economic Anthropology. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be based on the end-of-term report (70%) and small assignments (30%). Reports that show evidence of students' own thinking, rather than reports that superficially trace the lecture content, will be highly evaluated.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	互酬・再分配と市場交換の接合①	貨幣経済と暮らしの変容
第 3 回	互酬・再分配と市場交換の接合②	首長国ビジネスの誕生
第 4 回	互酬・再分配と市場交換の接合③	首長の金策と島民の金策
第 5 回	貨幣の人類学①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 6 回	貨幣の人類学②	貨幣の意味を変える方法
第 7 回	貨幣の人類学③	国境を越える貨幣とその読み替え
第 8 回	グローバル時代の文化研究①	SDGs のローカライゼーション
第 9 回	グローバル時代の文化研究②	まなざしを活用する
第 10 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ①	「いのちの贈与」をめぐる
第 11 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ②	地域通貨のリアルをめぐる
第 12 回	金融人類学への誘い①	金融トレーダーの世界
第 13 回	金融人類学への誘い②	市場の時間と希望の時間
第 14 回	総括	経済人類学からみる世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to understand modern economies from the perspective of Economic Anthropology.

【授業時間外の学習（Learning Activities outside of Classroom）】

Students will be expected to conduct their own independent research on the specialized knowledge of Economic Anthropology. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be based on the end-of-term report (70%) and small assignments (30%). (Reports that show evidence of students' own thinking, rather than reports that superficially trace the lecture content, will be highly evaluated.)

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策。中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策。中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第 2 回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド (以下、OD)①		
第 3 回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
OD ②		
第 4 回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第 5 回	産業の立地①	立地論の基礎
OD ③		
第 6 回	産業の立地②	工業立地論と事例
OD ④		
第 7 回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第 8 回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
OD ⑤		
第 9 回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
OD ⑥		
第 10 回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第 11 回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
OD ⑦		
第 12 回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
OD ⑧		
第 13 回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
OD ⑨		
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
 詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド (以下、OD) ①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
OD ②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
OD ③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
OD ④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積	産地と企業城下町
OD ⑤ ①		
第 9 回	日本の都市・産業集積	都市集積とネットワーク型集積
OD ⑥ ②		
第 10 回	産業集積のダイナミズム	産業のグローバル化
OD ⑦		
第 11 回	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT 生産システム
OD ⑧		
第 12 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
OD ⑨		
第 13 回	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
OD ⑨		
第 14 回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。

詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CA
アメリカ経済論 A
増田 正人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化などで国際社会においておきな影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、アメリカ経済を理解するために、建国の理念、その歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済の中でのアメリカ経済のあり方について学ぶ。

【到達目標】

日本とは大きく異なるアメリカの経済、社会について、受講生が一定のまとまったイメージを持てるようにすること。その中で、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、コロナの感染状況等に応じてオンラインで実施する場合もある。講義は、事前にレジュメや講義資料を Hoppii に載せるので、プリントアウト等をして、授業時に参照できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方 人工国家としてのアメリカ アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点 ① 独立革命と共和制、連邦制	独立革命と共和制 連邦制と州
第 3 回	アメリカ経済を見る視点 ② 南北戦争と国民経済の形成	南北戦争と国民経済の形成
第 4 回	アメリカ経済を見る視点 ③ 移民国家としてのアメリカ	移民国家としてのアメリカ
第 5 回	アメリカ経済を見る視点 ④ バックス・アメリカーナと冷戦	バックス・アメリカーナと冷戦
第 6 回	アメリカ経済の特徴とその変化① 価格中心の市場メカニズム	価格中心の市場メカニズムが機能している仕組みの紹介
第 7 回	アメリカ経済の特徴とその変化② 労使関係の特質	アメリカの労使関係の特徴、形成と歴史、現在の姿を解説する。
第 8 回	アメリカ経済の特徴とその変化③ 多国籍企業と産業の空洞化	多国籍企業化と国民経済の変容について解説する
第 9 回	アメリカ経済の特徴とその変化④ 軍産複合体とインナー・サークル	アメリカの軍産複合体の形成と歴史、その影響力等について解説する。
第 10 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑤ アメリカ農業	アメリカ農業の歴史、現在の課題について解説する
第 11 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑥ 財政制度の特徴と財政赤字	アメリカの財政制度の仕組み、現在の特徴について解説する。
第 12 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑦ 金融制度の特徴とその変化	金融制度の特徴とその変化について解説する。

第 13 回 国際通貨ドルと国際金融センター ドルが国際通貨として機能している仕組み、アメリカ経済への意味について解説する。

第 14 回 試験・まとめと解説 期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『21 世紀のアメリカ資本主義』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編、大月書店、2023 年。
『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著、ミネルヴァ書房、2021 年。

【参考書】

『米国内閣白書 2022』萩原伸次郎監修、蒼天社、2022 年。
その他、講義時に関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、学期の途中で課題レポートを課します。課題レポート（30％）期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

今年度、初めてアメリカ経済論を担当するので、この講義についてはまだない。

【学生が準備すべき機器他】

事前には配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC 等で講義時に見られるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

可能な限り、秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

国際経済、国際金融、アメリカ経済

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the founding principles of the United States, the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the U.S. economy in the global economy.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: submitted reports 30% and final exam 70%; total: 100%.

ECN200CA
アメリカ経済論 B
増田 正人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化などで国際社会においておきな影響力を持ち続けている。本講義では、春学期に学んだことを踏まえて、アメリカ経済の課題、現状について、歴史的に重要な問題に焦点を当てながらより深く学ぶ。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、コロナの感染状況等に応じてオンラインで実施する場合もある。講義は、事前にレジュメや講義資料を Hoppii に載せるので、プリントアウト等をして、授業時に参照できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高度成長から低成長へ① 公民権運動と黒人差別問題	公民権運動、黒人差別問題について解説する。
第 2 回	高度成長から低成長へ② ドル危機とニクソン・ショック	ドル危機、オイルショックについて解説する。
第 3 回	高度成長から低成長へ③ スタグフレーションとレーガノミックス	スタグフレーション、それに対応したレーガノミックスについて解説する。
第 4 回	高度成長から低成長へ④ 日米貿易摩擦と競争力の強化政策	日米貿易摩擦とその帰結、アメリカの戦略について解説する。
第 5 回	グローバル化とアメリカ経済① クリントン政権とニューエコノミー	クリントン政権の経済政策、ニューエコノミー、知財重視の戦略について解説する。
第 6 回	グローバル化とアメリカ経済② 国際経済秩序の再編と WTO	新たな国際経済秩序の構想とそれを具体化した WTO について解説する。
第 7 回	グローバル化とアメリカ経済③ 高成長とグローバル・インバランス	WTO 体制の下で、高成長を続けるアメリカ経済の好循環の仕組みを解説する。
第 8 回	グローバル化とアメリカ経済④ リーマンショックと世界金融危機	住宅金融、サブプライム問題、リーマンショックとその世界的波及について解説する。
第 9 回	グローバル化とアメリカ経済⑤ 金融危機への対応とオバマ政権	金融危機への対応とそれがもたらしたものについて解説する。
第 10 回	グローバル化とアメリカ経済⑥ 富の二極化と分断されるアメリカ社会	アメリカの富の二極化の現状について解説する。
第 11 回	グローバル化とアメリカ経済⑦ トランプ政権とアメリカ単独主義	トランプ政権の経済政策について解説する。
第 12 回	グローバル化とアメリカ経済⑧ 米中新冷戦と世界の分裂	米中新冷戦の構造、アメリカの戦略、ロシアのウクライナ侵攻の背景等について解説する。
第 13 回	グローバル化とアメリカ経済⑨ バイデン政権の課題	気候変動危機や米中新冷戦など、アメリカの直面する様々な課題に対して、どのような政策がとられているのかを解説し、アメリカの課題について検討する。
第 14 回	試験と解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『21 世紀のアメリカ資本主義』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編、大月書店、2023 年。

『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著、ミネルヴァ書房、2021 年。

【参考書】

『米国経済白書 2022』萩原伸次郎監修、著天社、2022 年。

その他、講義時に関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でレポート課題を出します。提出されたレポート課題（30%）期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度初めて担当するので、特にない。

【学生が準備すべき機器他】

講義時に、事前には配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC 等で見られるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

可能な限り、春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, and educational standards.

In this lecture, based on the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: submitted reports 30% and final exam 70%; total: 100%.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現在の EU につながる欧州経済統合の礎となる 1945 年から 80 年代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日の EU に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間に Zoom による講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡を中心に学ぶ意義について。
第 2 回	第一次大戦後の欧米とドイツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会と経済について見る。
第 3 回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦争経済について見る。
第 4 回	第二次大戦の終わりとしてドイツの敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政策について学ぶ。
第 5 回	マーシャルプランと西欧の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣営の形成について見る。
第 6 回	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学ぶ。
第 7 回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践について学ぶ。
第 8 回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大衆消費社会と生活水準向上について。
第 9 回	西欧の協調と市場統合の模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見る。
第 10 回	ドイツ民主共和国（東ドイツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主義の建設について見る。
第 11 回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会議について見る。
第 12 回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策について学ぶ。
第 13 回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	70 年代世界経済の停滞、高度経済成長の終焉について学ぶ。
第 14 回	ケインズ主義から新自由主義へ	80 年代の欧米新自由主義的政策について見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は一回あたり各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。また学期中に合計 2 回のレポート提出が必須となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】

猪木武徳『戦後世界経済史:自由と平等の視点から』中央公論新社 2009 年。
遠藤乾（編）『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 増補版 2014 年。
藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済:EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019 年。
古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007 年。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを 1 回、学期末レポート 1 回の合計 2 回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題 50 %、学期末課題 50 %。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

Learning Objective: The goal of this course is to understand the socio-economic development of Europe since 1945.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では 1980 年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合 EU の成立といった流れを把握しつつ、現在に至る EU の発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】

冷戦終結から EU 成立、東方拡大への国際政治の流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合など EU 独自のガバナンス及び域内・域外に対する EU の役割を理解する。さらに直面する現代の危機（EU 離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻）への EU の対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間に Zoom による講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第 2 回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ペレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第 3 回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第 4 回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第 5 回	欧州共同体から欧州連合 EU へ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第 6 回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第 7 回	EU の機構と運営	EU の諸組織と EU 独自のガバナンスを学ぶ。
第 8 回	EU 東方拡大と EU 諸国の経済・社会構造	EU 東方拡大、EU 加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第 9 回	EU の通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第 10 回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第 11 回	欧州と移民・難民問題	難民問題への EU の対応についてドイツの事例を中心にみる。
第 12 回	イギリスの EU 離脱	英国 EU 離脱の過程と影響について見る。
第 13 回	欧州とコロナ危機	パンデミックを通じた諸制約の経済・社会的帰結について見る。
第 14 回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EU のウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中 2 回のレポート提出必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】

遠藤乾（編）『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008。
川越修/河合信晴（編）『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016。
田中/長部/久保/岩田『現代ヨーロッパ経済』第 5 版 有斐閣 2018。
工藤章/藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを 1 回、学期末レポート 1 回の合計 2 回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題 50 %、学期末課題 50 %。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east. Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジア NIEs の俯瞰	GDP、一人当たり GDP の理解と所得基準
3	アジア経済の底流 1	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流 2	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流 3	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジア NIEs1	初期の発展の共通点
7	アジア NIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得 1	OEM・ODM とスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得 2	OEM・ODM で発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得 3	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を 100 点に案分し評価を行う (100%)。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞご理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義は Zoom で行い、理解力テストは Hoppii で行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好な Wifi 環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などは PC の方が行いやすい。PC 利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまず ASEAN 全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN 1	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN 2	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ 1	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ 2	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ 3	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア 1	英国からの独立、マハティール、プミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア 2	貿易、産業政策、自動車産業、ICT 産業など
9	インドネシア 1	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア 2	貿易、自動車産業、プリプミ、汚職撲滅など
11	フィリピン 1	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン 2	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を 100 点に案分し評価を行う (100%)。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進展でフィリピンができず残念に思ってくれた学生がいた。フィリピンまでカバーできるよう、授業プランの見直しを行った。

【学生が準備すべき機器他】

講義は Zoom で行い、理解力テストは Hoppii で行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好な Wifi 環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などは PC の方が行いやすい。PC 利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

その他重要事項

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する

第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著 (2016)『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之 (2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著 (2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著 (2013)『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫 (2013)『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題 (70 %)
 2. 期末試験 (30 %)
- 両者の組み合わせ：100 %

1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final examination (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) *Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) *Public Medical Insurance Reform in China*. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) *Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) “Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China,” *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) “Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China,” *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) “Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

【Course outline】

The lecture introduces the trajectory of China’s economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China’s economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

【Learning Objectives】

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macro-economic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

【Learning activities outside of classroom】

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN200CA
中国経済論B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する

第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する
第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70%）
 2. 定期試験（30%）
- 両者の組み合わせ：100%
 1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final examination (30%)
 Combination of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics' targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。1 年次の初級文法の復習や説明も行います。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を口頭で伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。ペアワークやグループワークを行って、対話練習を行います。毎回課題があります。提出された課題については、翌週にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	道案内 (1)	場所をたずねる
第 3 回	道案内 (2)	見える文化と見えない文化 行き方の説明
第 4 回	住居 (1)	ステレオタイプ 住居の部屋の説明 和食とは？
第 5 回	住居 (2)	賃貸物件選び
第 6 回	暮らし (1)	自分の住む町を紹介する 非言語コミュニケーション
第 7 回	暮らし (2)	自分のお気に入りの場所 コンテキスト
第 8 回	トラブル (1)	トラブルを伝える ターンテーク
第 9 回	トラブル (2)	苦情をメールで書く アイコンタクト
第 10 回	将来の夢 (1)	自分の夢を語る
第 11 回	将来の夢 (2)	やりたいことを語る 時間感覚
第 12 回	健康 (1)	身体の部分の名称
第 13 回	健康 (2)	痛みの表現
第 14 回	授業内試験と解説	試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書は特に必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の宿題やテストが 20 %、学期末試験の口頭が 30 %、筆記が 50 %で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、正当な理由がなく欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, and the way people think in German-speaking countries while learning the German language. Elementary German grammar will also be explained.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to communicate simple matters orally in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Credit will be granted for a total of at least 60%, consisting of 20% for class homework and tests, 30% for the oral final exam and 50% for the written final exam. If a student is absent for more than one-fourth of the class without a valid reason, no credit will be granted.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。1 年次の初級文法の復習や説明も行います。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を口頭で伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。ペアワークやグループワークを行って、対話練習を行います。毎回課題があります。提出された課題については、翌週にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	過去形 (1)	過去
第 3 回	過去形 (2)	人の見た目 ルッキズム
第 4 回	命令形 (1)	命令と依頼 自己開示
第 5 回	命令形 (2)	日記を書く 高コンテキスト
第 6 回	助動詞 (1)	助動詞の使い方 評価の伝え方
第 7 回	助動詞 (2)	禁止の表現 話の組み立て方
第 8 回	服装 (1)	色の表現 合意形成
第 9 回	服装 (2)	比較表現
第 10 回	天気 (1)	天候の表現 水平な組織、垂直な組織
第 11 回	天気 (2)	理由を言う 対立
第 12 回	祝う (1)	誕生日を祝う 仕事と家庭
第 13 回	祝う (2)	お祝い表現 人間関係
第 14 回	試験と解説	試験をして、解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書は特に必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の宿題やテストが 20 %、学期末試験の口頭が 30 %、筆記が 50 % で、合計 60 % 以上で単位を認定します。なお、正当な理由がなく欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, and the way people think in German-speaking countries while learning the German language. Elementary German grammar will also be explained.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to communicate simple matters orally in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Credit will be granted for a total of at least 60%, consisting of 20% for class homework and tests, 30% for the oral final exam and 50% for the written final exam. If a student is absent for more than one-fourth of the class without a valid reason, no credit will be granted.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知る。自ら発信する能力を向上させる。

その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深める。

【到達目標】

フランスの日常で交わされるごく簡単な会話ができるようになる（会話に必要な語彙・表現を運用する力を身に付ける）。

フランスの文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴いて理解する。語彙を確認し、発音する。自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5から6回繰り返します。対面授業を想定しているが、課題受け渡しのツールとしてグーグル・クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週までに、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業・評価方法の説明 フランス語の発音と読み方 発音、綴り字と読み方の規則 み方
第2回	日付と時刻-1	曜日、日付、時刻の問い方と答え方
第3回	日付と時刻-2	所定（開始・終了・行動）の時刻の表し方 文法（代名動詞）
第4回	過去の表し方-1	過去の事柄を表現する
第5回	過去の表し方-2	過去の事柄を問う、経験を言い表す 文法（複合過去）
第6回	未来の出来事-1	近い未来（予定）の言い表し方
第7回	未来の出来事-2	予定、旅程表の書き方 文法（近接未来）
第8回	食品・料理・食材-1	～を食べる、好き嫌い、渴き・空腹の表現
第9回	食品・料理・食材-2	飲食店・マルシェでの会話表現 文法（冠詞の復習）
第10回	天候-1	天候・気温の表現と会話
第11回	天候-2	感嘆文（何と寒いのか）、時の疑問副詞（寒いときは） 文法（非人称構文、比較構文）
第12回	街と街中の移動-1	所在を問う、行き方を尋ねる、行き方を教える
第13回	街と街中の移動-2	交通機関、交通手段を含めた表現
第14回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間を標準です。

テキストの会話部分は前もって目を通し、授業でやった練習問題は後でもう一度見直してください。不明な点があれば次週授業で質問してください。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るように努めてください。

【テキスト（教科書）】

当初は配布プリント。その後、必要に応じて指示することがある。

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）45%

まとめの試験（口頭と筆記）：55%

【学生の意見等からの気づき】

この講義は公開科目です。22年度はスポーツ健康学部からの受講生が多く、授業を盛り上げてくれました。虚心に言葉や文化を学び、楽しむ姿勢を大変すばらしいと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

授業は対面で行う場合でも、課題の受け渡しにはグーグルクラスルームを用いるので各自端末で対応してください。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】

TCourse outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 55%, Usual performance score: 45%

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知る。自ら発信する能力を向上させる。

その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深める。

【到達目標】

フランスの日常で交わされるごく簡単な会話ができるようになる（会話に必要な語彙・表現を運用する力を身に付ける）。フランスの文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴いて理解する。語彙を確認し、発音する。自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返します。対面授業を想定しているが、課題受け渡しのツールとしてグーグル・クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週までに、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業・評価方法の説明 フランス語の発音と読み方
第 2 回	出会い-1	前回の復習 名乗る、相手の名を尋ねる
第 3 回	出会い-2	確認、相手について尋ねる 文法（動詞の活用、名詞の性数、疑問文）
第 4 回	出会い-3	出身や職業、地名（国名）の使い方
第 5 回	出会い-4	電話番号と数字 文法（縮約、所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形）
第 6 回	紹介する-1	誰かを紹介する
第 7 回	紹介する-2	職場、出身、国籍、文法（疑問文、否定文、冠詞、名詞の複数形、縮約）
第 8 回	専攻について	専攻・学科の種類、好き嫌いとその程度
第 9 回	余暇について	余暇の種類、好き嫌いとその程度、頻度、文法（部分冠詞、中性代名詞）
第 10 回	家族について-1	家族の有無、年齢、性格の説明
第 11 回	家族について-2	家族についての説明（職業、人柄） 文法（提示表現、否定冠詞、形容詞の性数変化）
第 12 回	持ち物-1	持ち物の尋ね方
第 13 回	持ち物-2	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 4 時間を標準です。

テキストの会話部分は前もって目を通し、授業でやった練習問題は後でもう一度見直してください。不明な点があれば次週授業で質問してください。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るように努めてください。

【テキスト（教科書）】

当初は配布プリント。その後、必要に応じて指示することがある。

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）45 %
まとめの試験（口頭と筆記）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

この講義は公開科目です。22 年度はスポーツ健康学部からの受講生が多く、授業を盛り上げてくれました。虚心に言葉や文化を学び、楽しむ姿勢を大変すばらしいと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

授業は対面で行う場合でも、課題の受け渡しにはグーグルクラスルームを用いるので各自端末で対応してください。

【その他の重要事項】

可能であれば、本授業の履修と並行して、語学検定資格等の目的を持って、学習を継続することを奨めます。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】

Course outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 55%、Usual performance score: 45%

LANr200CB
ロシア語セミナー A
小俣 智史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。他学部からも履修が可能です。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書くことができるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを読み、的確に内容を把握し、きれいな日本語で訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級程度）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す（資格として履歴書に書くことができます。ロシア語資格は珍しいため面接などに武器となります）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態（対面、オンライン）についてのアンケートを実施。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでも提示します。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題などを解く。また、視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、映像紹介、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、映像紹介、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級-1）	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級-2）	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読、テキスト解説
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（3級-1）	関係代名詞、会話練習
第9回	ロシア語能力検定試験対策（3級-2）	数詞（数詞と名詞の変化）、比較級、会話練習

第10回	テキスト読解とリスニング練習 1	テキスト読解（ロシアの市民生活など）、リスニングの練習
第11回	テキスト読解とリスニング練習 2	テキスト読解（ロシアの歴史など）、リスニングの練習
第12回	テキスト読解とリスニング練習 3	テキスト読解（ロシアの文化など）、リスニングの練習
第13回	テキスト読解とリスニング練習 4	テキスト読解（ロシアの民話など）、リスニングの練習
第14回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版社、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（課題や小テスト）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指します。検定試験を受験しないもりの学生の受講も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is for students who have taken beginner Russian. Complete the acquisition of basic Russian grammar, and can read and translate various texts by looking up a dictionary. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on a resume as a qualification. Develop listening and reading skills and acquire practical conversation skills. Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies about Russia. Two hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB
ロシア語セミナー B
小俣 智史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験の合格を目指す。並行して中級文法を習得しながら、幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。リスニングの練習を重ね、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。映画など視聴覚教材を通じてロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

10月のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指す（資格として履歴書に書くことができる。ロシア語資格は珍しいため面接時に武器になります）。

中級文法（副動詞と形動詞など）を学習し、ロシアの文化・歴史・生活に関するテキスト、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。リスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策問題を解く。試験終了後は多様な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を習得。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化・歴史に関するテキスト、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。リスニングの練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳（検定試験対策問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解
第6回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 1）
第7回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 2）
第8回	テキスト読解とリスニング練習 1	テキスト読解（ロシアでの生活など）、リスニングの練習
第9回	テキスト読解とリスニング練習 2	テキスト読解（ロシアの文化など）、リスニングの練習
第10回	テキスト読解とリスニング練習 3	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、リスニングの練習
第11回	テキスト読解とリスニング練習 4	テキスト読解（現代ロシアの歴史など）、リスニングの練習

第12回	テキスト読解とリスニング練習 5	テキスト読解（ロシア文学作品：チャーホフ）、リスニングの練習
第13回	テキスト読解とリスニング練習 6	テキスト読解（ロシア文学作品：プーシキン）、リスニングの練習
第14回	テキスト読解とリスニング練習 7	テキスト読解（学生の要望を反映）、リスニングの練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当初の目標であるロシア語能力検定試験に向けて、基礎文法を復習し、対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

また、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアの映画やニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れ、ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げてみましょう。

【テキスト（教科書）】

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（課題や小テスト）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指します。検定試験を受験しないもりの学生の受講も歓迎します。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。授業形態（対面・オンライン）の変更については初回の授業で受講生にアンケートを取り、その結果も鑑みて事前に学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

Aim to pass the Russian Language Proficiency Test in October. While learning intermediate grammar at the same time, read a wide range of textbooks and deepen my understanding of Russian history and culture. By listening to audio materials, I will improve your Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing." Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies. Two hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解 (2022 年は中国の「スーパー宇宙年」)
第 3 回	第 2 課	読解 (楼蘭を破らずにば終に還らじ)
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解 (超クール！「閃光少女」)
第 6 回	第 4 課	読解 (国産ブーム、いまなお健在)
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解 (「テント経済」に見る新たな消費トレンド)
第 9 回	第 6 課	読解 (北京冬季五輪のエピソード)
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課	読解 (文字は時代を映し出す)
第 12 回	第 8 課	読解 (飲食こぼれ話)
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2023 年度版』朝日出版社、2023 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解 (若者は欲しがらず、老人は使いこなせないもの、なーんだ?)
第 3 回	第 10 課	読解 (パンダの名前はどうか決める?)
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解 (デジタル化が市民生活の助けに)
第 6 回	第 12 課	読解 (トウガラシ大王の「渡り鳥農業」)
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解 発表
第 8 回	第 13 課	読解 (消費は時代の移り変わりを映す鏡)
第 9 回	第 14 課	読解 (2000 年代生まれの職場改革)
第 10 回	第 15 課	読解 (中国児童文学の父、百歳に)
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2023 年度版』朝日出版社、2023 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

ECN200CA
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2022年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働需要 1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要 2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要 3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要 4	所得分配
第5回	労働需要 5、経済成長 1	国民総生産、購買力平価
第6回	経済成長 2	経済成長の記述統計、ソロー・モデル
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長 3	貯蓄率、労働成長率の変化
第9回	経済成長 4	一人あたり資本の成長率、技術水準の変化、相関と因果
第10回	経済成長 5	回帰分析、条件付き収束
第11回	経済成長 6、構造転換 1	成長会計、発展会計、構造転換の記述統計
第12回	構造転換 2	ルイス・モデル
第13回	構造転換 3	ハリス＝トダロ・モデル、トダロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』 日本評論社

ジェトロ・アジア経済研究所他編 (2015) 『テキストブック開発経済学 第3版』 有斐閣

戸堂康之 (2021) 『開発経済学入門 第2版』 新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去5年間ありません。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.

Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

- Learning Objectives

Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2022年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	貿易 1	比較優位、絶対優位
第2回	貿易 2	2財1時点モデル
第3回	貿易 3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第4回	貿易 4、金融 1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第5回	金融 2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第6回	金融 3	企業の利潤最大化、資本制約、1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融 4	マクドゥーガル=ケンプ・モデル
第9回	金融 5、起業 1	実証分析、職業選択
第10回	起業 2	信用制約
第11回	起業 3	貧困の罠
第12回	起業 4	実証研究、ランダム化比較試験
第13回	産業集積	規模の経済、内生的産業発展論、実証分析

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房

戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社

ハナジ、テュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去5年間ありません。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process.

In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development.

We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

- Learning Objectives

Why do East Asian countries have large proportions of trade and financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・変更などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1 - 自然環境を構成する因子、2 - 環境汚染の変遷、3 - 現在の環境汚染、4 - 環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第13回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デボジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020) 『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
 一方井誠治 (2018) 『コア・テキスト環境経済学』新世社
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

環境政策論 A を履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 5 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第 6 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 7 回	生物多様性	生態系サービス
第 8 回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020) 『環境政策論講義』 東京大学出版会
 西尾哲茂 (2019) 『わかへる 環境法 増補改訂版』 信山社
 神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』 文眞堂
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランや Colbert の財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンライン併用で行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に学習支援システムを通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6 日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?". In replying to them, mercantilism was to be formed.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert の工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は「国富論」に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンライン併用で行います。

毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学期的講義内容は、高校世界史A/Bにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第5回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第7回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第8回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第9回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第13回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低4時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）

ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）

米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）
ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40%）と秋学期末の定期試験の成績（60%）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せられる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学でどのように経済政策について考えるか？
2	経済政策を分析するための準備 1	完全競争市場とは何か、需要曲線と供給曲線
3	経済政策を分析するための準備 2	消費者余剰の図示
4	経済政策を分析するための準備 3	弾力性の概念
5	経済政策を分析するための準備 4	様々な費用の概念
6	経済政策を分析するための準備 5	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	経済政策を分析するための準備 6	生産者余剰の図示
8	経済政策を分析するための準備 7	経済政策の余剰分析
9	外部性への対処 1	外部性の概念
10	外部性への対処 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性への対処 3	指導・監督政策による外部性への対処
12	外部性への対処 4	市場重視政策（ピグー税と排出権取引）による外部性への対処
13	公共財の供給 1	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財の供給 2	国家公共財と地方公共財の供給

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫, 2008, 『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー, 2019, 『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃, 2022, 『公共経済学 [第 2 版]』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM モデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ統計 1	GDP の概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ統計 2	名目 GDP と実質 GDP
4	経済政策のためのマクロ統計 3	物価指数の概念と作成方法
5	経済政策のためのマクロ統計 4	失業率の概念と作成方法
6	労働政策 1	需要不足失業とミスマッチ失業
7	労働政策 2	失業への政策的対処
8	労働政策 3	最低賃金引き上げの影響
9	財政・金融政策 1 : IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	財政・金融政策 2 : IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	財政・金融政策 3 : IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	財政・金融政策 4 : IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	財政・金融政策 5 : IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	財政・金融政策 6 : IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果と流動性の罫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN300CA
社会政策論 A
和久津 尚彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代社会の主として医療に関する諸課題とその政策対応を理解し、経済学の視点から分析する能力を身につけることを目的とする。医療政策は医療提供体制と医療保障に関するものに大別できる。本講義は医療提供体制に関する諸問題を中心に扱う。

【到達目標】

- ・日本の医療分野の現状と課題を理解し説明できる。
- ・日本の医療制度の概要を理解し説明できる。
- ・日本の医療に関する諸課題への政策対応を経済学の知見に基づき考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の説明、医療と経済学の関わり
2	日本の医療制度の枠組み	日本の医療提供体制、医療保障制度の概説
3	日本の医療制度の政策課題	医療提供体制と医療保険制度がかかえる政策課題の概説
4	医療と情報：理論編	医療市場の広告規制と経済学的根拠、医療情報
5	医療と情報：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
6	医療における競争と規制：理論編	広告規制以外の医療市場における規制と経済学的根拠
7	医療における競争と規制：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
8	医療の機能分化：理論編	かかりつけ医、エージェンシー問題、機能分化
9	医療の機能分化：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
10	供給者誘発需要：理論編	供給者誘発需要仮説、病床規制
11	供給者誘発需要：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
12	健康行動への介入：理論編	肥満の医学的・社会的問題、メタボ検診、ナッジ
13	健康行動への介入：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
14	まとめ	前回までの内容の確認・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な医療制度の目的や沿革、背景などを概説するが、日頃から医療に関する時事的トピックスの新聞記事・雑誌記事に関心をもって目を通すことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。主に下記の参考書を参考に作成した資料を配布する。

【参考書】

河川洋行『医療の経済学（第 4 版）』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（複数回、計 30 %）、期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の便宜を図るため資料の事前配布につとめる。

【その他の重要事項】

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge of and analytical skills to the issues on health care policies, using economics. This year, a particular attention is given to those on health care providing system. Final grade will be decided based on short reports (30%) and term-end examination (70%).

ECN300CA
社会政策論 B
和久津 尚彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代社会の主として医療に関する諸課題とその政策対応を理解し、経済学の視点から分析する能力を身につけることを目的とする。医療政策は医療提供体制と医療保障に関するものに大別できる。本講義は医療保障に関する諸問題を中心に扱う。

【到達目標】

- ・日本の医療分野の現状と課題を理解し説明できる。
- ・日本の医療制度の概要を理解し説明できる。
- ・日本の医療に関する諸課題への政策対応を経済学の知見に基づき考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の説明、日本の医療制度の枠組み・政策課題の概説
2	介護保険：理論編	介護保険制度、介護費の動向、医療サービスの代替と補完
3	介護保険：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
4	公的医療保険：理論編	公的医療保険制度、国民皆保険、逆選択
5	公的医療保険：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
6	診療報酬：理論編	診療報酬（医療サービスの公定価格）、海外との比較
7	診療報酬：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
8	混合診療禁止：理論編	混合診療禁止ルール、経済学的根拠、メリット・デメリットの概説
9	混合診療禁止：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
10	「医師不足」問題：理論編	「医師不足」問題の変遷、経済学的接近、買手独占
11	「医師不足」問題：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
12	終末期医療：理論編	終末期医療をめぐる論争、終末期医療費、経済学的解釈の概説
13	終末期医療：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
14	まとめ	前回までの内容の確認・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な医療制度の目的や沿革・背景などを概説するが、日頃から医療に関する時事的トピックスの新聞記事・雑誌記事に関心をもって目を通すことが望ましい。

各授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。主に下記の参考書を参考に作成した資料を配布する。

【参考書】

河口洋行『医療の経済学（第 4 版）』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（複数回、計 30 %）、期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の便宜を図るため資料の事前配布につとめる

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge of and analytical skills to the issues on health care policies, using economics. This year, an particular attention is given to those on health care insurance. Final grade will be decided based on short reports (30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて紹介すると同時に、「なぜ賃金が上がらないのか」といったことについても議論する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本としながら、状況に応じてオンラインのみによる授業もおこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特長的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。
・講義内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内での演習等を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

コロナ感染等から教室で授業を受けられないケースに対応するため、ハイフレックス形式（対面とオンラインの併用）による授業の実施を検討する場合もある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本としながら、状況に応じてオンラインのみによる授業もおこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念的復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。
・授業内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内で演習の機会を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net under COVID-19 is also discussed.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
 鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
 西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
 なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, we will examine the current situation and issues of the Japanese social security system. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

SES300CA
地球環境論 A
吉田 圭一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らすこの地球には実に多様な自然環境が見られ、私たちは複雑な自然環境の影響を受けながら、自然環境を利用して生活しています。授業では、こうした自然環境の複雑さや人と自然とのかわりについて、地理的な視点から解き明かしていきます。また、様々なスケールで自然環境を理解し、地球環境問題の解決の糸口を探るための知識や技術を学びます。

【到達目標】

身近なものから地球全体まで様々なスケールで展開する自然環境の諸事象について、その成因や形成過程を地理的な視点からとらえるとともに、自然環境と人間活動の相互依存関係について具体的に理解できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、地理学について紹介します。
2	自然地理学とはどんな学問か	自然地理学で扱う内容とその特徴について理解します。
3	生活の舞台としての地形（沖積平野、段丘・丘陵）	私たちの生活の舞台となっている沖積平野について具体的な事例をあげながら学び、私たちの暮らしに地形がどのようにかかわっているのかについて考えます。
4	第四紀の気候変動と地形形成	身近な地形形成にかかわる地球規模の気候変動について理解します。
5	災害を引き起こす地震・津波、火山	私たちの生活に大きな影響を及ぼす自然災害について理解します。
6	世界の気候とその成り立ち	地球規模の気候の成り立ちについて理解します。
7	身近な気候と人々の暮らし	気候に強く影響を受けている私たちの暮らしについて考えます。
8	気象災害	身近な自然災害である気象災害について理解し、防災を考えます。
9	地球環境問題－地球温暖化	地球規模の環境問題である温暖化について理解します。
10	生物群系と日本の植生	世界全体での生物分布を俯瞰し、日本の植生分布について理解します。
11	高山帯と森林限界の変化	高山帯について理解し、気候変化にともなう影響について考えます。
12	亜高山帯、低山帯、山地帯	私たちの生活にかかわる植生について理解します。

- 13 フィールドワークによる地域理解 身近な地域の自然環境と人間活動とのかわりについて理解するためのフィールドワークについて紹介します。
- 14 試験・まとめと解説 授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いる資料や理解度を確かめる課題は学習支援システムを通じて配布します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「みわたす・つなげる自然地理学」小野映介・吉田圭一郎編著（古今書院）2640 円

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, the complexity of the natural environment and the relationship between humans and nature will be explained through a geographical perspective.

Learning Objectives:

Students will learn knowledge and skills to understand the natural environment at various scales and to explore key solutions to global environmental issues.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

SES300CA
地球環境論 B
吉田 圭一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地で私たちが直面している自然環境に関する諸課題を解決するためには、地域の多様で複雑な「人と自然のかかわり」を多面的かつ総合的に理解する地理的なものの見方・考え方が必要不可欠です。この授業では、いくつかの具体的な事例を取り上げて人間と自然との関係についての理解を深め、身近な地域から地球全体におよぶ環境問題の解決に向けた地理学的なアプローチを学びます。

【到達目標】

人間と自然環境に関わる課題について地理学的なアプローチから総合的な理解ができるとともに、地球環境問題の解決方法について多面的に考え、自らの言葉で議論できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、総合科学としての地理学について紹介します。
2	地理的な見方・考え方による事象のとらえ方	人と自然のかかわりを理解するための地理的な見方・考え方を学びます。
3	持続可能な開発目標と地球的課題	私たちが直面する地球的課題について理解します。
4	小笠原諸島 - 自然破壊の歴史	小笠原諸島を題材に、孤島における自然破壊について考えます。
5	小笠原諸島 - 移入種と保全	小笠原諸島を題材に、移入種の問題とその解決方法について考えます。
6	琉球列島 - 宮古島の暮らし、自然との共生と開発	琉球列島のサンゴ礁を題材に、自然との共生のあり方について考えます。
7	ハワイ - 独自の自然環境と開発	ハワイを題材に、利用制限による自然保護の是非について考えます。
8	マレーシア - 熱帯林の保護	マレーシアを題材に、熱帯林減少の現状について学びます。
9	ブラジル (1) - ブラジルの発展と自然環境	ブラジルを題材に、開発による発展と自然環境の破壊との関連性について学びます。
10	ブラジル (2) - アマゾン熱帯林の破壊と保全	アマゾン熱帯雨林を題材に、熱帯雨林破壊の特徴とその保全策について考えます。
11	ブラジル (3) - 熱帯季節乾燥林のカーチンガと保全	熱帯季節乾燥林のカーチンガを題材に、見過ごされてきた自然破壊について学びます。

- 12 ブラジル (4) - パンタナールにおける人と自然
ブラジル・パンタナールを題材に、人と自然のかかわりを考慮した自然環境保全について考えます。
- 13 ボリビア・アンデス - 地球温暖化と氷河
ボリビア・アンデスを題材に、地球温暖化による人間社会への影響について学びます。
- 14 試験・まとめと解説
授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

ブラジルについては以下の書籍が参考になります。

「世界地誌シリーズ 6 ブラジル」丸山浩明編（朝倉書店）3,740 円
「みわたす・つなげる地誌学」上杉和央・小野映介編（古今書院）2,640 円
「新版 現代ブラジル事典」ブラジル日本商工会議所編（新評論）3,850 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへの登録をお願いします。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students understand more deeply the relationship between humans and nature by discussing several concrete examples.

Learning Objectives:

Students will learn the geographical approaches to address the environmental issues ranging from local areas to the global scale.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第2回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第3回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第4回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第5回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第6回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第7回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第8回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第9回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第10回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第11回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第12回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第13回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第14回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10%、期末試験 90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門 I (財務会計) A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動 (1)	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動 (2)	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること (毎回計 4 時間以上)。

【テキスト (教科書)】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100 %) で評価します。また、講義終了後にアンケート (任意提出) を実施し、提出者には各回 2 点を加点します (隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ (または個人) の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %)

MAN200CA
会計学入門 I (財務会計) B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析 (1)	資本利益率
7	収益性の分析 (2)	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %)

ECN200CA
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 NOPQRSTUVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは	マクロ経済学の登場人物 (1)
3	マクロ経済学とは	市場均衡 (2)
4	マクロ経済を観察する	国内総生産 (1)
5	マクロ経済を観察する	名目と実質 (2)
6	マクロ経済を観察する	消費者物価指数 (3)
7	マクロ経済を観察する	労働に関する統計 (4)
8	マクロ経済学を支える	金融市場の実際 金融市場 (1)
9	マクロ経済学を支える	金利 (利率) 金融市場 (2)
10	貨幣の機能と中央銀行	貨幣の機能 の役割 (1)
11	貨幣の機能と中央銀行	中央銀行の役割 の役割 (2)
12	財政の仕組みと機能	財政の仕組み (1)
13	財政の仕組みと機能	税制と国債 (2)
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第 3 版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023 年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学 B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates,
t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDP と金利の決まり方（1）	45 度分析
3	GDP と金利の決まり方（2）	ISLM モデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価と GDP の同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第 3 版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023 年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 ABCDEFGKLMSTU 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎であるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願ひします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMSTU組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロ ダクション・前期内容 の復習	講義内容の概説・講義の進め方、 前期内容のうち後期に特に関わる 内容の復習
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦 略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オーク ション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
6	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納 法
7	ゲーム理論 (6)	繰返しゲーム
8	不完全競争市場 (1)	独占市場
9	不完全競争市場 (2)	数量競争と価格競争
10	不完全競争市場 (3)	カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピ グー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット, S.、ゲールズビー, A.、サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、オンライン課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN200CA
マクロ経済学A
松尾 朋紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なマクロ経済モデルについて、数学的な手法を用いて説明を行います。
また、マクロ経済の分析に用いられる経済指標を紹介し、その動向を解説します。

【到達目標】

- 1：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。
- 2：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDP について（1）	GDP とは
第3回	GDP について（2）	GDP を見る・分析する
第4回	GDP について（3）	GDP 分析の関連トピック
第5回	GDP についての総括	確認テスト1：GDP について
第6回	長期モデル1（1）	総供給と総需要
第7回	長期モデル1（2）	財市場の均衡
第8回	長期モデル1（3）	長期モデルの活用例
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2（1）	貨幣と貨幣市場の均衡
第11回	長期モデル2（2）	貨幣を含む長期モデルの活用例
第12回	長期モデル2（3）	長期モデルの関連トピック
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic macroeconomic models and economic indicators to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis
2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%、Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
マクロ経済学B
松尾 朋紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 ABCDEFGHIJKLM 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なマクロ経済モデルについて、数学的な手法を用いて説明を行います。

また、マクロ経済の分析に用いられる経済指標を紹介し、その動向を解説します。

【到達目標】

1：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

2：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	短期モデル（1）	短期の経済モデルの導出
第3回	短期モデル（2）	短期モデルと財政・金融政策
第4回	短期モデル（3）	日本の財政・金融政策
第5回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第6回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（1）	マクロ経済学のミクロ的基礎付け
第7回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（2）	2期間の経済モデル
第8回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（3）	2期間モデルの関連トピック
第9回	マクロ経済学のミクロ的基礎付けの総括	確認テスト2：マクロ経済学のミクロ的基礎付け
第10回	経済成長（1）	経済成長に関するファクト
第11回	経済成長（2）	ソローの経済成長モデル
第12回	経済成長（3）	経済成長の関連トピック
第13回	経済成長の総括	確認テスト3：経済成長
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。

確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic macroeconomic models and economic indicators to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis

2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%、Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 HIJNOPQRVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎であるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願ひします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 HIJNOPQRVWXYZ 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・前期内容の復習	講義内容の概説・講義の進め方、前期内容のうち後期に特に関わる内容の復習
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オークション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
6	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
7	ゲーム理論 (6)	繰り返しゲーム
8	不完全競争市場 (1)	独占市場
9	不完全競争市場 (2)	数量競争と価格競争
10	不完全競争市場 (3)	カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピグー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしく願います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

It is possible to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)
Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts)

(3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

This course has three goals.

- 1.Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically,
- 2.Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
- 3.Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出は Google Classroom を通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ 日本での就職活動	授業運営に関する説明/ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	Eメール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: pre-assignment

Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2024』日本学生支援機構 (https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_j/job/guide.html)

【成績評価の方法と基準】

Ordinary marks: 30%.

Assignments: 50% (e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)

Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍の影響により来日直後の学生が複数いたため学生間の相互交流を希望する声があった。今期は、感染防止に留意し状況をみながら協働学習の機会を増やしていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

本科目は留学生を対象とする。

【Outline (in English)】

This course is in order to prepare for future job-hunting endeavors, students will understand the structure of job-hunting in Japan and

develop skills related to listening, speaking, reading and writing, which are necessary in the various stages of the job-hunting process.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

This course has two goals.

1.Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.

2.Be able to communicate appropriately in Japanese,including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出は Google Classroom を通じて、フィードバックは次回授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 尊敬語	授業運営に関する説明／ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト／ あいさつと紹介	復習テストの実施／ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.

Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.

Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

【参考書】

『伸ばす！ 就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）

【成績評価の方法と基準】

Presentations: 20%, Assignments: 50% (Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion), Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍の影響により来日直後の学生が複数いたため学生間の相互交流を希望する声があった。今期は、感染防止に留意し状況をみながら協働学習の機会を増やしていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

本科目は留学生を対象とする。

【Outline (in English)】

This course aims to provide international students with the Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japanese companies. In order to develop the ability to respond appropriately to various assignments in the workplace, lectures on keigo (honorific expressions) and practical exercises that simulate work situations will be conducted.

LAW200CA
日本国憲法 A
村元 宏行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（人権）について理解できる。
現実に生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第 2 回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第 3 回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第 5 回	憲法 9 条と平和主義（その 1）	憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。
第 6 回	憲法 9 条と平和主義（その 2）	憲法 9 条をめぐる裁判等について学ぶ。
第 7 回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第 8 回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第 9 回	基本的人権（包括的基本人権）	憲法 13 条の幸福追求権について学ぶ。
第 10 回	基本的人権（自由権 その 1）	精神的自由権について学ぶ。
第 11 回	基本的人権（自由権 その 2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第 12 回	基本的人権（社会権 その 1）	生存権について学ぶ。
第 13 回	基本的人権（社会権 その 2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第 14 回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA
日本国憲法 B
村元 宏行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。
現実に生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第 2 回	立法権（その 1）	立法権について概要を学ぶ。
第 3 回	立法権（その 2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第 4 回	行政権（その 1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第 5 回	行政権（その 2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第 6 回	司法権（その 1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第 7 回	司法権（その 2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第 8 回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第 9 回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第 10 回	憲法改正（その 1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第 11 回	憲法改正（その 2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第 12 回	憲法をめぐる現代的課題（その 1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第 13 回	憲法をめぐる現代的課題（その 2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の特参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA
民法一部 A
上杉 めぐみ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の基本的知識を身につけることを目的として、民法典のうち、財産法に共通する「総則」を学ぶ。

【到達目標】

民法総則（民法典第1編）について、基本的な知識を修得し、民法に関する横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民法とは何か
第2回	総則①	権利能力・意思能力
第3回	総則②	制限行為能力
第4回	総則③	制限行為能力者の相手方の保護
第5回	総則④	物
第6回	総則⑤	法律行為
第7回	総則⑥	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第8回	総則⑦	意思表示（2）錯誤
第9回	総則⑧	意思表示（3）詐欺、強迫
第10回	総則⑨	代理（1）代理概論
第11回	総則⑩	代理（2）表見代理
第12回	総則⑪	代理（3）無権代理
第13回	総則⑫	法人
第14回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第3版】』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1【第4版】』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門【第4版】』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される課題（平常点）（30%）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート）による評価（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course deals with the general principle of Japanese Civil Code.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
民法一部 B
上杉 めぐみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、契約法との関係を意識しながら、民法総則、物権法（担保物権を除く）を学び、民法の知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

物権（第2編第1、2、3章）について基本的な知識を修得できるとともに、民法に関する法的思考力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総則⑬	民法一部 A の復習
第2回	総則⑭	無効・取消し
第3回	総則⑮	条件・期限
第4回	総則⑯	時効（1）時効概論
第5回	総則⑰	時効（2）取得時効・消滅時効
第6回	総則⑱	時効（3）効果・援用者の範囲
第7回	物権①	物権法概論
第8回	物権②	所有権
第9回	物権③	物権的請求権
第10回	物権④	占有権
第11回	物権⑤	物権変動（1）物権変動と登記
第12回	物権⑥	物権変動（2）第三者の範囲
第13回	物権⑦	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第3版】』（有斐閣）
 我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1【第4版】』（勁草書房）
 道垣内弘人『リーガルベシス民法入門【第4版】』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回提示される課題（平常点）（30%）と学期末に課される（レポート）による評価（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce you to the general principles

of the Japanese Civil Code and property laws, paying close attention to their functions in Contract Law. The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役 3	代表取締役の解説
第9回	取締役 4	取締役の義務の解説
第10回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和5年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）及び平常点（20%）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）及び平常点（20 %）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点後に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第 6 回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第 12 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第 13 回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第 14 回 期末試験および解説 第 8 回から第 13 回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁を推奨）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA
簿記ⅡB
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点后に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、株式の発行	講義計画/株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	未達事項の処理、本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の反復演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結1年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結1年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結2年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結2年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works

7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packet を配布する

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)

『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院(2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class participation in activities

50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables

14 Oral presentation of finalized work Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing : 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packet を配布する

【参考書】

- 『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
- 『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店
- 『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)
- 『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

- 20% In-class activities
- 80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業ではまず、論文の構成とパラグラフの書き方を学ぶ。次に、先行研究の読み方と文献の引用方法を学んだ後、序論と研究方法の書き方を学ぶ。最後に受講生が考えた論文内容を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、序論・方法の書き方を理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習しておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナー B と関連する授業内容のため、英語セミナー B も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to effectively communicate in English while studying and consequently be prepared for their future professions in real life and work. The goal is to help students understand the structure of English research papers, focusing on introductions and methods, writing a research paper in English, and communicating effectively through discussions. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (30%), homework (30%), and writing reports (40%).

LANe200CA
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナー A に引き続き、英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業では、研究結果の書き方を学んだ後、考察や結論、要約の書き方を学ぶ。最後に受講生が作成した論文を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、結果・考察・結論の書き方が理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習しておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。
授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店
『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%
宿題 30%
レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナー A と関連する授業内容のため、英語セミナー A も履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to effectively communicate in English while studying and consequently be prepared for their future professions in real life and work. The goal is to help students understand the structure of English research papers, focusing on introductions and methods, writing a research paper in English, and communicating effectively through discussions. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (30%), homework (30%), and writing reports (40%).

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

[Outline (in English)]

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト (教科書)】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

MAN200CA
会計学入門A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動（1）	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動（2）	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100%) .

MAN200CA
会計学入門B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析（1）	資本利益率
7	収益性の分析（2）	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %).

MAN200EB

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論 I では、1) イノベーションが実現される基本的な前提としての社会の仕組み、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組みを理解する
・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。その他、小テストおよび期末試験を実施します（なお、小テストは抜き打ちで実施します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 3 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 4 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組みとしての分業と協業
第 5 回	ソーシャルイノベーション	社会課題の解決を主眼に置いたソーシャルイノベーションの取組について
第 6 回	ビジネスモデルの見取り図	価値の重要性とビジネスモデルキャンパスについて理解する
第 7 回	競争戦略論	事業で競争優位を獲得するための戦略
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	規制とイノベーション	競争の枠組としての規制（強制的なルール）
第 11 回	標準とイノベーション	競争の枠組としての標準（自発的なルール）
第 12 回	知的財産制度	知的財産を保護し、イノベーションを促すための社会制度
第 13 回	オープン&クローズ戦略	エコシステムの発展と競争優位の確保の両立
第 14 回	まとめ	前期のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論 II を併せて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which provides new values to society. In the first semester, we focus on 1) social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2) the innovation activities of firms.

The goals of this course are to understand the basic structure of society relating to innovation and the innovation activities of firms. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, tests : 20%,

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前日まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、生業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第 3 回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第 4 回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第 5 回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第 6 回	社会関係・制度 2	労使関係（労使関係論、福祉国家と 1980 年代以降、日本における労使関係）
第 7 回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第 8 回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第 9 回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）
第 10 回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第 11 回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）

第 12 回 持続可能性 1 身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）

第 13 回 持続可能性 2 グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）

第 14 回 まとめ 授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に変更しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

資料講読、映像視聴、ペアワークなど、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。グローバル化や社会格差の拡大、雇用の流動化、労働をめぐる不安定性やリスクの拡大など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	産業社会と雇用
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	雇用を問い直す3	オルタナティブな働き方について考える
第5回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働時間について2	長時間労働・過労死問題について考える
第7回	労働環境について1	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第8回	労働環境について2	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第9回	労働環境について3	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第10回	グローバル化について1	日本の外国人技能実習制度を考える
第11回	グローバル化について2	日本の外国人技能実習制度を考える
第12回	グローバル化について3	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第13回	グローバル化について4	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく（事前に講読課題が出された場合は、必ず講読してから参加すること）。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションのタイムスケジュールや進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and

to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

ECN200EB

金融システム論

山村 延郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マネーは、あらゆる価値を統一的に測り、売買を通じて自己増殖しつつ、金融市場を通じて世の中に圧倒的な力を及ぼしている。この魔物をあなたが逆に支配し、社会のために使役するには、どうすればよいか。

マネーが運動するルール、フィールドの性質、すなわち金融を取り巻く社会制度と土台となる情報通信システムを理解することが肝要である。それがこの科目の目的である。

【到達目標】

売買を通じて価値が増えていく仕組み（剰余価値生産・回転率）と、超過収益を価値にする仕組み（地代又はレントの理論、及び資本還元）を説明できること。

金融制度、信用創造、レバレッジ、バブル経済について説明できること。

金融を取り巻くデジタル・システムの基本知識について判断が下せること。

関連する専門用語を運用でき、常識的な事項の正誤判断ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回完結の反転授業スタイルとします。受講生は、準備として、未履修科目も含めた高校レベルの社会科学の知識の復習をしておいてください。可能な限りで、予習もしておいてください。

授業では、社会人レベルの常識と教科書レベルの専門知識を確認し、身近な知識とのつながりを積み重ねて知識を編んでいきます。

また、総合的学習として、視聴覚教材を見たり、テキストを朗読したり、隣の人と議論をしたり、ゲームをしたりして、多面的なツールを用いた知識・能力の涵養を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1:	貨幣の尺度機能	尺度一般の統一について整理した後、貨幣の尺度機能の意義と限界を確認します。
2:	貨幣の製造・信用の創造	手で触れる硬貨と紙幣の製造技術と身に見えない預金通貨の創造メカニズムについて確認します。
3:	消費生活と金融	消費者信用についてまとめ、個人のライフサイクルに金融システムが浸透していることについて整理します。
4:	中小企業と金融	商業信用と銀行信用の理論と実態について確認します。
5:	大企業と金融	産業信用の理論と独占企業への成長メカニズムを確認します。
6:	不動産と金融	現代の不動産ビジネスおよび知的財産権の理論として、古典地代論を読み直します。
7:	金融市場とバブル	平成バブルとリーマンショックについて整理します。

- 8: 植民地・戦争と金融 東インド会社、日露戦争と国債、ドイツ戦後ハイパーインフレ、国際金融体制、ウクライナ侵攻とSWIFT、資金洗浄対策について整理します。
- 9: 決済システムのデジタル化 フィンテックの議論の一つとして、決済システムの進化を整理します。
- 10: 融資システムのデジタル化 フィンテックの議論の一つとして、投資・融資システムの進化を整理します。
- 11: 金融の総合化とAPI フィンテックの議論の一つとして、金融サービスの総合的提供について論じます。
- 12: サステナブル金融 金融業界のSDGsについて、とくにカーボンニュートラルの観点から論じます。
- 13: 社会的責任投資の多様性 金融業界のSDGsについて、とくに人権・倫理・宗教を動機とするものについて整理します。
- 14: 試験・まとめと解説 まとめと解説ののち、授業内で試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の教室外学習時間は、毎週4時間を標準とします。授業に欠席するときは、これに2時間の学習を加えてください。

なお、各人の個別的な1時間は、60分又は3600秒といった原子時間とは関係がありませんので、科目の目的・目標を達成できるよう、各人の能率に応じて長く又は短くしてください。

また、学習時間とは、机に座っている勉強時間だけを指すのではないので、通学や勤労、動画視聴等の時間も、そこで見聞する社会現象を批判的にとらえて意識的に学びの時間とし、学習時間の充実をはかってください。

【テキスト（教科書）】

授業内で教科書は使いませんが、課題などで参考書を参照する機会が出てきます。

【参考書】

川波・上川『新版・現代金融論』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

金融小説、金融ビジネス書、金融専門書の読書レポート 30%
専門用語や基本理論の確認テスト 20%
科目全体の大系的な理解を確認する期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を利用できる環境を整えていてください。

【その他の重要事項】

なにを執行すれば知恵や知識が身に付くかという問題意識（構成主義的教育観）でもって指導しているので課題は多い方です。

教室では、官庁勤務の経験、ドイツ留学と諸外国への調査訪問などを通じて得られた知見を盛り込んで話をしていきます。

【Outline (in English)】

Our purpose is to analyze the social and computer systems that make up the framework of the movement of money and capital, and to understand and control their constraints and freedoms. To this end, Your goal is to develop Your ability to critique the concepts of capital, credit, and fintech systems and use related terminology.

The average weekly study time to reach this goal is 6 hours. These are achieved by attending classes, completing assignments, watching and reading relevant content, and thinking critically in everyday life.

Grades for this course are based on book reviews (30%), midterm exams (20%), and an essay-style final exam(50%).

SES200EB

環境経済学 I

島本 美保子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし、環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。環境問題の対象領域として森林資源や農産物を取り上げ、これらの持続可能性と貿易の関係について学習します。

【到達目標】

始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材の巻末の小テスト問題を採点・フィードバックして、各自の理解のスピードに応じた学習が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係 最低限の経済学知識① 市場経済とは・需要曲線
第 2 回	最低限の経済学知識②	供給曲線・余剰分析
第 3 回	最低限の経済学知識③	外部不経済効果・ピグー税
第 4 回	環境と貿易<事例 1>	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
第 5 回	環境と貿易<事例 1> 2	林産物貿易と森林の持続可能性について実証的・理論的に解き明かす
第 6 回	環境と貿易<事例 1> 3	気候変動と森林火災
第 7 回	環境と貿易<事例 2> 1	農産物貿易① 地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係 日本と世界の農業
第 8 回	環境と貿易<事例 2> 2	農産物貿易② 農産物貿易と農業・農村・アグリビジネスについて
第 9 回	環境と貿易<事例 2> 3	レントシーキング・グローバル企業・資源貿易（集合行為論、グローバル企業のロビイング）
第 10 回	環境と貿易理論編 1	なぜ貿易は推進されるのか、外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
第 11 回	環境と貿易理論編 2	貿易と持続可能性・分配

第 12 回	貿易制度と環境 1	貿易と持続可能性・分配の解説と質疑応答 GATT/WTO
第 13 回	貿易制度と環境 2	GATT/WTO と TPP、為替レートと持続可能性
第 14 回	まとめ	持続可能性のための国際秩序について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、鉱物資源等の問題について幅広い知識を身につけておくこと。
本授業の準備・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】

主な参考文献は

島本美保子 (2015)「熱帯林を中心とした国際的な森林保全」, pp.53-74, 亀山康子・馬奈木俊介編『シリーズ環境政策の新地平 5 資源を未来につなぐ』第 3 章, 東京: 岩波書店, 2015 年 9 月 8 日.

島本美保子著 (2010)『森林の持続可能性と国際貿易』, 岩波書店
田代洋一編著 (2016)『TPP と農林業・国民生活』, 筑波書房. など

【成績評価の方法と基準】

70%期末試験、オンデマンド教材を学習した後の小テスト 30%の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材で難しい間があるとの声があったので、対面授業で解説を加えることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Under the theme of "environment and trade," which is one of the major issues in the macro field of environmental economics, we will foster the ability to analyze the relationship between environment and the economy. We will focus on forest resources and agricultural products as areas of environmental concern and learn about the relationship between their sustainability and trade.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire the ability to think economically and logically about the relationship between the environment and trade. It is important to learn more about the current state of the international system of environment and trade. Finally, we will be able to provide a normative consideration of what sustainable resource management should be.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Several short quizzes after learning on-demand materials: 30%

SES300EB

環境経済学Ⅱ

島本 美保子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な環境問題として気候変動やエネルギー選択を題材とし、前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学びます。後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）それぞれの理論的背景や歴史について学習します。

【到達目標】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学び経済と環境の両立について経済学的に論じることができるようになることを目標とします。

後半は環境の経済学的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材の巻末の小テスト問題を採点・フィードバックして、各自の理解のスピードに応じた学修が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION 気候変動問題 1	気候変動問題とは
2	気候変動問題 2	気候変動問題についての国際交渉 気候変動枠組条約、京都議定書 パリ協定などの動向、民間の動き、RE100、ESG 投資
3	気候変動問題 3	
4	マクロ経済学の基礎 1	国民経済計算
5	マクロ経済学の基礎 2	消費関数、乗数効果
6	グリーンニューディール	先進国でのグリーンニューディールへの動き
7	気候変動問題 4	日本で脱炭素化が停滞する理由 (再エネ、発送電分離)
8	気候変動問題 5	日本で脱炭素化が停滞する背景 (原発問題)
9	ピグー税の理論と環境税の基本	ピグー税理論の復習 環境税の経済学的な説明、直接規制との関係
10	環境税の理論と排出量取引の理論	環境税の弱点や補助金の関係、排出量取引の理論
11	環境税の実例	ドイツの排水課徴金、日本の環境税等
12	オンデマンド教材の解説 排出量取引の実例	オンデマンド教材の解説 米国での萌芽、気候変動と排出量取引
13	資金問題の決着	規範的法人税
14	まとめ	まとめ及びディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動や廃棄物問題といった環境問題について幅広い知識を習得しておくこと。またマクロ経済情勢について新聞記事などを読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回詳細なレジюмеを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】

主な参考書は、
明日香壽著 (2021) 『グリーン・ニューディール』、岩波新書。
平口良司・稲葉大著 (2020) 『マクロ経済学—入門の「一歩前」から応用まで』、有斐閣ストゥディア、など

【成績評価の方法と基準】

70%期末の試験、オンデマンド教材を視聴した後に行う小テスト30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実例についての動画の視聴が大いに理解を助けると改めて気づかされたので、効果的な動画の視聴を授業に織りこもうと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

First, our aim of this course is to help students understand about the relationship between macroeconomics and the environment while focusing on the Green New Deal. Second, we will learn about the theoretical background and history of environmental tax and emission trading. Climate change and energy selection are the subjects of specific environmental issues.

【Learning Objectives】

In the first half, the goal is to learn about the relationship between the macro economy and the environment while focusing on the Green New Deal, and to be able to discuss the balance between the economy and the environment economically.

In the second half, the goal is to learn about the economic methods of the environment. First, we will learn about global warming issues from both the natural sciences and social sciences as materials for these methods. After that, we will expect to understand the theory of environmental tax and emissions trading, which are economic means, and to be able to independently judge what kind of policy is appropriate to control global warming.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Several short quizzes after learning on-demand materials: 30%

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

原野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。

希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみようこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円+税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円+税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円+税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレソニア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論

- | | | |
|----|---------------------------------|----------------|
| 9 | トルコ—新自由主義・親イスラム政党・外交 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 10 | 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 11 | イランのイスラム統治体制の現状 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 12 | イラク「政治体制を巡る迷路」 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 13 | ヨルダン——紛争との共生 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 14 | 中東・イスラム研究の課題 | 受講生報告と教員を交えた議論 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論 I

樋口 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPO やネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】

①ケース・スタディを通じて、コミュニティが果たす役割の基本的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。授業内でゲスト講義を1回行う予定（ただし、コロナ禍の状況に応じて、変更の可能性あり）。また、多摩キャンパスにおけるまちづくりの実践を紹介するため、一部、多摩地域交流センターと共同した講義を行う予定（詳細は、決まり次第、授業内で告知する）。※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会とNPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	将来展望の検討①	社会的企業という事業体
12	将来展望の検討②	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討③	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	（詳細未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（90%）

②ゲスト講義へのリアクションペーパー（10%）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This lecture is about community development. The goal is to acquire basic knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (90%), and the short report for a guest lecture (10%).

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論II

樋口 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティは、社会学において最も基本的な概念の一つである。しかし、その用途は多岐に渡り、一筋縄では理解できない。本科目では、コミュニティに関する代表的な社会学的著作を一つずつ紹介しながら、この概念が現代社会に与える可能性と限界を検討する。

【到達目標】

①代表的な社会学著作の検討を通じて、コミュニティに関する中程度の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。ただし、多摩キャンパスにおけるまちづくりの実践を紹介するため、一部、多摩地域交流センターと共同した講義を行うことがある（詳細は、決まり次第、授業内で告知する）。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニティの3類型	B・ウェルマン「コミュニティ問題」
2	コミュニティ喪失論①	F・テンニース『ゲメインシャフトとゲゼルシャフト』
3	コミュニティ喪失論②	R・M・マッキーヴァー『コミュニティ』
4	コミュニティ存続論①	J・ジェイコブズ『アメリカ大都市の死と生』
5	コミュニティ存続論②	H・J・ガンズ『都市の村人たち』
6	コミュニティ存続論③	M・ヤング&P・ウィルモット『東ロンドンの家族と親族関係』*
7	コミュニティ存続論④	G・デッチ、K・ガブロン&M・ヤング『新しいイーストエンド』*
8	コミュニティ解放論①	R・パットナム『孤独なボウリング』
9	コミュニティ解放論②	C・S・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』
10	コミュニティ解放論③	Z・バウマン『コミュニティ』
11	コミュニティ解放論④	A・ボルテス&R・ルンバウト『現代アメリカ移民二世世代の研究』
12	コミュニティ解放論⑤	M・カステル『インターネットの銀河系』
13	日本のコミュニティ①	岩崎信彦他編『阪神・淡路大震災の社会学①②③』
14	結論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「授業計画」の「内容」を参照。*の付いている書籍のみ、邦訳なし。それ以外の著作はすべて翻訳あり。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This lecture is about community development. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (100%).

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の「世界」を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。

脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できる media literacy も身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。

「交換日記」については、隔週で交換を続け、最終回までに返却します。課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。

授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的（中華）世界秩序
2	近現代史(1)	屈辱の近代
3	近現代史(2)	中華人民共和国
4	近現代史(3)	「改革・開放」
5	近現代史(4)	民族
6	近現代史(5)	香港
7	近現代史(6)	台湾
8	近現代史(7)	日・中関係
9	事例研究(1)	「課題1」の検討
10	事例研究(2)	内政(1)
11	事例研究(3)	内政(2)
12	事例研究(4)	外交(1)
13	事例研究(5)	外交(2)
14	事例研究(6)	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 関連する新聞やネットの記事のチェック
 - (2) 読書（参考図書）の渉猟
 - (3) 発表、討論の準備
- 予習、復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 「課題1」 現代中国に関して興味のある分野に関して先行研究を渉猟し、紹介してもらいます。
 - (2) 「課題2」 「課題1」を踏まえ、あるいは別のテーマで小論文を作成してもらいます。
 - (3) 参加 「交換日記」+ 授業内発表
- (1) 25 % + (2) 45 % + (3) 30 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の literacy を具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (25%), term-end report (45%), and in-class contribution (30%).

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織の構造、機能、役割を主に社会学、経営学の視点から分析・考察することを目的とします。具体的には組織と組織間関係（企業と企業間関係／企業紐帯）に焦点をあて、企業グループ内部・外部との関係性、外資系企業、ベンチャー企業における組織間関係の特徴、組織間関係の海外移転などを実際のデータを用いた平易に学びます。就活における業界 & 企業情報の読み方、選択の仕方にも大いに参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク、組織間関係からの分析および理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解
- 3 企業紐帯の形成・展開と数理モデルを用いた分析・考察

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。社会学、経営学を中心に企業紐帯と業績の関係を検証します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1) 外部環境	SDGs とパンデミック、Society 5.0 などについて紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2) 2つの組織	階層型組織とネットワーク型組織について考察します。
04	産業・企業におけるネットワーク現象 (1) 産業、企業	産業間連携、組織間関係／企業紐帯を考察します。
05	産業・企業におけるネットワーク現象 (2) 業界、日本と海外の企業グループ	業界地図、製造業／非製造業、日本／海外の企業グループを検証します。
06	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (1) 分析対象	分析対象としての個別企業ならびに企業グループを考察します。
07	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (2) 分析枠組み	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	企業紐帯と業績の研究 (1) 製造業	製造業グループ（電機、自動車）の事例を学びます。

09	企業紐帯と業績の研究 (2) 非製造業	非製造業グループ（金融）の事例を学びます。
10	企業紐帯と業績の研究 (3) 非製造業	非製造業グループ（小売）の事例を学びます。
11	企業紐帯と業績の研究 (4) ベンチャー業界	ベンチャー企業ならびに同グループの事例を学びます。
12	企業紐帯と業績の研究 (5) 外資系企業	在日外資系企業の事例を学びます。
13	企業紐帯と業績の研究 (6) 海外企業	海外企業（本邦系、非本邦系）の事例を学びます。
14	総括と質疑および議論	各講義に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文真堂、2017年。

【参考書】

『日経業界地図 2023』日本経済新聞社、2022年。ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の演習 20%、期中ポート 40%、期末試験 40%。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。
毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture focuses on the social structure in Japan, mainly on networks and organizations (companies, corporations), and analyzes and examines the structures, functions, and roles of networks and organizations mainly from the perspective of sociology and business administration. The purpose is to Specifically, I will focus on the relationship between organizations and their relationships (relationships between companies/company ties). Using actual data, students will learn in simple terms about the overseas transfer of relationships. I think it will be a great reference for how to read and select industry and company information in job hunting.

【Learning Objectives】

- 1 Analysis and understanding from networks of social phenomena and inter-organizational relationships
- 2 Understanding the effectiveness of capturing companies and communities in social networks
- 3 Formation and development of corporate ties and analysis and discussion using mathematical models

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% of regular scores and exercises during lectures, 40% of mid-term reports, and 40% of final exams.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

境 新一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のもつ構造、機能、役割を分析・考察することを目的とします。具体的には社会科学分野（主に社会学を中心に、経営学、経済学、法学）の視点から、SNS も含めた社会ネットワークに関する現象を理論と実証の両面から検証します。さらにスモールワールド・モデル、弱い紐帯の強さ、閾値理論などの数理社会学に関わるモデル、仮説も紹介します。最後に、ネットワーク論と意思決定論を基礎とするアイデア発想法の枠組み理解と具体的な課題で演習を行います。就活における業界&企業情報の読み方、選択の仕方に参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワークを対象とした主要な社会科学の分析枠組みから分析および理解
- 2 社会ネットワークの諸仮説と数理社会学のモデルの理解
- 3 ネットワーク論と意思決定論をふまえたアイデア発想法の全体像の理解と演習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会ネットワーク論と分析対象と分析枠組、理論と背景	分析対象/ミクロ・メゾ・マクロ、分析枠組み/行動・過程・構造、社会ネットワークならびに関連するの理論と背景を理解します。
03	社会ネットワークと主要な社会科学分野の関連性	主要な社会科学（経済学、経営学、社会学、法学）の分析視点を理解します。
04	分析視点1 経済学の視点	個人・組織・市場、産業、政策、貿易、部分最適と全体最適、対象の数理モデル的理解をすすめます。
05	分析視点2 経営学の視点	営利社団、所有と経営の分離、組織と管理、意思決定、利益と成長、対象の実態的理解をすすめます。
06	分析視点3 社会学の視点	個人・組織・地域・市場・ネットワーク、集団や社会の均衡、公共善/公益の実現を理解します。
07	分析視点4 法学の視点	社会規範、制度、個人と法人、企業法（民商法など）、利害の調整を理解します。

08	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証1	数理分析、グラフ理論、ネットワーク&ブロックモデル、統計学等の分析枠組みを理解します。
09	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証2	スモールワールド・モデル、なぜ世界は広く、世間は狭いのか、理解します。
10	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証3	弱い紐帯の強さモデル、転職に成功するにはどうすればよいか、を理解します。
11	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証4	閾値理論 なぜ流行が起こるのか、理解します。
12	アイデア発想法1 ブレインマップの枠組み	ネットワーク論と意思決定論を基礎とするブレインマップの枠組みを理解します。
13	アイデア発想法2 ブレインマップの演習	課題を提示し、ブレインマップの演習を行います。
14	アイデア発想法3、総括と質疑および議論	ブレインマップの演習の成果発表を行い、講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造ための発想：素人発想・大人実行にもとづくブレインマップの手法』文真堂、2022年8月。

【参考書】

数理社会学会監修・編者『社会を（モデル）でみる 数理社会学への招待』勁草書房、2004年。

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文真堂、2017年。

ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の演習 20 %、期中ポート 40 %、期末試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to analyze and consider the structure, functions, and roles of networks and organizations, focusing mainly on networks and organizations (companies and corporations) in the social structure of Japan. Specifically, from the perspective of the social sciences (mainly sociology, business administration, economics, and law), we will examine phenomena related to social networks, including SNS, from both theoretical and empirical perspectives. We also introduce models and hypotheses related to mathematical sociology, such as the small-world model, strength of weak ties, and threshold theory. Finally, we will practice the framework of the idea generation method based on network theory and decision theory and practice with specific problems. I think it will be helpful for how to read and select information about industries and companies in job hunting.

【Learning Objectives】

- 1 Analysis and understanding from major social science analytical frameworks targeting networks of social phenomena
- 2 Understanding social network hypotheses and models of mathematical sociology
- 3 Understanding and practice of the overall idea generation method based on network theory and decision-making theory

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% of regular scores and exercises during lectures, 40% of mid-term reports, and 40% of final exams.

HSS100IA

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法に関するこれまでの科学的知見を学ぶ。これらを理解することでトレーニング実践あるいはトレーニング指導を効率的、効果的なものにする。

【到達目標】

・トレーニングを実施する手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づくトレーニング目標の設定、手段・方法の選択、計画の立案、実践での留意点、効果の評価および実施手順の改善についての各理論を理解する。
・体力、技術トレーニングの内容・方法として、運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数およびトレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法についての講義を進める中で、トレーニングを実施する際に必要となる具体的な変数の算出およびトレーニング効果を示す図の理解記述などをアクティブ・ラーニングで行う。理解記述の結果は次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論 ・遺伝とトレーニング	・スポーツ・運動の構造を設計する意義 ・遺伝とトレーニングの関係
2	・トレーニングの目標論 ・全身持久力トレーニング①	・トレーニングを実施する際の目標の立て方 ・全身持久力の要因とトレーニングの内容・方法
3	・トレーニングの手段論 ・全身持久力トレーニング②	・トレーニングを実施する際の手段の選び方 ・全身持久力トレーニングにおける最近のトピックス
4	・トレーニングの方法論 ・高強度インターバルトレーニング (HIIT)	・トレーニングを実施する際の手段の配置 ・高強度インターバルトレーニングの内容・方法と効果
5	・トレーニングの計画論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方 ・筋持久力の要因とトレーニングの内容・方法
6	・トレーニング実践論 ・筋力トレーニング①	・トレーニングを実施する際の実施における留意点 ・筋力の要因とトレーニングの内容・方法
7	・トレーニング改善論 ・筋力トレーニング②	・トレーニングを実施後、改善するための方法 ・筋力トレーニングにおける最近のトピックス
8	・パワートレーニング	・パワーの理解、その要因とトレーニングの内容・方法
9	・暑熱順化トレーニング	・暑熱順化の原理とトレーニングの内容・方法
10	・スピードトレーニング	・スピードの分類、それぞれの要因とトレーニングの内容・方法
11	・バランスのトレーニング	・バランスの要因とトレーニングの内容・方法
12	・柔軟性のトレーニング	・柔軟性の要因とトレーニングの内容・方法
13	・高地トレーニング	・高地トレーニングの変遷、理論背景とトレーニングの内容・方法
14	・技術トレーニングの考え方、基本原則	・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則、実施する際の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここで理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版
・「パワーズ運動生理学」Scott Powers、メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価の方法と基準】

・講義中でのトレーニング効果を示す図の理解記述を3点×14回=42点
・期末テストを58点として評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class deals with the physical and skill training science for exercise and sport. In addition to the training PDCA cycle, training variables(intensity, volume, frequency, and period) are introduced for each physical element. On the skill training, changes in the nervous system and principles of the training are introduced.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to utilize them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply the understandings into their sport fields.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to the figure introduced in each class (42%) and term-end exam (58%)

ECN1001A

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports : 40%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらおう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とス ポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文 化の産業化
2	スポーツマーケティング の考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーション シップマーケティング
4	マーケティング戦略の考 え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業 のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマ ネジメント（プロ・ス ポーツ）	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマ ネジメント（スポーツ消 費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマ ネジメント（ブランディ ング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマ ネジメント（マーケティ ング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（市場 動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（コ ミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブラ ンドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（CSR およびソーシャルマーケ ティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、スポーツメディアのジャンルは広い。授業の目的は、社会に点在するそれぞれのメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する所にある。そのためには、メディアの発生から今日までの軌跡をたどった上で現状を理解し、著しい変化にさらされるメディア世界を読み解ける能力を磨くことに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。近時のスポーツ環境を振り返りながら、スポーツメディアの近未来を考える機会ともしたい。

【到達目標】

十代から二十代にかけて、スポーツメディアに対する需要はデジタルデバイスが他を圧倒している。その中には何が詰まっているのか。それを解き明かすことで、スポーツとスポーツ情報の消費者の間を取り持つ、スポーツメディアの実装を把握すること。これがこの講義の最終目標である。

活字、電波、写真、モバイルと進化を遂げてきたアイテムの成り立ちと必然性。変化が促されたのは、それを求めた社会があってこそのことである。となれば、社会そのものがどう変わってきたのかに視点は向けられなければならない。講義の過程で認識したいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアが今さしかかっている曲がり角をいかに乗り越えようとしているのか。ストーリーミング、OTT、SNS、見逃し配信など、多様なルートを通して、スポーツがそれぞれ自身どこに向かうのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは、媒体技術面のイノベーションを牽引した消費者の意向と技術者の向上心にある。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。

教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、毎回受講生を指名して問いかけに答えてもらう。そして、講義終了時には小論文を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はこれまでメディアの中心に近いところで踏ん張っている。その組織と情報提供の実際を目にして、報道の中でのスポーツの占める位置を確認する。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まる時とほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	メディアの仕組み①（プリント/活字）	スポーツメディアは、メディアの中の一部である。そこを知るには、プリントメディアの世界の常識と理念から始めなければならない。後に電波メディアも大きな影響を受けた、プリントメディアの取材から報道までのありようを見る。

4	メディアの仕組み②（音声/映像）	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	プリント（活字）メディアの中のスポーツ	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げてきた。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらプリントスポーツメディアの特徴を知る。
6	メディアとスポーツ事業	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。
7	スポーツ中継（1）～仕組みと制度～	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えにくい部分を、音声実況の歴史からテレビ中継までをハードウェアを中心に確認する。
8	スポーツ中継（2）～人と思想～	ラジオとテレビ。そこにあるのは、媒介する機材やルートの違いだけではない。方法論や考え方を見比べることで、スポーツ報道がいかに社会の要請を受けて変化したのかが見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツ番組（スタジオ制作）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超越する新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見だしているのかに底通する。
12	メガイイベントとメディア	オリンピックを主催する IOC も、W杯サッカーを主催する FIFA も、映像メディアに強い関心と影響力を持ってきた。歴史的流れの中でメガイイベントとメディアの関係に習熟する。
13	スポーツメディア世界の今	放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そのためにも、いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かいたい。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「テレビジョン」テクノロジーと文化の形成 レイモンド・ウィリアムズ著 木村茂雄訳 ミネルヴァ書房 2020 年
「メディア文化研究への招待」ポール・ホドキンソン著 土屋武久訳 ミネルヴァ書房 2016 年
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房 2012 年
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会 2011 年
「日本スポーツ放送史」橋本一夫著 大修館書店 1992 年

【成績評価の方法と基準】

「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。

【講義内 1~13】

「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。

指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。

配点：最終日を除く講義内課題、13回に満点を取り続ければ 39点(3点/0.1点刻み×13)。

【講義内 14】

最終講義内に実施する期末論文試験(ターム / フレーズ問題 20点、小論文 25×2=50点)には必ず取り組むこと。

【総合評価】すべてパーフェクトであれば、109点が獲得できる。

通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を(最高3点)学習支援システムを通じて掲示する[既定の書類、体育会指定書類、会葬状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと]。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき3回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。

単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

テレビを見ない世代が増えている中で、スマートフォン、デジタルデバイスでの需要が他を圧倒している。この先がどう動くのか、常に未来形で“現代”を追いかけたい。

スライド枚数が多い分、スライドの切り替えが早くなりがちだが、講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで、受講者が確認できるような手立てを続ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今年は WBC、世界陸上ブダペスト大会、ラグビー W 杯フランス大会、アジア大会にメディアの関心が集まる年になる。ビッグイベントは、どうしても大きな話題にストーリーが展開されがちだ。その間にある、些細な出来事がビッグイベントにどう作用するのか、普段からしっかりアンテナを張っておきたい。

【Outline (in English)】

(Course Outline) The sports media covers a wide range of genres, including existing newspapers and broadcasts, as well as the Internet and tablets that have been flourishing in recent years. The purpose of this class is to familiarize students with the philosophy and behavior of each of these media that are scattered throughout society. To achieve this goal, it is essential to trace the history of the media from its inception to the present, understand its current status, and hone one's ability to read and understand the media world, which is undergoing remarkable change. Some competitive sports are called "media sports. Why on earth are sports themselves media? This session will be an opportunity to reflect on the recent sports environment and to consider the near future of sports media.

(Learning Objectives) Digital devices dominate the rest of the demand for sports media among teens and twenty-somethings. What is packed into them? By unraveling it, we must grasp the implementation of sports media, the intermediary between sports and consumers of sports information. This is the ultimate goal of this lecture.

The origins and inevitability of the items that have evolved from print, to radio, to photography, to mobile. The changes were prompted by the society that demanded them. If this is the case, then we must look at how society itself has changed. What I would like to recognize in the course of the lecture is how the media is trying to overcome the corner it is now approaching by using "text," "images," "music," and "comments" as weapons. Through a variety of routes, including streaming, OTT, SNS, and missed broadcasts, we will grasp where sports is heading itself.

(Learning Activities Outside of Classroom) Keep an eye on newspaper, television, and online reports on a daily basis and remain interested in the "judgments" and "information" about sports presented by the media. The key is not to believe everything you read in individual reports. It is necessary to compare one's own experiences and the opinions of others in a calm manner, and to always read and comprehend them in light of one's own worldview. To do this, we must ask ourselves when, where, what, and how it happened. How was it covered, and write it down in your own notes. Each of you should take two hours of preparatory study and review time before and after the lecture.

(Grading Criteria/Policy) The sum of the evaluations of the "tasks assigned to each lecture" and the "in-class exam set at the end of the lecture" is an element for credit approval.

[1-13 in the lecture]

"Assignment for each lecture" is written and submitted on the spot using the time specified within the lecture time.

When nominated, points will be added depending on the content of the answer by raising your hand.

Scoring: 39 points (3 points/0.1 point increments x 13) if you continue to get full marks in the 13 lectures on the assignments in the lecture, excluding the final day.

[14 in the lecture]

Be sure to work on the final essay exam (term/phrase question 20 points, short essay 25 x 2 = 50 points) held in the final lecture.

[Comprehensive evaluation] If everything is perfect, you can get 109 points.

For unavoidable ceremonial occasions such as participation in events on behalf of the school during regular lectures, sick leave, and absences, after the final exam, additional report assignments (maximum 3 points) instead of assignments in lectures Learning support system [Submit the prescribed documents, the documents designated by the Athletic Association, the funeral certificate, a copy of the receipt with the date of the medical institution, etc.]. However, this condition is applied up to 3 times per person. Voluntary absences will not be reimbursed. In this case, the report will be larger in volume than a normal lecture assignment.

An important factor in recognizing credits, the final exam is set on the last day of the lecture, not during the exam period, so be sure not to miss it.

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

望月 拓実

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】

- 1：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
- 2：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
- 3：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
- 4：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイデアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見（リアクションペーパー）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニューススポーツにおけるビジネス実態と課題	e スポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR、ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケティングの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	学習の総括	学習の総括（第9回～第13回）とレポート課題の解説（テーマ設定、文字数、引用方法の種類と方法）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内の発言等）：30%

講義内小テスト：20%

最終レポート課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】

グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.

【Learning Objectives】 1 : To be able to explain the elements necessary to promote sports business 2 : To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions 3 : To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics 4 : To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.

In-class quiz: 20%.

Final report assignment: 50%.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4 年次/
1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ。
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える。
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う。
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ。
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる。
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ。
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する。
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る。
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。

専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際には、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme

, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：3~4年次/2単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
2	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
3	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
4	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
5	事前調査の実施	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる。
6	事前調査結果の発表	第5回について、発表し、ブラッシュアップをはかる。
7	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う。
8	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う。
10	定量調査の実施	定量調査を実施する。
11	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
12	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
13	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査票（50%）、分析・レポート（50%）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52名）を超えた場合には、第1回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

HSS200IA

スポーツ戦術論（サッカー）

小井土 正亮

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2~4年次/2単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技力向上ならびに普及、育成を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】

サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかに分析手法、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーに関する戦術を講義・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第2回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第3回	サッカーとは何か①	サッカーの歴史について学ぶ
第4回	サッカーとは何か②	サッカーの競技特性について学ぶ
第5回	サッカーにおける戦術とは何か①	サッカーにおける戦術の考えかたを理解する
第6回	サッカーにおける戦術とは何か②	サッカーにおける戦術の考えかたの理解を深める
第7回	サッカーにおける個人・グループ戦術（攻撃）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち攻撃について理解する
第8回	サッカーにおける個人・グループ戦術（守備）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち守備について理解する
第9回	サッカーにおけるチーム戦術①	サッカーにおけるチーム戦術について理解する
第10回	サッカーにおけるチーム戦術②	サッカーにおけるチーム戦術について理解を深める
第11回	サッカー戦術の実践現場・指導現場での活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（チームづくり）を学ぶ
第12回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（トレーニング）を学ぶ
第13回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集、ミーティング）を学ぶ
第14回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容に関するリアクションペーパー 80%、学期末レポートまたは課題 20%で評価する
全講義における出席（リアクションペーパーの提出）が70%以上の者を成績評価対象者とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる開講のため情報機器の準備は必須である

【Outline (in English)】

The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.

【到達目標（Learning Objectives）】

Understand various tactics in soccer from various angles, and also learn analysis methods and teaching methods that can be used as athletes and instructors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

It is desirable to collect information on soccer tactics, including different levels, ages, genders, and domestic and international soccer situations. The standard preparatory study and review time for this class is one hour each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Evaluate with 80% of each lesson content report, end-of-term report or test 20%

However, those who attend 70% or more (submit a class report each time) are eligible for grade evaluation.

HSS200IA

青少年指導実習（サッカー）

小井土 正亮

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2~4年次/1単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：※2018年度入学生以降対象

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、サッカー指導者としての基礎的な能力を身につける。

【到達目標】

サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。

日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント	チーム運営の方法を学ぶ。
第4回	メデイカル ゲーム	医学的な理解を深める。 ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニク	サッカーにおけるテクニクについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通じた内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき1時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】

JFA サッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする指導実践評価（90%）

筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業は集中形式（2024年1月または2月を予定）で行う
受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある

指導実践ならびに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format (scheduled for January 2023).

Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.

Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.

Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】

The goal is that acquiring basic abilities as a soccer coach in accordance with the curriculum of the Japan Football Association official C-class coach license course.

【到達目標（Learning Objectives）】

As a first step as a soccer coach, acquire the basic knowledge and skills necessary for coaching, and be able to properly coach players in the upbringing age.

Obtained a C-class coach license officially recognized by the Japan Football Association.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

It is desirable to look back on the soccer coaching methods that you have experienced in your youth and analyze them from various angles.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Normal score 80%, post-class report 20%

TRS100JA

ホスピタリティ論

野口 洋平

科目分類・科目群(福祉): 総合教育科目 視野形成科目 (人文系)

科目分類・科目群(臨床心理): 総合教育科目 視野形成科目 (人文系)

配当年次/単位数: 1~4 年次 / 2 単位

その他属性: 〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】

ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次回の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
第 2 回	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
第 3 回	ホスピタリティとサービス (1)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
第 4 回	ホスピタリティとサービス (2)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 5 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (1)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
第 6 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (2)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 7 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング (1)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
第 8 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング (2)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 9 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス (1)	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
第 10 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス (2)	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 11 回	国際観光とホスピタリティとサービス (1)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
第 12 回	国際観光とホスピタリティとサービス (2)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 13 回	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 14 回	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験 (サービス提供、サービス享受) について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト: 100 点 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

特にないものの、手書きノートの代わりにノートパソコン等でメモを取ることを歓迎する。

【その他の重要事項】

極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する可能性がある。その際には、授業ないで資料を配布して周知する。教員への連絡方法は授業内で提示する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

【Learning Objectives】

To acquire the knowledge and mindset to discuss and attempt to explain hospitality in one's own words. They will also have opinions and attitudes about the state of hospitality in tourism, services, welfare, etc., and be able to make concrete proposals regarding actual cases.

【Learning activities outside of classroom】

Pay attention to newspaper articles, news, etc. related to the lecture content, and use them as hints for discussion. Record your own service experiences (service provision and service enjoyment), and analyze and review them in line with the class content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Final exam(paper test): 100%

EDU100JA

教育学

藤本 典裕

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：総合教育科目 視野形成科目 (人文系)
 科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (人文系)
 配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位
 備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N5058」を選択すること。
 その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考えなのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
 1. 教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
 2. 人間の文化の特性やその伝達の特異性について理解できる。
 3. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
 4. 現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。
 学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。春学期の授業形態・授業計画などについては、学習支援システムでその都度提示する。その他、大学からの連絡にも注意すること。
 課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか(講義概要の説明など)
第 2 回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第 3 回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第 4 回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第 5 回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第 6 回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第 7 回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第 8 回	戦前・戦中の教育と教師(1)	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第 9 回	戦前・戦中の教育と教師(2)	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 10 回	戦後教育改革と教育理念	戦後(現行)教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 11 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 12 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 13 回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第 14 回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989 年
 堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997 年
 勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990 年
 ルソー『エミール』岩波文庫、1994 年
 橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010 年
 藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009 年
 その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験またはレポート(70%)、小レポート(30%)を総合的に評価する(配点は目安)。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることを主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。
 昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being.

【Learning Objectives】

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the functions of schooling system.

Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, and why so, who guarantee the rights.

【Learning activities outside of classroom】

I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do by the net lesson. Before each class meeting, students will be expected to do the activities.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Term-end report: 60%, Short reports : 40%

MAN100JA

経営学

首藤 聡一郎

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次/単位数：1～4年次/2単位

備考(履修条件等)：2023年度の授業実施日は、9月13日(水)、14日(木)、15日(金)。SSI生は授業コード「N5107」を選択すること。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになってきている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解できるような授業を目的とする。

【到達目標】

1. 受講生が企業経営に関するニュースを理解できるようになる。
2. 受講生がマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。COVID-19にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

講義前に教科書を読み、経営学の全体像について把握したうえで授業に参加してもらう必要がある。

授業中は、それぞれの回の内容について講師から解説した後、小グループに分かれて課題に取り組んでもらい、プレゼンテーションしてもらう。質疑応答の後、講師からフィードバックを行い、その回の内容について補足説明する。授業の最後にその授業に関するフィードバック・シートを記入し、提出する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキスト、成績評価方法について理解する。 また、マネジメントについての概要を理解する。
第2回	イノベーション	イノベーションについて理解する。
第3回	ビジネスモデル	ビジネスモデルについて理解する。
第4回	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーションとターゲティングについて理解する。
第5回	マーケティングの4Pと収益モデル	マーケティングの4Pと収益モデルについて理解する。
第6回	サプライチェーンと補完財	サプライチェーンと補完財について理解する。
第7回	経営資源	経営資源について理解する。
第8回	外部の脅威と機会	外部の脅威と機会について理解する。
第9回	財務・会計	事業をめぐるお金の流れとそのルールについて理解する。
第10回	モチベーションのマネジメント	モチベーションとそのマネジメントについて理解する。
第11回	リーダーシップ	リーダーシップについて理解する。
第12回	階層組織とマネジメントコントロール	階層組織とマネジメントコントロールについて理解する。
第13回	組織デザイン	組織デザインについて理解する。
第14回	フラットな組織と組織学習	フラットな組織と組織学習について理解する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日常的に企業活動に関するニュースに積極的に触れることが必要である。この授業の準備学習・復習時間は各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

中川功一・佐々木将人・服部康宏(2021)『考える経営学』有斐閣、2,000円+消費税。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 20%

リフレクション・シート 20%

期末レポート 60%

具体的な講義方法と基準等は、ガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックが不可能である。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや課題提出等のため、パソコンやスマートフォン等の情報機器と hosei-wifi 等のインターネットへの接続環境が必要である。なお、グループワーク時を考えると、可能であれば、スマートフォンではなく、パソコンが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Business administration has come to be applied not only to corporate management, but also to a wide range of fields such as non-profit organizations and public institutions.

Therefore, the purpose of this course is to enable students to understand the basic concepts of business administration, no matter what career path they choose in the future.

【Learning Objectives】

1. Students will be able to understand the news about business management.
2. Students will be able to think about the management.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to be actively exposed to news about business and management.

The standard preparation and review time for this class is two hours each, for a total of four hours.

【Grading Criteria /Policy】

Presentation 20%

Reflection sheets 20%

Final Report 60%

SOC100JA

社会学特講

左古 輝人

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】

社会学の基本的なキーワードを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第 2 回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第 3 回	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第 4 回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第 5 回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第 6 回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 7 回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
第 8 回	消費社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第 9 回	消費社会の展開	消費社会の歴史的形成を概観する
第 10 回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 11 回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第 12 回	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第 13 回	新中間層の解体	脱工業化とともに進化した新中間層の解体を概観する
第 14 回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、事前にテキストの該当箇所を読しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版 2006 年。

佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1992 年。

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 1998 年。

早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房 2011 年。

【参考書】

適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太 (youtube)」「信州読書会 (youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。必要があれば電子メールで問い合わせること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The course overviews the history and the structure of modern society as a whole.

【Learning Objectives】

The students learn the powerful theoretical tools to understand and describe the characteristics of modern society including contemporary Japan.

【Learning activities outside of classroom】

1) The students need to read a small piece of text before each lecture (about 30 minutes).

2) The students need to write a small report after each lecture (about 200 words).

【Grading Criteria /Policy】

Term-end exam (80%), Class participation (20%).

SOC100JA

老年学

新名 正弥

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：SSI生は授業コード「N5117」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達(生涯発達理論と老年的超越)
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末期課題
第14回	高齢社会の構造(グローバルイゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化)	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】国民の福祉と介護の動向 2020/2021 (厚生労働統計協会)
高齢社会白書 (厚生労働省)**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ(40%)、期末レポート(60%)によって総合的に判定する。対面授業に変更になった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about an hour).

After the class, students are asked to answer quizzes (about an hour).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群(福祉ポエチ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉国家の機能と役割について学ぶ。

日本、アメリカ、ドイツの3か国の貧困対策の展開を比較検討し、日本の福祉国家の課題を明らかにする。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の分配、再分配制度について理解する。
- 2) 相対的貧困の基準と実態について、理解する。
- 3) 日本、アメリカ、ドイツの貧困対策の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1) アメリカとドイツの貧困対策に関しては、原文の資料を読んで、概要をまとめてもらいます。

翻訳アプリなどを活用して、内容の要点の把握に努めてください。

- 2) オンライン授業形態も随時取り入れます。注意してください。
- 3) 受講生からの報告や提出物に対しては、代表的なものについては授業の中でコメントをし、その他については授業支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	福祉国家の概要/授業ガイダンス	役割と機能
第2回	相対的貧困の基準と実態	相対的貧困基準 貧困線の推移 「超・階級社会」の出現
第3回	日本の福祉国家の特徴(1)	皆保険皆年金体制 低所得対策 住民税非課税基準
第4回	日本の福祉国家の特徴(2)	再分配の実態とコロナ対応の特徴
第5回	日本の福祉国家の特徴(3)	岸田政権の成長と分配施策 子どもの貧困対策
第6回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(1)	アメリカ救済計画、アメリカ家族計画 富裕層課税強化とGAF A 規制
第7回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(2)	子ども税額控除の拡大
第8回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(1)	ドイツにおけるコロナ対応策：社会保険パッケージ法とその効果
第9回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(2)	求職者基礎保障から「市民手当」への転換とその意味
第10回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(3)	子ども基礎保障創設に向けた動き
第11回	原資料の検討(1)	アメリカ：子ども税額控除拡大による子供の貧困削減効果
第12回	原資料の検討(2)	ドイツ：子ども基礎保障創設の狙いと効果
第13回	米・独の政策展開についての報告	受講生によるまとめの報告
第14回	講義まとめ	全体の振り返りと、受講生のまとめへの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①各自が原文資料を読み込み、発表の準備を行います。
- ②本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

個人発表 30%・個人テーマまとめ(期末)：70%

【学生の意見等からの気づき】

外国の施策展開について学びたいという声にこたえます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to learn about the function and role of the welfare state through a comparison of three countries: Japan, the United States, and Germany.

【Learning Objectives】 The goals of this class are 1) To understand the distribution and redistribution systems of the welfare state, 2) Identify new developments in poverty measures in Japan, the U.S., and Germany.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the presentation(30%) and term-end report(70%).

MAN200JB

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、地域の人々によって所有、コントロールされ、地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく市民活動家もしくは社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を国内外の事例を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。COVID-19 にもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第 2 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」を何かを理解する。
第 3 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」を何かを理解する。
第 4 回	事業型 NPO による取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第 5 回	事業型 NPO による取り組み②	病児保育事業の取り組みを通して理解する。
第 6 回	事業型 NPO による取り組み③	貧困問題と健康問題の事例を通して理解する。
第 7 回	事業型 NPO による取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第 8 回	事業型 NPO による取り組み⑤	アメリカの事業型 NPO の事例を通じて理解する。
第 9 回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第 10 回	株式会社による取り組み②	女性起業家の事例を通して理解する。
第 11 回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第 12 回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第 13 回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第 14 回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

土肥将敦 (2022) 『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

谷本寛治編 (2015) 『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30%、平常点 40%、期末レポート 30%。

具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

ARSx200JB

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教員4名(水野・関司・土肥・野田)が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1 地域を2回の講義で構成し、1 回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2 回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/イントロダクション(水野・関司・土肥・野田)	ローカルイノベーションとは何か
第 2 回	半島先端におけるローカルイノベーション①(水野)	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 3 回	半島先端におけるローカルイノベーション②(水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 4 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第 5 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②(水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 6 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①(野田)	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 7 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②(土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 8 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①(野田)	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 9 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②(土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 10 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①(関司)	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第 11 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②(関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 12 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①(関司)	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第 13 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②(関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 14 回	総括(水野・関司・土肥・野田)	6 事例からの学びと提言

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーへのコメント)100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline(in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW300JB

雇用政策論

布川 日佐史

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、就労可能ではあるが、就労阻害要因を抱えて一般企業への就職が難しく、生活に困窮者人した人への就労支援について学びます。あわせて、一般企業の側がインクルーシブな雇用の場となるのか、日本的雇用の変容（成果主義、ジョブ型雇用）に焦点を当てて学びます。

【到達目標】

- (1) さまざまな就労阻害要因に応じた就労準備支援について理解する。
- (2) 中間的就労の多様な展開とその限界を学ぶ。
- (3) インクルーシブな雇用を作り出す雇用政策について理解する。
- (4) 成果主義、ジョブ型雇用への転換が持つ意味について、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 対面授業が中心だが、オンラインの形態も活用する。
- 2) 学生から提出物に対しては、代表的な意見や質問については授業の中でコメントをし、その他については授業支援システムでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の狙いと課題	就労可能な生活困窮者 インクルーシブな雇用
2	雇用政策と就労支援	雇用政策の二側面 就労支援と「中間的就労」
3	事例の検討（1）	生活保護自立支援、生活困窮者自立支援
4	就労準備支援	障害者支援における自己決定支援の意義
5	中間的就労	生活保護における自立支援プログラムの展開
6	まとめ	就労準備支援、中間的就労の意義と課題についての意見交換
7	インクルーシブな雇用の場の確保・創出（1）	障害者の権利条約における社会参加 規程 差別禁止と「合理的配慮」
8	インクルーシブな雇用の場の確保・創出（2）	保護雇用 インクルーシブ企業 ソーシャルファーム 社会的労働市場
9	日本的雇用の変容（1）	潜在能力主義（職能資格制度）
10	日本的雇用の変容（2）	成果主義への転換
11	日本的雇用の変容（3）	ジョブ型雇用へ
12	事例の検討（2）	ジョブ型雇用の事例と今後の展望
13	日本的雇用の変容（4）	インクルーシブな雇用の場をめざして
14	全体まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

単元ごとのまとめ：40%

期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

現場からの事例に基づいた問題提起をしっかりと受け止められるように、工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 Firstly, this course will focus on the issue of employment support for those who are able to work but have barriers to employment. The second issue is to examine whether the private sector can be a place for inclusive employment.

【Learning Objectives】 In this course, students will learn about work readiness support for different barriers to work, understand employment policies that create inclusive employment, and consider the implications of the shift to performance-based, job-based employment.

【Learning activities outside of class】 Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content.

【Grading Criteria / Policy】 Grading will be decided based on summaries on each class session (40%), and the Term-end examinations(60%).

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考 (履修条件等)：旧「都市住宅政策論 I」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材 (パワーポイントデータ) は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 27 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支脈をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第3回	文化政策の誕生と発展	戦前の社会教育と文化政策・戦後の社会教育と文化政策・社会教育と生涯学習
第4回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第5回	文化に関わる法と行政組織(1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第6回	文化に関わる法と行政組織(2)	文化関係法の体系と内容
第7回	文化に関わる法と行政組織(3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第8回	近年の国の文化政策の動向	文化政策推進会議設置・文化振興マスタープラン策定・文化芸術基本法制定
第9回	地方自治体の文化政策の取り組み	地域文化遺産の保護・文化振興条例の制定
第10回	地域史を考える	地域の歴史や文化を学ぶ目的とその変遷
第11回	地域文化遺産の保存と活用(1)	地域文化遺産
第12回	地域文化遺産の保存と活用(2)	エコミュージアム
第13回	地域文化遺産の保存と活用(3)	日本遺産事業
第14回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

馬場憲一『Well-being と文化環境』(生協で販売)

【参考書】

馬場憲一(1998)『地域文化政策の新視点-文化遺産保護から伝統文化の継承へ-』(雄山閣、3000円)、川村恒明監修・著(2002)『文化財政策概論』(東海大学出版会、3500円)を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

・試験方法：中間に1回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点(リアクションペーパー)40%、課題レポート60%により総合的に評価します。2種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline (in English)】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community. The goals of this course are to understand the involvement of government in cultural activities. Students should be interested in articles related to regional cultural policy published in newspapers and magazines. Your study time will be more four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, Term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「環境教育論」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけて高めていくという姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史の経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション1 講義の進め方等の確認と ミニフィールドワーク (FW)	ガイダンス及び環境学習経験の確認、 キャンパス周辺を歩き、身近な自然 的・歴史的環境にふれる。宿題：FW 後、フィールドノートを作成提出する。 フィールドノート及び「人間をとりま く環境のイメージ」を共有する
第2回	オリエンテーション2 身近な環境に関するイ メージの共有	
第3回	SDGs について	SDGs 関連情報(国際的取組み経過・ 現状、日本の環境政策における位置づ け等)の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなも のか、環境問題への取組みの歴史的経 緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る 上で必要な、地球に関する基礎知識と 問題となっている諸テーマについて概 説する
第6回	環境問題を知る1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る4	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環 境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動1	各主体の役割、参加・協働の手法、国 際機関・政府セクターの取組み、企業 の取組み
第12回	各主体の役割・活動2	市民(個人、NPO等)の取組み、身 近な環境に関する市民の取組み事例 (DVD 視聴等)
第13回	身近な環境保全の取組み 実践体験 全体ワーク1	かるた制作(読み札づくり)
第14回	身近な環境保全の取組み 実践体験 全体ワーク2	かるた制作(絵札づくり)と試用(場 合によっては、読書レポート発表会)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

東京商工会議所(2023)『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト 改訂9版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論(第3版)』信人社、竹本和彦編(2020)『環境政策論講義：SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著(2011)『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出席確認：毎回リアクションペーパーをとりまします。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等を把握する平常点70%、提出課題(フィールドノート、読書レポート)30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去10年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークでは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

- By the end of the course, students should be able to do the followings:
- understand the importance of each citizen's efforts.
 - understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
 - get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
 - willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1. Find out about environmental issues of your interest.
 2. Try participating in environmental activities, if possible.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

- ・Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
- ・Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB

政策評価論

倉根 明德

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考 (履修条件等)：2023 年度の授業実施日は、8 月 2 日 (水)、3 日 (木)、4 日 (金)

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【Outline (in English)】

This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.

Your overall grade in the course will be based on the following

Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】

日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は3日間の集中講義となります。前半は政策評価と政策立案の理論、後半は事例紹介とワークシートを使った施策立案及び評価指標設定の演習 (各自またはグループ)、最終日の午後には立案された施策をいくつかピックアップしてディスカッションを行います。また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の種類等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について (ケーススタディ)
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018 年度以降、主流になりつつある EBPM (エビデンスに基づく政策立案) について
7	政策立案の手法③	海外との比較について (NZ の震災復興計画等を事例に)
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介 (健康福祉政策)
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介 (まちづくり政策)
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介 (官民連携政策)
11	政策立案と評価の実践① (演習)	各自 (またはグループ) で施策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第 11 回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第 11 回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体の HP などを調べてみてください。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、演習及びディスカッション 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生から「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいたため、今年度はディスカッションの時間を増やすように改善したいと考えています。

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」

どの国にあっても、福祉国家の改革が焦点の課題です。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えます。

【到達目標】

- ・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
- ・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
- ・ナショナル・ミニマム、社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、投影されたパワーポイントを説明する形態で行われます。適宜資料プリントを配布します。授業後に数回、小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	福祉サービスの市場化	1980 年代以降のイギリス
第 11 回	家族の変容と改革	少子化対策
第 12 回	福祉国家改革	21 世紀の福祉国家
第 13 回	移民と福祉	難民危機（2015 年）
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布しますので、講義ペースに合わせて、文献をお読みください。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解してください。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の授業外学習を必要としています。

・山崎史郎『人口減少と社会保障』を受講前にお読みください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

神島裕子『正義とは何か—現代政治哲学の 6 つの視点』（中公新書 2018 年）

菊池馨実『社会保障再考』（岩波新書 2019 年）

斎藤義彦『ドイツと日本 「介護」の力と危機』（ミネルヴァ書房 2012 年）

田中拓道『福祉政治史』（勁草書房 2017 年）

中野智世他『「価値を否定された人々」—ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』（新評論 2021 年）

二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』（旬報社 2014 年）

平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』（ミネルヴァ書房 2003 年）

水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』（岩波書店 2012 年）

山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書 2017 年）

パット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房 2000 年）

ジョック・ヤング『排除型社会』（洛北出版 2007 年）

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験を行います。
2. 筆記試験の得点（7 割）、平常点（小テストの成績 3 割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline (in English)】**(1) Course Outline**

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

(2) Learning Objectives

(a) Students should be able to explain the historical development of the Welfare States in the 20th Century.

(b) Students should be able to explain Philosophie, goal, and dominant Theory of welfare in each era.

(c) Students should be able to explain the important words, for example, “social inclusion”, “social exclusion”, and “the right of life” in the historical context.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to read the reference books and theses in the bibliography in pace with progress of the lecture. Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) Grading Criteria

Your overall grade in the class will be based on the following: Term-end examination (essay-type):70% and in-class contribution: (30%).

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会学)

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「国際支援論」、旧々「国際福祉論」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

[Outline (in English)]

[Course Outline] With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

[Learning Objectives] By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

[Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第3回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第4回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第5回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第6回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第7回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第10回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第11回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第12回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出(平常点)：50%、課題提出(発表含む)：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器(パソコン、スマートフォン等含む)

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。旧「地域経営」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営(マネジメント)のあり方について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する
- 仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということを中心に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	・講義ガイダンス、 ・「地域経営」の今日的意義と視点 ・各回講義の要点解説
第2回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第3回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創(共創)と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創(共創)型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成 ・具体的課題から合意形成を考える
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性 ・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化(道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み)
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用(PFI制度等の民間活用の施設整備)
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営(長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に)
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営 ・ストック活用のまちづくり(リ)ノベーションまちづくり

第13回 講義の総括①

第14回 講義の総括②

レポート提出と個別指導

・レポート評価とプレゼンテーション

・学生諸君からの感想と意見/講義の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー 60%

②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション 40%(レポート課題は6月前半に提示)

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介と考察が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to provide students with a basic understanding of the following issues and to raise their awareness of the issues and policies for dealing with each theme.

・Basic legal systems related to regional management, and an overview and characteristics of representative systems

・The relationship between national and local governments, laws and ordinances related to regional management

・The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management

・The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management

・How to manage local communities by utilizing existing local resources

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction papers based on the lecture and subsequent plenary discussions and mini-workshops 50%.

(2) Reports and presentations based on selected assignments 50% (Report assignments will be presented in the first half of June)

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次 / 2 単位

備考 (履修条件等)：旧「社会起業論」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが 2000 年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的な B Corp 認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する(なお、過去数年は、数多くの社会的企業者や実務家にゲスト講師としてお越しいただいている)。また講義後半では、企業の社会的責任 (CSR) についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。必要に応じて国内外のゲストも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティング (CRM) について理解する①	各種事例を通して CRM について理解する (A 事例)。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する (B 事例)。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する (C 事例)。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト(教科書)】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦(2022)「社会的企業者— CSI の推進プロセスにおける正統性」千倉書房

Marquis, C (2020) Better Business, Yale University Press (土肥将敦監訳・保科京子訳(2022)『ビジネスの新形態 B Corp 入門』ニュートンプレス)
鈴木良隆編(2014)『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著(2013)『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよびショートレポート課題 (60%)、平常点 (40%) を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

市ヶ谷や小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールを確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(50%), in class contribution(50%).

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考慮することが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにとりまう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	社会環境変化への対応② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	社会環境変化への対応③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	企業の不正と防止策について
9	CSV またはプロジェクト マネジメントケース スタディ	企業の実務家によるゲストセッション を予定
10	コミュニケーション技術 について	コミュニケーション技術に関する理解 と習得
11	演習①	仮想タウンでアートなまち創り
12	演習②	身近な地域の課題を共有し、アートな まちづくりを実践
13	演習③	同上(更に議論を深める)
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義では、全5回の事前課題レポート(A4 1枚以内)の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する(最高10点)。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2年生から4年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

社会の課題解決に必要な資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドと参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第 6 回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第 13 回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第 14 回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末テスト（80%）※期末テストは資料持ち込み可

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしています。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができ
 ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること/他者に対して寛容であること/仲間を持つこと/社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながらばと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容(歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等)について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知る。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPOの社会的意義について考える。
第4回	NPOの組織運営と他の社会資源との関係	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係について把握する。
第5回	関心分野におけるNPO活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状やNPO活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第6回	NPOの活動事例紹介1「ゼロカーボン、コンポスト等、持続可能な地域循環づくりの実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第7回	NPOの活動事例紹介2「スポーツやアートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第8回	NPOの活動事例紹介3「子どもを真ん中につながり、ともに生きる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。

第9回	NPOに関する自由研究 企画書の作成	個人又はグループ毎にNPOに関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第10回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズングや協力のテクノロジー等を取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究 発表会1	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究 発表会2	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点は何か、議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介したNPOの主催するイベントへ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点(出席・リアクション) 50点、(2) 中間レポート(NPO活動計画書) 10点、(3) 期末試験(自由研究企画書及び発表) 40点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
 ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
 ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
 ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
 (注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
 ・授業内容の理解の助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
 ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
 (注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンとwifiが必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline(in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to "To understand Social significance of Non Profit Organization".

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports: 10%, in class contribution: 50%

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：隔週開講。4・5限連続受講が必須のため注意すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月11日 4時限

第2・3回：4月25日 4・5時限

第4・5回：5月9日 4・5時限

第6・7回：5月23日 4・5時限

第8・9回：6月6日 4・5時限

第10・11回：6月20日 4・5時限

第12・13回：7月4日 4・5時限

第14回：7月18日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それともなう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念(居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理)
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスアップテーション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配付資料や参考資料の予習

常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1, 2, 3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなごのスズメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート(リフレクションシート)(70%)、レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。

・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。

・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充滿させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	気象災害と避難支援	・近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響、支援などについて理解する。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問に YES または NO で答え、自分ならどのように対応するかを考える。
6	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫/AED 操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫と AED 操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	防災講話 ・東日本大震災に学ぶ (大川小学校、釜石の奇跡)	・東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。

10	避難所 HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	防災講話 ・地域防災 (自助、共助、公助)	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
13	図上演習 DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験 50%、平常点 30%、レポート 20%

演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 30%, report 20%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。(授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同)
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例(1)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(先進地域における活動の変遷の事例)の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例(2)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(学生が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例(3)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(中高齢者が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味(意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど)の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート(パブリックアートやコミュニティアートなど)の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例(1)	コミュニティアートの事例(大都市/拠点型)の紹介と解説。

第11回	コミュニティアートの事例(2)	コミュニティアートの事例(大都市/まちなか展開型)の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例(3)	コミュニティアートの事例(大都市/地域密着型)の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例(4)	コミュニティアートの事例(大都市/地域交流型)の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文獻などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。(必要に応じて適宜配布する。)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーなど)：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、NPO・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
 - Planning of community art
- (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
 - Reading literature related to the class meeting
 - Participating in events related to community design and art
- (Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%, Mid-term report : 20%, Term-end report : 50%

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第 13 回	地域遺産の再生と活用 (4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】**①成績評価方法**

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート 60 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的にを行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉_{福祉}): 専門教育科目 専門展開科目

配当年次/単位数: 2~4 年次 / 2 単位

備考(履修条件等): SSI 生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ(ウェルビーイング)の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に 대응しようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは?	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか?	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは?	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか?	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート(30%)、期末試験(70%)の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(30%) and term-end examination (70%).

PSY300JB,PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群(福祉・メンタル)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとく経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。

私たちが持つ生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものを/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものを/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。受講者の反応に従って、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 3 回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第 4 回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第 5 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第 6 回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第 7 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第 8 回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第 9 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第 10 回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第 11 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第 12 回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第 13 回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第 14 回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社 (新潮文庫)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパー・授業への能動的参加) 40 %

期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you

will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「非営利組織の運営」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができ
 ・自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること/他者に対して寛容であること/仲間を持つこと/社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPO に関する基本的な内容(歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等)について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくるとともに、自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO の組織運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介 1 「ゼロカーボン、コンポスト等、持続可能な地域循環づくりの実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介 2 「スポーツやアートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO の活動事例紹介 3 「子どもを真ん中につながり、ともに生きる実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 9 回	NPO に関する自由研究 企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。

第 10 回	実践から考えるシリーズ 「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズンや協力のテクノロジー等を取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第 11 回	実践から考えるシリーズ 「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPO の多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第 12 回	NPO に関する自由研究 発表会 1	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 13 回	NPO に関する自由研究 発表会 2	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 14 回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介した NPO の主催するイベントへ参加したり、NPO 活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点(出席・リアクション) 50 点、(2) 中間レポート(NPO 活動計画書) 10 点、(3) 期末試験(自由研究企画書及び発表) 40 点。

平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
 ・NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
 ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
 ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

(注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
 ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
 ・NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
 (注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO(Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports: 10%, in class contribution: 50%

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：2019 年度以前入学者のみ受講可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Well-being(健康で幸福な暮らし)を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会(コミュニティ)の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み (7)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

馬場憲一『Well-being と文化環境』(生協で販売)

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点-文化遺産保護から伝統文化の継承へ-』(雄山閣、3000 円)。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法: 中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法: 平常点(リアクションペーパー) 40%、課題レポート 60%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート: 課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society. The goals of this course are to acquire the ability to create a cultural environment, such as the law related to the creation of a cultural environment and basic knowledge such as the preservation and utilization of cultural heritage. Students should look at the projects and attempts being made to create a historic and cultural environment in their area. Also, be sure to visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいではありませんか？

この授業では、創立から144年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市民社会の開明とノンエリートへの夢～法政大学と日本近現代史①	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
2	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介します。（小倉淳一）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）

7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲家、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は奥多摩に移住し、森林資源を生かした地域づくりに取り組む菅原和利さんをお迎えする予定。
10	ユニークな研究所	多数の研究のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員）
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだ後、法政大学の展望を総長に聞く。（各学部教員・廣瀬克哉総長）
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。本学の教学担当理事の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（小秋元段常務理事・科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。2020年にオープンしたばかりのHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】
毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】
毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
開設13年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
配付資料類は、学習支援システムを通じて配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講もちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座 2017年度以降入学者

サブタイトル：

コーディネータ：渡辺昭太、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義テーマにより、講師が交代する場合があります。毎回リアクションペーパーを提出していただきます。講義内容に関する質問回答、試験問題についての解説なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性 ②人生とお金 ③大学生生活とお金
2	お金と経済	①お金と経済の関係 ②景気・物価・金利の関係 ③金利と外国為替
3	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐ ②職業選択 ③額面収入と手取り収入 ④海外で働く
4	生活に関わる税金	①税金の種類 ②収入に関する税金 ③日々の生活に関する税金 ④その他の税金
5	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
6	ライフプランを描く②	①PL、BS、CF ②キャッシュフロー表の作り方 ③キャッシュフロー表の分析
7	お金を借りる①（クレジットカード）	①お金を借りる方法 ②多様化する決済 ③外カの仕組み ④外カの上手な使い方
8	お金を借りる②（ローン、リース）	①ローン ②分割払い ③リース ④多重債務の予防
9	お金をふやす①（投資）	①お金を増やす方法 ②貯蓄について ③投資について ④投資のリスクコントロール

10	お金をふやす② (NISAとiDeCo)	①NISA ②iDeCo
11	リスクに備える①（生保、年金）	①生活におけるリスク ②私的保険の基礎知識 ③身体・健康のリスクに備える
12	リスクに備える②（損害保険）	①身の回りのリスク ②損害保険について
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブルの現状 ②消費者を守る制度 ③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く③ 総括	①ライフプランを作る ②ライフプランの見直し方法、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習時間は、各2時間程度を想定します。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

資料については講義サイトに投稿予定です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト1回（30%）および最終テストまたはレポート（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2023年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

受講者人数や状況にもよりますが、学生同士のディスカッション等ができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】

In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have "Financial Literacy" including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions.

By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student

- ・ To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management

- ・ To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.

This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.

【Learning Objectives】

a) Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.

b) Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review.

Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary

【Grading Criteria /Policy】

The score is calculated based on three subjects.

- a) Attendance report contribute 20%
- b) Mini exam contributes 20% (few times during the course)
- c) Culminating report 60%

Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎理論を速習する

中平 千彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

*第 1 回講義の形態は学習支援システム (Hoppii) にログインして『経済学 LA』(担当:中平)内にある「お知らせ」で確認してください。第 2 回からは、通常の教室講義になります。

この講義は、春学期開講『経済学 LA』(担当:中平)です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』(担当:中平)に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか? 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

【到達目標】

・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。

・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を大別すると、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ (マイクロ) 経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの 2 分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ (マイクロ) 的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ (マイクロ) 的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第 02 回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第 03 回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (1)
第 04 回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第 05 回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第 06 回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第 07 回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第 08 回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第 09 回	消費関数	消費と消費関数
第 10 回	投資関数	投資と投資関数
第 11 回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第 12 回	IS・LM 曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS 曲線・LM 曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第 13 回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第 14 回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 ・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト (教科書)】

・塩澤修平 (著)『基礎コース 経済学 (第 2 版)』新世社、2011 年。

【参考書】

- ・浅田統一郎 (著)『マクロ経済学基礎講義 (第 4 版)』中央経済社、2022 年。
- ・浅田統一郎 (著)『ミクロ経済学の基礎 (第 2 版)』中央経済社、2017 年。
- ・井原哲夫/桜本光/辻村和佑/牧厚志 (著)『経済学入門 - 現実の経済を理解するために (第 2 版)』日本評論社、2008 年。
- ・井堀利宏 (著)『入門経済学 (第 4 版)』新世社、2021 年。
- ・スティグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E. (著)、藪下史郎/秋山太郎/齋川靖浩/大久博/木立力/宮田亮/清野一治 (訳)『スティグリッツ入門経済学 (第 4 版)』東洋経済新報社、2012 年。
- ・福岡正夫 (著)『ゼミナール経済学入門 (第 4 版)』日本経済新聞出版社、2008 年。
- ・マンキュー、N. グレゴリー (著)、足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 (訳)『マンキュー入門経済学 (第 3 版)』東洋経済新報社、2019 年。
- ・Bade, Robin and Michael Parkin, *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson, 2022.
- ・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer, *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson, 2018.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Economics* (8th ed.), Pearson, 2021.
- ・Krugman, Paul and Robin Wells, *Essentials of Economics* (6th ed.), Macmillan Learning, 2023.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
 ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
 ・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

- ・出席確認を行いますので注意してください。
- ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
- ・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』(担当:中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

* This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:
 - explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
 - think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：応用経済学としての観光経済学を学ぶ

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ（マイクロ）・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	観光の現状と課題、SNA と観光統計 (1)	観光のもたらす課題、SNA の概念と観光統計
第 02 回	SNA と観光統計 (2)	SNA の基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第 03 回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第 04 回	消費理論と観光 (1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第 05 回	消費理論と観光 (2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第 06 回	投資理論と観光 (1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第 07 回	投資理論と観光 (2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第 08 回	消費者行動と観光 (1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第 09 回	消費者行動と観光 (2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第 10 回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第 11 回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第 12 回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第 13 回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第 14 回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦/藪田雅弘（編著）『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017 年。

【参考書】

・M.T. シンクレア/M. スタブラー（著）、小沢健市（監訳）『観光の経済学』学文社、2001 年。
・ジェームズ・マック（著）、瀧口/藤井（監訳）『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。
・スティーブン・J. ページ（著）、木谷/松下/図師（訳）『交通と観光の経済学』日本経済評論社、2001 年。
・A. ブル（著）、諸江/吉岡/菊池/小沢/原田/池田/和久井（訳）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社、1998 年。
・山内/山本/山崎/川口（編）『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣、2022 年。
・Bull, Adrian(1995), *The Economics of Travel and Tourism* (2nd revised ed.), Longman.
・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer(2020), *Tourism Economics and Policy* (2nd ed.), Channel View Books.
・Hall, C. Michael and Allan M. Williams(2019), *Tourism and Innovation* (2nd ed.), Routledge.
・Sharpley, Richard(2006), *Travel and Tourism*, SAGE Publications.
・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair(2009), *The Economics of Tourism* (2nd ed.), Routledge.
・Sullivan, Charlotte(ed.)(2016), *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.
・Tribe, John(2020), *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism* (6th ed.), Routledge.
・Vanhove, Norbert(2022), *The Economics of Tourism Destinations* (4th ed.), Routledge.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・春学期のリベラルアーツ科目『経済学 LA』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:
- explain the fundamental problems of tourism economics;
- think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に付けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。

ただし、金融は奥が深く、春学期の授業はその入り口に立ったに過ぎない、さらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

感染がおちついてきたので対面による授業として実施する。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分がある。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためである。また、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第1章、第2章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第3章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ

7	債券投資の理論（第10章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第10章）続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第1講から第8講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第11章）とポートフォリオ理論（第12章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポートフォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第12章と第13章）	2資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させCAPMについて学習する
12	コーポレートファイナンス①（第7章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第7章）	企業の資金調達におけるモジリアニニミラーの定理（MM理論）を学習する。
14	期末試験	Hoppi上でこれまで学習した範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見ただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30分でも日々の生活で経済事象を知ることが、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の3つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20%）、2、第8回に実施する中間テスト（40%）、3、第15回に実施する期末テスト（40%）である。中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズはHoppi上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね90%以上、A:優れた成績であるもの、概ね80%以上、B:秀でた成績である者、概ね70%以上、C:平均的な水準である者、概ね60%以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は主として金融の「入門レベル（経済学 LA）」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に付けてほしい。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。秋学期の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、記事の内容が概ね理解できることを目標とした。経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学 LA）を経て、金融基礎知識を固める初級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面で授業を実施する。ただし、感染状況によりオンライン（オンデマンド）で実施する場合もある。対面授業ではあるが、履修生の皆さんには資料を Hoppii 経由で配信し授業で教科書とともに使用する予定である。ファイナンスは自分で理解する上で問題を解くことが重要である。そこで、授業内容により学習後にクイズ（試験ではない）を行い、理解を深めるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利率率、将来価値、現在価値（第 1 章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
2	債券入門（第 2 章）、債券分析の基礎（第 3 章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学 LA の復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第 3 章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第 8 章）	経済学 LA においてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で 2 つの危険資産によるポートフォリオを作成する。

5	ポートフォリオ理論入門②（第 8 章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPM の導出を行う。（一部経済学 LA の復習あり）
6	株式入門（第 4 章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第 4 章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60 分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	先物入門（第 5 章）	先物取引の仕組みと裁定取引を学習する。
11	オプション入門①（第 6 章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第 6 章）	オプションを用いた投資戦略、パインomial（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第 11 章）	市場モデルと CAPM の類似点と相違点を整理する。市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第 1 回から第 13 回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60 分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】

手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5

大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。

- 1、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %）、
 - 2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、
 - 3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
- 中間試験と期末試験は原則教室で実施する予定であるが、感染状況により Hoppii 上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。

成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

経済学 LB(秋学期)は経済学 LA 同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等は Hoppii 上に掲示（授業開始から 1 週間のみダウンロード可）する予定である。昨年度は、経済学 LA の未履修者対応として復習の部分にウエイトを掛け過ぎたため、今年度は振り返り部分のウエイトを軽減することとし、経済学 LA の未修者は自学自習により対応を促すこととしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験においてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】

配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算 20 余年有している。うち、10 年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了 (MBA) している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recommend you to acquire a financial literacy for your life.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済学入門

陳 文学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域的突発問題や危機管理に対する分析力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。また、中国武漢で発生した新型コロナウイルスによる東アジア地域の経済社会の混乱に対してどう対応すればよいかを考える機会も提供し、危機対応型思考力を鍛えることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画に従って対面式で開講する。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もあるが、その場合、事前に学習支援システム（Hoppii）内で知らせる。
2. 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、検証、まとめる。
3. 情報時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例分析を多く用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化の歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバルゼーションの形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証
6	農業の発展と人口問題	「マルサスの罠」と人口問題の本質を検証する

7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」と人口問題の両面性
8	農業の発展と様々な制約	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、「世界の工場」の形成と産業空洞化
12	経済成長と所得格差	クズネッツの「逆 U 字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差と計測	ジニ係数の計算を通じて地域間経済格差を考える
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗、山本博史、矢野修一、春日尚雄（著、編集）、文眞堂。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加状況
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況
 3. 期末レポートの完成状況
- 等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
2. 課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン（Zoom 方式）授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（パソコンなど）の用意が必要。

【その他の重要事項】

秋期『経済学 LB：中国経済入門』の継続履修を勧める。

【Outline (in English)】

The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years.

This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国経済入門

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の経済規模は 2010 年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第 2 位に上り詰めた。2022 年に中国の GDP は日本の約 4 倍に拡大し、アメリカの 5 分の 4 までに迫っていた。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常态」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第 2 位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画に従って対面式で開講する。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もある。その場合は学習支援システム（Hoppii）内で事前に知らせる。
2. 一回の講義で基本的に 1 つの話題を中心に議論、検証、まとめる。
3. 情報時代のニーズに応えるため、事例や図表、統計を多く用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	近代中国革命運動①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	近代中国革命運動②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中援助と「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	大躍進、人民公社と文化大革命：経済建設から政治闘争へ
6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	農村地域の「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界工場」礎の形成
7	中国の経済発展戦略研究	鄧小平氏の「先富論」と成長と格差：先発地域と後発地域との格差拡大問題
8	中間進捗状況確認	前半の復習：「効率」か「平等」か＝「共同富裕」ができるのか

9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	対外開放：国際貿易と外資導入	日本企業の中国進出と日中貿易
11	情報技術革新とネットビジネスの興隆	ネット通販巨人アリババの事例、BATH（百度、アリババ、テンセント、華為）研究
12	中国の「新経済」とニュービジネス：S 級 B 級論	経済のサービス化、デジタル化、スマホ決済、シェア経済、EV、自動運転など
13	これからの中国、東アジア、そして世界	「新冷戦」、米中貿易戦争、デカウプリング、世界経済の先行き
14	復習とまとめ	中国経済再考、期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK 出版新書。
『中国 S 級 B 級論—発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤亜聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加状況；
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況；
 3. 期末レポートの完成状況
- 等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
2. 課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン（Zoom 方式）授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（パソコンなど）の用意が必要。

【その他の重要事項】

1. 前期の『経済学 LA：東アジア経済入門』とのセットにして履修してほしいが、特に必要事項ではない。
2. 中国経済の話題が中心だが、政治、社会、歴史、文化、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ取ってほしい。

【Outline (in English)】

This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of China economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 利子と資本 I

水野 和夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には春学期の経済学 LA ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象、秋学期では利子と資本の関係について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できないでいる。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようにする。

春学期と秋学期を通じて履修することで、資本の本質を理解することができる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバル化が経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、また労働生産性が緩やかではあるが上昇しているにもかかわらず実質賃金が下落しているのかといった現象をどう変革したらいいのか、自ら考える能力を身に着けることができる。

秋学期の「経済学 LB」と合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業で行う (ただし大学の方針に従う)。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』(東洋経済新報社、水野和夫、2022 年) の「序章」と第 1 章「ゼロ金利と『蒐集』」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期と秋学期を通じて、講義全体の流れを説明	経済学の考え方とはなにかについて、概略の説明、社会の下部構造としての経済
第 2 回	ゼロ金利と「蒐集」(コレクション) ① 「蒐集」の概念はいつ誕生したのか、その目的と対象は何か	西欧史はコレクションの歴史であり、コレクションの歴史は金銭の歴史である。目的は社会秩序の維持、対象は土地、霊魂、資本。 『次なる 100 年』の「はじめに」を参照

第 3 回	ゼロ金利と「蒐集」(コレクション) ② 例外と常態	ゼロ金利は常態か例外か—近代では例外、ポスト近代では常態。 『次なる 100 年』の「序章」を参照
第 4 回	ゼロ金利と「蒐集」(コレクション) ③ 「蒐集」できなると何が起きるか	歴史の危機 (ブルクハルト) 一過去 3 回の危機と第 4 回目の 21 世紀。 『次なる 100 年』の第 1 章第 1 節を参照
第 5 回	ゼロ金利と「蒐集」(コレクション) ④ ゼロ金利と「異次元金融緩和」	金融自由化と電子・金融空間の誕生、金融経済の肥大化現象。 『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節を参照
第 6 回	21 世紀の「歴史の危機」① 「中心」と「周辺」の関係	ニクソンショック (1971) とコペルニクスの宇宙論 (1543)。 『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 7 回	21 世紀の「歴史の危機」② 米中新冷戦について	欧米の支配基準は何か—キリスト教と非キリスト教徒、文明国と非文明国、債権国と債務国。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 8 回	21 世紀の「歴史の危機」③ 国際収支発展段階	対外純債権と所得収支の関係。債権国の定義とは。債権国が債務国を支配する。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 9 回	21 世紀の「歴史の危機」④ GAF A と米国の絶望死とサハラ砂漠以南での児童労働	アダム・スミスの「共感」は 21 世紀も通用しているか。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 10 回	米中新冷戦の背景	帝国と覇権国の違い。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 11 回	国民国家と帝国	インターナショナル化とグローバル化。 『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節と第 2 章第 1 節
第 12 回	債権国と債務国—所得収支と対外純資産の関係	米国と中国のねじれ現象。2030 年代に米中で所得収支が逆転する可能性はありのか。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 13 回	公式の帝国と非公式の帝国	「帝国主義に免疫性のある社会経済構成体などは皆無」(リヒトハイム)。 『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 14 回	まとめ	春学期全体のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジメ (授業支援システムに掲載) を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト (教科書)】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、春学期の授業は下記の本の序章と 1 章を中心に進める。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末試験 (感染状況次第では期末レポート) 60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価 (リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択)

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。
内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Students are graded by attendance (40%) and the Term-end examination (60%).

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：利子と資本Ⅱ

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には秋学期の経済学 LB ではグローバリゼーションの功罪について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

なお、春学期ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象などについて学ぶことができる。

春学期と秋学期を通じて履修することで、ゼロ金利とグローバリゼーションがいかに密接に絡み合っていることが理解できる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバリゼーションが経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、2016 年にトランプ大統領が誕生し、その後バイデン大統領がトランプに勝利したことでグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に着けることができる。

春学期の「経済学 LA」と合わせて受講することで、秋学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業を行う（ただし大学の方針に従う）。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答することで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』（東洋経済新報社、水野和夫、2022 年）の第 2 章「グローバリゼーションと帝国」、第 3 章「利子と資本」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の全体の流れを説明	利子、貨幣、資本、グローバリゼーションの概念を考える

第 2 回 貨幣と資本の関係

元手（貨幣 G）が商品（W）に投資され、増加した貨幣（G'）となる。このプロセスを永続的に繰り返すことで貨幣は資本となる。

W~W' の過程、W の増加が経済成長であり、G~G' にお

ける G の増加が利潤、従来パラレルに動いていた W の増加と G の増加がグローバリゼーションによって崩壊

第 3 回 イコンとコインの関係

イコン（硬貨）とは、政治的ないし美的意味を備えた刻印と、経済的に価値のある材料との結合、資本という概念を最初

に作り出したのは利潤を美的に表す抽象概念、近代社会になると貨幣が容易に神の座へ、

聖書に代わって「私的な利益こそ、すべての人間を導く主」へ

第 4 回 資本の二つの機能

唯物論者の資本 vs. 資金主義者の資本、生産能力としての資本 vs. 内部留保金

第 5 回 リアルエコノミー vs. シンボリックエコノミー

資本移動、為替レート、金融というシンボリックエコノミーが、財・サービスの流れというリアルエコノミーにかわって、しかもこの

実物経済からほとんど独立して、世界経済のペースメーカーへ、

シンボリックエコノミーがリアルエコノミーを圧倒するようになったのは、財政赤字や雇用などの国内問題の是正に取り組むことを放棄した結果

第 6 回 不平等が殺人を犯している（OXFAM レポート）

不平等が原因で少なくとも 4 秒に一人が亡くなっている。その一方で、ビリオネア（2660 人）は

コロナ禍で純資産を増やした、民主主義の危機と国家主義の台頭社会の経済的進歩（資本の増大、人口増、生産技術の進歩）の先の社会を考える、

第 7 回 ミルの定常状態

第 8 回 グローバリゼーションの起源—中世が呼び寄せた資本主義、

13 世紀の数量革命と都市化、インターナショナルイゼーションよりも起源は古いグローバリゼーション—「住まいはせまくとも、思いは広し」（『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節）、

東方貿易、胡椒、金持ちの誕生（『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節）

第 9 回 21 世紀のグローバリゼーションと近代システム—近代と機械化—進歩とは

近代は持続性を欠き、かつ矛盾に満ちたシステム（『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節）、あらゆるものを機械（マシン、メカニズム）に見立てる近代社会（『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節）

第 10 回 グローバリゼーションの定義とイデオロギー—性—GAF A はマモンか

「グローバリゼーションは 21 世紀の妖怪である」（『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節）、海賊ドレイク（イギリスの資本家第 1 号）vs.GAF A（『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節）

第 11 回	帝国とは－支配と被支配の関係、所有権と国際収支発展段階説	国民国家における私的所有権と国際関係における「全世界の債権者」(『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節) ラ・フォンテーヌ「財産を失った守銭奴」、ジョン・ロック『統治二論』、トルストイ「ホルストメー」(『次なる 100 年』の「終章」)
第 12 回	グローバリゼーションの暴力性	「ショック・ドクトリン」(惨事便乗型資本主義)、パンデミック、「絶望死」、エレファントカーブ、(Oxfam レポート) (『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 13 回	日米の IS バランス－投資の日本と消費の米国	1985 年のプラザ合意と 1995 年の「強いドル」政策、弾けさせるためにつくられるバブル (『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 14 回	まとめ	春学期・秋学期のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、秋学期の授業は下記の本の 2 章を中心に進める。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末レポート (感染状況次第では期末レポート) 60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価 (リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択)

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学 I、経済学 II を履修している必要はない。

内閣府 (内閣府大臣官房審議官) および内閣官房 (内閣審議官) での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Students are graded by attendance attitude (40%) and the Term-end examination (60%).

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業（対面授業）に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツツび、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017年度以降入学者**梁 禮先**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

総合評価の成績によります（100%）。60 点以上が合格です。（詳細は、平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%。）また、三分の一以上の欠席時は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業（対面授業）に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツツび、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams: and in class contribution: 30 %.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30 %.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A 2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者 (日本人) は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどのようなものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「カタカナ」について	分析の材料として「カタカナ」を取り上げます

9	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
10	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
11	「丁寧体と普通体」について	分析の材料として「丁寧体と普通体」を取り上げます
12	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
13	「外国の人の日本語」について	分析の材料として「外国の人の日本語」について取り上げます
14	授業内試験	以上 13 回分の内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

野田尚史・野田晴美 (2017) 『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANj300LA

日本語コミュニケーション B 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者(日本人)は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけて出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話

6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について i	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について ii	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のこま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のこま切れ発話」について i	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のこま切れ発話」について ii	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍的上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本の言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之(2019)『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 点、課題 30 点(含発表のパフォーマンス)、試験の得点 50 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LIT300LA

漢字・漢文学A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰

第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み

第10回 夢と恋愛文学

- ・夢での逢瀬
- ・恋愛成就の神
- ・夫婦の別離と再会

第11回 夢の世界の冒険

- ・怪異との接触
- ・儂い栄達
- ・動物への変身

第12回 他人と共有された夢

- ・「二人同夢」
- ・危機の通達
- ・夢での邂逅

第13回 日本における夢

- ・他人が見る夢
- ・日本文学における夢

第14回 まとめ

- 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intend to talk about the stories of Japanese dreams.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。

第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。

第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文）30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 自分の書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。
後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら作品のテーマを決める。
第 3 回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第 4 回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第 5 回	小説の設定	時間と場所の設定について考える。
第 6 回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第 7 回	小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (2)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (4)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。

- | | | |
|--------|----------|-----------------------------------------------------|
| 第 11 回 | ブラッシュアップ | 最終原稿（それまで書いたものと合わせて 8,000 字程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。 |
| 第 12 回 | 講評 1 | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 13 回 | 講評 2 | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 14 回 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）
ステイーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013 年）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30 %)、学期末までに完成させた小説 (50 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。
原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決めます。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書きます。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら、作品のテーマを決める。
第 3 回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第 4 回	時間と場所の移動	物語における時間と場所の設定について考える。
第 5 回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第 6 回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第 7 回	天気、名前、リスト	物語の詳細について考える。自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (1)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (2)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	ブラッシュアップ	最終原稿 (8,000 程度) の提出に向けて小説をブラッシュアップする。

- | | | |
|--------|--------|-----------------|
| 第 12 回 | 講評 (1) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 13 回 | 講評 (2) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 14 回 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）

ステイーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013 年）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30%)、学期末までに完成させた小説 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要な基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能 (時代・ジャンルは問いません) について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏝馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について

第 8 回 受講生による発表・討論 グループ A の発表

第 9 回 受講生による発表・討論 グループ B の発表

第 10 回 受講生による発表・討論 グループ C の発表

第 11 回 受講生による発表・討論 グループ D の発表

第 12 回 受講生による発表・討論 グループ E の発表

第 13 回 受講生による発表・討論 グループ F の発表

第 14 回 まとめ 春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進みますので、当科目受講希望者も、春学期「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能(時代・ジャンルは問いません)について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

[参考] これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「面能について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について

第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論 A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊の技術についての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊 (16～17 世紀)	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類 (バレエ・コミック、他)、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ (18～19 世紀)	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ (19 世紀)	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ (19 世紀)	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ (19～20 世紀)	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19 世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス

11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス (1)	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス (2)	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート 50 % : 舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇 (1)	原始社会から古代文明における演劇の発生、アISKYLOS、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇 (2)	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響について
5	エリザベス時代演劇 (1)	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇 (2)	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフェンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇 (1)	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チャーホフについて
11	近代演劇 (2)	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇 (1)	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇 (2)	アメリカのリアリズム演劇について

14 講義のまとめ 秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

<p>ART300LA 美術論 A 稲垣 立男 開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 3/Wed.3 単位数：2 単位 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉</p>	<p>2017 年度以降入学者</p>	<p>4/26 中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術</p> <p>5/10 近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術</p> <p>5/17 ワークショップ 1</p> <p>5/24 近代美術 1 新古典主義、ロマン主義、写実主義</p> <p>5/31 近代美術 2 印象派、新印象派、ポスト印象派</p> <p>6/7 ワークショップ 2</p> <p>6/14 近代美術 3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー</p> <p>6/21 近代美術 4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・ステイル、バウハウス、ロシア構成主義</p> <p>6/28 ワークショップ 3</p> <p>7/5 現代美術 1 レトリズム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオダダ、ポップアート</p> <p>ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。</p> <p>ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。</p> <p>単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ</p> <p>古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義について学びます。</p> <p>写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。</p> <p>単元の復習・近代美術 1、近代美術 2 ワークショップ・デッサンの手法 印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。</p> <p>ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。</p> <p>単元の復習・近代美術 3、近代美術 4 ワークショップ・シュルレアリスムの実験</p> <p>第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、スーパー・リアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。</p>
<p>【授業の概要と目的（何を学ぶか）】</p>		
<p>2023 年度の美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。</p>		
<p>特に</p>		
<p>・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論 ・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論） について段階的に幅広く学んでいきます。</p>		
<p>以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）</p>		
<p>・古代美術、中世美術、近世美術 ・近代美術 ・現代美術</p>		
<p>また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。</p>		
<p>【到達目標】</p>		
<p>西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。</p>		
<p>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】</p>		
<p>各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1</p>		
<p>【授業の進め方と方法】</p>		
<p>基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。</p>		
<p>資料</p>		
<p>授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。</p>		
<p>課題</p>		
<p>受講後 Google Form で課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。</p>		
<p>評価</p>		
<p>課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。</p>		
<p>質問・相談</p>		
<p>一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。</p>		
<p>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes</p>		
<p>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes</p>		
<p>【授業計画】 授業形態：対面/face to face</p>		
<p>回</p>	<p>テーマ 内容</p>	
<p>4/12</p>	<p>オリエンテーション 授業の概要</p>	
<p>4/19</p>	<p>古代美術 美術史の学び方</p>	
<p>原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術</p>	<p>文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。</p>	

- 7/12 現代美術 2
ミニマルアート、コンセプチュアルアート、新表現主義、YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート
- 1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
- 7/19 ワークショップ 4
単元の復習・現代美術 1、現代美術 2
ワークショップ「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
 これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

- ・原始・古代美術
- ・中世美術、近世美術
- ・近代美術
- ・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。

対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後、Google Form で課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。
10/4	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。

10/11	ワークショップ (1) 単元の復習・原始美術、古代美術	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。
10/25	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。
11/8	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術	プレゼンテーションとディスカッション
11/15	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
11/22	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房、もの派	第二次世界大戦の終戦後の 1950 年代に実験工房、具体美術協会、続いてアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房が 1960 年代にはもの派など新しい芸術運動が始まります。
11/29	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	1960-1980 年代 もの派以降、インスタレーション・パフォーマンス	1960 年代から 1970 年代にの美術に大きな影響力を持ったもの派以後について学びます。1980 年代には若いアーティストがインスタレーション・パフォーマンスによる制作を試みました。
12/13	1990-2020 年代 1990 年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010 年以降	1990 年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
12/20	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020 年代	プレゼンテーションとディスカッション
1/10	ディスカッション	授業全体を振り返り、ディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019 年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016 年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (50 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画 (サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる) の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppii を通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは hoppii および講義を通じて行う。

初回に選抜テスト (上映するシーンの分析) を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 アルフレッド・ヒッチコック
8	列車に乗る 2	黒沢明 ホウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	アルフレッド・ヒッチコック 濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ ジャン＝リュック・ゴダール
11	壁の向うを聴く	フリッツ・ラング ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック 周防正行
13	鏡を見る	オーソン・ウェルズ 吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 % (ただしレポートを提出しなければ E 評価とする)。

平常点は単に出席したことだけでなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（50 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、都市や自然の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につけ、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、指定した映画断片についてのコメントを hoppii を通して毎回提出してもらう。フィードバックは hoppii および講義を通じて行う。初回に、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	キング・ヴィダー フリッツ・ラング
3	迷宮都市	ジャック・タチ ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	F・W・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 宮崎駿
10	水の宇宙	ジャン＝リュック・ゴダール アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン グル・ダッド
12	動物	ロバート・フラハティ 濱口竜介

13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間 A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4 つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 【はじめての説法】

第 7 回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察

第 8 回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリング王経

第 9 回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉

第 10 回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』
第 11 回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』
「慈しみ」他

第 12 回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すバーラドヴァージャ」
他

第 13 回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い

第 14 回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことと思います。先入見を持たずに、原典（和訳）資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy. The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 (本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5 回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用）
第 6 回	仏教の世界観	心作用の区分け（6 心所） 『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苳経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苳経』・『稲苳経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道
第 13 回	大乘仏教（7）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 2 仏陀・経典の権威について
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的な世界観』、Dojin 選書、2013 年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996 年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。
 授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。
 試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには伝わっていない後期中観思想を初めて学び、その思想（人生観等）に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」から履修することを強く推奨します。
 また、第 1 回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第 1 回授業から参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.
 The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.
 By the end of the course, students should be able to understand the followings:
 1. SarvAstivAdin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
 2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
 3. Dharmakirti's and later MAdhyamika position on scriptural authority.
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していく。その際に、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023年度は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な哲学者・思想家の思想を考察する。特に、春学期は「入門」として、現代の思想状況がどのような過去の遺産・資産によって成り立っているかを、思想史の文脈からアプローチする。その際の手引きとして、千葉雅也先生（立命館大学准教授）の『現代思想入門』（2015）を手引きとしながら、同書の千葉先生の問い・「今なぜ現代思想か」を皆さんと一緒に考えていく。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ（フランス）現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が30名以上はじめて「今なぜ現代思想か？」 ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	第一章 デリダ——概念の脱構築 (1)	・ポスト構造主義とポストモダン ・独特なデリダのスタイル
3	第一章 デリダ——概念の脱構築 (2)	・パロールとエクリチュール ・脱構築
4	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (1)	・ドゥルーズの時代 ・差異は同一性に先立つ
5	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (2)	・家族の物語ではなく、多様な実践へ ・管理社会批判
6	第三章 フーコー——社会の脱構築 (1)	・権力の二項対立を揺さぶる ・権力のあり方
7	第三章 フーコー——社会の脱構築 (2)	・規律訓練 ・生政治
8	現代思想の源流 (1) ——ニーチェ	・ニーチェ——ディオニソスとアポロン

- 9 現代思想の源流 (2) ——フロイト——無意識の発見
——フロイト
- 10 現代思想の源流 (3) ——マルクス——力と経済
——マルクス
- 11 精神分析と現代思想——主体化と享楽
——ラカン (1) ・去勢とは何か
- 12 精神分析と現代思想——現実界、捉えられない「本当のもの」
——ラカン (2) ・もの
- 13 現代思想の作り方 (1) ・現代思想家になるために
- 14 まとめ ・21世紀の現代思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉雅也『現代思想入門』（講談社現代新書、2022年）
※各自でテキストを用意すること。

【参考書】

久米博『ワードマップ 現代フランス哲学』（新曜社、1998年）
川口茂雄『現代フランス哲学入門』（ミネルヴァ書房、2020年）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（50%）（レジュメを作成し、発表すること）
- (2) 期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

- (1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"
- (2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.
- (2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

- (1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)
- (2) Final report (50%)

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、春学期同一科目の「教養ゼミⅠ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していくため、春学期の授業に参加していることが望ましい。

秋学期では、テーマに即した思想家のオリジナルテキストも視野に入れて、テーマに関する研究書を精読することを中心とする。また、オリジナルテキストを読むことによって、思想家の思考を学び、さらに自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023年は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な思想家の思想を考察する。特に、秋学期は「応用」として、春学期の「入門編」で基礎固めした現代思想の流れを詳細に追跡していきながら、「入門」で学んだ思想家のオリジナルテキストを読んでいく。その際に、石田英敬先生（東京大学名誉教授）の『現代思想の教科書—世界を考える知の地平 15章』（2010）を手引きとしながら、フランス現代思想を牽引してきた思想家の思考を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ（フランス）現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	①選抜試験（受講生が30名以上の場合） ②授業の概要・資料の配布
第2回	「現代思想とは何か」(1)	・「現代思想とは何か？」 ・四つの「ポスト状況」
第3回	「言語の世紀」の問い——ソシュールをめぐる	・記号とコミュニケーションの理論 ・ソシュール革命
第4回	記号とイメージの世界——パースの記号論	・記号解釈と記号分類 ・普遍記号論の思想
第5回	無意識の問い——「フロイトの発見」以後	・「無意識の発見」 ・理性と非-理性
第6回	文化の意味——レヴィ＝ストロース「構造主義革命」以後	・構造主義とは何か？ ・構造主義の文化理解

- 第7回 「欲望とは何か？」——ラカン「欲望と主体」
・欲望と意味
・欲望と他者
- 第8回 「権力と身体」——フーコー「権力と主体化」
・権力とディシプリン
・規律型社会とコントロール型社会
- 第9回 「社会とは何か」——ブルデュー「象徴闘争と社会場」
・階級と象徴支配
・「ハビトゥス」と「場」
- 第10回 情報とメディアの思想——マクルーハン「メディアはメッセージ」
・メディアとは何か
・メディアの文明圏
- 第11回 「戦争について」——戦争はなぜ終わらないか
・「戦争」とは何か
・世界戦争と現代思想
- 第12回 「宗教について」——宗教の回帰について
・回帰する宗教
・宗教とは何か？
- 第13回 ナショナリズムと国家——ナショナリズムを克服する
・国民国家の問題
・ポスト・コロニアリズムの思想
- 第14回 差異と同一性の共生原理——ジェンダー、マインオリティ、クレオール、マルチチユード
・現代思想と実践
・現代思想はいかに世界を変革したか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』、ちくま学芸文庫、2010年
※ 思想家のオリジナルテキストについては、こちらでそのつど用意する。

【参考書】

石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』、ちくま学芸文庫、2020年
※ その他の参考書については、授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（50%）（レジュメを作成し、発表すること）
- (2) 期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

- (1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"
- (2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.
- (2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

- (1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)
- (2) Final report (50%)

HIS300LA

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んできること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について知識を修得し、比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設について、理解を深める。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廢仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版社、1985 年）
林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
追塩千尋『国分寺の中世的展開』（吉川弘文館、1996 年）
勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of social services by Buddhism in ancient Japan and the Tang Dynasty.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How Buddhism of the Japanese ancient was related to social welfare, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略や米中関係が変化する一方、米軍基地は日本政府の都合で沖縄に押し付けられ、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史の経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室を使用し、リアルタイムで受講する授業形式を基本とします。授業では「Zoom」を併用することで、市ヶ谷キャンパス以外の学生など教室受講が出来ない受講生の履修にも配慮します。毎回の授業後に感想や質問などをまとめたリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史(1)	NHKの番組を参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史(2)	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体のみとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』高文研、2023年

【参考書】

- ・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行 <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50%）
期末レポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史 B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia and U.S.-China relations are changing, the US military bases are being imposed on Okinawa at the convenience of the Japan government, and the deployment of the Self-Defense Forces is progressing in the name of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

【Learning Objectives】

Students will:

- Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.
- Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.
- Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.
- Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア太平洋には多くの島嶼・島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第 2 回	「琉球処分」－東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第 3 回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第 4 回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第 5 回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第 6 回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。

第 7 回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第 8 回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題について議論します。
第 9 回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第 10 回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第 11 回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第 12 回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第 13 回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第 14 回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目－沖縄、占領の今－』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす－記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（40%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門によって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、Eメール：mizakiko@tsuda.ac.jp 宛にご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 40%、Short presentation for the
research report: 20%、comments to fill in every class: 40%

HIS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住んでおり、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第1章：地域史 (大阪市鶴橋・猪飼野) 日本最大のコリアンタウン	学生によるテキストの報告、映像
4	第1章：地域史 (京都市東九条、神戸市長田) 一緒に生きる町づくり、震災を乗り越えた町	学生によるテキストの報告、映像
5	映像視聴	映像と討論
6	第1章：地域史 (下関、岸和田、広島、柳本) 歴史が刻まれた風景	学生によるテキストの報告、映像
7	第2章：個人史 (君が代の記憶、被爆と民族差別)	学生によるテキストの報告、映像
8	資料館見学	資料館見学
9	第2章：個人史 (二つの国にまたがって生きて)	学生によるテキストの報告、映像

10	第2章：個人史 (日本籍在日コリアン二世)	学生によるテキストの報告、映像
11	映像視聴	映像と討論
12	第2章：個人史 (民族教育を守り続けて)	学生によるテキストの報告、映像
13	第3章：家族史 (写真から学ぶファミリーヒストリー)	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

在日コリアン青年連合編著『在日コリアンの歴史を歩く』(彩流社) 2100 円+税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住み、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本にきたのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第 2 回	クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第 3 回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第 4 回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo 運動	90 年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第 5 回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第 6 回	日本における LGBTQ 運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第 7 回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第 8 回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第 9 回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。

第 10 回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第 11 回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第 12 回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 13 回	クィアな空間	クィア映画祭について考える。映画『Queer Japan』について考える。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題 (リアクション・ペーパー、レポート) 対応など、準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

- 岩淵功一 (編) 『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』 (青弓社年、2021 年)
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子 (編) 『クィア・スタディーズをひらく 1』 (晃洋書房、2019 年)
 清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 (文春新書、2022 年)
 新ヶ江章友 『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ (クィア・スタディーズ) のために』 (花伝社、2022 年)
 森山至貴 『LGBT を読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 (ちくま新書、2017 年)
 トッド・マシュー 『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』 (原書房、2022 年)

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%
 中間レポート 35% (800-1,200 文字程度)
 学期末レポート 45 % (2,000 文字程度)
 2 つの小レポートの提出が必要です。レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。
 毎回出欠を取ります。4 回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
 15 分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。
 授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 20%

Mid-term essay (800-1200 characters): 35%

Final essay (1000-1500 characters): 45%

GDR300LA

クィア・スタディーズ B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について復習する。
第 2 回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第 3 回	性暴力	#MeToo 運動と文学の関係について講義する。
第 4 回	性暴力と文学	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第 5 回	文学とミソジニー	松田青子『持続可能な魂の利用』を取り上げる。
第 6 回	表象分析実践 1	松田青子「物語」(『男の子になりたかった女の子になりたかった女の子』に収録)を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート(1)を提出する。
第 7 回	文学と身体	文学作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 8 回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 9 回	ゲイ解放運動	映画における LGBT 運動の表象について考える。
第 10 回	男性性	ヘゲモニックな男性性について考える。
第 11 回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ!』を取り上げる。

第 12 回 表象分析実践 2

『きのう何食べた?』(漫画と映画)と『作りたい女と食べたい女』(漫画とドラマ)についてグループでディスカッションを行う。小レポート(2)を提出する。

第 13 回 カミングアウトとアウトティング

映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて講義する。

第 14 回 まとめ

まとめを行う。小レポート(3)を提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題(リアクション・ペーパー、レポート)対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』(晃洋書房、2021年)
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』(晃洋書房、2016年)
 新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』(花伝社、2022年)
 森山至貴『LGBT を読みとく クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房、2017年)
 マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ 運動の歴史』(原書房、2022年)

Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 10%

小レポート(1):松田青子「物語」について的小レポート(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(2):『きのう何食べた?』や『作りたい女と食べたい女』について的小レポート(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(3) 授業に取り上げられた具体的な作品を分析した小レポート(2,000文字程度) 40%

3つの小レポートの提出が必要です。小レポートについて授業内で詳しく説明します。

毎回出欠を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, and comics, while reviewing what we learned in Queer Studies A, held during the spring semester.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
- b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。春期授業 (キリスト教思想史 A) は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第 2 回	第 1 章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第 3 回	第 2 章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 1 章と第 2 章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 5 回	第 3 章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第 6 回	第 4 章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第 7 回	第 5 章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。

第 8 回	第 6 章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第 9 回	グループワークと質疑応答	第 3 章から第 6 章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 10 回	第 7 章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第 11 回	第 8 章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第 12 回	第 9 章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第 13 回	第 10 章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第 14 回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム一』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019 年、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を 50%、②を 50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなくても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じる) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業 (キリスト教思想史 B) は、ルネサンスと宗教改革から現代の宗教的状况までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。なお、第 11 回から第 13 回講義については、教員がテキストを PDF 文書で配布します。受講生は Hoppii からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第 2 回	第 11 章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』などについて学びます。
第 3 回	第 12 章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 11 章と第 12 章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 5 回	第 13 章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタント主義の歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第 6 回	第 14 章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第 7 回	第 15 章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第 8 回	第 16 章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第 9 回	第 17 章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第 10 回	グループワークと質疑応答	第 13 章から第 17 章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 11 回	人間学の時代	シュラー、マルセル、ティリッヒの文化神学、社会倫理学の発展を説明します。
第 12 回	現代の宗教的状况 (1)	世俗化と無神論の時代、エキュメニカル運動について学びます。
第 13 回	現代の宗教的状况 (2)	第二ヴァチカン会議、新たな目標について解説します。
第 14 回	グループワークと質疑応答	第 11 回から第 13 回講義までの内容について、グループワークと質疑応答を行うほか、秋期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史—理性と信仰のダイナミズム—』筑摩選書、2021 年、ISBN-13 : 978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019 年、ISBN-13 : 978-4163909455、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を 50%、②を 50% として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなくても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 単位数：2 単位
 定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1～3 回目は、講義形式。第 14 回目は期末試験を行う。
- ・第 4～13 回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第 4 回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつもの色があるのか。太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	日本語と外国語①	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語（ネオロジー）

第 8 回	日本語と外国語②	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第 9 回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
 G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
 R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
発表	30%
期末試験	40%

・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：y7u3zjb
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 11 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。

【Outline (in English)】
 (Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・無言の共通理解を前提にコミュニケーションを行う高コンテキスト文化と、言語的に明確にされた情報のみを基本とする低コンテキストコミュニケーション文化について、その世界観や認知的な差異を含めて論ずる。 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターンテ-キングとパラ言語	会話場面において、発話のターンを取ること（＝ターンテキング）における文化差や特徴について。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、言語情報のうちの周辺的な情報であるパラ言語（周辺言語/準言語）について、基本的知識と文化的な特徴を扱う
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスについての知識を深める。ポライトネス理論の基本的な概念を概観し、文化によってどのような才や特徴があるかを観察する。
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	第5回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・文化によって異なる「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度などを取り上げる。また、自己紹介場面に限らず行われる「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係にどのような影響力を持つかを考え、さらにそこに表れる文化的特徴についても考える。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について扱う。また、視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトについて、文化による差異を考える。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャーについて、危険な物、あるいはコミュニケーションを円滑にするものとしての具体例を見ながら検討する。また、タッチングについても、文化圏や性別、年齢、人間関係によってどのように変化するかを考える。
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差を扱う。また実際に対人距離がコミュニケーションに与える影響について考える。
第11回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・地域、時代、個人によって異なる時間感覚、また同じ個人でも場面によって時間の取り扱い方について具体的な例を見つつ、E. ホールのモノクロニック・タイム、ポリクロニックタイムの概念を確認する。
第12回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第13回	異文化コミュニケーション・スキル	・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー

池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ

八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣

E. ホール 『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %

リアクションペーパー 15 %

発表 30 %

期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

・最新情報を Hoppii で確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	清水紫琴の試み「こわれ指環」を中心に	女性の言文一致 グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉①「十三夜」	「空白」を読む グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉②「わかれ道」	女性の「出世」とは グループワークによる意見交換
対面授業	一葉の同時代作家・田澤稲舟の「しろばら」	明治期の性被害 グループワークによる意見交換

対面授業	『青鞥』の世界 平塚らいてう・伊藤野枝を中心に	大正期における女性の課題 グループワークによる意見交換 少々ドラマ鑑賞
対面授業	田村俊子①「生血」	新しい自我の覚醒 グループワークによる意見交換
対面授業	田村俊子②「枸杞の実の誘惑」	少女の性を考える グループワークによる意見交換
対面授業	素木しず「三十三の死」	女性の「障がい」 グループワークによる意見交換
対面授業	尾崎みどり「歩行」	「女性文学」のモダニズム グループワークによる意見交換 少々映画鑑賞
対面授業	グループ発表のための準備 グループディスカッション	作品を選んでグループワーク レジュメの作成
対面授業	グループ発表	互いの意見に耳を傾ける
対面授業	一葉記念館へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

樋口一葉の対象作品は全集等で読めるので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、その他の入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在—貧困・労働・格差』（2016・4、菁柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全 12 巻（矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が 50 %、期末レポートが 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から150年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治20年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った経緯を女性史や文学史の内側を参照しながら追求し、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	佐多稲子『くれない』	戦時下の女性の生活や軍事協力に関する映像を見る
対面授業	吉本ばなな『キッチン』①	戦争の時代における女性の「二重労働」を考える 意見交換 新たな家族像について考える 意見交換 映像作品を見る

対面授業 吉本ばなな『キッチン』② 報告者による報告と討議

対面授業 江國香織『きらきらひかる』① 性概念の再構築について考える
映像作品を見る

対面授業 江國香織『きらきらひかる』② 報告者による報告と討議

対面授業 小山田浩子『穴』 現代の〈家〉と女性について考える

対面授業 村田沙耶香『信仰』 報告者による報告と討議
現代における「信仰」の意味を考える①

対面授業 村田沙耶香「無」（『絶縁』） 報告者による報告と討議
現代における「信仰」の意味を考える②

対面授業 宇佐見りん『推し燃ゆ』 報告者による報告と討議
「推し」の内実について考える

対面授業 川上未映子「青かける青」（『春のこわいもの』） 報告者による報告と討議
閉塞感と文学について考える

対面授業 高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』 「職場」と文学について考える
報告者による報告と討議

対面授業 羽仁もと子が創立した自由学園を見学する 近代日本における「教育」を考える

対面授業 授業のまとめ 質問への対応

対面授業 春秋学期を通じた振り返り

対面授業 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

どれも入手しやすい作品なので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、青柿堂）、『[新編]日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前のできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA

イギリスと帝国A

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
- ・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学ぶ。
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。
第14回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
- 2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20 世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では 20 世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】

- ・ 20 世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・ 現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国 A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	世紀転換期のイギリス帝国	19～20 世紀転換期のイギリスと帝国について学ぶ。
第 3 回	南アフリカ戦争の時代	南アフリカ戦争がイギリスと帝国に与えたインパクトを学ぶ。
第 4 回	第一次世界大戦とイギリス帝国①	第一次世界大戦期のイギリスについて学ぶ。
第 5 回	第一次世界大戦とイギリス帝国②	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第 6 回	中東のイギリス帝国	戦間期中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第 8 回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第 9 回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第 10 回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第 11 回	帝国のほころび	20 世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第 12 回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。

第 14 回 授業内試験

期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%

・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.

2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

LANj300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・自分自身が身につけている言語観、教育観、学習スタイルをふりかえり、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】

- (1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
- (2) 日本語や日本社会を日本語教育の視点で、客観的に捉えることができる。
- (3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第 2 回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第 3 回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第 4 回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 5 回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 6 回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について、国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第 7 回	初級の文型の導入とドリル	初級学習者に日本語を教える場合、どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第 8 回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに、コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第 9 回	教授法について	どんな教授法があるかや、歴史の変遷や理論、特色ある指導法などについて学ぶ。

- | | | |
|--------|----------------------------|--------------------------------------------------|
| 第 10 回 | 教室活動と授業計画の立て方 | 現場でどのような教室活動が行われているか、また、1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。 |
| 第 11 回 | 各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア | 東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。 |
| 第 12 回 | 各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米 | オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。 |
| 第 13 回 | 各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ | ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。 |
| 第 14 回 | 討論・議論（授業内の期末試験実施の可能性あり） | これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望 (1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店
 縫部義憲 (1991)『日本語教育学入門』創拓社
 石田敏子 (1998)『日本語教授法』大修館書店
 高見澤孟 (2004)『新・はじめての日本語教育 2・日本語教授法入門』アスク
 川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)

発表のパフォーマンス (25%)

受講態度（議論への積極的参加など）(20%)

課題提出 (15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.

【Learning Objectives】

After completing this course, students will be able to:

- (1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.
- (2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.
- (3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

- ・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。
- ・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】

- (1) 外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ、そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。
- (2) 学習者に合ったカリキュラム設定を行い、具体的な授業計画を立て、教材選定、教材作成ができる。
- (3) 日本語の授業で、文法の導入・説明を適切に行い、定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第 2 回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第 3 回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第 4 回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第 5 回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに、タスク中心の指導法について理解する。
第 6 回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第 7 回	作文指導	作文、ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第 8 回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第 9 回	会話やスピーチの指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。

- 第 10 回 視聴覚教材の使い方 視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
- 第 11 回 作成教材を用いた模擬授業① 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
- 第 12 回 作成教材を用いた模擬授業② 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
- 第 13 回 作成教材を用いた模擬授業③ 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
- 第 14 回 討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり） これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

- 田中望 (1988) 『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店
- 縫部義憲 (1991) 『日本語教育学入門』創拓社
- 石田敏子 (1998) 『日本語教授法』大修館書店
- 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育 2・日本語教授法入門』アスク
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 (40%)
- 発表のパフォーマンス (25%)
- 受講態度 (議論への積極的参加など) (20%)
- 課題提出 (15%)
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】
This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.

【Learning Objectives】

- (1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.
- (2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.
- (3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LAW300LA

法哲学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（25名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	法哲学の基本的視点	現代日本の格差について
第4回	法哲学理論の基礎	自由と平等の関係について
第5回	ドーピングは禁止すべきか？（1）	ドーピングをめぐる現状について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？（2）	ドーピングと個人の自由について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？（3）	卓越主義と中立性原理について
第8回	臓器売買は許されるべきか？（1）	臓器売買規制の現状について
第9回	臓器売買は許されるべきか？（2）	自分の身体に対する所有権について
第10回	臓器売買は許されるべきか？（3）	自己所有権の限界について

- 第11回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか？（1） 同性婚に関する法制度の現状について
- 第12回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか？（2） 婚姻制度の目的について
- 第13回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか？（3） 「婚姻の私事化」について
- 第14回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか？（4） 婚姻の法制度化の意義について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は25人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法哲学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（25名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員制度の正当化根拠について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	国民と司法の関係について
第6回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第7回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の公平性について
第8回	児童手当は独身者差別か？（3）	法制度の中立性に関する理論について
第9回	児童手当は独身者差別か？（4）	子育て支援制度の根拠について

第10回	相続制度は廃止すべきか？（1）	相続制度の現状について
第11回	相続制度は廃止すべきか？（2）	相続制度の根拠について
第12回	相続制度は廃止すべきか？（3）	相続制度廃止論について
第13回	相続制度は廃止すべきか？（4）	個人の権利と相続の関係について
第14回	理論的整理	リベラリズムとリバタリアニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は25人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」をあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

坂根 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本教養ゼミ I（囲碁で培う戦略的思考）は、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に付けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初學者用の基盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に付けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表の実施などが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初學者用の基盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数及び授業実施に利用可能なリソース・ツールの有無等により修正・変更されることがある。なお、囲碁研究会からも本ゼミへの協力が想定されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第 2 回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第 3 回	囲碁の基本ルールと効果的な時間外学習方法の紹介	囲碁の基本ルールの説明と本ゼミの効果的な時間外学習の紹介
第 4 回	6 路盤による学習の基本	6 路盤による学習の基本についての説明
第 5 回	6 路盤による学習・実践等 1	6 路盤による学習・実践の開始
第 6 回	6 路盤による学習・実践等 2	6 路盤による学習・実践の継続
第 7 回	6 路盤による学習・実践等 3	6 路盤による学習・実践の継続とまとめ
第 8 回	9 路盤による学習の基本 1	9 路盤による学習の基本についての説明の開始
第 9 回	9 路盤による学習の基本 2	9 路盤による学習の基本についての説明の継続
第 10 回	9 路盤による学習・実践等 1	9 路盤による学習・実践の開始
第 11 回	9 路盤による学習・実践等 2	9 路盤による学習・実践の継続

第 12 回 9 路盤による学習・実践等 3

第 13 回 9 路盤による学習・実践の継続とまとめ
9 路盤による学習・実践の継続とまとめ

第 14 回 9 路盤による学習・実践の継続とまとめ
9 路盤による学習・実践の継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。出された課題の準備・実施や教科書（及び参考書）などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007 年.

【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014 年.
薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008 年.

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点（70%）と期末プレゼンテーション（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

テキスト（教科書）は各自準備する必要がある。その他、囲碁の実習・教育に伴う一部教材への若干の費用が必要になる予定であり、具体的には初回のガイダンスで説明する。

【その他の重要事項】

囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初學者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。

本科目の定員は 20 名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第 2 回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn the rule and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (70%) and final presentations (30%).

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、それを踏まえて、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。春学期は、春～夏にかけての東京の街の人文地理学的な見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。大学での地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントも授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	靖国神社・皇居を巡検する (身近な東京)
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	市ヶ谷を巡検する (身近な東京)
第 6 回	メディアにみる外濠	プラタモリ「江戸城外濠」を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都中央区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都新宿区・文京区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都港区・品川区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都江東区・墨田区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都台東区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース

第 14 回 街歩きコースの提案⑧ パワーポイントで発表する
まとめ 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻、吉川弘文館

BT12 階の地理学科事務室に備えてあります。必要な箇所をコピーしてください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク (巡検) を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用の資料は Google クラウドで共有します。学習に支障がないように、PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業開始前までに、学習支援システムで仮登録をして、授業に出席してください。履修希望人数を把握し、必要であれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and based on the proposed course, we will discuss human geographical views and perspectives on the region. In the spring semester, students will be asked to find human geographical highlights of the city of Tokyo from spring to summer.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。秋学期は、秋～冬の東京の街の見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。地理学を学ぶ楽しさを体験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントは授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にしてくださいで大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	番町・四ツ谷を巡検する（身近な東京）
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	神楽坂を巡検する（身近な東京）
第 6 回	メディアにみる東京	NHK スペシャル「東京」の特集を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区・中央区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都新宿区・中野区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都渋谷区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都世田谷区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都目黒区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都杉並区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース
第 14 回	街歩きコースの提案⑧	パワーポイントで発表する 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻 吉川弘文館
B T 12 階の地理学教科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用資料などを Google クラウドで共有をします。学習に支障がないように PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業までに、学習支援システムで仮登録をして出席してください。履修希望人数を把握し、必要あれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and we will discuss how to view and think about the region from a human geographical perspective.

In the fall semester, students will be asked to find out the highlights of Tokyo in the fall and winter.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発援助や国際協力に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。文化人類学の基本的な理論や概念の習得を目標とするとともに、開発、貧困、紛争、災害などに関する現代的な諸テーマも取り上げながら、グローバル・イシューにアプローチするための基本的な視座を養います。

【到達目標】

- ・文化人類学、開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・世界の諸地域に暮らす人びとの文化や社会の多様性を認識し、グローバルな問題とローカルな問題のかかわり合いを看取する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	開発援助とは何か①	開発の歴史と関連概念
第 3 回	開発援助とは何か②	開発の理論と人類学者の立ち位置
第 4 回	人類学と開発問題①	（文献の発表・討論）開発人類学の展開
第 5 回	人類学と開発問題②	（文献の発表・討論）文化人類学と開発のつながり／へだたり
第 6 回	開発実践の現場から①	（文献の発表・討論）フィールドワークと現地の視点
第 7 回	開発実践の現場から②	（文献の発表・討論）開発とジェンダー
第 8 回	開発実践の現場から③	（文献の発表・討論）公衆衛生・保健医療
第 9 回	援助と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第 10 回	援助と互酬性②	（文献の発表・討論）グローバルな互酬を構想する
第 11 回	アクターの多層性①	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第 12 回	アクターの多層性②	（文献の発表・討論）宗教者・宗教団体による開発

第 13 回 新たな関係性の構築 （文献の発表・討論）理念と実践の隔たりから考える

第 14 回 総括 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社、2019 年。
関根久雄編『実践と感情—開発人類学の新展開』春風社、2015 年。
佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
小國和子ほか編『支援のフィールドワーク—開発と福祉の現場から』世界思想社、2011 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70 %）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30 %）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the development. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of development, and understand the impacts of development on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

CUA300LA

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第2回	観光の形態	(全員発表) 観光・ツーリズムの諸形態を調べ、履修者全員によるオンライン発表
第3回	観光とは何か	(講義と討論) その歴史と定義をめぐって
第4回	観光と文化	(講義と討論) 観光の現場で創られる文化
第5回	環境と観光	(文献の発表と討論) マスツーリズムの歴史
第6回	ノスタルジアと観光	(文献の発表と討論) 岩手県遠野のふるさと観光
第7回	世界遺産と観光	(文献の発表と討論) 文化の資源化
第8回	まちづくりと観光①	(文献の発表と討論) その可能性と課題
第9回	まちづくりと観光②	(文献の発表と討論) 小江戸・川越の事例

第10回	宗教と観光	(文献の発表と討論) 宗教/聖地ツーリズム
第11回	そのほかの観光①	(文献の発表と討論) ダークツーリズム
第12回	そのほかの観光②	(文献の発表と討論) アニメ聖地巡礼
第13回	そのほかの観光③	(文献の発表と討論) アフターコロナと観光
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

- 山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009年。
 山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012年。
 橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2016年。
 市野澤潤平ほか編『観光人類学のフィールドワーク―ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房、2021年。
 市野澤潤平編『基本概念から学ぶ観光人類学』ナカニシヤ出版、2022年。
 (以上のほか、授業時に適宜紹介します)

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70%）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30%）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学史で有名な著作です。月曜 2 限。

【到達目標】

- ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・ 古典や哲学に興味のある人
- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・ 機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（A4 用紙で 1～2 枚の分量をめぐり）検討していきます。受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100 点
欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学史で有名な著作です。月曜2限。教養ゼミⅠの続きです。

【到達目標】

- ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・古典や哲学に興味のある人
- ・英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（A4用紙で1～2枚の分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

可能であれば、ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点

欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 A（春学期）ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「幸福の再来」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「意識の分析」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「楽しさと生活の質」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「フローの条件」
第 6 回	発表・討論	フローの計測
第 7 回	発表・討論	経験抽出法 (ESM)
第 8 回	発表・討論	第 5 章「身体フロー」
第 9 回	発表・討論	第 6 章「思考のフロー」
第 10 回	発表・討論	第 7 章「フローとしての仕事」
第 11 回	発表・討論	第 8 章「孤独と人間関係の楽しさ」
第 12 回	発表・討論	第 9 章「カオスへの対応」
第 13 回	発表・討論	第 10 章「意味の構成」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』（世界思想社、1996 年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) : 報告・発表およびディスカッション (討論)での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports context, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily life for its applicability.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多様な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 B (秋学期) ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学研究を多角的に学びます。「幸せ」の多面的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で開催予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「ポジティブ心理学とは何か？」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「気持ちよさとポジティブな経験」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「幸せ」
第 6 回	発表・討論	第 5 章「ポジティブ思考」
第 7 回	発表・討論	第 6 章「強みとしての徳性」
第 8 回	発表・討論	第 7 章「価値観」
第 9 回	発表・討論	第 8 章「興味、能力、達成」
第 10 回	発表・討論	第 9 章「ウェルネス」
第 11 回	発表・討論	第 10 章「ポジティブな対人関係」
第 12 回	発表・討論	第 11 章「よい制度」
第 13 回	発表・討論	第 12 章「ポジティブ心理学の未来」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』（春秋社、2012 年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 %) : 報告・発表およびディスカッション (討論) での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and behavior involved in the process.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべてでは確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	沖縄を知るための基礎知識①（担当：大里知子）	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定

14 春学期のまとめ（担当 春学期の振り返りと学期末の課題：大里知子）（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	未定	未定
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	秋学期のまとめ（担当：大里知子）	秋学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 A

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 A では、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EU の経済政治統合（EU 統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中での EU の新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう 1 つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。
後半にグループディスカッションが入ります。
最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	政治と経済 国際体制の変容の理論 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学(アダム・スミス、リカード、J.B セイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19 世紀ガバナンス体制	19 世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開 2	EC から EU へ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生

9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EU ソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭と EU の分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU 民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化と EU 民主主義の危機
13	EU の東欧拡大とウクライナ戦争	EU 統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80 %
課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

新聞講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論 B」では、直面する問題と EU の新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have comprehensive knowledge about the EU and its relation in the world.
- Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 B

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 B では、ヨーロッパ政治経済論 A で学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生じた問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EU の分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EU が地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対する EU の新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

後半にグループディスカッションを行います。

最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論 A のレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移 5 つのフェーズ)
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体 (EC) の形成	戦間期から ECSC、EC 形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり

5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大と EC 機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU 連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU 国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭と EU 内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国の EU 脱退 (BREXIT)	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合 (英国) vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDG s における主導的役割 EU の立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EU の対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%

課題およびディスカッションへの参加 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

新聞講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論 A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA

法の人間学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法制度と人間本性 (1)	もしも法がなかったらどうなるか？
第 3 回	法制度と人間本性 (2)	ホップズの自然状態について
第 4 回	法制度と人間本性 (3)	ロックの自然状態について
第 5 回	法制度と人間本性 (4)	ルソーの自然状態について
第 6 回	死刑制度の是非 (1)	死刑制度の歴史と現状について
第 7 回	死刑制度の是非 (2)	袴田事件について
第 8 回	死刑制度の是非 (3)	死刑制度をめぐる立場の対立について
第 9 回	裁判員制度と死刑 (1)	国民が刑罰を決める意義と問題点について

第 10 回	裁判員制度と死刑 (2)	法制度と個人の生命の関係について
第 11 回	人工妊娠中絶 (1)	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第 12 回	人工妊娠中絶 (2)	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第 13 回	人工妊娠中絶 (3)	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第 14 回	人工妊娠中絶 (4)	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ！』ちくま新書、2022 年
菅野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017 年
塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022 年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80 %、コメント等：20 % の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法の人間学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法と道徳と復興増税 (1)	法と道徳の関係について
第 3 回	法と道徳と復興増税 (2)	「危害のない不道德行為」の規制について
第 4 回	法と道徳と復興増税 (3)	支援の法的義務について
第 5 回	法と道徳と復興増税 (4)	個人の自由と法的強制の関係について
第 6 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (1)	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第 7 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (2)	一夫一婦制の根拠について
第 8 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (3)	契約婚の考え方について

第 9 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (4)	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第 10 回	代理出産と親子関係 (1)	親子に関する法的取り扱いについて
第 11 回	代理出産と親子関係 (2)	代理出産の歴史と現状について
第 12 回	代理出産と親子関係 (3)	代理出産をめぐる最近の事例について
第 13 回	代理出産規制の是非 (1)	代理出産規制をめぐる法的論点について
第 14 回	代理出産規制の是非 (2)	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
 蔵研也『リバタリアン宣言』朝日新書、2007 年
 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001 年
 ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下) 講談社、1995 年
 デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000 年
 ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993 年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80 %、コメント等：20 %の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修すること。(春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 大気鉛直構造と運動	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。 更に今後の講義に必要となる大気鉛直構造と大規模な大気の運動について解説する。

2	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
3	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1（ヒートアイランド I）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変2（ヒートアイランド II）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	東日本大震災と自然環境問題 まとめ	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本、佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・成層圏オゾンが生物を守る、関口理郎著、成山堂
- ・ここまでわかった「黄砂」の正体、三上正男著、五月書房
- ・ヒートアイランドと都市緑化、山口隆子著、成山堂
- ・カルスト-その環境と人々とのかかわり、漆原和子編、大明堂
- ・新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講生全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のためにアラル海とイースタ島学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表されたIPCC第6次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、3年前に日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象。吉野正敏著。成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－。吉野正敏著。古今書院
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－。日本気象学会 地球環境問題委員会編。朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や天気など用いて分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation : 20%.

MAT300LA

数理論理学 A

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～ まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること (理論が複数あるという事実とは別のこと) を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた (あるいは、いる) ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)

～～～

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論 (人の論理)、さらには古典論理 (神の論理) まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クシャミ大王	授業概要の説明
第 2 回	「かつ」を壊す	連言の除去
第 3 回	「かつ」を作る	連言の導入
第 4 回	「または」を壊す	選言の除去
第 5 回	「または」を作る	選言の導入
第 6 回	「ならば」を壊す	含意の除去
第 7 回	「ならば」を作る	含意の導入
第 8 回	「でない」を壊す	否定の除去
第 9 回	「でない」を作る	否定の導入
第 10 回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第 11 回	「すべて」を作る	全称量化の導入

第 12 回 「ある」を壊す	存在量化の除去
第 13 回 「ある」を作る	存在量化の導入
第 14 回 まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト (教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年 (初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60 %) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40 %) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学 B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) A」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

数理論理学 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知り、その中でも古典論理(神の論理)と直観主義論理(人の論理)について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今できること	最小論理
第 2 回	万能薬	量子の順序
第 3 回	矛盾がどうした	否定と含意
第 4 回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第 5 回	人の論理	直観主義論理
第 6 回	どちらかだ	排中律
第 7 回	神の論理	古典論理
第 8 回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第 9 回	別の顔	背理法

第 10 回	得意分野	古典論理の表現
第 11 回	真か偽か	古典論理の意味論
第 12 回	まだわからない	可能世界
第 13 回	人の論理とは	直観主義の意味論
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年(初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで、言葉を数値データとして捉え「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?) こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算できる言語 (1)	正規言語と呼ばれる「言葉のパターン」について紹介する。
第 04 回	計算できる言語 (2)	正規言語を計算処理する機械的な仕組みを解説する。
第 05 回	計算できる言語 (3)	正規言語の計算処理を日常文書の編集に活用する。
第 06 回	計算機のしくみ (1)	汎用コンピュータの理論的なモデルについて解説する。
第 07 回	計算機のしくみ (2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。

第 08 回	計算機のしくみ (3)	コンピュータにおける数値の表現の基礎を確認する。
第 09 回	計算機のしくみ (4)	負整数の表現方法として、2 の補数表現を説明する。
第 10 回	自然言語と AI(1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 11 回	自然言語と AI(2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 12 回	自然言語と AI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第 13 回	自然言語と AI(4)	学習済み AI を用いてシラバスの文章を分析する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整 (例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど) に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。)

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りにはある問題はむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し、活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないこととなります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	計算機と数学(1)	Google Colab上でPythonプログラムの実行方法を学ぶ。
第03回	計算機と数学(2)	Pythonを関数電卓として活用してみる。
第04回	計算機と数学(3)	級数の公式を利用して、円周率を沢山計算してみる。
第05回	計算機と数学(4)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第06回	行列の応用(1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第07回	行列の応用(2)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第08回	線形計画法(1)	線形計画問題の例と図形的な解法を学ぶ。
第09回	線形計画法(2)	線形計画法のプログラムを紹介する。
第10回	線形計画法(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化問題を解いてみる。

第11回	暗号の数理(1)	基礎となる数学として、Euclid互除法などの計算を学ぶ。
第12回	暗号の数理(2)	公開鍵暗号を使った暗号通信の実験を行う。
第13回	機械学習の事例	Pythonで実行可能な機械学習の一例を紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機実習(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Webが普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography. To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY300LA

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。

- | | | |
|------|----------|-------------------------------------|
| [11] | ミューオン | ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。 |
| [12] | 核融合反応 | 太陽の中で起こっている核融合反応について |
| [13] | 相対性理論の応用 | GPS や核融合と相対論との関係について |
| [14] | まとめ | 特殊相対性理論のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field. The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか？ (1) 一化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか？ (2) 一気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか？ (3) 一気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？ (1) 一元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？ (2) 一電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造 (1) 一電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造 (2) 一量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ (1) と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ (2) と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計80%）と平常点（20%）で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第1-3回授業においてその講評や解説を行う。講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第 10 回	宇宙における元素合成 (1) ービッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成 (2) ー恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成 (3) ー恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第 14 回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム” に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらおう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。

第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつ仕組みについて紹介する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特ではありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉等について紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉等、核融合反応の応用の可能性について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している、素粒子の種類や分類について紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第12回 宇宙の進化

ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。

第13回 宇宙の大規模構造と宇宙論

宇宙論などの最新の研究について紹介する。

第14回 まとめ

全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にはありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名) ※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNA の変異
第 2 回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43 億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第 3 回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌の DNA2 本鎖が解離しない仕組み
第 4 回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。

第 5 回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第 6 回	多細胞か和有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第 7 回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第 8 回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第 9 回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第 10 回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第 11 回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第 12 回	エボデポ体制の進化	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第 13 回	エボデポ特異体制の進化	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フゲの特異な形態をつくるしくみ、など。
第 14 回	まとめ、重要用語の振り返り、博物学について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り、ホモサピエンスの 7 万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方、など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 - ゲノミクスが解き明かす進化 -, 赤坂甲治 (著), 裳華房, 2021 年出版, 定価 3520 円 (本体 3200 円 + 税 10 %)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらい、適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要で (5,000~9,000 円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります)。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員 (最大 20 名程度) を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制（20名）※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ	博物館学と博物学。博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(1)
第4回	フィールドワークⅡ	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(2)

第5回	フィールドワークⅡ	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(3)
第6回	フィールドワークⅡ	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(4)
第7回	フィールドワークⅢ	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(1)
第8回	フィールドワークⅢ	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(2)
第9回	フィールドワークⅢ	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(3)
第10回	フィールドワークⅣ	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(1)
第11回	フィールドワークⅣ	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(2)
第12回	フィールドワークⅤ	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する(1)
第13回	フィールドワークⅤ	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する(2)
第14回	フィールドワークⅥ	各自で作成したレポートについて討議・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 ヲゲノミクスが解き明かす進化ー、赤坂甲治（著）、裳華房、2021年出版、定価3520円（本体3200円＋税10%）

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（30%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000~9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種元素固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	色のついた小さなガラス玉の作成
第 8 回	イオンの色	水を含むことで発色するイオンについて
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの沈殿反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	様々なイオンが溶けた水溶液からの、特定イオンの分離
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 80%) を評価し、学期末の試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変化する仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点 (配分 80%) とし、学期末試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

光と色の科学A

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LEDなどが光る仕組みと違いを学ぶ。オーロラや虹など自然界に見られる現象を科学的に理解する。光の性質を利用した便利グッズの仕組みを理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1（放電管・蛍光灯・電球）	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2（LED）	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。

第 10 回 生物発光

ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。

第 11 回 化学発光（実験）

屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。

第 12 回 屈折と散乱

第 13 回 干渉と偏光

干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。

第 14 回 まとめ

春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。人間の目が色を認識する仕組みは生物学的知識が、オーロラや虹の仕組みは物理の知識が必要ですし、物体の色は原子や分子の構造に関係するので化学が関係します。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出して質問してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。秋学期の B の内容も春の初回に説明します。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

光と色の科学B

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせて、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

物質が吸収する光と物質の色の関係を理解する。
色のあるものとなしもの違いが何に起因するのか理解できる。
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	古代の色素（顔料編）	高松塚古墳の壁画などを挙げ、古代の人々が利用した顔料について解説します。
第 2 回	古代の色素（染料編）	古代から伝えられている染色やお歯黒をはじめとした化粧文化について解説します。
第 3 回	顔料と染料	光と色の関係を復習するとともに、顔料と染料の違いを学びます。
第 4 回	顔料の色の仕組み（遷移金属イオンの色）	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 5 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 6 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 7 回	染料の構造と色の仕組み	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 8 回	自然界の色（光合成色素の話）	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。

第 9 回	自然界の色	自然界の植物や動物が利用しているいろいろな色素の種類と構造を学びます。
第 10 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 11 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第 12 回	染色実験	草木染を実際に行います。
第 13 回	身の回りの色	温度で色が変わるグッズ、銀塩写真やポラロイドの仕組みについて学びます。
第 14 回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期のこの科目は「色」に関する話題を提供しますが、春学期の「光」と密接なつながりがあるので、A と B、両方の受講が望まれます。いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係でこの科目は定員 (24 名) を設けています。履修希望者が多かった場合は、春学期の履修者を優先し、春学期の段階で定員が満たされる場合もあります。秋学期の B について定員枠に余裕がある場合はシラバス、または Hoppii 等を通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

PRI300LA

ITリテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNSを中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ（2）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できていようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information. [Learning Activities Outside of Classroom]

【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria /Policy]

【Grading Criteria /Policy】

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第 14 回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が 40%、平常点が 60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information. [Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria /Policy]

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、Hoppiiを活用し各回へのリアクションや質問の集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	演習1：持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。

第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	演習2：多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時にはHoppii上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、学生からの質問への対応などにHoppiiの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species face with a holistic understanding of the human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BAB300LA

バイオイメージングの世界 A 2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見ることが可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して 2 つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6 本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。

受講生は、毎回の授業で行ったことをノートにまとめ、最終授業でノート提出して頂きます。

なお、HOPPII 等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	デジカメ撮影の基礎・発芽の観察	デジカメを使って粘菌の移動・成長の過程を撮影します。
③	インターバル撮影法・発芽の動画作製	1 週間の撮影データのデータ処理を学びます。
④	種々の長時間記録法・プラナリアの再生	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。

⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの 6 本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録 1	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録 2	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週 4 時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で行ったことを記録した「実験ノート」を提出して頂きます。

この「実験ノート」の評価を全体の 80%、授業中の活動評価を 20%として、成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず提出用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフは不可とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be decided based on the experimental notebook (80%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (20%).

BAB300LA

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見ることが可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探っていきます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（B T O 9 0 0教室の前に掲示中です）

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。

- ⑨ 秋学期プロジェクト第 班別作業
4回
- ⑩ 秋学期プロジェクト第 班別作業
5回
- ⑪ 秋学期プロジェクト第 班別作業
6回
- ⑫ 秋学期プロジェクト・ データ整理、表・グラフ作成など
ポスター作成作業1 ポスターのコンテンツを作ります
- ⑬ 秋学期プロジェクト・ プロジェクトの活動報告ポスター
ポスター作成作業2 を作成します。
- ⑭ ポスターコンテスト 班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。d

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

班ごとのプレゼン3回（プロジェクト計画、中間発表、最終発表）を70%、授業中の活動を30%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the 3 times required presentations (70%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (30%).

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（15 名）

その他属性：〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate

8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP) Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will have the opportunity to choose what individual topics interest them the most.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will also have the opportunity to choose which topics they wish to study and discuss in class.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10% (not graded)

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the numbers of students who enroll.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit (聴講) the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。
ドイツ語文法の基礎を学びます。
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。
日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。
適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックを行います。
なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に応じた柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	発音の仕方 発音とアクセント 綴りの基本 ドイツ語の主語について du,ihr,Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方 所有冠詞
	Lektion3 ドイツ語の冠詞について	
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 6 回	確認小テストで知識を確認する	第 5 回までの学習理解・文法知識 チェック
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配

第 8 回 Lektion4 非人称の es を用いた表現

ドイツ語の es について

第 9 回 Lektion5 動詞の 3 基本形

過去形について

第 10 回 Lektion5 人称による過去形の動詞の形

ドイツ語の過去人称変化について

Lektion6

ドイツ語の現在完了形について

第 11 回 Lektion 6 不定詞の用法

ドイツ語の zu 不定詞について

第 12 回 春学期ドイツ語学習の Plus 文法と文法の確認

振り返りと総復習

第 13 回 LMS を使って、確認 第 1 2 回までの学習理解・文法知

小テストで知識を確認 知識チェック

する

全体的な質問を受ける

第 14 回 春学期期末試験、解説 春学期期末試験、解説とまとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくなりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について
成績配分は期末試験 50 %、平常点（確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%、Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に沿った柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化と構文について
第 2 回	Lektion 7	未来形の用法と文ドイツ語の未来形について
第 3 回	Lektion 8	分離・非分離動詞ドイツ語の分離動詞について
第 4 回	Lektion 8	受動文の用法と形式ドイツ語の受動文について
第 5 回	Lektion 9	命令形とその用法ドイツ語の命令形について
	Lektion 9	ドイツ語の不規則変化動詞について
第 6 回	確認小テストと質問受付	第 5 回までの知識の定着の確認
第 7 回	Lektion10	接続法第 2 式の用法と形式ドイツ語の接続法について

第 8 回	Lektion10	婉曲話法と接続法第 2 式の用法ドイツ語の婉曲話法について
第 9 回	Lektion11	再帰代名詞の人称変化ドイツ語の再帰代名詞について
第 10 回	Lektion11	比較級・最上級の用法と形態ドイツ語の比較級・最上級について
第 11 回	Lektion12	定関係代名詞ドイツ語の関係代名詞について
第 12 回	Lektion12	関係副詞と不定関係代名詞ドイツ語の関係副詞について
第 13 回	確認小テストと質問受付	これまでの学習についての確認と総合的な質問応答
第 14 回	期末試験、まとめと解説	期末試験、文法事項を中心としたまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

自分の試訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

『リュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。

期末試験 50 %

平常点（訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあつた辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の追求、科学技術による人工と人造の生命の創造、理想的な人間社会の追求は人類の歴史の中の根源的なテーマである。現代においても、人々はそれを目指して考え続け、努力しているといっても過言ではない。

思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、受容され、扱われてきたかを、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』、吉田修一『橋を渡る』、そのほかの作品、およびそれらに関する論文を講読しながら、考える。

とりわけ、〈現在〉という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

【到達目標】

人工生命、人造人間、サイエンス・フィクションの物語とその歴史的背景を理解することが目標である。

また、その際にこの講義で挙げられた小説や作品を読み、論じるので、その小説や作品をユートピアという視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

そうした討議の際に、自分の意見を明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』『クララとお日さま』、吉田修一『橋を渡る』などの作品を読んでゆく。

また同時に、各回の授業計画で挙げられる文学を中心に、思想、芸術などの諸分野において科学技術に対する考えがどのように扱われ、表現されているかを見る。

その際に、毎回、文献テキストの担当部分を決めて、それをまとめて、レジュメを作成し、プレゼンしてもらう。独自の観点でいいので、議論・検討を加えていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概念の共通理解を検討する。授業の進め方等についての説明。
第 2 回	『フランケンシュタイン』（1818/1831）	『フランケンシュタイン』の扱われ方の可能性 人工と人造の生命
第 3 回	シェリー夫妻について	文学史的、歴史的背景
第 4 回	19 世紀の科学技術とヒューマニティ	科学技術はどのように『フランケンシュタイン』に取り込まれていったか

第 5 回	機械・人間・言語	『フランケンシュタイン』の怪物性とそのさまざまな読解
第 6 回	ポストコロニアル的視点からのサーベイランス	帝国主義は『フランケンシュタイン』にどう表れるのか
第 7 回	さまざまなメディアによるアダプテーション	『フランケンシュタイン』の漫画と映画
第 8 回	『ゴーレム』読解	宗教とユダヤ性、ブラハという都市
第 9 回	カレル・チャペック『ロボット』	20 世紀社会の目論見—科学とロボット
第 10 回	フランツ・カフカの種々の動物譚	フランツ・カフカの作品に現れる語り手としての動物、あるいは、不気味なもの
第 11 回	カズオ・イシグロ『私を離さないで』など	科学・人間性への異議申し立て
第 12 回	吉田修一『橋を渡る』について	現実の引用と未来小説の試み
第 13 回	人造人間と近代社会・近代科学	レポート発表・討議
第 14 回	人工生命をめぐる問題	レポート発表・総評とまとめに関する考察—まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間以上を標準とする。全体を通して基本文献である Claeys のテキストの精読をおこなってくること。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

文献については、文庫本などで手に入るものが多いので、手に入るか、図書館を利用。そうでない場合はコピー資料にて配布する。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼン・議論）70 %

レポート課題（最終回での各人の独自の発表）30 %

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を作る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021 年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021 年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020 年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第 17 号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019 年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第 39 号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007 年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of artificial human, science,

and technology, and to review the history of science fiction by reading "Frankenstein", "Robot", "Golem", "Never Let Me Go" and some novels of Franz Kafka.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of artificial human through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat American, English, German, and Japanese literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

[Learning Objectives] : By the end of the course, students should be able to:

- understand the history of science fiction.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

[Learning activities outside of class] : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

[Grading criteria] : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期のこの授業では、春学期のテキストである比較文学/世界文学の考え方、問題意識、意義、手法、適用などをテキストを読みながら、学びます。

フランコ・モレッティの『遠読—＜世界文学システム＞への挑戦』（Franco Moretti, 『Distant Reading』《を中心にモレッティのデジタル・ヒューマニティの考え方を学びます。

ほかにはテキストとしてデヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（David Damrosch の『What is World Literature』）やデジタル社会の理論について学びます。

これらのテキストには様々な国の様々な文学作品が現れるが、それらがどういう視点で、またどういう意味において結びつき、反映しあうのかを知ることによって、文学そのものについて考える思考を形成します。

また、テキストに現れる文学作品のこうした視点からの分析も学びます。

最期に、現実社会と文学作品のかかわり方についても意識形成することを目的とします。

【到達目標】

Franco Moretti および David Damrosch のテキストに沿って、西欧文学・比較文学・世界文学に関する歴史的俯瞰と意味付けを理解することが目標です。

比較文学、世界文学の全体としての意味や定義、またそうした視点に立っての文学作品への研究・分析また取り組む手法を学ぶことができます。

またその際に、これらのテキストで挙げられた作品を論じることになるので、そうした作品を理解し、批判的に分析できます。

討議の際に自分の意見をわかりやすく表現し、伝え、また他者の意見を理解し、議論できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Franco Moretti の『Distant Reading』、David Damrosch の『What is World Literature?』《を比較文学、世界文学の視点に立って、読みすすめていきます。

また、関連する作品についても考察していきます。

各回の授業では、毎回、担当者が内容についてレジュメを作成し、レポートし、それについて討議していきます。

独自の観点でいいので、議論・検討に積極的に加わってください。従って、自由にまた関連に討論できるような場を形成したいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	比較文学の共通理解を検討する。授業の進め方等についての説明。
第2回	モレッティ『遠読』第1章	「近代ヨーロッパ文学——その地理的素描」をめぐる問題について

第3回	モレッティ『遠読』第2章	「世界文学への試論」
第4回	モレッティ『遠読』第3章	「文学の屠場」
第5回	モレッティ『遠読』第4章	「プラネット・ハリウッド」
第6回	モレッティ『遠読』第5章	More Conjectures
第7回	モレッティ『遠読』第6章	進化・世界システム・世界文学
第8回	モレッティ『遠読』第7章	「始まりの終わり」
第9回	モレッティ『遠読』第8章	「小説——理論と歴史」
第10回	モレッティ『遠読』第9章	「スタイル株式会社——18世紀から19世紀の英国小説」
第11回	モレッティ『遠読』第10章	ネットワーク理論、プロット分析
第12回	ダムロッシュ『世界文学とは何か？』序章と第3章について	比較文学について（まとめ）
第13回	世界文学と現代社会	レポート発表と討議・考察
第14回	世界文学とデジタル・ヒューマニティーズ（まとめ）	レポート発表・総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるモレッティのテキストの精読をおこなってこよう。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくるのが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは基本的にコピーにて配布する。
フランコ・モレッティ『遠読』みすず書房

Franco Moretti, 『Distant Reading』, Verso, 2013

ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（国書刊行会）

David Damrosch, 『What is World Literature』, Princeton University Press, Princeton and Oxford, 2003.

が全体を通しての基本文献である。

言及されるその他の文献については、図書館を利用するなどする。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献が参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・議論）70%

最終回での各人のレポート発表 30%

【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保し、活発な議論を促す。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

＜研究テーマ＞

①比較文学という手法を通して文学と現実＝社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

＜主要研究業績＞①『英語文化研究』（2021年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第17号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of modern literature theory and to review the modern society in the world based on Franco Moretti's »Distant Reading«, David Damrosch' » What is World Literature « and other works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of world-literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of distant reading and the method and concept of world-literature studies and digital humanities.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the textbooks.
- express your own point of view clearly in discussion.

【 Learning activities outside of class】 : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

PHL300LA

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀前半という「危機」時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20 世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20 世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第 3 回	19 世紀のドイツ哲学 (1)	ドイツ観念論とその挫折
第 4 回	19 世紀のドイツ哲学 (2)	キルケゴールとニーチェ、マルクスの思想とその影響
第 5 回	20 世紀前半の思想的状況 (1)	時代の「危機」意識 学問の分化と専門化
第 6 回	20 世紀前半の思想的状況 (2)	現象学の成立と展開 西洋マルクス主義の系譜
第 7 回	実存哲学の生成と展開 (1)	ハイデッガー『存在と時間』(1927 年) の存在論
第 8 回	実存哲学の生成と展開 (2)	ヤスパース『時代の精神的状況』(1931 年) と「実存哲学」

第 9 回	実存哲学の生成と展開 (3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第 10 回	批判理論の生成と展開 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」(1937 年)
第 11 回	批判理論の生成と展開 (2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』(1940 年) と「進歩」への問い
第 12 回	批判理論の生成と展開 (3)	ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』(1947 年) と近代的理性の自己省察
第 13 回	実存哲学と批判理論	アドルノ『本来性の隠語』(1963 年) におけるハイデッガーとの対決
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『哲学の歴史 第 9 巻 反哲学と世紀末【19-20 世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学【20 世紀 I】』中央公論新社
 ・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30 年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関する文脈を踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	戦後ドイツの知的状況	破局と復興 過去の忘却
第 3 回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判とヤスパースの戦争責任論
第 4 回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	亡命知識人たちの帰還 権威主義的パーソナリティの分析
第 5 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判 アーレント『エルサレムのアイヒマン』(1963 年)
第 6 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い 批判理論と 1968 年運動
第 7 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (1)	1980 年代の歴史修正主義と「歴史家論争」

第 8 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (2)	ハーバーマスと憲法パトリオティズム 「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 9 回	東西ドイツの再統一をめぐる (1)	東西ドイツの「壁」の崩壊 再統一プロセスの問題
第 10 回	東西ドイツの再統一をめぐる (2)	「ドイツ・マルク・ナショナリズム」をめぐる
第 11 回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	ヨーロッパの中の「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 12 回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	EU 統合と、ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第 13 回	21 世紀のドイツ哲学の諸問題	「ポスト世俗の時代」における諸問題をめぐって
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 - ・アーレント『エルサレムのアイヒマン 悪の陳腐さについての報告』大久保和郎 (訳)、みすず書房
 - ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一 (訳)、岩波書店〔岩波現代文庫〕
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者のドイツ語圏A

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【グリム／ディズニーから読み解くドイツ文化とその越境】

ディズニーがこれまでに製作してきた 60 本以上の長篇アニメ映画のうち、グリム童話などドイツにルーツをもつ物語を原作もしくは原案とする作品は少なくありません。これらの作品を観たことのあるみなさんは、ディズニー映画というフィルターを通して、間接的にドイツ文化と触れ合ってきたといってもよいでしょう。

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作とする映画と比較・対照します。テキストと映像を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストとその文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介したあと、教員がその作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

次に、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ 「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など）
第 2 回	『グリム童話集』の歴史	成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史／グループ分け (1)
第 3 回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する／グループ分け (2)
第 4 回	『雪白姫』と『白雪姫』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 5 回	『雪白姫』と『白雪姫』(2)	【グループ発表1】テキストと映画の比較

第 6 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 7 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(2)	【グループ発表2】テキストと映画の比較
第 8 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 9 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(2)	【グループ発表3】テキストと映画の比較
第 10 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 11 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(2)	【グループ発表4】テキストと映画の比較
第 12 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 13 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(2)	【グループ発表5】テキストと映画の比較
第 14 回	ディズニーとドイツ（まとめにかえて）	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通しておいてください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用して、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

German Culture and its Crossing Borders as Read from Grimm/Disney

In this class, we will compare/contrast children's literature from German-speaking countries with the films based on them. While reading/watching the texts and films, we will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and the U.S.) that contributed to the differences between the two.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 B** 2017年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【転生する〈人造人間〉——ホムンクルス、オリンピア、ゴレム、プロテゼ】

映画をはじめとするポップカルチャーのなかにはしばしば〈人造人間〉が登場しますが、その際、これらのモチーフには直接的・間接的にドイツ文化において過去に生み出されたイメージが大きく影を落としています。

この授業では、〈人造人間〉をいくつかのタイプに分類し、そのドイツ語圏文化における出現を跡づけたのち、それぞれのモチーフが現代の文化のなかになどどのようなかたちで〈転生〉を遂げているのかを考えていきます。〈転生〉後のイメージを変容させる要因になったドイツ（と日本やアメリカなど）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品や映画の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第9回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介し、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第10回以降は、それぞれのモチーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）をめぐって、受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品や映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？など）
第2回	導入：〈人造人間〉とは何か	〈人造人間〉を分類する
第3回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(1)	ゲーテ『ファウスト』、プロメーテウス
第4回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(2)	ソクーロフと手塚治虫の『ファウスト』

第5回	〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(1)	ホフマン『砂男』、ピュグマリオン
第6回	〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(2)	映画『メトロポリス』、『アイム・ユア・マン』
第7回	〈ゴレム〉：〈人造人間〉の両義性(1)	映画『巨人ゴレム』、マイリンク
第8回	〈ゴレム〉：〈人造人間〉の両義性(2)	フランケンシュタイン、『大魔神』
第9回	〈プロテゼ〉：補綴からサイボーグへ？	ゲーテ『ゲッツ』、映画『芸術と手術』『M』
第10回	〈ホムンクルス〉の転生	【グループ発表1】現代の〈ホムンクルス〉：差異とその社会的・文化的要因
第11回	〈オリンピア〉の転生	【グループ発表2】現代の〈オリンピア〉：差異とその社会的・文化的要因
第12回	〈ゴレム〉の転生	【グループ発表3】現代の〈ゴレム〉：差異とその社会的・文化的要因
第13回	〈プロテゼ〉の転生	【グループ発表4】現代の〈プロテゼ〉：差異とその社会的・文化的要因
第14回	〈人造人間〉の系譜（まとめにかえて）	文化・メディアを超えた〈転生〉を〈読む〉こと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通してください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

Reincarnations of the "Artificial Human": Homunculus, Olympia, Golem, and the Prosthesis

In this class, we will trace the emergence of the "artificial man" in German-speaking cultures, and then consider how this motif has been "reincarnated" in contemporary culture. We will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and Japan, the U.S., etc.) that have contributed to the transformation of the post-incarnation image.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA

比較文化A

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	比較文化の方法と概念 (1)	「ハイカルチャー」に対して「生活世界 Lebenswelt」としての文化とは？
③	比較文化の方法と概念 (2)	ステレオタイプに対して集団主義 vs 個人主義など有意義な「文化的次元 Cultural Dimensions」とは？
④	テレビの料理番組の比較 (1)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑤	テレビの料理番組の比較 (2)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑥	テレビの料理番組の比較 (3)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	映画の比較 (1)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑧	映画の比較 (2)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑨	映画の比較 (3)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑩	映画の比較 (4)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑪	Web の料理チャンネルの比較 (1)	Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。

- ⑫ Web の料理チャンネルの比較 (2) Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑬ Web の料理チャンネルの比較 (3) Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑭ まとめ、課題もしくは試験 春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト (教科書)】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60 %

学期末試験 (課題)：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プリンター) などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ARSk300LA

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- 人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	アザラシ（1）	セルキーの神話などを調べてみる。
③	アザラシ（2）	課題、ディスカッション
④	豹（1）	詩における豹の比喩的な意味を探る。
⑤	豹（2）	課題、ディスカッション
⑥	狐（1）	童話におけるキツネの性格を比較する。
⑦	狐（2）	課題、ディスカッション
⑧	ロバと馬（1）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑨	ロバと馬（2）	課題、ディスカッション
⑩	白鳥（1）	オペラとバレエを比較する。
⑪	白鳥（2）	課題、ディスカッション
⑫	虎（1）	白鳥と詩人について考える。
⑬	虎（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ、課題しくは試験	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60 %
学期末試験（課題）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、春学期の第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず春学期の第 1 回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.

- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4 ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第 10 回 音楽編 5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ

第 11 回 建築編 1 教会建築にみる様式の発展

第 12 回 建築編 2 プランデンブルク門と新古典主義

第 13 回 建築編 3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義

第 14 回 建築編 4 ユーゲントシュティルから表現主義建築へ

19 世紀末から 20 世紀初めの新しい音楽の世界。取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク

ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで

ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。

「メルヘン王」ルートヴィヒ 2 世の道楽が観光資源になるまで。

19 世紀末から 20 世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

Introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない？ —とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45年）を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀から20世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第2回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第3回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第4回	第一次世界大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第5回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。

第6回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第7回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実際を明らかにする。
第8回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第9回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第10回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第11回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第12回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第13回	「ベルリンの壁」の建設と芸術	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第14回	ドイツ再統一と芸術	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。そして現代ドイツにおける芸術と政治の関係とは。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA

留学ドイツ語A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）や SA ドイツ（国際文化学部専門科目）、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/2 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ（語圏）へ行ってみたい!」と思っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	乗り物に乗って：その 1	（話法の助動詞を使った表現・前置詞）まずは大学/学校へ行かないと！

3	乗り物に乗って：その 2	（möchte を活用する表現・前置詞）DB (Deutsche Bahn) アプリで切符を買ってみよう
4	時々は観光もしたくない：その 1	（公共空間で使える・必要な表現）自分の住む街を、訪ねてきてくれた親や友だちに案内してあげたい！
5	時々は観光もしたくない：その 2	（イベントの予約やコンサートチケットの手配）ベルリンを朝も昼も夜も堪能するよ！
6	来たら食べて寝なくちゃね：その 1	（食べ物注文する時の表現）食べ物の語彙・レストランやカフェでの注文と支払いの表現
7	来たら食べて寝なくちゃね：その 2	（予約やキャンセル、ホテルの中での表現）宿泊先を予約してみよう、ホテルで使う表現
8	道に迷うかもしれないよね：その 1	（道先案内の表現）道に迷ったら?! 市内交通をフル活用するために
9	道に迷うかもしれないよね：その 2	（今の状況と要望を伝える）タクシーに乗るには? 電車を乗り間違えちゃったら? 急遽お金/両替が必要になったら?
10	とりあえずお天気次第? : その 1	（天候の表現・屋内の活動に関する表現）天気を説明する・屋内でできること?
11	とりあえずお天気次第? : その 2	（従属接続詞と副文）「天気が悪いから」を言い訳にするために...?!
12	なんか調子悪いかも...でも大丈夫! : その 1	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）「具合が悪い」のいろいろ・街の薬局で買えるものは何?
13	なんか調子悪いかも...でも大丈夫! : その 2	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）病院にかかる・既往症を説明する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 ・授業ごと予習・復習の課題を出します。
 ・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】

・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
 ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）
 ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）
 ・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
 その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加（70 %）、授業ごとの課題（30 %）を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
 ・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者法政 G メール shizuhaya@hosei.ac.jp までご連絡ください。

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
- ・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。
- ・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含まれる）。
- ・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、GW 中ないし夏休み前の期間に都内でフィールドワークを実施します。詳細は初回授業時に説明します。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center), exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed preparation and review tasks.
- ・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300LA

留学ドイツ語B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）や SA ドイツ（国際文化学部専門科目）、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/3 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ（語圏）へ行ってみよう！」と持っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイムオンライン授業（Zoom）で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？	（身体表現）朝と夜寝る前にすること ：その 1

3	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？	（身体表現・再帰表現）朝と夜寝る前にすること・「清潔」の概念 ：その 2
4	誕生日が大事！	（過去の表現・趣味の表現）「家が社交の場」ということの意味 ：その 1
5	誕生日が大事！	（過去の表現・趣味の表現）あなたが好きなもの、興味のあることは？ 私ならではの贈り物ってなんだろう？ ：その 2
6	見た目って大事？！	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）今日は何を着ていこうか？ ：その 1
7	見た目って大事？！	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）ショッピングあるある ：その 2
8	「噂話」「世間話」？！	（振る舞いの表現、形容詞の語彙）「～さんってどんな人？誰だっけ？」と聞かれた時にどう説明する？ ：その 1
9	「噂話」「世間話」？！	（振る舞いの表現、形容詞の語彙、過去の表現）あの時…さんと～へ行ったよ／～したよ」と言うために ：その 2
10	「環境に配慮」は当たり前？！	（命令法、前置詞）「ゴミの分別」と「ゴミの出し方」 ：その 1
11	「環境に配慮」は当たり前？！	（命令法、前置詞、um ~ zu... の練習）日常生活の中の家事と掃除 ：その 2
12	「ペットは家族」のリアル	（禁止の表現・ペットに関する語彙）犬や猫と一緒にできることって何？ ：その 1
13	「ペットは家族」のリアル	（禁止の表現・マナーに関する語彙）公共施設でのマナーについて説明する ：その 2
14	まとめ	学期末最終評価試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業ごと予習・復習の課題を出します。
- ・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニューズフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 (Szenen 2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】

- ・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
 - ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）
 - ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）
 - ・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
- その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加（70 %）と、授業内のグループワークや授業後の課題（30 %）を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
- ・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者メール shizuhaya@hosei.ac.jp までご連絡ください。

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。

・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含められる）。

・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、フィールドワークとして、12月に都内で実施される「クリスマスマーケット」（ドイツ観光局）を訪問する予定です。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center) and its previous participants, who try to participate in exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.

・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.

・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.

・There are prescribed preparation and review tasks.

・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.

・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践

8	バラスポーツ ・ポッチャ	・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニュースポーツ理論と実践

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケボール	・バスケボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ポッチャ	・パラスポーツの理解を深める ・ポッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ（室内 競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ (講義)
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる (講義および実習)
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる (講義及び実習)
4	ニュースポーツの実践 (インディアカ)	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)

5	ニュースポーツの実践 (ユニホック)	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める (講義)
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義および実習)
8	運動学習の方略 (注意の焦点)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義及び実習)
9	運動学習の方略 (フィードバック法)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる (講義及び実習)
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ (講義)
11	プレッシャーとスポーツ (実践)	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面 (プレッシャーのかかる場面) でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する (講義及び実習)
12	プレッシャーとスポーツ (基礎理論)	「プレッシャーとスポーツ (実践)」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ (講義及び実習)
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ (講義)
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ（講義）
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる（講義および実習）
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる（講義及び実習）
4	ニュースポーツの実践（インディアカ）	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）

5	ニュースポーツの実践（ユニホック）	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義）
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義および実習）
8	運動学習の方略（注意の焦点）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義及び実習）
9	運動学習の方略（フィードバック法）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる（講義及び実習）
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ（講義）
11	プレッシャーとスポーツ（実践）	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面（プレッシャーのかかる場面）でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
12	プレッシャーとスポーツ（基礎理論）	「プレッシャーとスポーツ（実践）」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ（講義）
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール

4	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	実技 ：バレーボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術とルール
11	実技 ：バレーボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの応用的技術とルール
12	実技：その他の種目	ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題 (少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など) や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目標とする。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール

5	健康とは?	WHO の健康の概念 JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ 医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術
11	実技 ：フットサル②	3vs3 実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール
12	実技 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操 (フィットネス) ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング	骨格筋の量・質の変化 トレーニング適応 コンディショニング
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて用いて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。毎回の講義で使用するレジюме及び資料などについて必ず予習・復習をすること。レジюме及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治・ヨガ根本経典・平河出版社、1986
 佐保田鶴治・ヨガ根本経典 (続)・平河出版社、1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %

3) 授業への参画状況 20 %

- ・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 - ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため **D** もしくは **E** 評価とする。
- またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのがぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16時50分～18時30分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン (zoom) を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。

3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治、ヨガ根本経典、平河出版社、1986

佐保田鶴治. ヨーガ根本経典（続）. 平河出版社, 1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～ 1 8 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時間：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向 (歴史) やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて (講義)	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得 (実習&講義)	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得 (実習&講義)	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得 (実習&講義)	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方 (実習&講義)	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて (実習&講義)	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割 (実習&講義)	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術 (三段攻撃使用)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (三段攻撃を用いる) を立ててゲームを行う。
第 10 回	集団的技術 (レシーブのフォーメーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (レシーブのフォーメーション) を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術 (チームコミュニケーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (チームコミュニケーション) を立ててゲームを行う。

第 13 回 集団的技術 (総合)・ゲーム (実習&講義) チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。

第 14 回 授業総括と筆記試験 授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (60 %) を主な基準として、筆記試験 (40%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.

4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ (アウトドア) バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業 (スポーツ科学 B) は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	ビーチバレーのルールについて (講義)	ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本技術を復習する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団の技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用 (実習 & 講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術 (レセプション戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (レセプション) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術 (トスアップ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (トスアップ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術 (ディグ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ディグ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術 (スパイク戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (スパイク) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術 (ブロック戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ブロック) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 13 回 集団的技術 (総合的)・ゲーム (実習 & 講義) チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 14 回 授業総括とレポート作成、提出 授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (70%) を主な基準として、レポート (30%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法（講義）
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係（講義及び実習）
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント（講義及び実習）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）

9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物：90 %

・最終授業時に課すレポート課題：10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10 回出席）以上に満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階柔道場の予定です。
3. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践Ⅱ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進 (講義)
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ (講義)
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ (講義)
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定 (講義及び実習)
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)

9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物 90 %

・最終授業時に課すレポート課題 10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3 (10 回出席) 以上を満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。
- ④就業力（信頼関係構築や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。春学期スポーツ科学 A は基本的な内容を学習する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技（ソフトバレーボール）	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技（バスケットボール）	チームワークについての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技（卓球）	体力についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングの基本についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技（バドミントン）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技（フライングディスク）	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
11	講義及び実技（フットサル）	エネルギー（栄養・水分）の補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	健康と休養（睡眠）の重要性についての講義及びバスケットボールの実践 レポート課題の提示
13	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況60%
 - ②課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力（信頼関係や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

秋学期のスポーツ科学 B は春学期のスポーツ科学 A と比べ、レベルアップさせた内容となります。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技（ソフトバレーボール）	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技（バスケットボール）	チームワークの重要性についての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技（卓球）	体力についての講義及び卓球の実践
6	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングの基本理論についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技（バドミントン）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技（フライングディスク）	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
11	講義及び実技（フットサル）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	健康と休養（睡眠）の重要性についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。

教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策およびその背景にある法・計画、組織、財源を学びます。こうしたスポーツ政策全体に対する理解を深めた上で、学生自身がわが国のスポーツに関する課題を設定できる能力の獲得を目指します。また、秋学期の教養ゼミⅡ（データ分析を通じたスポーツ政策提言）では、教養ゼミⅠでの学修を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行う予定です。政策提言に向けて必要な知識・能力（例、社会調査法の理解・実践など）を身につけていきます。

【到達目標】

- (1) 現在わが国で進められているスポーツ政策全体を理解している
- (2) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (3) 上記理解のもと、スポーツ政策やわが国のスポーツに関わる問題意識・課題を学生自身が設定できる
- (4) 政策提言に必要な社会調査法の基礎を理解し、実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
- (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
- (3) 個人またはグループでのワーク
各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。各回に設定されているワークの時間は、教員が具体的な作業を指示する場合がありますが、授業回が進むにつれて学生自身で自由に使えるようにします。ワークの時間を、①予習を通じて調べてきた内容の報告やディスカッションに使うのか、②情報検索等の作業時間に充てるのかは個人またはグループの自由とします。ただし、ワークの時間では②（個人々で行える作業の時間）をなるべく少なくして、①のような建設的な時間に充てた方が無駄がありません。よって、学生は予習をしっかりと行った上で授業に臨むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびスポーツ政策に関わる法・計画	①ガイダンス ②講義（スポーツに関わる法・計画） ③ワーク（今後のワークで扱うテーマに関するアンケート）

第2回	スポーツ政策に関わる財源	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツに関わる財源） ③グループメンバー発表、ワーク（テーマの決定）
第3回	スポーツ政策に関わる組織	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツ政策に関わる組織） ③ワーク（扱うテーマに関連したスポーツ政策の歴史、組織、財源等のまとめ）
第4回	子どものスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（子どものスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する現状のまとめ）
第5回	成人のスポーツ政策・健康政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（成人のスポーツ政策・健康政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク）
第6回	エリートスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（エリートスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する課題のまとめ）
第7回	スポーツを通じた地域・経済活性化	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツを通じた地域・経済活性化） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料の作成とブラッシュアップ）
第8回	発表	各グループが過去のワークをもとにまとめた「スポーツ政策に関する現状と課題」について発表
第9回	定量調査を体験しよう (1) データの準備	①前回の発表の解説 ②講義（社会調査の概要、定量・定性調査のプロセス、定量データの準備） ③ワーク（データ入力とクリーニング、加工）
第10回	定量調査を体験しよう (2) 仮説検定	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説検定の流れ、統計解析の種類） ③ワーク（基礎的な統計解析を体験する）
第11回	定量調査を体験しよう (3) 結果の記述	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果の書き方） ③ワーク（仮説に基づいた統計解析、結果の記述）
第12回	定性調査を体験しよう (1) インタビュー	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（定性調査・インタビューの種類、インタビューの注意点） ③ワーク（質問項目の検討、インタビューの実践、文字起こし）
第13回	定性調査を体験しよう (2) コーディング	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（分析プロセス、コーディング方法） ③ワーク（コーディング）
第14回	定性調査を体験しよう (3) 概念の作成	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（概念の作成方法とストーリー化） ③ワーク（概念の作成とストーリー化）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ4時間です。<予習>

- (1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく
- (2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておく（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, & 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500 円+税, ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団 (編). (2020). スポーツ白書 2020~2030 年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円+税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 4 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 8 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%, (2) を 30% の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。

また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC 等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course introduces the sports policies that are currently made and implemented in Japan, as well as the laws, plans, organizations, and finances behind these policies. The aim of this course is to deepen students' understanding of sports policy as a whole and to help them acquire the ability to set issue themselves. The course also enhances the development of students' knowledge and abilities required for policy proposal (e.g., understanding and practice of social research methods, etc.).

■ Learning Objectives

(1) At the end of the course, students are expected to understand the overall sports policies currently being implemented in Japan.

(2) Students are also expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.

(3) Based on the above understanding, students are expected to set problems and issues by themselves related to sport and the policies in Japan.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sports.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Mid-term presentation: 30%

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、原則として教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）の単位取得者のみが履修することができます。

教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）を通じて理解したわが国のスポーツ政策の全体像、および学生自身の興味関心に応じたテーマに関する現状と課題を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行います。政策提言を通じ、社会的に必要なエビデンスに基づく政策立案・実行の重要性を理解するとともに、論理的思考力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) わが国のスポーツ政策の全体像および特定テーマのスポーツ政策に関する現状と課題を理解した上で、社会的重要度の高い問題意識・課題を設定することができる
- (2) 上記の課題解決に向けた仮説を設定し、仮説検証に向けた社会調査とその解析を学生自身でデザインできる
- (3) 上記のプロセスを通じて明らかとなった結果・考察を踏まえ、スポーツ政策やスポーツに関連する課題の解決に向けて提言できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
- (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識・課題・仮説の設定 (1) 課題	①ガイダンス ②講義（政策提言とは、問題と課題の違い、先行研究の調べ方とまとめ方） ③ワーク（課題挙げと先行研究調べ）
第2回	問題意識・課題・仮説の設定 (2) リサーチクエスト	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（課題選定のポイント、リサーチクエストとは） ③ワーク（課題の選定、リサーチクエスト挙げ）

第3回	問題意識・課題・仮説の設定 (3) 仮説	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説とは、仮説の立て方やポイント） ③ワーク（リサーチクエストに基づく仮説挙げ）
第4回	調査・分析方法の決定 (1) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査フィールドや二次データの検索方法） ③ワーク（調査方法・対象の決定、調査フィールド・二次データの検索） ※以降の調査・分析(1)-(4)の内容は、各グループの進捗により異なる可能性あり
第5回	調査・分析に向けた準備 (2) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査依頼、調査実施に向けた準備） ③ワーク（調査実施に向けた準備） ④調査実施に向けた事前チェックとフィードバック
第6回	調査・分析 (3) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査実施など）
第7回	調査・分析 データ整理 (4) データ	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査の続き、データ整理）
第8回	結果の作成 データ分析 (1) データ	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果と考察の違い、結果の書き方） ③ワーク（データ分析）
第9回	結果の作成 図表の作成 (2) 図表	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（図表作成による分析結果の確定）
第10回	考察・提言 (1) 考察	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（考察の書き方） ③ワーク（考察の執筆）
第11回	考察・提言 (2) 提言	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（提言作成のポイント） ③ワーク（結果と考察を踏まえた提言の作成）
第12回	考察・提言 (3) まとめ	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（政策提言の評価基準、わかりやすい資料作成のポイント） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料作成）
第13回	発表	①ルール説明 ②政策提言の発表・質疑応答・評価
第14回	総評・まとめ	①政策提言の結果発表 ②総評 ③学生間における政策提言を通じた学びの共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ4時間です。

<予習>

(1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく

(2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておいてください（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一、齋藤健司、真山達志、& 横山勝彦。(2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500円+税. ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団(編). (2020). スポーツ白書 2020～2030年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円+税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 3 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク(個人・グループ)を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 13 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%、(2) を 30%の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。政策提言に向けた調査・分析の過程で、準備が必要な物が出てきた場合は授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

■ Course outline

Based on the overall sport policies in Japan, the current situation and issues related to themes of your interest, students will engage in sport policy proposals. Through policy proposals, the course helps students understand the importance of socially needed and evidence-based policy making and implementation, as well as acquire the ability of logical thinking.

■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To be able to set up socially important problems and issues based on an understanding of the overall sport policy in Japan and the current status and issues related to sport policy on specific themes.

(2) To be able to formulate hypotheses for solving the above issues, and to design social research and their analyses by yourself in order to test the hypotheses.

(3) Based on the results and discussions revealed through the above process, be able to make proposals for the solution of sport policy and related issues.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sport.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Term-end presentation: 30%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本の中学・高等学校における体育授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ（室内競技）	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同じような授業内容・授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. To acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」、「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」、「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ

第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編/金芳堂/2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2022年度は、多くの授業を対面で実施できましたが、履修者が少なく、当初計画していた種々の演習の実施が困難な状況でした。測定等は時間をかけて実施できた一方、履修学生の皆さんには、予定していたディスカッションの機会を十分に提供できませんでした。次年度の授業も、履修者次第とはなりますが、自らの身体に関する様々な指標を厳密に測定・評価し、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また、文章の執筆、図表の作成、量的・質的分析について発展的な手法を学び、最終的に授業内で調べた内容についてレポートとしてまとめます。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスをレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	様々な対象における健康の考え方1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第3回	様々な対象における健康の考え方2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第4回	様々な対象における健康の考え方3	健康行動（運動実践・食事改善）を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する（演習）
第5回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する（演習）
第6回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第7回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ

第8回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を量的に「分析・評価」する手法を学ぶ
第9回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法4	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法を学ぶ
第10回	探求テーマに対する情報の集約と論議1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第11回	探求テーマに対する情報の集約と論議2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第12回	探求テーマに対する情報の集約と論議3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する（演習）
第13回	探求テーマに関する情報の集約1	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、レポートを作成する。
第14回	探求テーマに関する情報の集約2	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、結果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第11～13回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」（課題数 × 100）】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2022年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションがほほできない状況でした。そのため、シラバスとは内容を変更して授業を行いました。履修者の皆さんの期待に沿えなかった部分が多々あったと感じています。このような状況を踏まえて、次年度は内容を少し変更していますが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上、傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解できる。コンディショニングの要素となる身体的因子、環境的因子、心理的因子について、説明できる。

コンディショニングの評価の必要性及び評価の方法について説明できる。トレーニング計画とコンディショニングについて理解し、ピリオダイゼーションの理論や背景について、説明でき、自身のトレーニング計画を立案できる。

競技力向上のためのコンディショニングの具体的な方法について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディショニングとコンディショニングについて説明する。 コンディショニングの必要性について説明する。 体格・体組成計の測定を行う。
2	コンディショニングの要素	コンディショニングの要素である、身体的因子、環境的因子、心理的因子に関する講義を行う。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷および障害）について、説明し、その原因を対策について説明する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、損傷細胞の修復メカニズムについて説明する。

6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置（RICE 処置）について説明する。特に冷却療法（アイシング）の効果を説明し、実際にアイシングを試してみる。
7	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの実際	コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニングについて、その方法を学び実践する。
8	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実習を行う。
9	スポーツマッサージとコンディショニング	マッサージの歴史や生理学的効果を学習するとともに、学生同士実践する。 セルフマッサージの手法を説明し学生自身で実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する、鍼灸について、治効理論を説明し、実際の場面を実演する。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割（効果）について講義を行う。
12	睡眠とコンディショニング	睡眠が果たすコンディショニングの役割について、その効果やメカニズムについて講義を行う。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割を説明する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編, 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 (予防とコンディショニング)
2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組み課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの具体的な例を挙げ、理論と実技を交えながら講義を行う。

それにより、理解がより深まると考えられる。

また実技のポイントは繰り返し言葉にできるように心がける。

提出された課題の内容について、授業の最初にフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students are expected to understand states of “condition” and learn the purposes, elements, evaluation methods of conditioning. Being in the good condition leads athletes to the better performance, resulting in the better competitive outcomes. This lecture guides student athletes to learn the basic conditioning program and competition preparation program and helps them acquire the ability to practice such programs.

【Learning Objectives】

Understand the many different types of conditioning.

To be able to explain the physical, environmental, and psychological factors that constitute conditioning.

To be able to explain the necessity of condition assessment and methods of assessment.

Understand training plans and conditioning, and be able to explain the theory and background of periodization, and formulate their own training plans.

Understand and be able to practice specific methods of conditioning to improve athletic performance.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023年。

（*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞（つづき） ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・数字 21～69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字 70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023 年。

（*自分で入手する場合、2023 年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話・筆記）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化への反発をそのなりたちにおいて含むポピュリズムが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミ I「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画（約4秒）をご覧ください https://youtube.com/shorts/fB_oZQbM84c

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう：

- 1) 21 世紀の私たちの社会にどのような民主主義文化がふさわしいかという考え（シティズンシップ）を身につけるための第一歩を踏み出している。
- 2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なるが、こうした異なる意味合いに関する基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoom を使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供（マイケル・ヤング『メリトクラシー』をめぐって）	学生はとくに事前準備の必要なし → 授業内で学生が発言
3	ポピュリズムとは何か①	教員による説明（ドーナツ型の中心がからっぽなイデオロギーとしてのポピュリズム） → 授業内で学生が発言
4	ポピュリズムとは何か②	教員による説明（反エスタブリッシュメントの主張と「ハートランド」） → 授業内で学生が発言
5	世界のポピュリズム①	教員による説明（ロシアと南北アメリカにおけるポピュリスト政治家たち） → 授業内で学生が発言

6	世界のポピュリズム②	教員による説明（ヨーロッパ、オセアニア、東南アジア、アフリカ、中東におけるポピュリスト政治家たち） → 授業内で学生が発言
7	ポピュリズムと動員①	教員による説明（ペルーの A・フジモリ、合衆国のティーバーティー運動） → 授業内で学生が発言
8	ポピュリズムと動員②	教員による説明（シャットシュナイダー『半主権人民』における政変の役割の強調と、一部のポピュリズム政治家が好む「即席政党」） → 授業内で学生が発言
9	ポピュリズムの指導者①	教員による説明（マッチョさを強調しがちな男性ポピュリスト政治家に対し、女性らしさを庶民性と結びつけようとする女性ポピュリスト政治家） → 授業内で学生が発言
10	ポピュリズムの指導者②	教員による説明（ボリビアの E・モラレスにおける先住民と庶民性の結びつけ） → 授業内で学生が発言
11	ポピュリズムとデモクラシー①	教員による説明（どのような局面で、ポピュリズムは民主化を促すか） → 授業内で学生が発言
12	ポピュリズムとデモクラシー②	教員による説明（どのような局面で、ポピュリズムは民主制の崩壊をもたらすか） → 授業内で学生が発言
13	原因と対応	教員による説明（有権者は何を求めてポピュリスト政治家に投票するのか） → 授業内で学生が発言
14	まとめ	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画 / Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定する LMS (Google Classroom か学習支援システム) に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔 & 高山裕二訳、白水社、2018 年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加（平常点）30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】授業外の準備を伴う話題提供 40%
4. 授業運営への貢献（教員が間違っていた場合の学生による指摘など）※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100%のなかで 10%程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。・この教養ゼミ I は、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/13Iw8ChJ11-Y8vLf5zieegSwS0-1aBOua3c33BHgYQzY/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

[Learning Objectives]

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
- (b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
- (c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会では、モノやお金だけでなく、人も多く移動しており、国境を越えるこうした動きが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画（約5秒）をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Pxcuapv0j4>

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、さまざまな宗派をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、経済、とくに雇用面におけるジョブ型社会の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoomを使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供	学生はとくに事前準備の必要なし (ル・ボン『群衆心理』 → 授業内で学生が発言をめぐって)
3	オランダにおける「保守主義型福祉国家」と、複数の宗派が並びたつ「列柱社会」	教員による説明（移民社会の議論に入る前に、近現代のオランダの成り立ちにかんする基本情報をお示しする） → 授業内で学生が発言
4	宗派ごとに組織された団体の大きな役割と、「保守主義型福祉国家」の行き詰まり	教員による説明（第二次世界大戦後に成立した、政府・経営者団体・労働組合の協調体制であるネオ・コーポラティズムが話の軸となる） → 授業内で学生が発言

5	福祉国家改革の始まるパートタイム社会化するオランダ	教員による説明（就業不能者に対する施策が充実していたがゆえに就業率が低かった「非就労の罫」から話がスタート） → 授業内で学生が発言
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	教員による説明（就労のパートタイム化と性別の役割分担をめぐるオランダの論争） → 授業内で学生が発言
7	移民批判も辞さない「リベラルなポピュリスト」フォルタインの登場	教員による説明（パートタイム労働の正規化と並んで進んだオランダの移民社会化） → 授業内で学生が発言
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	教員による説明（既成の政治家・政党の批判により躍進した「政治家企業家」フォルタインと、その暗殺にたいするオランダの人びとの驚きや怒り） → 授業内で学生が発言
9	中間ふりかえり	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。
10	ファン・ゴッホ殺害事件	教員による説明（ソマリア生まれでオランダに難民として受け入れられ議員となった女性の事績を併せて紹介） → 授業内で学生が発言
11	ウィルデルス自由党の躍進	教員による説明（2005年、ヨーロッパ憲法条約の批准反対がオランダの国民投票で大差で勝利） → 授業内で学生が発言
12	福祉国家改革と移民	教員による説明（就労しなければならぬ社会における、移民の「義務」の強調） → 授業内で学生が発言
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	教員による説明（もっぱら肉体労働を移民に求めていたかつての産業社会なら、言語や文化の上での同化は、労働の副次的な要素とみなされえたが、サービス産業を中心とする現代の先進国では、当該地域における多数派の言語や文化、習慣、価値観を理解しない労働者は「コミュニケーション能力」を欠くとみなされる？ → 授業内で学生が発言
14	まとめ	シラバス第13回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画/Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定するLMS（Google Classroom）か学習支援システム）に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記（ア）（イ）などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加（平常点）30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】授業外の準備を伴う話題提供 40%

4. 授業運営への貢献（教員が間違っていた場合の学生による指摘など）※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100%のなかで 10%程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】

https://docs.google.com/document/d/1ANH7d-6TYnhuiaehI3bji1OxTK7AOLdg7H_VEDsdlQE/edit?usp=sharing

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

[Learning Objectives]

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的的文章を読み解き、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料

3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。

大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

・グループワーク、小テスト等（授業内）:25%

・宿題、「予習シート」（自宅）:20%

・発表（史料の紹介と説明）：35%

・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

（初めての授業なので、該当しない。）

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。
もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えましょう。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	「鎖国」とグローバル化(1)	日本の「閉鎖」
3	「鎖国」とグローバル化(2)	使節団
4	「鎖国」とグローバル化(3)	「蘭学」と西洋の科学と技術の伝来
5	「鎖国」とグローバル化(4)	漂流人と放浪者
6	「鎖国」とグローバル化(5)	「十字架、鯨と大砲」
7	第2次グローバル化における日本(1)	日本帝国主義の曙
8	第2次グローバル化における日本(2)	大規模な移民
9	学生による発表①	史料の紹介と分析
10	学生による発表②	史料の紹介と分析
11	学生による発表③	史料の紹介と分析
12	学生による発表④	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
14	まとめ	後期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表（史料の紹介と説明）：35%
- ・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation. The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 1 L1	Faire connaissance
2	Unité 1 L2	Mes meilleurs amis
3	Unité 1 L3	Sorties entre amis
4	Unité 1 L4	Une situation imprévue
5	Unité 2 L1	1,2,3; prêts?
6	Unité 2 L2	Partez!
7	Unité 2 L3	D'autres quotidiens
8	Unité 2 L4	Respectez les règles
9	Unités 1 et 2	Bilan et évaluation
10	Unité 3 L1	Que s'est-il passé?
11	Unité 3 L2	Tout change avec le temps
12	Unité 3 L3	C'est leur histoire
13	Unité 3 L4	C'était terrible!

14 Unité 3

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %

・作文: 約 20 %

・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELFI A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 4 L1	Quel caractère!
2	Unité 4 L2	Qui suis-je?
3	Unité 4 L3	C'est ma vie!
4	Unité 4 L4	Réussir un entretien
5	Unité 5 L1	Tendance wax
6	Unité 5 L2	Des vêtements bien chauds
7	Unité 5 L3	Tout s'achète en un clic!
8	Unité 5 L4	Dépenser sans compter?
9	Unités 4 et 5	Bilan et évaluation
10	Unité 6 L1	Des projets?
11	Unité 6 L2	On ira voir le match?
12	Unité 6 L3	On part en week-end!
13	Unité 6 L4	Tout va bien?

14 Unité 6

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられないものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %

・作文: 約 20 %

・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の不完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を3か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントをコンパクトな教材を用いて順次学んでいきます。文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年3・4年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「(何々)を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞（定動詞/不定動詞）
第8回	「(何々、誰々)の」、 「(何々)を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「(どこどこ)で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「(誰々)を」	動詞の過去形（性・数変化）、活用体を表す名詞の対格
第12回	「(何々、誰々)へ」、 「(何々、誰々)と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する/～しおえる」	動詞の体（完了体/完了体）
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20%、期末試験 80%。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2（基本レベル）の受験勉強に役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ロシア語の学習」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	「学校と大学」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	「大学と大学生」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	「留学生たち」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	「寮の住まい」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	「部屋」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	「一日の流れ」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	「週のスケジュール」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	「休暇の過ごし方」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	「好きなこと」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	「図書館に行く」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、出席および宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PC やタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K I) A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業のプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど) が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (T P K И-1、B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。 会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、ч е м - т е м 構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1~12 の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他 (著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K И) B1 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習

14 期末試験

筆記試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他 (著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria / Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習 (その 1) 能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習 (その 2) 受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習 (その 3) 副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読 (その 1) 回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読 (その 2) ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読 (その 3) ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する 19 世紀科学」
7	テキスト講読 (その 4) おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読 (その 5) 文学、芸術	短文「美 (『カラマーゾフの兄弟』より)」、「映画芸術」
9	テキスト講読 (その 6) 文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読 (その 7) 歴史	短文「アレクサンドル 1 世」、「ニコライ 2 世」
11	テキスト講読 (その 8) 文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読 (その 9) 文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読 (その 10) 文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節）」
3	テキスト講読（その3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」

11	テキスト講読（その11）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

時事ロシア語A

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻を受け、ロシア社会にも注目が集まっている。ロシアではなぜプーチン大統領が支持されてきたのか。ウクライナや西側についてどのような認識を持っているのか。そして、今般の侵攻はどのように受け止められているのか。これらの問いに答えるためのほぼ唯一のアプローチといってもよいのが世論調査である。本授業では、ロシアの各種世論調査を題材とし、ロシア社会の実態について考える。なお、世論調査理解の核となる質問文と回答の読解は比較的容易なので、長文や複雑な文章の読解に慣れている必要はない。場合によっては日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。まずは政治、国際関係、社会・経済、文化に関わる世論調査についてのロシア語文章を全員で講読する予定である。その後、自分が興味を持つテーマに関わる世論調査のデータを発掘し、簡単な内容紹介と考察を発表してもらう。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアにおける世論調査についてのレクチャー
第 2 回	政権の支持率	世論調査結果の講読
第 3 回	ウクライナ侵攻	世論調査結果の講読
第 4 回	世界各国の好感度	世論調査結果の講読
第 5 回	抗議運動	世論調査結果の講読
第 6 回	家族・ジェンダー	世論調査結果の講読
第 7 回	歴史観	世論調査結果の講読
第 8 回	報道の受け止め	世論調査結果の講読
第 9 回	景気・経済	世論調査結果の講読
第 10 回	生活習慣	世論調査結果の講読
第 11 回	考察①	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 12 回	考察②	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 13 回	考察③	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 14 回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマや授業内容は受講者の人数や関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will examine the actual state of Russian society through a reading of the results of various public opinion polls. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but Japanese and English literature will also be included depending on the students' Russian language ability.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANr300LA

時事ロシア語B

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻という事態を受け、ロシアの政治・社会に改めて注目が集まっている。プーチン大統領の下で作られた政治体制は果たしてどのような特徴を持っているのか。そこにはどのような問題があり、なぜ侵攻という事態に至ったのか。そして、ロシアはこれからどこへ向かうのだろうか。本授業では、こうした問題を考えるための手がかりとして、ロシアの各種政治・社会評論を読み、考察する。なお、本授業ではロシア語で書かれた文章の講読を主とするが、受講者の理解度に応じて日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。近年のロシアの政治や社会に関する各種の評論を、その場で意味を取りながら読解する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	プーチン体制①	文章の講読および討論
第3回	プーチン体制②	文章の講読および討論
第4回	ロシアの歴史と政治①	文章の講読および討論
第5回	ロシアの歴史と政治②	文章の講読および討論
第6回	ロシア社会の特徴①	文章の講読および討論
第7回	ロシア社会の特徴②	文章の講読および討論
第8回	ロシアのナショナリズム①	文章の講読および討論
第9回	ロシアのナショナリズム②	文章の講読および討論
第10回	ウクライナ侵攻①	文章の講読および討論
第11回	ウクライナ侵攻②	文章の講読および討論
第12回	ロシアの今後①	文章の講読および討論
第13回	ロシアの今後②	文章の講読および討論
第14回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者のロシア語レベルに応じた文献を選定する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will read various essays on Russian politics and society. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but depending on the students' Russian language ability, Japanese and English texts will also be included.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able to practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 A 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声を LINE などを受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的 用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション(復唱)を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用語	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 中訳スキル リプロセシングとパラフレーズ1	L 1 の逐次通訳演習 L 2 東京案内 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 2 の逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳3 数字、固有名詞、リサーチ	L 3 の逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 通訳 短期記憶強化	L 5 の逐次通訳演習 L 6 日本事情
11	翻訳4 時事翻訳1	リプロダクション サイトトランスレーション 最新時事関連の応用翻訳(社会一般テーマ)
12	通訳5 既習単元の逐次通訳演習	L 6 の逐次通訳演習 L 1~6 の復習
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳(経済関連テーマ)
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション(復唱)と復習が必須。

【テキスト(教科書)】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に参考となるwebサイト等は指定することがある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答状況	10%
課題提出状況	20%
期末テスト	70%

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

中国語の読解力がついた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time	10%
Submission of assignments	20%
Final examination	70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 日中の制度等の違いを 踏まえて通訳する 他	L 8 教育
3	翻訳 1	時事翻訳 1
4	通訳 2 分訳 パブリック・スピーキング	L 8 の逐次通訳演習 L 9 友好都市交流
5	翻訳 2	時事翻訳 2
6	通訳 3 外来語	L 9 の逐次通訳演習 L 10 ファッション
7	翻訳 3	時事翻訳 3
8	通訳 4 固有名詞・作品タイトル 接続詞処理	L 10 の逐次通訳演習 L 11 日本のポップカルチャー
9	翻訳 4	時事翻訳 4
10	通訳 5 IT 関連用語 数字	L 11 の逐次通訳演習 L 12 中国の IT 市場
11	翻訳 5	時事翻訳 5

12	通訳 6 既習単元の逐次通訳演習	L 1 2 の逐次通訳演習 L 8～12 逐次通訳演習
13	翻訳 6	時事翻訳 6
14	通訳 翻訳 総復習 到達度チェック	既習内容の総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に、参考となる web サイト等を指定することはある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

通訳スキルの習得が非常に参考になった。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳C

2017年度以降入学者

王安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その1）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習（その2）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その1）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その2）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第12回	特殊構文（その1）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その2）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3 級～5 級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK 4 級～5 級レベル**（中国語検定試験 3～2 級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に付ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回 3、4 個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK 試験**や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第 2 回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第 3 回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第 4 回	特殊構文（その 1）	使役文と受け身文
第 5 回	特殊構文（その 2）	“是……的”構文
第 6 回	特殊構文（その 3）	“把”構文
第 7 回	特殊構文（その 4）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿…都”など
第 8 回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第 9 回	中国語の補語（その 1）	結果補語と方向補語
第 10 回	中国語の補語（その 2）	可能補語、数量補語
第 11 回	中国語の補語（その 3）	数量補語、様態補語
第 12 回	中国語の複文（その 1）	並列関係、累加関係、選択関係
第 13 回	中国語の複文（その 2）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第 14 回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

1 日中中日辞書を用意してください。

2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。

3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate~advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate~advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期は HSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同人社）

そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期は HSK 4、5 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

資格中国語中級A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・ Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分(1-5)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分(6-10)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分(11-15)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分(16-20)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分(21-25)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分(26-30)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分(31-35)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分(36-40)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分(41-45)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題(46-85)の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題(86-100)の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを配布し、事前に用意してもらい、授業中みなさんが用意した課題をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。そして作文の書き方も指導します。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	レベルチェック HSK合格の基準 HSK 5・6級に到達する概要
第2回	HSK5級の練習	「的」の使い方のまとめ
第3回	HSK5級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第4回	作文の基礎	作文の練習（400字） 練習問題など
第5回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第6回	HSK5級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第7回	HSK5級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第8回	HSK5級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400字）
第9回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第10回	HSK5級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第11回	HSK5級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第12回	HSK5級の練習	絵を見て作文練習（400字）
第13回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第14回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力、翻訳力、作文力を高めると同時に発音指導も継続します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めて、HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。提出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、次の授業の時に全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4回	作文など	作文練習（400字）
5回	作文など	作文指導など
6回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8回	作文など	作文練習（400字）
9回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11回	HSK 6級	HSK 6級の練習
12回	HSK 6級	HSK 6級の練習
13回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その用意された課題を授業中確認しながら説明します。

本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「担仔麵に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房 HP より抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）をテキストとし、項目ごとに担当者を決める。担当者は内容の整理、調査結果をまとめてプレゼンし、それをもとに参加者はディスカッションを行います。なお、進度によってはシラバス記載のすべての項目を完了できない場合もあります。
調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について—「台湾珈琲（台湾コーヒー）」篇を例に
2	『味の台湾』から読み解く食文化①	「担仔麵（エビと肉とそばろ入り汁麵）」篇に関する調査と発表
3	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶冰（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレット）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麵（四川風牛肉煮込み汁麵）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆漿（永和豆乳）」篇に関する調査と発表

10	『味の台湾』から読み解く食文化⑨	「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み解く食文化⑩	「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み解く食文化⑪	「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表
13	春学期のまとめ①	『味の台湾』から読み解く食文化①～⑤のふりかえり
14	春学期のまとめ②	『味の台湾』から読み解く食文化⑥～⑩のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）

【参考書】

焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は PC 等から参加できる環境を整えてください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画『恋する惑星』（王家衛監督、1994年製作）、『変臉 この權に手をそえて』（呉天明監督、1996年製作）、『黄色い大地』（陳凱歌監督、1984年製作）、『芙蓉鎮』（謝晋監督、1987年製作）、『四川のうた』（賈樟柯監督、2008年製作）、『在りし日の歌』（王小帥監督、2019年製作）、をとりあげ、女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会といった多角的な視点から、中国語圏の文化を捉えなおします。

※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・中国語圏の映画を実際に観て、関連する知識を得る。
- ・多角的な視点から女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会について理解を深める。
- ・基本的な歴史の知識を得る。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2回に一度映画を鑑賞し、教員による講義を行います。それをもとに参加者はそれぞれの視点からその映画について考えたこと、感じたことをまとめてプレゼンし、ディスカッションをおこないます。進度によってはすべての作品を扱うことができない場合もあります。フィードバックは授業内に適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のすすめ方について
2	若者たちの群像劇—返還前の香港から①	『恋する惑星』（原題『重慶森林』）に関する講義・映画鑑賞
3	若者たちの群像劇—返還前の香港から②	『恋する惑星』（原題『重慶森林』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
4	川劇（四川を代表する地方劇）の変面の老芸人と少女の物語—1920年代の中国を舞台に①	『変臉 この權に手をそえて』（原題『変臉』）に関する講義・映画鑑賞
5	川劇（四川を代表する地方劇）の変面の老芸人と少女の物語—1920年代の中国を舞台に②	『変臉 この權に手をそえて』（原題『変臉』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
6	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939年の中国を舞台に①	『黄色い大地』（原題『黄土地』）に関する講義・映画鑑賞

7	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939年の中国を舞台に②	『黄色い大地』（原題『黄土地』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
8	文化大革命の時代を生きた女性の物語①	『芙蓉鎮』（原題『芙蓉鎮』）に関する講義・映画鑑賞
9	文化大革命の時代を生きた女性の物語②	『芙蓉鎮』（原題『芙蓉鎮』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
10	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語①	『四川のうた』（原題『二十四城記』）に関する講義・映画鑑賞
11	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語②	『四川のうた』（原題『二十四城記』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
12	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980年代から2000年代の中国を舞台に①	『在りし日の歌』（原題『地久天长』）に関する講義・映画鑑賞
13	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980年代から2000年代の中国を舞台に②	『在りし日の歌』（原題『地久天长』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
14	まとめ	秋学期のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

藤井省三『中国映画 百年を描く、百年を読む』（岩波書店、2002年）
西澤治彦『中国映画の文化人類学』（風響社、1999年）
応雄『中国映画のみかた』（大修館書店、2010年）など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規テーマにつきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第0課 イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第1課 スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10、スペイン語圏の名前
3	第2課 慣用句を便利に使おう	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第3課 感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞 ser、国籍、数詞 11～20
5	第3課 感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第4課 いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞 1、数詞 21～30
7	第4課 いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	動詞 estar、直接目的語と間接目的語、数詞 31～100、
9	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	tú と usted への肯定命令、グアテマラ
10	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞 estar, hay、位置関係を表す語句
11	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞 2、コスタリカ
12	第7課 しなければいけない、するつもり	1人称単数不規則動詞、天候表現
13	第7課 しなければいけない、するつもり	動詞 tener, ir、キューバ

14 期末試験、ふりかえり 春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（10%）、期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和英辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第9課 好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第9課 好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞 gustar
5	第10課 日常生活について話そう	再帰動詞
6	第10課 日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第12課 過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第12課 過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第13課 過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第13課 主語のない文を使おう	無人称表現、muy と mucho
13	第14課 昔のことを	線過去、アルゼンチン語等

14 期末試験、ふりかえり 秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんどリル！スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（10%）、期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペインS A修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50%、ディスカッションへの参加姿勢 25%、他の学生の発表の際の参加姿勢 25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックはHoppiiを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの結婚式の祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式の祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることとBreak Out Roomで使う10個の質問の答えを言うように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので、授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマのPPを使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOMに滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The spring semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.
2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ZOOM でリアルタイムで行う。

Break Out Room を使って、決まった質問の練習から始める。その後復習をしてから、リスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習で新しい文章の理解を深めていく。最後に日本語からスペイン語への翻訳トレーニングもやる。

本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマスと新年の祝賀」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス 宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス シーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス イブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過 ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの大晦日の年 越しぶどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年 越しぶどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣 の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢 人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの1月6日 の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス 休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りする PDF の新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくことです。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The fall semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.

2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史をテーマとし、春学期は前近代（古代～近世）の通史を軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い：60 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて正確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18世紀末から19世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ

歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の割合：60%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習
8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 表現	教科書第 3 課の表現確認

10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish
 - Have interest in Hispanic cultures and history
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
 - Mid-term exam (30%)
 - Term-end exam (40%)

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla) : 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla) : 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla) : 文法	教科書第 6 課の文法復習
8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認

12 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の表現確認

13 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の文法復習

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung

⑭ 全体のまとめとテスト Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%
平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

- | | | |
|---|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| ⑧ | 旅行のためのドイツ語 6
レストランで
(ほかの表現・会話の練習) | Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen) |
| ⑨ | 旅行のためのドイツ語 7
駅にて
(簡単な表現) | Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel) |
| ⑩ | 旅行のためのドイツ語 8
駅にて
(ほかの表現・会話の練習) | Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen) |
| ⑪ | 旅行のためのドイツ語 9 | Reisedeutsch (Reiseziele) |
| ⑫ | 文法のまとめ・補足 | Grammatik:
Zusammenfassung und Ergänzungen |
| ⑬ | 復習 | Übungen zur Wiederholung |
| ⑭ | 全体のまとめとテスト | Zusammenfassung
Test |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞

7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Liebblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト (教科書)】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう!』清野智明

白水社

ISBN : 9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度 (50%)
提出してもらったドイツ語の作文 (50%)
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 1 大学紹介を書く

10.	Meine Universität	グループワーク 発表 2
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen	過去形 1 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen	プレゼンテーション発表 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%)

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ショートアニメと映画の台詞から学ぶドイツ語
スイスにある、ドイツ語学校が作成している無料の Youtube 学習
チャンネルの教材 (レベル A2 ~ B1) を用いて、コミカルなイラスト
を楽しみ、語彙を増やし、日常のシーンで使えるドイツ語を学び
ます。
ドイツ語の基礎文法を一通り学び終えた方を対象に、中級への橋渡
しを目的とする授業です。

【到達目標】

- アニメと映画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向
上させる。
- メディア・リテラシー (海外のメディアを効果的に活用する力な
ど) を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学
部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回違うテーマで5分～15分程度のショートアニメと映画の台詞
を読み、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。様々な応用練
習を行い、課題を出す。次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを読み、 授業内容を確認する。
2	「アニメ (Grammatik)」(1)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
3	「アニメ (Grammatik)」(2)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
4	「アニメ (Grammatik)」(3)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
5	「アニメ (Grammatik)」(4)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
6	「アニメ (Geschichten)」(1)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
7	「アニメ (Geschichten)」(2)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
8	「アニメ (Geschichten)」(3)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
9	「アニメ (Geschichten)」(4)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
10	「映画 (Kultfilm)」 (1)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
11	「映画 (Kultfilm)」 (2)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。

12	「映画 (Kultfilm)」 (3)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
13	「映画 (Kultfilm)」 (4)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
14	まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱われたムビーなどを用いて個人で自己学習を進めることが
望まれます。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。」

【テキスト (教科書)】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップし
ます。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

数回の課題提出を含む平常点：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プ
リントー) などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難
しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】

Enjoy comical illustrations, increase your vocabulary, and
learn German that can be used in everyday situations using
the free Youtube learning channel materials (levels A2 to B1)
created by a German language school in Switzerland.

This class is aimed at those who have finished learning basic
German grammar, and aims to serve as a bridge to the
intermediate level.

- Improve your German reading and listening skills in a fun
way with anime and movies.
- Improving media literacy (the ability to effectively use
foreign media, etc.).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this
class is 1hour in total.

Ordinary score including assignment submission: 100%

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ショートアニメと映画の台詞から学ぶドイツ語
スイスにある、ドイツ語学校が作成している無料の Youtube 学習
チャンネルの教材（レベル B1～B2）を用いて、コミカルなイラスト
を楽しみ、語彙を増やし、日常のシーンで使えるドイツ語を学び
ます。
春学期の授業に引き続き、中級への橋渡しを目的とする授業です。

【到達目標】

- アニメと映画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向上させる。
- メディア・リテラシー（海外のメディアを効果的に活用する力など）を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回違うテーマで5分～15分程度のショートアニメと映画の台詞
を読み、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。様々な応用練
習を行い、課題を出す。次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを読み、 授業内容を確認する。
2	「アニメ (Grammatik)」(1)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
3	「アニメ (Grammatik)」(2)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
4	「アニメ (Grammatik)」(3)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
5	「アニメ (Grammatik)」(4)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
6	「アニメ (Geschichten)」(1)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
7	「アニメ (Geschichten)」(2)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
8	「アニメ (Geschichten)」(3)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
9	「アニメ (Geschichten)」(4)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
10	「映画 (Kultfilm)」 (1)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
11	「映画 (Kultfilm)」 (2)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
12	「映画 (Kultfilm)」 (3)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。

13 「映画 (Kultfilm)」 映画の台詞を読み、本物のドイツ
(4) 語対話を覚える。

14 まとめ 秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱われたムービーなどを用いて個人で自己学習を進めることが
望まれます。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップし
ます。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

数回の課題提出を含む平常点：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プ
リンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難
しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】

Enjoy comical illustrations, increase your vocabulary, and
learn German that can be used in everyday situations using
the free Youtube learning channel materials (levels B1 to B2)
created by a German language school in Switzerland.
This class is aimed at those who have finished learning basic
German grammar, and aims to serve as a bridge to the
intermediate level.

◦ Improve your German reading and listening skills in a fun
way with anime and movies.

◦ Improving media literacy (the ability to effectively use
foreign media, etc.).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this
class is 1hour in total.

Normal score including several assignment submissions: 100%

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語 I

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制 (30 名) /2021 年度までに「時事ドイツ語 I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界共通のアジェンダである < SDGs > を取り上げ、ドイツ語を学びながら、< SDGs > に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、< SDGs > についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。

現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているのかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

< SDGs > を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

< SDGs > を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した < SDGs > を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観
2	SDGs-Ziel 1: Armut in jeder Form und überall beenden 目標 1 貧困をなくそう	内容確認 文法の説明
3	SDGs-Ziel 2: Ernährung weltweit sichern 目標 2 飢餓をゼロに	内容確認 文法の説明
4	SDGs-Ziel 3: Gesundheit und Wohlergehen 目標 3 すべての人に健康と福祉を	内容確認 文法の説明

5	Ziel 4: Hochwertige Bildung weltweit 目標 4 質の高い教育をみんなに	内容確認 文法の説明
6	Ziel 5: Gleichstellung von Frauen und Männern 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容確認 文法の説明
7	Ziel 6: Ausreichend Wasser in bester Qualität 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	内容確認 文法の説明
8	Ziel 7: Bezahlbare und saubere Energie 目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	内容確認 文法の説明
9	Ziel 8: Nachhaltig wirtschaften als Chance für alle 目標 8 働きがいも経済成長も	内容確認 文法の説明
10	Ziel 9: Industrie, Innovation und Infrastruktur 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容確認 文法の説明
11	Ziel 10: Weniger Ungleichheiten 目標 10 人や国の不平等をなくそう	内容確認 文法の説明
12	Ziel 11: Nachhaltige Städte und Gemeinden 目標 11 住み続けられるまちづくりを	内容確認 文法の説明
13	Ziel 12: Nachhaltig produzieren und konsumieren 目標 12 つくる責任つかう責任	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs - eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

<https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/>

zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

秋学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（30 名）/2021 年度までに「時事ドイツ語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界共通のアジェンダである〈SDGs〉を取り上げ、ドイツ語を学びながら、〈SDGs〉に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、〈SDGs〉についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。

現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているのかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観 目標 1~12 の振り返り
2	SDGs-Ziel 13: Weltweit Klimaschutz umsetzen	内容確認 文法の説明 目標 13 気候変動に具体的な対策を
3	SDGs-Ziel14: Leben unter Wasser schützen	内容確認 文法の説明 目標 14 海の豊かさを 守ろう

4	SDGs-Ziel 15: Leben an Land	内容確認 文法の説明 目標 15 陸の豊かさも 守ろう
5	Ziel 16: Starke und transparente Institutionen fördern	内容確認 文法の説明 目標 16 平和と公正を すべての人に
6	Ziel 17: Globale Partnerschaft	内容確認 文法の説明 目標 17 パートナー シップで目標を達成し よう
7	オーストリアの SDGs ①	内容確認 文法の説明
8	オーストリアの SDGs ②	内容確認 文法の説明
9	オーストリアの SDGs ③	内容確認 文法の説明
10	スイスの SDGs ①	内容確認 文法の説明
11	スイスの SDGs ②	内容確認 文法の説明
12	スイスの SDGs ③	内容確認 文法の説明
13	大学の SDGs	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs – eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

春学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅰ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

ARSa200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理, 言語, その他
3.	ドイツ語圏の世界 2	プレゼンテーション
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ? 映画: ゲーテの恋 ~君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeus からクララ・シューマンまで
6.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
7.	スイスと日本	映画: ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	世界を驚かせた話	カスパー・ハウザーの謎 (1974)
9.	戦争映画 I 第一次世界大戦	西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション

10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画: バルトの楽園 (2006)
11.	映画の中のヒトラー I	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl 1993
12.	映画の中のヒトラー II	ヒトラー ~最期の 12 日間~ (2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・文献を事前に読む。(資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)
 - ・映画鑑賞
 - ・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
- 本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井 裕一 (著, 編) 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 (エリア・スタディーズ 151)
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)
- ・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%
授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class. The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ : ベルンの奇跡 (2003)
2.	60 年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
3.	70 年代の西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マインホフ/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 映画: 善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006) グンダーマン 優しき裏切り者の 歌 Gundermann (2018)
5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン! Good Bye Lenin (2003) プレゼ ンテーション ディスカッション

6.	青春	児童文学の映画化
7.	青春	映画：50 年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っ ていいのか？	ヒトラーについて笑っていい のか？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼ ンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織 NSU 映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞
10.	ドイツ極右組織	スイス映画・オーストリア映画と 映画祭 難民問題
11.	ドイツ以外のドイツ語 圏の映画	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
12.	移民国ドイツ	プレゼンテーション ディスカッション
13.	移民国ドイツ	映画鑑賞
14.	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文献を事前に読む (資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)

・映画鑑賞

本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

・森井裕一 (著, 編集) 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 (エリア・スタディーズ 151)

・宮田眞治・島山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』

・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)

・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章 【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。

ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%)
and active participation in class (50%)

ARSA200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんでしょうか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思いつくのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会や文化で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々な文化を構成している制度を探求します。そのことを通じて、社会や歴史の要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。しかし毎回のテーマについて皆さんが知っていることを積極的に伺いますので、対話に参加して下さることを期待します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ語の歴史	ドイツ語の歴史について。
第 3 回	ドイツ語の地域性	さまざまな地域のドイツ語について。
第 4 回	ビールの現状	ドイツのビール産業の現状について。
第 5 回	ビールの歴史	ドイツ語圏のビールの歴史 (特にビール純粋令) について。
第 6 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 7 回	ハイジのおんじ	スイスの歴史と傭兵輸出について。
第 8 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 9 回	アウトバーン	ドイツの自動車交通について。
第 10 回	ドイツの自動車産業	ドイツの工業化と自動車産業の展開について。
第 11 回	ドイツの教育制度	マイスターを生むドイツの教育制度について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民 (およびその子孫) たちについて。
第 13 回	休暇	ドイツの戦後復興と休暇について。

第 14 回 まとめ

これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習：次回のキーワードについて思いつくことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー：40%

授業への積極的参加：10%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

個々のキーワードをなるべく有機的につなげるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は Hoppii を通じて配布しますので、ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと (なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします)。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

毎回参加者の皆さんに色々質問をしたいので、積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of German-speaking countries.

【Course outline】

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2hours of learning activities outside of the classroom.

Before the course: think about images you associate with the keyword of the next session.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction papers : 40%

Active participation : 10%

Term paper : 50%

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではドイツ語圏の文化と社会の関係を、フランクフルトやウィーンの大学をめぐる社会制度や政治制度を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、20 世紀ドイツ語圏の大学における文化的営みや、

1. さまざまな歴史的社会的事情との関連で展開してきたこと、および、
2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。

なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。また哲学に関わる人々が出てきますが、哲学的な議論は一切しません。哲学以外の分野の人々もなるべく取り入れたいと思います。

【到達目標】

- この授業を通じて、
- ・ 20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題とそれが大学 (およびそこで働く人々) にもたらした影響についての概観を得ることができます
- ・ ドイツの社会思想について概観を得ることができます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の 20 世紀の歴史の概観	ドイツ語圏の 20 世紀について、高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフランクフルト学派	フランクフルト学派の第 1 世代の研究の背景を大戦間期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ナチスの台頭とドイツの大学	1933 年以降のドイツの政治状況を概観し、それがドイツの大学に与えた影響を考察します。
第 4 回	19 世紀から 20 世紀にかけてのウィーン文化	ウィーン学団を生んだオーストリアおよびウィーン歴史を概観します。
第 5 回	ウィーン学団	ウィーン歴史を文化の側面から見たときのウィーン学団の位置について概観します。
第 6 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。アメリカ東部の亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。

第 7 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	フランクフルト学派が西部に移動したことを概観し、カルフォルニア地域の亡命知識人の状況について概観します。
第 8 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
第 9 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーンから渡米した哲学者たちが、アメリカに定住していく様子を概観します。
第 10 回	戦後のフランクフルト学派	第 2 次世界大戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。
第 11 回	68 年世代の学生運動とドイツ社会	ドイツの学生運動が隆盛を迎えた 1968 年代当時の哲学的状況を概観します。
第 12 回	歴史家論争	第 2 次世界大戦戦後のドイツが、第 2 次世界大戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
第 13 回	ナチス期にドイツの大学に残った人たち	亡命した研究者の残した空席を埋めた研究者について概観し、彼らの第 2 次世界大戦後を確認します。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しません。適宜、レジユメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%
レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生の要望により、ウィーンやフランクフルトの都市の歴史を少し多めに授業しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料は Hoppii で配信しますので、ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと (なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします)。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。ただし、春学期で学んだことは絶対に無駄になりませんので、春学期に履修した方の積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2hours of learning activities outside of the classroom.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction papers : 50%

Term paper : 50%

ARSA200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本授業の流れについて説明 ・国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・パロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体 2300円+税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (コメントシートなど) : 30 %

②期末レポート : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to unerstanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%,
term-end report: 70%.

ARs200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを中心とする。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ地域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ地域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領およびベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧ベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円 + 税
 - 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円 + 税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円 + 税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円 + 税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017 年、本体 1900 円 + 税
 - 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社、2019 年、本体 2300 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

- ①平常点（コメントシート等）：30 %
- ②期末レポート：70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republicque. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to unerstanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%,
term-end report: 70%.

LANF200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制 (30名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Demander des articles	パンを買う
2	Demander des articles	郵便局の会話
3	Parler des quantités	朝市での会話
4	Parler des quantités	スーパーで
5	Demander le prix	文房具を買う
6	Passer une commande	カフェで注文する
7	Faire une réservation	ホテルの予約
8	Faire une réservation	電車のチケットを買う
9	Faire des achats	服を買う
10	Faire des achats	靴を買う
11	Hésiter	何の花を買うのか躊躇う
12	Prendre rendez-vous	歯医者予約を取る
13	Prendre rendez-vous	医者予約を取る
14	Demander des renseignements	地下鉄の窓口の会話

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100% (授業中の発言 50%及び宿題の提出 50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANf200LA

フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Exprimer une obligation	区役所の会話
2	Autoriser et interdire	スキーリゾートの会話
3	Vérifier	プールの会話
4	Protester	クレームを言う
5	Exprimer des intentions et des projets	自転車レンタルの会話
6	Exprimer des intentions et des projets	銀行の会話
7	Localiser	デパートの会話
8	Localiser	道案内の会話
9	Localiser	紛失した物の会話
10	S'informer par téléphone	不動産屋の会話
11	Comparer	バカンスの場所を決める会話
12	Caractériser	パーティの準備
13	Exprimer une condition	天気によって計画を立てる
14	Parler d'un besoin	仕事に必要な物の話をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言 50%や宿題の提出 50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better of French grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation du vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquérir, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des ressources disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à répondre à des questions posées et à en dégager les informations essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins tâcher de s'exprimer en langue française, et de contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

La langue d'enseignement en classe est en principe le français, tandis que les informations administratives seront fournies en japonais via LMS et par e-mail.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours de « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores - les transports; Nos langues et le français
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores - des sons étranges; Nadine se présente.

Séance 3	Réfléchir sur la parité Femmes/Hommes en politique ; Les symboles de la République française	« Une nouvelle cheffe de gouvernement en France » ; « Ici, en République »
Séance 4	Décrire un phénomène naturel ; Mondialisation et produits « made in France »	« Le volcan Mauna Loa se réveille » ; « Nous allons vivre à la française »
Séance 5	Parler d'un événement sportif ; S'imprégner dans un environnement interculturel	« Jeux olympiques d'hiver 2022 » ; « Guadeloupe, couleurs Caraïbes »
Séance 6	Culture Hip-hop et le français; S'informer sur les mouvements sociaux	« Manifestations en France » ; « Youtubeurs et engagés »
Séance 7	L'Europe de l'ouest suffoque. ; Namur, c'est où ?	« Canicule en Europe » ; « La maison »
Séance 8	Familiariser avec le vocabulaire du milieu journalistique; le cinéma en France	« Ouverture du festival de Cannes » ; « Les professions »
Séance 9	Assimiler des expressions typiques dans une émission d'information; Découvrir l'ancienne région Rhône-Alpes	« La reine d'Angleterre, Elizabeth II, est décédée » ; « Grammaire : le présent de l'indicatif »
Séance 10	Préciser les différents types d'inégalité	« États-Unis: les salaires des grands patrons explosent » ; « Droits des femmes : à quand l'égalité ? »
Séance 11	Raconter un récit sportif; Égalité des genres	« Tour de France 2022 » ; « Où en sont les droits des LGBT dans le monde ? »
Séance 12	Analyser l'opinion sur l'écologie; Canada et coronavirus	« Football: scandale climatique pour le PSG » ; « Canada : la pandémie aggrave la crise sociale »
Séance 13	S'intéresser à la diplomatie linguistique	« Le 18e sommet de la Francophonie » ; « Destination Japon »
Séance 14	La République démocratique du Congo et le Royaume du Maroc	« Les gorilles du parc des Virunga en danger » ; « Des bénévoles mobilisés au Maroc »

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. https://docs.google.com/spreadsheets/d/1oLZg_4YenDImlRj7Ftbb2LJ6BQ40OWN8v0hq3umN1q0/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>

2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert le VPN universitaire. Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour en savoir plus. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). Les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Comment progresser en français ? Je répondrais que la question de la motivation est cruciale.

La plupart des compétences, et pas seulement celle des langues, nécessitent une certaine période de formation pour être acquises. En d'autres termes, vous devez rester motivé.e pendant un certain temps.

Pour rester motivé.e, vous devez avoir un objectif clair.

Afin d'aider à clarifier votre objectif, je vous invite à consulter le document ci-dessous. https://docs.google.com/document/d/1ShEdsEhsbWQCchpimlVgmrF1p0exsJZeJVH0Caz3_mk/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent connaître une partie de notes en consultant son relevé des points sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom.

【その他の重要事項】

1) Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.

2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative informations will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【Equipment student needs to prepare】

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【Others】

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran% C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation du vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquérir, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des ressources disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à répondre à des questions posées et à en dégager les informations essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins tâcher de s'exprimer en langue française, et de contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

Le retour d'information aux étudiants se fait en salle de classe, sur le LMS (Hoppii et Google Classroom) et par e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours de « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; « Devinettes sonores - les animaux » ; « Les langues de la classe (atelier 2 - français langue maternelle) »
Séance 2	Présenter le planning du semestre	« Devinettes sonores - les lieux » ; « Sous le ciel de Paris - Zaz »

Séance 3	Engager une conversation en français ; jouer au journaliste en classe	« Les voisins du 12 bis - épisode 1: Une arrivée mouvementée (partie1) » ; « Flash infos (12/16) »
Séance 4	Accompagner pour un accouchement; s'interroger sur les stéréotypes	« Les voisins du 12 bis - épisode 1: Une arrivée mouvementée (partie2) » ; « Un travail d'homme et de femme »
Séance 5	Comprendre le système de santé français; La vie scolaire - Cantine	« Les voisins du 12 bis épisode 6: Au Décibel (partie1) » ; « À table (10/16) »
Séance 6	Se familiariser avec le milieu associatif; L'art de vivre	« Les voisins du 12 bis épisode 7: La chambre de bonne (partie2) » ; « Les Français à table »
Séance 7	Raisonner par analogie; Découvrir des exercices au niveau A2	« Faire un portrait chinois de la Joconde » ; « Nous nous informons en français. »
Séance 8	Profiter d'une visite guidée dans un monument architectural; essayer de comprendre les gros titre d'une émission d'information	« Les titres du journal (2 janvier 2023) » ; « Le Paris des grands magasins »
Séance 9	Cultiver des légumes dans un jardin; Charm el-Cheikh capitale de la réflexion mondiale sur le climat	« Les titres du journal (7 novembre 2022) » ; « Un potager de champion »
Séance 10	Vocabulaires de base pour le journalisme politique (référendum, etc.); Le numérique à Abidjan	« Les titres du journal (6 juillet 2022) » ; « La presse et les médias : la Côte d'Ivoire - Mon horizon rêvé »
Séance 11	Vaccination contre le Covid-19; Construire des maisons en Afrique	« Les titres du journal (1er juin 2022) » ; « Burkina Faso : des toits en terre »
Séance 12	Populisme au Brésil; prendre l'habitude d'écouter les actualités en français	« Les titres du journal (3 mai 2022) » ; « Manifestations anti-confinement à Rio »
Séance 13	« Slava Ukraini. »	« Les titres du journal (7 décembre 2022) » ; « Destination Kiev (Ukraine) »
Séance 14	Politique de puissance ou démocratie entre les peuples ?; développement durable et identité festive	« Allemagne: un sapin de Noël controversé » ; « La procédure de nomination du secrétaire général de l'ONU »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. https://docs.google.com/spreadsheets/d/1oLZg_4YenDImRj7Ftbb2Ij6BQ40OWN8v0hq3umN1q0/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert le VPN universitaire. Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour en savoir plus. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). Les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Comment progresser en français ? Je répondrais que la question de la motivation est cruciale.

La plupart des compétences, et pas seulement celle des langues, nécessitent une certaine période de formation pour être acquises. En d'autres termes, vous devez rester motivé.e pendant un certain temps.

Pour rester motivé.e, vous devez avoir un objectif clair.

Afin d'aider à clarifier votre objectif, je vous invite à consulter le document ci-dessous. https://docs.google.com/document/d/18FejuX_zKcrCqUimUfTyvKe6eS3eMtAzYQ7xr-tY3M/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimitée ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent connaître une partie de notes en consultant son relevé des points sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom.

【その他の重要事項】

1) Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.

2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【Equipment student needs to prepare】

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々 (フランス国籍を持つとは限りません) の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰でも知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリカ』1 2001 年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリカ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリカ』3 トトゥとカンヴィツ	刑事とシャネル / 監督と俳優

4	『太陽がいっぱい』1 女優アラン・ドロンの主演のフランス・イタリ ア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。邦題タイトルに ついて。
5	『太陽がいっぱい』2	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽の せい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』 『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1	映画の「新しい波」 「邦題タイトルについて」その 2 ゴダールの代表作：原 題は「息切れ」
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベル モンドとジーン・セ バーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモン パルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグ その 2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシ リーズ
12	『女優マルキーズ』1	ソフィー・マルソー演じる女優は 旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ 14 世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ
14	『女優マルキーズ』3 舞台上に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとバルナ ール・ジロドー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリカの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17 世紀の俳優について調べる。
 - 13：17 世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603。
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with various aspects of lives in France with the aide of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA

フランスの文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々 (フランス国籍を持つとは限りません) の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に付けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21 世紀に入って大ヒットしたいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『最強のふたり』 1： 2011 年のヒット作	「ふたり」とはどんなひとたち？
2	『最強のふたり』 2： 格差社会と移民	パリの郊外とは？ 富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』 3： 北の海岸での出会い	「介護者」と「パートナー」：助ける人とお膳立てする人

4	『シェルブールの雨傘』 1 フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； 1960 年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』 2 フランスにとっての 1960 年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』 3 Westside Story の向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』 1 1945 年の大作 19 世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい 「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』 2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』 3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』 1 中世からのタイムスリップ。 ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』 2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。終わったようで終わらない？
12	『シラノ』 1： 17 世紀の実在の人物をモデルにした 19 世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ』 2： 17 世紀の宮廷と社会状況	préciosité とアラスの包囲
14	『シラノ』 3： 普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思えます。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された 1945 年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19 世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった 17 世紀の人物について調べる。
 - 13：17 世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, and to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

河村 英和

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランス語圏 (フランスだけでなく、スイス、ベルギーも) の観光資源の歴史を学ぶ。山、海、森、川、湖、温泉といった自然風景のジャンル・地域別の観光リゾート地の派生、その発展期である 19 世紀から 20 世紀初頭 (ベル・エボック期：1880-1914) にかけて好まれた建築様式や、愛国的なナショナリズムの高揚とともに増加する偉人像・モニュメントの数々、最後に余暇の発想源でもあるロクス・アモエヌス (心地良い場所) や幸福な島々、そして表裏一体としてのカタストロフ (破壊的事象) 的风景についても考える。

【到達目標】

フランスの観光リゾート地の派生・発展からみた文化史を、当時の社会思想を踏まえつつ、関連する芸術作品 (絵画、文学、音楽、建築) の事例から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。学期期間中、都内の美術館で開催されているフランス風景画展の見学を推奨する。意見や質問、提出物 (リアクションペーパー) に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス観光旅行のイメージと歴史的背景	イントロダクションとして、本講義のテーマであるフランス観光旅行の現状イメージを確認しつつ、その史的背景と全体像を概観する。
第 2 回	山へ	パルナッソス、ヴァントゥー山、プロヴァンスの山々
第 3 回	アルプスへ	シャモニーとモンブラン、グリオン、コー、レザン、モンタナ
第 4 回	学外授業、展覧会見学	上野の国立西洋美術館収蔵のフランス風景絵画の見学を予定
第 5 回	レマン湖	著名人たちゆかりのレマン湖畔の町 (ジュネーヴ、ローザンヌ、モントルー、ヴヴェ、ヴィルヌーヴ)
第 6 回	田園・田舎・牧歌的风景	フェット・シャンペートル、ミルク小屋、スイス風シャレー、アルカション
第 7 回	森と岩	ファンテーヌブローの森とバルビゾン派、芸術家たちを惹きつけた岩場の風景

第 8 回	海へ：ノルマンディーとコート・ダジュール	芸術家たちの題材となった海の風景と海浜リゾート・ノルマンディーと冬の避寒・結核転地療養地から夏の海水浴リゾートへの転身するコート・ダジュール
第 9 回	学外授業、展覧会見学	フランス 20 世紀絵画に関する展覧会 (於：アーティゾン美術館) の見学を予定
第 10 回	水辺と温泉	画家の題材となった川辺の風景、温泉リゾート (スバ、ヴィシー、エヴィアン)
第 11 回	中世復興、歴史主義と折衷主義のパリ	文化財保護の誕生、中世趣味の流行 (トゥルバドゥール様式絵画、ネオ・ロマネスク建築、ゴシック大聖堂の再評価)、古代ローマ風、ネオ・ルネサンス、ネオ・バロック建築で溢れる 19 世紀パリ大改造とグランド・ホテル
第 12 回	マリアンヌ、ジャンヌ、ヴィエルジュ	ナショナリズムが台頭する 19 世紀に、愛国のシンボルとして急増したマリアンヌ、ジャンヌ・ダルク、聖母 (ヴィエルジュ) 像について
第 13 回	国家の記念碑	ナポレオン像、偉人たちの墓、エッフェル塔など国家の威信をかけたモニュメント
第 14 回	楽園とカタストロフ	ロクス・アモエヌスとしての島々と破壊的事象 (カタストロフ) 的风景への関心

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

気になる (なった) ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎講義ごとに資料を配布する。Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『観光大国スイスの誕生 - 「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013 年
河村英和『タワーの文化史』丸善出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加で 30 点、レポート 70 点による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要があります。

【その他の重要事項】

講義期間中に行う美術館見学は 2 種の展覧会 (各講義 1 回分相当、合計 2 回分相当で、現地集合現地解散) があり、一部観覧料 (1,000 円程度) の実費がかかる場合もあります。事情により展覧会見学に参加できない方には、代替レポート課題を授業中に指示します。

※定員は目安です。本授業は選抜は行いません。
履修を希望する学生は、履修登録期間中に学生自身で履修登録してください。

※日程は以下のとおりです。

- 8 月 1 日 (火) 3~5 限：第 1~3 回 (対面)
- 8 月 2 日 (水) 3 限：第 4 回 (対面：美術館見学) 5・6 限：第 5・6 回 (オンライン)
- 8 月 3 日 (木) 3・4 限：第 7・8 回 (対面)
- 8 月 4 日 (金) 3 限：第 9 回 (対面：美術館見学) 5・6 限：第 10・11 回 (オンライン)
- 8 月 5 日 (土) 3~5 限：第 12~14 回 (オンライン)

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will study the history of tourism in French-speaking countries (not only in France, but also in Switzerland, and Belgium), including the tourist spot in the different genres of the natural landscape: mountains, seas, forests, rivers, lakes, and hot springs. Finally, we will consider the origin of the leisure idea, as locus amoenus: the Fortunate Isles, until its antithesis: the catastrophic landscapes.

【Learning Objectives】 Understand the cultural history from the perspective of the derivation and development of tourist resorts in France with examples of related works of art (paintings, literature, music, architecture) based on the social ideas at that time.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading Criteria / Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARs200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

河村 英和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「芸術の都パリ」という言い回しが普及する以前、ヨーロッパ人にとっての芸術の都はローマであり、ローマ留学を支援するフランス政府の権威ある奨学制度の「ローマ賞」は芸術家の登竜門だった。イタリア各地を旅したフランス人たちはその体験を数々の芸術作品(絵画、彫刻、文学、音楽、建築)に反映させてきた。この授業では、おもに 18~19 世紀のフランス人たちがいかにイタリアの風景や芸術・文化に魅せられ、影響を受けていたかを、絵画、彫刻、建築、音楽、文学といった複数のジャンルから学んでゆく。

【到達目標】

フランス文化に多大なる影響を与えたイタリアの風景・芸術・建築を、フランス人芸術家(文人、画家、彫刻家、建築家、作曲家)たちのイタリア滞在体験と関連作品を知ることによってその理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。画像資料を紹介するためパワーポイントを使う。意見や質問、提出物(リアクションペーパー)に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	18~19 世紀のフランス人がイメージする旅行先としてのイタリアとは？
第 2 回	理想郷(アルカディア)	ローマ平原をモデルに理想風景を描く在ローマのフランス人画家たちとその作品
第 3 回	ローマの廃墟	ローマの廃墟に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 4 回	サド侯爵のイタリア	小説『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』で知られるサド侯爵が、イタリア旅行中に訪れたところと作品に生かされたスポット
第 5 回	ローマ平原とチョチャリア地方	ローマ平原とチョチャリア地方の風景と美しい民族衣装を描く 19 世紀のフランス人画家たちとその作品、この地を舞台にしたフランスオペラやバレエ
第 6 回	スタール夫人とスタンダールのイタリア	当時はイタリア観光ガイドブックのように読まれたスタール夫人の小説『コリヌス』に描かれるローマとナポリ、『バルムの僧院』で知られるスタンダールのイタリア滞在中のオペラ通いやローマ散歩について

第 7 回 ヴェスヴィオ噴火とナポリの漁師

ヴェスヴィオ火山の噴火シーンを専門とするフランス人画家、オペールのオペラ『ボルティチの囁娘』、若きナポリの漁師を描くフランス人画家や彫刻家

第 8 回 デュマのナポリ

ナポリに滞在していたアレクサンドル・デュマの旅行記『コリッコロ』、歴史小説『寵愛された女性の思い出』など、数々の著作に描かれる当時のナポリとは

第 9 回 幸あるカンパーニア

イスキア、プロチダ、カプリ、ソレント、アマルフィの海浜風景と民族衣装の娘に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品

第 10 回 ヴェネツィア

ジョルジュ・サンド、アルフレード・ミュセ、ブルースト、レニエ、モネなど、水都ヴェネツィアに魅せられた文人・芸術家とその作品、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』など

第 11 回 中世・ルネサンスの再発見ーローマ・フィレンツェ

ダンテやルネサンス時代のイタリア美術をテーマにしたフランス人による芸術作品、ペルリオーズのオペラ『ペンバヌート・チェッリーニ』など

第 12 回 ローマ賞とフランスのイタリア風建築

ローマ留学あるいはイタリア旅行経験のあるフランス人建築家がフランスに残したイタリア風建築について

第 13 回 ゴッラ、ロマン・ロラン、ジイドのイタリア

エミール・ゴッラ『ローマ』、ロマン・ロラン『ローマの春』、アンドレ・ジイド『背徳者』『法王庁の抜け穴』に描かれるイタリア(とくにローマ)とは

第 14 回 総括

過去の講義のテーマに沿った類似・追加事例を各自で紹介

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

復習として 30 分程度、気になる(なった)こと(人名、建物名、地名、固有名詞)を調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。

【テキスト(教科書)】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『イタリア旅行ー「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011 年
河村英和『カプリ島ー地中海観光の文化史』白水社、2008 年
佐藤直樹編『ローマ(西洋近代の都市と芸術 1)』竹林舎、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要がある。

【その他の重要事項】

諸事情により、オンライン回と対面回の入替え変更(対面 7 回の規程は保持)がありえます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Before the Paris reputation as the "City of Art" became widespread, the city of art for Europeans was Rome, and the "Prix de Rome", the prestigious scholarship system of the French government to support studying in Rome, was the gateway to become a great artist. French artists who have traveled through Italy have reflected their Italian experiences in their masterpieces (paintings, sculptures, literature, music, architecture). In this course, we will learn how French people of the 18th and 19th centuries were fascinated by and influenced by the Italian landscape, art and culture.

【Learning Objectives】 Understand the Italian landscape, art, and architecture, which had a significant influence on French culture, by learning about the experiences of French artists staying in Italy, with their related works of literature, painters, sculptors, architects, composers.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARSa200LA

フランス生活文化論 L A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ / 宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ / 18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場 / 給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基礎の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー (前編)

第 7 回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー (後編)
第 8 回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴し、その後感想等の意見をまとめてもらいます。
第 9 回	ディスカッション	第 8 回授業の映像資料についての感想や意見を全員に発表してもらいます。疑問に感じたことも互いに交換しましょう。
第 10 回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第 11 回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置 / 郷土料理 = 文化的遺産という視点の原点
第 12 回	郷土料理でめぐるフランス	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理
第 13 回	映像資料で見るフランスの美食その 2	映像資料の視聴 (第 2 回) その後感想や意見を書く時間を設けます。資料の尺によっては前半と後半に分け、第 14 回にまたぐことがあります。
第 14 回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性 / レポートの書き方案内

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、資料配布を行いません。資料はすべて Hoppii を通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、授業中はどうしても教員から伝えることが多くなってしまっていますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきたいと思いますので、コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 41 人を超えてしまった場合、定員が 40 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

月 1 回程度、皆さんの興味関心を共有する「ミニ発表会」を予定しています。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」

第 9 回	20 世紀半ば	全国的美食を求めて一ガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第 11 回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第 12 回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第 13 回	まとめ・ミニディスカッション	「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか／これまでの授業を受けて、各自一言ずつのまとめを発表。
第 14 回	レポート作成の手引き	レポート作成の手引きを行いません。残った時間で、フランスの食文化に関わる映像資料を視聴します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介いたします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしましますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきますので、ぜひ、コメントカードを存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 41 名を超えてしまった場合、定員が 40 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法を全面的に復習し、加えて未習の文法事項を学習する（特に、名詞・形容詞・所有代名詞の複数形の前置格・対格・生格）。また、標準的なロシア語の文章を読解する能力を養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、やや複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で理解を定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業となります

学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在形、名詞の複数形、形容詞の性・数変化	動詞の現在形（第 1 変化）、男性名詞・女性名詞・中性名詞の規則的な複数形と不規則的な複数形、形容詞の性・数変化の 6 パターン（硬変化 A・硬変化 B・軟変化／混合変化 A・混合変化 B・混合変化 C）
2	名詞の前置格	名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）、名詞の前置格の用法
3	形容詞・所有代名詞の前置格	形容詞・所有代名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）
4	名詞・形容詞・所有代名詞の前置格	様々な形容詞・所有代名詞の前置格と様々な名詞の前置格の結合
5	動詞の現在形、名詞の対格	動詞の現在形（第 2 変化）、名詞の対格のパターン（単数形・複数形）、名詞の対格の用法
6	形容詞・所有代名詞の対格	形容詞・所有代名詞の対格のパターン（単数形・複数形）
7	名詞・形容詞・所有代名詞の対格	様々な形容詞・所有代名詞の対格と様々な名詞の対格の結合
8	名詞の生格	名詞の生格のパターン（単数形・複数形）、名詞の生格の用法
9	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の生格	様々な形容詞・所有代名詞の生格と様々な名詞の生格の結合
11	с я 動詞、動詞の過去形、形容詞の短語尾形	с я 動詞の現在形、動詞（с я 動詞も含む）の過去形、形容詞の短語尾形の作り方と用法
12	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化

13	所有代名詞と名詞の格変化	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1 回につき 2 時間を標準とする。練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。

テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、文法の知識と読解力を問う期末テスト 80 %。

平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

日本語訳（翻訳）の作成を課する。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part1).

The aim of this course is to review, in a short term, the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, the prepositional, accusative and genitive cases of nouns, adjectives and possessive pronouns in the plural) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA

ロシア語 4 II

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法の復習を継続し、加えて未習の文法事項を学習する（特に、名詞・形容詞・所有代名詞の複数形の与格・造格）。また、標準的なロシア語の文章を読解する能力を養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。

書籍、新聞や雑誌、ネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業になります。

学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞と名詞の格変化（復習）	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
2	所有代名詞と名詞の格変化（復習）	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
3	名詞の与格	名詞の与格のパターン（単数形・複数形）、名詞の与格の用法
4	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格のパターン（単数形・複数形）
5	名詞・形容詞・所有代名詞の与格	様々な形容詞・所有代名詞の与格と様々な名詞の与格の結合
6	動詞の未来形、無人称文	動詞の合成未来形の作り方、無人称文の特徴、無人称文の現在形・過去形・未来形
7	動詞の命令形、否定の表現	動詞の命令形の3パターン、否定生格、「何も～ない」
8	名詞の造格	名詞の造格のパターン（単数形・複数形）、名詞の造格の用法
9	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の造格	様々な形容詞・所有代名詞の造格と様々な名詞の造格の結合
11	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
12	所有代名詞と名詞の変化	所有代名詞と名詞（単数形・複数形）の（単数形・複数形）与格・造格への変化

13 形容詞・所有代名詞と名詞の格変化 形容詞・所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格・与格・造格への変化

14 期末試験 文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。

練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。

テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、文法の知識と読解力を問う期末テスト 80 %。

平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

日本語訳（翻訳）の作成を課する。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part2).

The aim of this course is to review the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, the dative and instrumental cases of nouns, adjectives and possessive pronouns in the plural) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のロシア語学習を終えた学生を対象とする授業です。既習の文法事項を復習してから、教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項を学びます。基礎文法をひとつおひと学習し、その定着をはかりながら、ロシア語の文章の読解に必要な力を養います。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

学んだ文法事項を正確に理解し、運用できるようになること。比較的平易なロシア語の文章を読解し、日本語に訳せるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、文法事項の解説、練習問題の答え合せと解説、テキストや対話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習（1）	格変化の復習（名詞）
2	既習文法の復習（2）	格変化の復習（所有代名詞、形容詞など）
3	動詞（1）	動詞関連の文法事項の確認
4	動詞（2）	動詞の完了体・不完了体
5	複文（1）	関係代名詞を含む複文の読解
6	複文（2）	接続詞を含む複文の読解
7	数詞（1）	数詞と時間の表現
8	数詞（2）	年齢の表現など
9	数詞（3）	年月日の表現
10	数詞（4）	数詞を含むその他の表現
11	形容詞・副詞の比較級	形容詞・副詞の比較級
12	形容詞・副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級
13	仮定法	仮定法を用いた表現
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
その他、適宜プリント教材を配布します。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire basic grammar and strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr200LA

ロシア語 4 II

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。さまざまなテーマのテキストの読解を通して、既習の文法事項を復習しながら、未習の文法事項を学びます。ロシア語の文章に慣れ親しみ、基礎文法の応用レベルでの定着を目指します。また、学期の後半には視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。教材を通してロシアに対する理解を深めることも目的の一つです。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

辞書を用いて文章を読解し、日本語に翻訳する作業を通して、ロシア語の文章に慣れ親しむこと。また語彙を増やし、構文を正確に把握できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を用いて、文章読解、文法解説、というかたちで授業を進めますが、未習の文法事項についてはあらかじめ説明と練習を行います。各自の日本語訳をチェックするので、事前準備が必要となります。視聴覚教材を用いる場合は、音読、書き取り、リスニングなどを行います。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法事項の確認	既習文法事項の確認
2	文章読解（1）	副動詞が含まれる文章の読解
3	文章読解（2）	能動形動詞が含まれる文章の読解
4	文章読解（3）	被動形動詞が含まれる文章の読解
5	文章講読（1）	歴史に関する文章を読む
6	文章講読（2）	社会に関する文章を読む
7	文章講読（3）	文化に関する文章を読む
8	文章講読（4）	ロシアの昔話を読む
9	視聴覚教材（1）	テキストの音読と書き取り
10	視聴覚教材（2）	テキストの音読と書き取り
11	視聴覚教材（3）	リスニングの問題に挑戦する
12	視聴覚教材（4）	スキットのセリフを聞き取る
13	まとめ	これまでに学んだことの確認と復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（日本語訳等）は必ずやってくる。格変化や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を授業で配布します。

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可] を持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社

露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who have completed learning basic grammar of Russian. We read Russian texts carefully, understanding the syntax. Through reading comprehension, we review what we have learned so far and learn grammar that we haven't learned yet.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to get used to Russian texts with various themes and master Russian basic grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria / Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr200LA

ロシア語5 I

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、授業時や学習支援システム経由で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	紹介：名前、出身、職業	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味	リスニング、会話練習
4	一日の流れ	リスニング、会話練習
5	一日の流れ（続き）	リスニング、会話練習
6	時間、スケジュール	リスニング、会話練習
7	国、言語、国籍	リスニング、会話練習
8	天気、季節	リスニング、会話練習
9	行ったことがある所	リスニング、会話練習
10	休暇の過ごし方	リスニング、会話練習
11	週の予定	リスニング、会話練習
12	好きな事、好きなもの	リスニング、会話練習
13	春学期の復習	リスニング、会話練習
14	春学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてプリント教材を配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、出席、宿題、授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PC やタブレットなど）、Zoom 授業になる場合には、Wi-Fi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更できます。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

There is homework for every lesson. Memorization of vocabulary is also required. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr200LA

ロシア語5Ⅱ

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モスクワを歩く	リスニング、会話練習
2	私の街	リスニング、会話練習
3	お買い物	リスニング、会話練習
4	食べ物、お食事	リスニング、会話練習
5	家と部屋	リスニング、会話練習
6	映画	リスニング、会話練習
7	いつも通うところ	リスニング、会話練習
8	乗り物で行く	リスニング、会話練習
9	空港で	リスニング、会話練習
10	ロシアの年行事	リスニング、会話練習
11	ToDo リスト	リスニング、会話練習
12	電話、メール	リスニング、会話練習
13	秋学期の復習	リスニング、会話練習
14	秋学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、出席、宿題、授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PC やタブレットなど）、Zoom 授業になる場合には、Wi-Fi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更できます。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

There is homework for every lesson. Memorization of vocabulary is also required. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

ARSa200LA

ロシア語の世界 L A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史および文化（言語、民族、宗教、文学、思想など）を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。

また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9 世紀半ばから 13 世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第 2 回	13 世紀から 16 世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ（イヴァン 3 世とイヴァン 4 世）
第 3 回	17 世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第 4 回	18 世紀前半の歴史	ピョートル 1 世、「ロシア帝国」
第 5 回	18 世紀後半の歴史	エカチェリーナ 2 世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第 6 回	19 世紀初めの歴史	アレクサンドル 1 世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第 7 回	19 世紀半ばの歴史	ニコライ 1 世、クリミア戦争、アレクサンドル 2 世、農奴解放
第 8 回	19 世紀終わりの歴史	アレクサンドル 3 世、産業革命
第 9 回	20 世紀初めの歴史 (0 年代～20 年代)	ニコライ 2 世、第 1 革命、第 1 次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第 10 回	20 世紀半ばの歴史 (30 年代～40 年代)	スターリン、第 2 次世界大戦
第 11 回	20 世紀半ばの歴史 (50 年代～60 年代)	冷戦、フルシチョフ
第 12 回	20 世紀終わりの歴史 (70 年代～80 年代)	停滞からベレストロイカへ、ゴルバチョフ
第 13 回	20 世紀末の歴史 (90 年代)	ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン
第 14 回	21 世紀初めの歴史	プーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版世界各国史 22 ロシア史』山川出版社、2002 年。

『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, literature, thought etc.) of Russia, as the background of Russian language. We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following.

Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA

ロシア語の世界 L B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺国（旧ソ連圏の国々など）の歴史および文化（言語、民族、宗教など）を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのない中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺地域について明確なイメージを持ち、これらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。

また、そうした国や地域の歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 1）	ロシアの歴史
第 2 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 2）	北欧の歴史
第 3 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 3）	バルト三国とポーランドの歴史
第 4 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 4）	ウクライナの歴史
第 5 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 5）	中央アジア五国とコーカサス三国の歴史
第 6 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史（その 6）	トルコの歴史
第 7 回	スラヴ人の起源、スラヴ人国家の形成	スラヴ人の故地、分化と移住、ブルガリアの形成、西スラヴと東スラヴにおける国家の形成
第 8 回	スラヴ民族によるキリスト教の受容	東西両教会の対立とスラヴ民族教化、モラヴィア、ブルガリア、セルビア、ボヘミア、ポーランド、ロシア

第 9 回	東ローマ帝国（ビザンツ帝国）とスラヴ民族	東ローマ帝国と南スラヴ族、東ローマ帝国の継承者としてのロシア
第 10 回	ゲルマン民族とスラヴ民族	ゲルマン民族と西スラヴ族、ボヘミア、ポーランドとリトアニア、ロシア、スロヴェニア、クロアチア
第 11 回	スラヴ民族と周辺諸民族	バルト民族、ウラル系諸民族、ユーラシアの遊牧民、中央アジア、コーカサス、ルーマニア、アルバニア、ユダヤ人、ジプシー
第 12 回	オスマン帝国とスラヴ民族	バルカン半島のトルコ化・イスラム化、トルコ・イスラム文明、バルカン民族の覚醒
第 13 回	民族の独立と汎スラヴ主義	スラヴ・メシアニズムと汎スラヴ主義、ロシア、ポーランド、チェコ・スロヴァキア、クロアチア、セルビア、ブルガリア、マケドニア
第 14 回	ソ連とスラヴ民族	スターリンの民族抑圧、反ソ動乱、ソ連崩壊以後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。

学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『民族の世界史 10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。

森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations, religions) of Central and Eastern Europe, Russia and their surrounding areas (countries of the former Soviet Union area etc.), as the background of Russian language. We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARs200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。なお、SA ロシアの事前学習も兼ねるので、SA ロシアの2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第 2 回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第 3 回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第 4 回 民俗文化とロシア正教、国民の祝日

ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第 5 回 ロシア・バレエの世界

バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。

第 6 回 ロシア・バレエの世界

前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第 7 回 ロシアの音楽：グリニカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー

ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリニカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。

第 8 回 ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）

19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフらを通して音楽と政治の問題を考える。

第 9 回 ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）

反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。

第 10 回 ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半

『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。

第 11 回 ロシア文学：19 世紀後半～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）

ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第 12 回 ロシア文学：19 世紀後半～ 20 世紀（トルストイ、チャーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）

トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チャーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。

第 13 回 ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴン）／日本文学との影響関係

亡命作家を通して政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。

第 14 回 民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題

ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%)、コメントシート (25%)、期末レポート (50%) として総合的に判断します。本授業の到達目標の 60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARs200LA

ロシアの文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います。多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみなさん一人ひとりが行うことになります。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／ロシアの歴史 1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝について。
第 2 回	ロシアの歴史 2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第 3 回	ロシアの歴史 3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第 4 回	ロシアの歴史 4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第 5 回	ロシアの歴史 5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第 6 回	ソ連映画 1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第 7 回	ソ連映画 2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

第 8 回 ソ連映画 3

反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF 映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。

第 9 回 ロシア映画 4

検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクラロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。

第 10 回 ロシア映画 5

前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

第 11 回 ロシア・アニメ 1

黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。

第 12 回 ロシア・アニメ 2

アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

第 13 回 ロシア美術 1

イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。

第 14 回 ロシア美術 2

マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AV ライブラリーの利用を勧めます。期末レポートの作成には 1 週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付するか、もしくは学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場や学習支援システムで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の 60% 以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANe200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかり覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	会話（1）	
第6回	述語	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第7回	授業内発表（1）	
第8回	受け答え	「是」その他
第9回	場所と方位	在と有
第10回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第11回	疑問文	ものの尋ね方
第12回	会話（2）	レストランでの会話を作成する
第13回	連用修飾語	副詞と時間詞を学ぶ
第14回	授業内発表（2）	講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第15回	完了と変化	「了」の様々を知る
第16回	会話（3）	買い物する時の会話パターンを作成する
第17回	助動詞と前置詞構造	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第18回	授業内発表（3）	
第19回	三量補語	三量補語と離合詞
第20回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

またそれぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANe200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせて、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々を知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANe200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

HSK (☑☑水平考☑) 1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

中国語を 1 年以上履修していることが望ましいです。

中国語が好きな人が集まりますので、情報交換もできて、いつも楽しいクラスです。

【到達目標】

春学期は HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。

秋学期は HSK3 - 4 級合格を目指します。

毎年多くの学生が合格しており、不合格者は今まで 1 人もいません。この授業には中国語が好きな学生が集まってきます。中華圏のアイドルの話で盛り上がることもあります。

リラックスした雰囲気の中、マイペースで学習してもらえるように工夫していきます。

ただストレスのない雰囲気なので、非常にストイックな人は向かないかもしれません。初回の授業に出てから履修を決めてください。

そのほか、1 年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。みなさんの中国語が変わってくると思います。楽しみにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。

単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めてもらいます。

また、ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解してもらいます。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

qingm@live.jp

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。

7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます
13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

過去問はプリントを配布します。

また以下のテキストを使用します。大学生協を通じて購入すると割引価格で購入できます。かなり安くなるので、生協からの購入をおすすめします。

初回授業では使用しません。履修を決めてから購入してください。

HSK/中検対応

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室 (編著) 朝日出版社

そのほか、ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】

HSK 過去問、HSK 公式アプリ単語

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。

積極的な学生には大いに加点します。

【学生の意見等からの気づき】

単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。

文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANe200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。

中国語が好きな、意欲的な学生の参加を歓迎します。

いつも楽しいクラスです。

全員が 3 級合格レベルに達しました。昨年度は 4 級に 3 名も合格しました。

【到達目標】

HSK 3 - 4 級合格以上を目指します。

毎年多くの方が合格しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3 級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問を中心に
2	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
3	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
4	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
5	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
6	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
7	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
8	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
9	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
10	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
11	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
12	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
13	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
14	授業の総まとめと期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

プリント以外に、以下の単語帳テキストを使用します。

大学生協から購入すると大きな割引があるので、大学生協からの購入をおすすめします。

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社

そのほか毎回ポイント学習中国語を持参してください。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。

HSK 3 級以上合格者は S ランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から単語帳テキストを使用します。

またリスニング教材をより一層充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 1 回)
第 6 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめとレ ポート	授業の総まとめと試験 ポート

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、授業態度、コメントペーパー) 60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（60 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008 年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回講義形式で行います。

毎回課題としてコメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 1 回）
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 2 回）
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 3 回）
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 1 回）
第 6 回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 2 回）
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 3 回）
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 1 回）
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 2 回）
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 3 回）
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 1 回）
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 2 回）
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 3 回）
第 14 回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は 6 個程度である。

2 回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章を Hoppii で提出する。受け取った Feedback をよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi nombre 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi nombre 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mi familia 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mi familia 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi ciudad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi ciudad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi universidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi universidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Un día normal 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Un día normal 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Descripciones 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Descripciones 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	春学期の総復習	春学期の総復習

14 春学期の理解度の確認 春学期の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した 6 個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価:30 %

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題:30 %

期末試験:40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the spring term the course will be held online, in real time using ZOOM.

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 6.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your peers.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 6 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は 6 個程度である。

2 回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章を Hoppii で提出する。受け取った Feedback をよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi mejor viaje 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi mejor viaje 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mis gustos 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mis gustos 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi mejor regalo 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi mejor regalo 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi personaje preferido 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi personaje preferido 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Después de mi graduación 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Después de mi graduación 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Navidad 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Navidad 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習

13 秋学期の総合復習 秋学期の総合復習

14 秋学期の理解度の確認 秋学期の理解度の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した 6 個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価: 30 %

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題: 30 %

期末試験: 40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加できるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the fall term the course will be held online, in real time using ZOOM.

We will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 6.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your peers.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 6 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

現代のスペイン語 I

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制（30 名）/2021 年度までに「時事スペイン語 I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおりませっていく。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。

14 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制（30名）/2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養うことを目的とする。特に、この授業では、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

秋学期が始まるまでに「学習支援システム」で指示する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修希望者は春学期の「現代のスペイン語Ⅰ」で選抜を受けること。秋学期の本授業のみの履修を希望する場合も同様である。
・辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》

Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

ARSa200LA

スペイン語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
5	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
6	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
7	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
8	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
9	担当者によるプレゼンテーション (例：EU とスペイン)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する

10	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexit のスペインへの余波)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
11	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
13	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

ARSa200LA

スペイン語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらおう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スペイン語圏についての概説。各 (プレゼン担当決定) 回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：メキシコの映画産業)
5	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：アルゼンチンのスポーツ事情)
6	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：キューバの現在)
7	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：ラテンアメリカの文学)
8	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：フィリピンに残るスペイン語)

9	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：日本のスペイン語話者)
10	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペインのスタートアップ企業)
11	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペイン語圏の中の日本企業)
12	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：コスタリカについて)
13	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペイン語圏での日本発サブカルチャーの受容)
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

LANk200LA

朝鮮語4 B I (視聴覚)

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通じ、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 語彙、文型を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さん とオモニ ①② シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さん とオモニ ③④ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さん とオモニ ⑤⑥ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さん とオモニ ⑦⑧ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さん とオモニ ⑨⑩ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	歌など 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さん とオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

8	サランバンのお客さん とオモニ ⑬⑭ テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さん とオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さん とオモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さん とオモニ ⑲⑳ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さん とオモニ 最終回 シークレットガーデン	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を要する。

【テキスト (教科書)】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
 シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点 (参加度、積極性、課題) 40 %、テスト 60 %
 4 回以上の欠席で単位は出ない

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生のレベルが高くなる傾向があります。
 定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation 20%, Assignments 20%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANK200LA

朝鮮語 4 B II (視聴覚)

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通じ、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 4 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 5 テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

10	華麗なる遺産 7 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産 8 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 9	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。本授業の準備・復習時間は 2 時間を要する。

【テキスト (教科書)】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (参加度、積極性、課題) 40 %、テスト 60 %
単語テストが 50 点以下の場合は、単位が出ない。
4 回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

か tablet

【その他の重要事項】

2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生のレベルが高くなる傾向があります。課題も多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと2週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①-朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へ-南北分断のリアル DMZ
第3回	解説と映画鑑賞②-朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像する-南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史-時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③-激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を生きる-「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④-激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」-朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画-日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤-日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城 (現ソウル) を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写-親日派暗殺作戦
第9回	解説と映画鑑賞⑥-日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現

- 第10回 最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画 時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
- 第11回 解説と映画鑑賞⑦-青春の思い出 初恋のロマンス、青春の思い出
- 第12回 解説と映画鑑賞⑧-青春の思い出 青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
- 第13回 映画と講義について 映画は学習手段のひとつとして有効か-韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
- 第14回 春学期のまとめと期末レポートの提示 期末レポートの提示

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト (教科書)】

韓国映画100年史-その誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンフア著、野崎彦彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率、リアクションペーパー、感想文など) 50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

- ・第1回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM 情報は授業開始の前週までに HOPPI でお会知らせします。
- ・第2回目以降の授業の実施形態については第1回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では韓国の映画をとおりて朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと2週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①-外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ一究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②-外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおりて韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画-高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③-老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴-老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④-老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴-家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画-犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯について-被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤-最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値-人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。
第9回	解説と映画鑑賞⑥-宗教とは	宗教とは何か、人間とは何か-人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第10回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力について-2010年代韓国政府を実例に

第11回	解説と映画鑑賞⑦-ドキュメンタリー映画	国家とは何か。国家の存在理由-国民の生命・財産の保護。
第12回	解説と映画鑑賞⑧-ドキュメンタリー映画	真実究明と記者・言論の役割と力
第13回	韓国映画史を振り返る-100年史	創成期~ルネサンス期まで
第14回	秋学期のまとめとレポートの提示	レポートの提示

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト (教科書)】

韓国映画100年史-その誕生からグローバル展開まで、鄭ソフ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率、リアクションペーパー、感想文など) 50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

- ・第1回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM情報は授業開始の前週までにHOPPIでお知らせします。
- ・第2回目以降の授業の実施形態については第1回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

